

毒物名	例数	毒物名	例数
燈用瓦斯	二七九	亞砒酸	一四
阿片及ビ「もろひね」	一七九	炭酸加里(Potash)	一
鉛	一一三	烏頭	八
石炭酸	五八	鹽素酸加里	七
亞砒酸及ビ其化合物	四二	鹽酸	六
くろふおるむ	三二	硝酸	六
Chloralium	二六	燐酸	六
水銀	一九	燐毒	七
炭酸瓦斯	一四	合計	九七七

(五)佛蘭西ニ於ケル中毒統計

(A) Tardieu 氏ガ一八五一乃至一八六二年ノ十年間ニ於テ、法醫學的ニ證明シ得タル中毒例ノ表 (Théorie u. Ludwig: Die Vergiftungen, 1868, S. 86 ヨリ、Maschka's Handbuch der gerichtl. Med., Bd. II, 1882, S. 25 ニ抄出セルモノ)ヲ轉載スレバ左ノ如シ。

毒物名	例数	毒物名	例数
亞砒酸	二二二	阿片	二六
燐酸	一七〇	藥風 (Tellekorus)	四
硫酸	七七	吐酒石	四
綠青	三三	硫酸鐵	四
硫酸	三〇	硝酸	三
芫青	二三	あんもにや	三
		水銀	三

佛國ニ於ケル中毒統計

毒物名	例数	毒物名	例数
曼陀羅華	三	軍類	二
毒木別	三	Erythrolinum	一
鹽酸	一	Takusanus Ferrowoff	一
苛性加里	一	Aqua salutaris	一
醋酸鉛	一	べらどんな	一
炭酸瓦斯	一	細末硝子	一
「たにした」ノ果實 (Ginskerkörner)	一	不詳	一
こらちひん	一		

(B) 又 Brouardel 氏ハ司法省ノ統計ニヨリ、一八五五乃至一八六〇年ノ五年間ニ起レル一七五九例ヲ集メタリ、其品別計數左ノ如シ。(Brouardel: Les Empoisonnements, 1902, S. 56)

毒物名	例数	毒物名	例数
亞砒酸	八三六	堯毒	五九
銅鹽	三六九	すとりきにーね	三二
燐	三四〇	阿片及ビ「もろひね」類	二二
硫酸、硝酸及ビ鹽酸	九二	青酸及ビ青酸加里	九

日本ニ於ケル中毒統計

日本ニ於ケル中毒統計(高田、小南京都醫學雜誌第十四卷第六號)

品名	自殺		他殺		計	品名	自殺		他殺		計
	女	男	女	男			女	男	女	男	
重くろいむ酸	一〇四	三三〇	一一	一一	四三九	硫酸	一一	一一	一一	一一	二二五
加里	一〇四	三三〇	一一	一一	四三九	鹽酸及ビ其化合物	一一	一一	一一	一一	一八〇
昇汞	七三	一三三	一一	一一	二四一	石炭酸	一一	一一	一一	一一	一七六
亞砒酸	七三	一三三	一一	一一	二四一						
銅鹽	七三	一三三	一一	一一	二四一						
燐	七三	一三三	一一	一一	二四一						
硫酸、硝酸及ビ鹽酸	七三	一三三	一一	一一	二四一						

鹽酸	殺鼠劑	硝酸すとりきにれ	亞砒酸	鹽酸	ふおるよりん	硝酸	青粉	酒類	青酸加里	苛性曹達	硫酸銅	炭酸瓦斯	へぶりん
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
五八五	二二五	一三五	二三一	二一九	二三三	二二九	一	一	一五〇	一五五	一九五	一	三一
三一	一一	七四	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一四七	一〇〇	七四	六九	六八	六四	四四	四一	三九	三七	三五	二九	二三	一八
揮發油	硝酸銅	過錳酸加里	苛性加里	しらしめ油	硫酸あとりび	花緑青	石油	鹽酸加里	鹽素酸加里	炭酸曹達	するふおな	沃度ふおるむ	沃度丁酸
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
六五	一〇四	〇四	三九	八四	二八	一	四二	四二	二四	六	二五	四二	二
四四	七〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一八	一七	一六	一三	一二	一〇	九	九	七	七	七	七	七	六

毒物ノ分類

此ノ如ク中毒ニ用ヒラル、毒物ノ種類甚ダ多キヲ以テ、通常之ヲ次ノ分類法ニ從ヒテ區分シ、相似ノ毒物ハ互ニ相關連シテ説明スルヲ便利トス。

むくろ、ふおる	硝酸銀	鹽酸へろいん	鹽酸こかいん
女男	女男	女男	女男
三三	二二	一四	三二
六	五	五	五
亞硝酸曹達	石黄	燈用瓦斯	
女男	女男	女男	
三	三	二	二
五	五	五	五

- (甲) 腐蝕毒、重ニソノ接觸セシ局部ヲ犯スモノ、
 - (乙) 實質毒、重ニ吸收サレテ遠隔ニアル臟器ノ實質ヲ犯スモノ、
 - (丙) 血液毒、重ニ血液ヲ犯シテ中毒ヲ來スモノ、
 - (丁) 心臟及神經毒、主トシテ吸收ニヨリ心臟及神經系統ヲ犯スモノ、
- 今此等ノ分類法ニ從ヒ、吾人が最モ屢々遭遇スル藥劑ニ付、順次ソノ作用、中毒症狀、剖檢所見、致死量及化學的證明ノ大要ヲ述ベント欲ス。但シ稀有ナル毒物ニ就テハ、此ノ如キ小冊子ノ記載スベキ範圍ニ非ラズト信ジ省略スルコト、セリ。

甲、腐蝕毒
Corrosive poison
Le poison corrosif.
Ätzgifte.

腐蝕毒トハ已述ノ如ク、重ニ接觸部位ニ、凝固或ハ崩壊壞疽ヲ來スモノニシテ、之ヲ分チテ次ノ五種トナス。

- (イ) 腐蝕性酸類、硫酸、鹽酸、硝酸、石炭酸等、
- (ロ) 腐蝕性あるかり、なとろん或ハかり滷汁等、
- (ハ) 腐蝕性鹽類、昇汞、硝酸銀等、
- (ニ) 腐蝕性瓦斯、くろーる及ふをるまりん蒸氣等、
- (ホ) 有機性腐蝕毒、かんたりちん等。

イ、腐蝕性酸類

Poisoning of corrosive acids;
Empoisonement par l'acid corrosif
Vergiftung durch act zende Säure.

一、硫酸中毒

Sulphuric acid
l'acid sulfurique.
Schwefel säure. (以下印刷ノ繁ヲ避ケン爲メ各項ニ於ケル「中毒」ナル譯語ヲ省略ス)

硫酸ハ普ク工業上ニ使用サレ、從テ之ヲ手ニ入ル、コト容易ナルヲ以テ、自殺ノ目的ニ使用スルコト多シ、ソノ他、他ノ藥品ト錯誤シテ中毒シ、或ハ殺人ノ目的ニハ小兒若クハ重病者等、身體ノ自由ナラザルモノ、口腔ニ灌注シテ之ヲ殺傷シ、時トシテ怨恨アルモノ、顔面或ハ衣服等ニ流注シテ傷害ヲ與フルコトアリ。

作用、濃硫酸ハ蛋白ヲ溶解スルニ拘ラズ、稀硫酸ハ蛋白性物質ヲ凝固壞疽ニ陥ラシメ、且水分ヲ奪取スルノ性アルヲ以テ、粘膜或ハ組織ヲ外觀上半煮沸狀トナシ、其質ヲ脆弱ナラシメ、或ハ崩解穿孔セシメ、

且血色素ヲ硫酸ヘまらんニ變ゼシムルヲ以テ、ソノ中毒ノ際ニハ胃粘膜ハ黒褐色ニ染ミ半煮沸狀トナリ、時トシテ穿孔ヲ來スコトアリ。

第百八十五圖



口角ヨリ流出セル毒液ノ線

ノ經過緩漫ナル時ハ、食道粘膜ニ狭窄ヲ起シ、或ハ肺炎ヲ來シ、ソノ爲メニ斃ル、コトアリ。

剖檢所見、多クハ死體ノ口角ヨリ下方ニ向ヒテ、褐色革皮様ノ線狀腐蝕痕ヲ有シ(第百八十五圖)、口腔、舌及咽頭粘膜ハ諸所褐色ヲ呈シ、食道ハ灰白色ニシテ硬固トナリ、頸部ノ血管内ニハ凝血ヲ容レ柱狀トナルコトアリ、胃壁ハ諸所軟化、硬化、乃至炭化シ、ソノ血管ハ硬ク柱狀トナリ、胃ノ内容ハ赤黒色泥狀ニシテ、強キ酸性反應ヲ呈シ、胃粘膜ハ黒褐色乃至赤黒色トナリ、ソノ面凹凸不平トナル、胃壁ノ穿孔スルハ多クハ大彎部ニシテ、内容腹腔内ニ溢出スル時ハ、諸臟器ニ半煮沸物ノ外觀ヲ呈セシム、尿ハ少量ニシテ硫酸鹽ノ含量増加シ、且蛋白、血球及圓柱ヲ混ズ、中毒後相當ノ時間ヲ經過シテ死亡セルモノニ在リテ

ハ、腎肝及筋肝等ニ脂肪變性ヲ來ス。

致死量、胃内容多キ時ハ其致死量ハ不明ナレドモ、胃空虚ナル時ハ四乃至五瓦(七〇—八〇%ノモノ)ナリト云フ、小兒ハソノ半量ニテモ死ニ至ルコトアリ。

化學的證明、可檢物ニ適當量ノ縮水ヲ加ヘ透析法ヲ行ヒ、或ハ滲出濾過シ、必要ナル場合ニハ純あるこほるヲ加ヘテ蛋白ヲ去リ、水溶上ニテ成ルベクあるこほるヲ驅逐シ、且同時ニ濾液ヲ濃縮シ、而シテ後之ニ鹽化バリウム溶液ヲ加フレバ、硫酸バリウムノ沈澱ヲ生ジ、コハ硝酸ニ溶解セズ、然ル時ハ可檢物ニ硫酸ノ存在ヲ證スルモノナリ。一般ニ硫酸化合物ノ少量ハ、生理的ニ吾人ノ體液中ニ存在シ、或ハ食物、醫藥等ニ混在スルモノナレバ、硫酸中毒ノ診定ヲナスニハ、可檢物ヨリソノ多量ヲ檢出スルニ非ラザレバ不可ナリ。

二、硝酸中毒 Nitric acid, l'acid azotique.

硝酸中毒

硝酸モ亦工業上多ク使用セラル、モノナレバ、自殺ノ目的ニ服用セラル、コト多シ、傷害ノ目的ニハ硫酸ト略同様ニ用ヒラル。

きざんとぶろていん反應

作用モ亦略硝酸ト同ジト雖、硝酸ハ蛋白ニ對シきざんとぶろていん反應ナル呈色反應ヲ有シ、接觸部黃變ス、但シ稀硝酸ニ在リテハ、きざんとぶろていん反應ナク、粘膜ハ單ニ凝固壞疽ヲ呈シ半煮沸狀トナル。

症狀、概ネ硫酸ニ於ケルト同ジ、但シ吐物中ニハ黃色ノ粘膜剝離片ト黒褐色ノ血液ヲ混ズ、急性中毒ニテハ已ニ中毒後一、二日ニシテ死亡シ、慢性ノ經過ヲ取ルモノニ在リテハ往々肺炎ヲ發シ、後日ニ至リ消化管ノ狭窄、腎臟炎乃至全身衰弱ニテ斃ル。

剖檢所見、一般ニ硫酸中毒ニ同ジ、但、稀薄ナル硝酸中毒ノ場合ニハ、粘膜ノ黃變著明ナラザルモ、三十%以上ノモノニテ中毒セルモノニアリテハ、口腔、食道、胃及腸ノ上部ハ著明ニ黃變ス、胃穿孔ハ硫酸ニ比スレバ稀ナリ。

致死量、胃ノ盈虚ニ依リテ一定セズ、四、五瓦ニテ死亡スルアリ、或ハ五十瓦ニテ尙死亡セザルモノアリ。

化學的證明、可檢物ヲ蒸餾法、透折法或ハ滲出法ニテ所置スルコト硫酸檢出ニ於ケルト同ジクシ、透明ナル可檢液ヲ得之ニ

- (a) 硫酸 \parallel ぢ、ふわに \parallel るあみん試薬ヲ積層スレバ、兩液ノ接觸面ニ青色輪
- (b) 硫酸 \parallel ぶらん試薬ヲ積層スレバ、赤色輪
- (c) 硫酸 \parallel 硫酸鐵試薬ニテ黑色輪ヲ生ズレバ、硝酸ノ存在ヲ證ス。

三、鹽酸中毒 Hydrochloric acid, l'acid chlorhydrique.

鹽酸中毒

鹽酸モ亦工業上用途廣キモノナレバ、自殺ニ用ユルコト多ク、ソノ作用、中毒症狀及剖檢所見ハ、硫酸乃至硝酸ニ於ケルト略同様ナレドモ、ソノ程度ハ硝酸ヨリモ輕ク、從テ胃壁穿孔ヲ來スガ如キハ甚ダ稀ナリト雖、揮發性强キ酸ナレバ往々氣道ヲ犯スコトアリ。致死量モ亦胃ノ狀態ニヨリ一定セザレドモ、十瓦内外ニシテ、一般ニ硫酸及硝酸ニ比シ多量ナリ。

化學的證明、可檢物ヨリ蒸餾法、透折法或ハ滲出法ニヨリテ得タル透明液ニ、少許ノ硝酸及硝酸銀溶液

ヲ加ヘテ白色沈澱ヲ生ジ、此沈澱ガ日光ニヨリテ黒變シ、あんもにあ液或ハ靑酸加里液ニ溶解スレバ、コハ鹽化銀ノ沈澱ニシテ、即チ濾液中ニソノ存在ヲ證ス。

四、醋酸中毒 Acetic acid, l'acid acétique. Esigsäure.

近來醋酸ハ「酢のもと」トシテ販賣セラル、ヲ以テ、往々醋誤ニヨリ中毒ヲ來スコトアリ、他殺ノ目的ニハ、本劑ヲ創傷中ニ注入セルアリ、多クハ自殺ノ目的ニ使用セラル。

作用、鹽酸ニ似タレドモ、其作用ハ一般ニ弱シ。

症狀、嘔吐、腹痛、搐搦、下肢ノ麻痺、歩行蹣跚等ヲ來シ、呼氣及吐物ニ醋酸ノ臭アリ、尿ハ赤褐色ニ染ミ、ソノありかり度減ジ、心臟衰弱ヲ伴ヒ、遂ニ肺水腫或ハ體温下降等ニヨリテ斃ル。

剖檢所見、食道、胃及胃内容ハ赤黒褐色ヲ呈シ、且酸性反應ヲ示シ、醋酸ノ臭ヲ有スルコトアリ、其他一般ニ酸類ノ中毒ノ所見ニ類ス。

致死量 内用トシテ濃醋酸二〇・〇—三〇・〇珎(大人ニ對シ)トス。

化學的證明、可檢物ニ適當量ノ水ヲ加ヘ蒸餾シ、ソノ縮液ニ就テ、或ハ可檢物ニあこほるヲ加ヘテ抽出シ、ソノ抽出液ニ就テ、醋酸ノ醋明法ヲ施行スベシ。

一、縮液ニハ醋酸特有ノ臭アリ、之ヲ炭酸ソーダニテ中和シ、次デ鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色トナリ、加熱スレバ赤褐色トナル。

二、あるこほる抽出液ニ、硫酸ヲ加ヘテ熱スレバ、醋酸エーテルノ臭ヲ發ス。

五、蟻酸中毒 Formic acid, l'acid formique. Ameisensäure.

蟻酸ノ中毒ハ動植物ノ刺毛、或ハ昆蟲(蜂蟻)等ノ刺咬ニヨリテ來リ、又ハ工業用ノ蟻酸ヲ自殺ノ目的ニ用ヒ、往々他品ト錯誤シテ使用スルコトアリ。

作用、醋酸ニ似タレドモ、尙蟻酸ノ有セル還元力ニ依リテ種々ノ障害ヲ來ス。

症狀、蜂蟻ニ依リテ刺傷セラレタル時ハ、外皮ニ痛痒ヲ感ジ引赤腫脹シ時トシテ發泡ス、内用シタル場合ノ症狀ハ、略醋酸ニ同ジ、但シ血液ヲ犯ス力強キヲ以テ、麻痺或ハ痙攣ヲ來シ、ソレニヨリテ斃ル、コトアリ。

剖檢所見、本劑ヲ内用シテ死ニ至リタル場合ノ所見ハ、略醋酸中毒ニ似タレドモ、剖檢ノ際各臟器ハ蟻酸特有ノ臭氣ヲ有シ、尿ニハ蟻酸ヲ證明シ、血液ハ黒褐色トナル。

致死量、醋酸ヨリハ少量ナレドモ、ソノ濃度ニ依リ一定セズ。

化學的證明、可檢物ヲ蒸餾シテ得タル縮液ハ蟻酸ノ臭氣ヲ有シ、之ヲ炭酸ソーダニテ中和シ、鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色ニ變ジ、硝酸水銀液及硝酸銀液ヲ還元シテ當該金屬ヲ析出セシム。

化學的證明ノ際注意スベキハ、肝臟疾患或ハ高熱ヲ有スル時ハ、自然ニ體內ニテ蟻酸ヲ生ズルコトアレバ、此際可檢物ヨリ極微量ノ蟻酸ヲ證明シ得タリトテ、ソハ直ニ蟻酸中毒ナリト云フベカラズ。

六、蔞酸及蔞酸加里中毒 Oxalic acid and its salts. l'acid oxalique et ses sels. Oxalsäure und deren Salze.

蔞酸ハ真鍮及銅ヲ研磨スル等工業上稍多量ニ使用セラル、ヲ以テ、甚ダ屢々自殺ノ目的ニ内用セラレ、或ハ蔞酸カリヲ芒硝ト誤認シテ服用シ死ニ至ルコトアリ、他殺ノ目的ニハ特殊ノ味ヲ有スルヲ以テ使用セラル、コト少シ。

作用、此酸モ蛋白ニ凝固壞疽ヲ起スト雖、他ノ碳酸ニ比シ其力弱シ、中性鹽トナリシモノハ吸收セラレテ血液、腦、心臟、腎臟等ヲ犯ス。

症狀、局所ノ症狀トシテハ、腐蝕作用ニ依ル咽頭熱灼ノ感、胃部疼痛、酸性黑色物ノ吐出等ニシテ、全身症狀トシテハ服用後數分ニシテ重キ神經症狀ヲ呈シ、人事ヲ辨ゼズ、牙關緊急、全身痙攣ヲ發シ、脈搏細小緩漫トナリ、尿閉ヲ來シ、十分間内外ニシテ死ス、經過緩漫ナルモノハ腎臟炎、尿閉乃至尿毒症ヲ起シ死ニ至ルモノアリ。或ハ消化管障害、血便等ヲ來シ、腦或ハ心臟ノ衰弱ニ依リ死ス。

剖檢所見、濃厚ナル碳酸ノ中毒ニ在テハ、口腔、咽頭、食道等溷濁シテ灰白色ヲ呈シ、胃粘膜ハ充血腫脹シ、碳酸石灰之ニ沈着シ、粘膜ノ皺襞頂ニハ溢血斑アリ、且ソノ間ニ碳酸ノ結晶ヲ發見スルコトアリ、攝取量多キ時ハ、胃壁穿孔ス、胃内容ハ赤色乃至赤褐色ニシテ、酸性反應ヲ呈ス、腎臟ノ断面ニ於テハ、皮髓兩質ノ間ニ白色帶ヲ生ジ、之ヲ鏡檢スレバ明ニ碳酸石灰ノ結晶ヲ見ル。

致死量、通常五〇乃至一〇〇瓦ナリトスレドモ、四十五瓦ニテ尙死ニ至ラザリシ例アリ。

化學的證明、少量ノ碳酸化合物ハ生理的ノ產物ナレバ、此中毒ナル斷定ヲ下スニハ、稍多量ヲ發見セザルベカラズ。

可檢物ヨリ碳酸ヲ分離スルニハ、あるこほるヲ以テ抽出濾過シ、濾液ニ水ヲ加ヘ水溶上ニテ徐々ニあるこほるヲ去リ、蒸發殘渣ヲ水ニ取り、此浸漬水ヲ以テ次ノ反應ヲ試ム。

(イ) あんもにあ水ヲ加ヘテ中性トナシ、鹽化かるしゆむヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ジ、コハあんもにあ水或ハ醋酸ニハ不溶ナルモ、鹽酸ニハ溶解ス。

(ロ) 中性トナシ硝酸銀液ヲ加フレバ、白色ノ沈澱ヲ生ジ、硝酸ニ溶解ス。

(ハ) 稀薄ナル過まんがん酸かり液ヲ褪色セシム。

(ニ) 醋酸鉛液ヲ加フレバ白色沈澱ヲ生ズ。

七、石炭酸中毒

Carbolic acids, l'acide phénique,

石炭酸中毒

石炭酸ハ廣ク消毒用ニ供セラレ、モノナレバ、往々錯誤ニ由リテ中毒ヲ來シ、又屢々自殺ノ目的ニ服用セラレ、時トシテ創面ヨリ吸收セラレテ中毒ヲ來スコトアリ。

作用、石炭酸ハ接觸セル局部ヲ犯シ、蛋白ヲ凝固壞疽ニ陥ラシメ、外觀上半煮沸狀トナス、而シテ本劑ハ血色素ヲ溶解セザルヲ以テ、粘膜ヲ着色セシムルコト少シ、又吸收サレテ先ヅ腦神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム。

中毒症狀、石炭酸ヲ内用セル時ハ口腔、咽頭、食道、心窩ニ熱灼ノ感アリ。嘔吐及全身發汗ヲ伴ヒ、間モナク中毒者ハ神識朦朧トナリ、次デ意識全ク消滅シ、知覺麻痺ス、脈搏ハ細小緩徐トナリ、皮膚蒼白、四肢厥冷シ、搐搦痙攣ヲ來ス。尿ハ暗赤色トナリ、遂ニ昏睡ニ陥リ死ニ至ル、本劑ニテ子宮或ハ腔ヲ洗滌セシ爲メ中毒ニ陥リシモノアリ、又久シク石炭酸濕布ヲ施ス時ハ、所謂石炭酸壞疽ヲ生ズ。

剖檢所見 濃厚石炭酸ヲ嚙下スル時ハ、口腔、咽頭、食道及胃粘膜ハ所謂半煮沸狀トナリ乳白色ヲ呈シ胃腸ハ小溢血點アリ、肺水腫或ハ急性腎臟炎ヲ來シ、内臟ハ石炭酸臭ヲ放ツ。

致死量、濃厚ナルモノハ一〇〇瓦ニテ大人ヲ死セシム、但シ稀釋セルモノニアリテハ、ソノ致死ノ量一定セズ。

化學的證明、可檢物ニ木ヲ加ヘテ蒸餾スレバ、石灰酸ハ縮液ニ移行ス、此縮液ニみるらん氏試薬ヲ加ヘテ加熱スレバ美麗ナル赤色ヲ呈シ、鹽化鐵液ヲ加フレバ青色トナリ、えーくまん氏試薬ニテ赤色帯ヲ生ジ、ぶろーむ水ヲ加フレバ肉色ノ沈澱ヲ現出ス、之レ石灰酸ノ存在ノ微標ナリ、尙らんとると氏反應及ビレつ

くす氏法等ヲモ併用スレバ確實ナリ、石灰酸モノノ少量ハ、死後人體内ニテ自然ニ生ズルコトアレバ注意スベシ。

八、リゼーする中毒 *Cresol, cresylol, Lysol.*

本中毒ハ石灰酸中毒ニ酷似ス、コハ往來歐洲ニ於テ流行毒トナリ、自殺ノ目的ニ甚ダ多ク用ヒラレタリ、ソノ死體所見ハ之ヲ内用セルモノ、口唇又頤部ノ皮膚ハ黃褐色ニ染ミ、後、咽頭、食道等ノ粘膜ハ潤濁シテ灰白色乃至黄色トナリ、腎ノ内容ハ中性或ハ酸性ヲ呈シ、釜兒様ノ臭氣ヲ放チ、粘稠ナリ、胃ノ粘膜ハ灰白色ニ潤濁シ、肺ハ血管ニ富ミ、切斷ノ際にては様ノ臭氣ヲ發ス、腎ハ黃褐色トナリ、尿ハ潤濁シテ強キ酸性反應ヲ呈ス。(第百八十六圖)



リゼーする中毒 角口ノ者毒中ル一ツリ 状況ノ下流液毒中リヨ

ロ、腐蝕性あるかり中毒 *Caustic alkali, l'alkalic corrosif Aetzende Alkalien.*

一、かり及なとろん滴汁中毒 *Kali- und Natronlauge.*

かり及なとろん滴汁中毒

かり及なとろん滴汁ハ、工業上甚屢使用セラル、ヲ以テ誤テ之ヲ内用シ、或ハ自殺ノ用ニ供スルモノアリ、コハ嫌惡スベキ味アルヲ以テ、意識或ハ身體ニ障害ナキ人ニハ、他殺ノ目的ニ用ユルコト能ハズ。作用、かり及なとろん滴汁ハ蛋白ヲ崩壊壞疽ニ陥ラシメ、且血色素ヲ溶解シ、あるかり性へまらんニ變ゼシム、かり滴汁ハ心臟ヲ衰弱セシムルコト多キモ、なとろん滴汁ハ其力少シ。

中毒症狀、此毒物嚥下ノ直後、急性中毒性胃腸炎ヲ發シ、頑固ノ嘔吐アリ、吐物ハ初メあるかり性ニシテ、粘膜強ク褐色乃至赤褐色ヲ帶ビ、嘔吐ハ屢々間歇ス、コレ酸類ト異ナル點ナリ、症狀劇甚ナレバ人事不省トナリ、直ニ死スルモ、多クハ中毒後二三日ヲ經過スルヲ常トス、經過長キ時ハ下痢ヲ發シ、往々下血ス、尿量減ジ強あるかり性トナリ、或ハ食道等ノ瘻痕狹窄ノ爲メニ衰弱ニ陥リ死亡ス。

剖檢所見、口腔及食道ノ粘膜ハ潤濁腫脹シテ灰白色ヲ顯ハシ、胃ハ收縮シテ其壁厚ク、内容物ハ黒褐色膠様ニシテ、強あるかり性反應ヲ呈シ、粘膜ニハ黒色若クハ黒褐色ノ軟痂アリ、皺襞ハ増加シテ隆起シ透明トナリ、之ニ觸ルレバ石鹼様ノ感アリ、胃壁ヲ穿孔スルコトハ少ナシ、死後往々ニシテ此等ノ藥品ハ胃壁ヲ破リ、或ハ滲透シテ肝臟等ヲ腫脹透明ナラシムルコトアリ。

致死量ハ一定セザルモ、胃ノ空虚ナル時ハ、濃厚ナルモノニテ一〇〇珽ナリト云フ。

化學的證明、かり及なとろん化合物ハ、吾人ノ身體内ニ甚ダ多ク存在スルモノナレバ、化學的證明ニ於テハ、遊離セルかり及なとろん滴汁ノ多量ヲ發見セザレバ、中毒ノ斷定ニハ效少キノトス。

可檢物ヨリ透折法或ハ滲出法ニヨリテあるかりヲ抽出シ、ソノ液ニ就テ滴定法ニテあるかり度ヲ定メ、

尙濾液ノ一部ヲ白金耳ニ附シ、ぶんせん燈火ニテ檢スレバ、其炎ヲ甚シク黃色ニ染ムルモノハ、なとろんニシテ、紫色ニ染ムルモノハかり化合物ナリ。但シ僅微ナル着色ニ依リテハ、ソノ何レカヲ判定スルコト能ハズ。

二、あんもにあん中毒

Ammonia,
I ammoniaque,
Ammoniak.

あんもにあん中毒

本中毒モ亦過失ニ依リテ來ルコト多シ。

作用、あんもにあんハ蛋白ニ對シテハ崩解壞疽ヲ作り、消化管ヲ腐蝕シ、呼吸器ノ粘膜及中樞神經ヲ刺戟シ、且血色素ヲ溶解ス。

中毒症狀、接觸面ヲ崩解シ、水泡ヲ形成ス、嚥下後、口腔及咽頭粘膜ニ熱灼ノ感アリ、上皮ハ剝脱シ、粘膜ハ腫脹紅變シ、聲音嘶嘎、氣管枝刺戟症狀ヲ發シ、呼吸困難及痙攣ヲ來シ、垂涎甚シク硝子様粘稠ノ喀痰ヲ出シ、吐瀉甚シク、呼吸ニハあんもにあんアリ、發汗多クナリ、腹痛、下肢ノ麻痺アリ、尿中ニハ多量ノあるかり蛋白及へまらんヲ排泄ス、尙肺炎或ハ肺水腫ヲ來スコトアリ。

剖檢所見、咽頭、喉頭、口腔、氣管粘膜及胃、腸粘膜ハ腫脹シテ膠様トナリ、上皮剝離ス、各臟器ニあんもにあんヲ放ツ、肺ニハ肺炎ヲ見、血液ハ鮮紅色トナリ、肝臟ハ脂肪化シ、實質性腎臟炎ヲ來スコトアリ。

致死量、通常一〇%ノあんもにあん一〇・〇珎ヲ内用スレバ死ニ至ルト云フ。

化學的證明、可檢物ノ上ニ湿润セル赤色試験紙ヲ持チ來セバ、直ニ青色ニ變ジ、濃鹽酸ヲ附セル硝子棒

ヲ以テスレバ白色ノ烟霧ヲ生ジ、尙可檢物ヲ蒸餾シ、ソノ餾液ニねすれる氏ノ試薬ヲ加フレバ褐色トナル。あんもにあんノ證明ニ對シテハソノ特有ナル臭氣ハ甚ダ據リ所トナスベキモノナリ、尙死體ガ腐敗スレバ、ソノ臟器中ニ在ル蛋白質ノ分解ノ爲メ、少許あんもにあんヲ生ズルコトアレバ注意スベシ。

三、ばりつと中毒

Bariumsalts, Baryle

ばりつと中毒

くろーるばりーゆむ、硫酸ばりーゆむ、硝酸ばりーゆむ及炭酸ばりーゆむ、等ハ工業上多ク使用サル、モノナル故、錯誤ニ依リ或ハ工場内ニテ塵埃ト共ニ飛散スルニ依リ中毒シ、又自殺ノ目的ニ使用サル。

作用、本劑ハ腸ノ運動中樞ヲ最初興奮セシメ、次デ腦、心臟及血管等ヲ犯シ麻痺ニ陥ラシム、即少量ヲ服用スルモ吸收セラレ、心臟或ハ全身麻痺ニ依リテ斃ル。往々甚シキ吐瀉ヲ來スト雖、接觸局部ヲ犯スコト少シ。

症狀、吐瀉ニ次イデ痙攣ヲ來シ、脈搏ハ堅クシテ緩徐トナリ、血壓昂進シ、四肢ノ不全麻痺ヲ伴ヒ、最後ニハ迷走神經ノ麻痺ニヨリ死ニ至ル。

剖檢所見、胃ハ通常腐蝕サル、コトナシト雖、胃腸及心臟ニ於テ多數ノ出血點アリ、細尿管内ニハ稀硫酸鹽類ノ結晶ヲ發見シ、又胃腸炎ヲ見ル。

致死量、硝酸ばりーゆむ及くろーるばりーゆむハ一〇・〇乃至一五・〇瓦、炭酸ばりーゆむハ五・〇瓦トス。

化學的證明、最初可檢物中ノ有機物ヲ、ふれせにゆすばばー氏法ニテ崩解セシメ濾過シ、濾液ニ硫酸ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ、此沈澱ハ硝酸ニ溶解セズ、之レばりーゆむ存在ノ徵ナリ。尙前記濾過殘渣中ニモ、ばりーゆむノ一部分殘存スルモノナルヲ以テ、ソヲ乾燥シまいえる氏ノ溶解物ヲ作り、ソノ浸出液ニ就

テ前記ト同様ニばりゆむノ存在ヲ檢スベシ、斯クシテばりゆむノ存在明トナルモ、ソガ如何ナル鹽基ト化合セルモノナルヤハ、検査物ノ多量ニ存在スル時ニ非ラザレバ鑑別不能ナリ。

ハ、腐蝕性鹽類中毒

Irritants, sels corrosifs
Auszende Salze.

一、水銀中毒

Mercury, mercurielle,
Quecksilbersalze.

水銀化合物中、毒物トシテ最大切ナルハ昇汞ナレドモ、水銀ノ酸化物モ亦甚キ毒物ニシテ、金屬性水銀スラモ、體內ニ入り有毒ノ形トナリテ中毒ス、而シテ水銀化合物ハ工業上使用ノ範圍廣キモノナレバ、該中毒ハ最モ屢々遭遇スルモノナリ、コハ皆一種ノ味ヲ有スルヲ以テ、他殺の中毒ニ用ユルコト少ク、多クハ工業上中毒、或ハ自企的乃至錯誤ニヨル中毒トシテ來ルモノナリ、而シテ水銀化合物中、毒物トシテ最モ多用ヒラル、ハ昇汞ニシテ、而モソノ代表トスベキモノナレバ、今重ニ之ニ付テ記述セム、他ノモノハソノ作用弱キノミナレバ、之ヨリ多クハ類推スルコトヲ得ルモノナリ。

作用、昇汞ハ無色ノ結晶ニシテ、蛋白ニ對シ凝固壞疽ヲ來シ、且血色素ヲ溶解セズ、故ニ接觸セル局部ヲ犯シ、其部ノ粘膜ニ白濁ヲ來シ、更ニ吸收サレテ再ビ口腔及胃腸等ニ析出シ、其結果口粘膜炎并ニ胃腸ニ於ケル潰瘍ヲ伴ヒ、腎臟炎ヲ來ス、水銀軟膏等ニ依レル中毒ハ甚ダ緩漫ニ現出ス、水銀劑ガ吸收サレテヨリ、ソノ排泄ヲ終ル迄ニハ凡ソ二ヶ月ヲ要ス。

症狀、急性中毒、昇汞ヲ内用スレバ、一種異様ノ金屬味ヲ感ジ、舌咽喉ニ熱灼ノ感アリ、口内炎及垂涎等アリ、結膜ハ腫脹シ帶青白色トナリ、嘔吐アリ、吐物ニハ血液ヲ混ジ裡急後重、血便アリ、其狀恰モ赤痢様ニシテ、實際ノ赤痢ト鑑別スルニハ、微生物學的検査ニヨルノ外ナキコトアリ、其他尿閉、蛋白尿ヲ來シ、又眩暈及知覺異常アリ、脈搏小トナリ、四肢厥冷シ、虛脱ニ陥リ死亡ス、神識ハ死ニ至ル迄障害セラレズ、中毒後死ニ至ルハ、早キハ三十分ナレドモ、多クハ一、二日ノ後ナリトス。

慢性中毒トシテ、四肢ニ於ケル震顫、惡液質、下顎骨壞痕、慢性腎臟炎、骨質炎、筋肉麻痺及水腫等ニヨリ全身衰弱ヲ來シ死ニ至ル。

剖檢所見、齒弛ミ、齒齦及舌ハ腫脹シ、灰白色トナリ、或ハ潰瘍ヲ生ジ、出血セルコトアリ、胃ハ犯サル、コト少キモ、炎症ヲ起シ多量服用セシ場合ニハ、胃粘膜ハ灰白色不透明トナルヲ見ル、小腸ノ下部及大腸ハ甚シキ變化ヲ被リ、強キ赤痢様ノ所見ヲ呈ス、腎ハ炎症ヲ發シ石灰沈着ス、肝及心臟ハ退行變性ヲシ、骨髓ハ非常ニ赤色トナル。

致死量、昇汞ニテハ〇・二乃至〇・五瓦ナレドモ他ノ水銀化合物ニテハソノ量之ヨリ稍多キヲ常トス。

化學的證明、急性中毒ノ場合ニ吐物等ヲ濾過シ、濾液ヲ弱酸性トナシ、之ニ研磨セル銅片ヲ浸漬スレバ、水銀ハ銅片ノ面ニ灰白色ノ薄層トナリテ附着ス、此銅片ヲあるこほる等ニテ乾燥シ、卷縮シテ乾キタル小ナル硝子管内ニ入レ、(豫メソノ硝子ノ一部ヲ細ク引延バシ置クベシ)、銅片ノアル部分ヲ徐々ニ熱スル時ハ、水銀ハ揮發シテ硝子管ノ冷細部ニ至リテ附着ス、之ヲ一ベニテ窺ヘバ、美麗ナル水銀小球ヲ見ルコトヲ得ベシ、之ヲ水銀鏡ト云フ、併シ尙ソガ水銀ナルヤ否ヤヲ確定スルニハ、此水銀小球ヲ沃度ノ蒸氣ニ觸レシムレバ、直ニ赤變スルヲ以テ鑑別スルコトヲ得、多量ノ有機物ヲ含有スル可檢物、例ヘバ肝臟中ヨリ水銀ヲ檢出セント欲セバ、先ヅ臟器ヲ細切シ、鹽酸ヲ加ヘテ暫時放置後、所謂ふれせにゆす、ばばー

氏法ニテ有機物ヲ碎解シ去リ、殘餘ノくろーむヲ驅逐後、硫化水素瓦斯ヲ徐々ニ通ズレバ、黑色ノ硫化水銀ヲ得、而シテコハ硝酸ニ溶解セザルヲ以テ、びすむーと等ト容易ニ區別スベシ、此硫化水銀ヲ王水ニ溶解シ、更ニ水浴上ニテ過剰ノ酸ヲ驅逐シ、水ニ取り前記ノ如ク研磨セル銅片ニテ所置シ、水銀鏡ヲ作リテ水銀化合物ナルヤ否ヤヲ確定スベシ、尙ホ水銀ガ果シテ如何ナル鹽基ト化合シ居ルヤ、純粹ナル検査材料ヲ得ルニ非ラザレバ鑑別シ能ハザルコト多シ。

二、硝酸銀中毒 Nitric silver, Argent nitrique. Salpetersauresilber.

銀化合物中硝酸銀ハ最多ク使用サル、モノニシテ、而モ毒性亦甚ダ強キモノナリ、本劑ハ多ク自殺ノ目的、或ハ錯誤ニ依リテ急性中毒ヲ來シ、慢性中毒ハ本劑ヲ用ユル職工或ハ寫真師等ニ來ル。

作用、接觸セル局部ニ表面の結痂ヲ作り、コハ間モナク黑色ニ變ズ、吸收サレタル銀ハ小腸或ハ表皮ニ析出シテ、此部ニ黑色ヲ帶バシムルニ至ル。

症狀、急性中毒、本劑ヲ内用スレバ、口腔食道及胃粘膜ハ白色ニ滲濁シ、腹痛嘔吐アリ、吐物ハ初メ白色ナレドモ、日光ニ觸レシメバ黑變ス。慢性中毒ノ場合ニハ胃潰瘍、表皮、毛囊、汗腺、口唇及齒齦等ノ黑變ヲ來スト雖、中毒者ノ自覺症狀極メテ少キコト多シ。

剖檢所見、急性中毒ノ場合ニハ、急性胃腸炎ノ所見アリ、慢性中毒ノ時ニハ、胃潰瘍、表皮及粘膜等ノ黑變并ニ細尿管、肝臟ノぐろーもん氏囊、小腸粘膜冠部及骨髓ノ黑變ヲ見、此等ノ變色部ヲ青酸カリ液ニテ所置スレバ褪色スルコトアリ。

致死量、硝酸銀三十瓦以上ヲ頓服スレバ死ニ至ルト云フ。

くろーむ中毒

化學的證明、有機物ヲふれせにゆす、ばばー氏法ニテ崩解セシムルモ、銀ハ鹽化銀トシテ殘渣中ニ殘留スルヲ以テ殘渣ヲ灰化シ、ソノ灰分ヲ稍酸ニ溶解セシメ濾過シ、濾液ニ青酸カリ液ヲ加ヘ白色沈澱ヲ、くろーむ酸加里ニテハ赤褐色ノ沈澱ヲ、鹽酸ニテ白色沈澱ヲ生ズレバ、銀化合物ノ存在ヲ徵ス。但シ銀ガ如何ナル化合物トナリテ攝取セラレタルモノナルヤハ、此方法ニテハ鑑別スルコト能ハズ。

三、くろーむ中毒 Chromate, le chromate

くろーむノ化合物中、毒物トシテ用ヒラル、モノハくろーむ酸、重くろーむ酸加里及くろーむ明礬等ナリ。此等毒物ハ工業上中毒ヲ來シ、自殺ノ目的ニ用ヒラル。嘗テ我國ニテハ重くろーむ酸加里ノ中毒ハ、恰モ流行毒ノ觀アリテ、自殺ノ目的ニ甚ダ多ク使用サレ、ソノ他錯誤ニ依リ中毒シ、他殺ノ目的ニハ用ヒラル、コト少シト雖、予ハ痴愚者ガ友人ヲ殺害セン目的ニテ、此粉末ヲ飯ニ振りカケ、或ハ茶粥ニ混ジテ中毒セシメント企テタル例ニ遭遇セルコトアリ。

作用、接觸セル局部ヲ腐蝕シ、吸收後析出スル場所ニ炎症ヲ起シ、血液ヲ犯シテめとへもくろびんヲ作ル、重くろーむ酸加里等ハ稍強ク中樞神經系統ヲ犯ス。

症狀、急性中毒、重くろーむ酸カリヲ内用スレバ、口腔粘膜ハ最初淡赤黑色ニ染ミ、以テ帶灰綠色トナリ、且腫脹シ潰瘍ヲ生ズ、強キ吐瀉アリ、吐物ハ黃色乃至綠色ニシテ、腹痛甚シク遂ニ血便ヲ出スニ至ル、脈搏次第ニ弱クナリ、尿量少ク且蛋白ヲ含有スルニ至リ、虚脱ニ陥リ死亡ス。慢性中毒ハくろーむ化合物ヲ取扱フ工場ニ於テ多ク來リ、手、足、陰莖及鼻隔等ニ潰瘍ヲ生ジ、氣管枝炎、眼險枝炎眼險炎等ヲ伴フ。

剖檢所見、口内粘膜ハ黃色乃至綠色ニ染ミ、胃内容モ亦往々同色ヲ呈シ、ソノ粘膜ニハ溢血アリ、黃褐

重くろーむ酸加里中毒

色乃至帯緑褐色ヲ帶ビ、腸粘膜モ亦略同狀ヲ呈ス、心、肝ニハ脂肪變性ヲ來シ、腎臟炎、皮膚潰瘍及氣管枝炎等ヲ伴フ。

致死量。重くろゝむ酸加里ニテハ結晶二〇—三〇瓦ナリ、然レドモ十瓦程飲用シテ死ニ至ラザリシモノアリ、ソノ他ノくらゝむ化合物ニテハ致死量ハ尙多量ナリ。

化學的證明。可檢物ニふれせにゆす、ばばー氏法ヲ施行シ、得タル濾過ハ鹽化くらゝむニヨリテ綠色ニ染ム、此綠色濾液ヨリ全クくらゝむ瓦斯ヲ驅逐シ、少許ノ硫化あんもんを加フレバ帶緑青色ノ沈澱ヲ生ズ、此沈澱ヲ濾別シ、更ニあるかりノ過剰ニ溶解シ、過酸化鉛液ヲ加フレバ黃變ス、此黃色液ニ酸ヲ加フレバ、黃色ノくらゝむ酸鉛ヲ析出ス、此析出物ヲ濾紙上ニ集メ、更ニ水溶上ニテあるこほるヲ以テ所置スレバ、綠色トナル、即チくらゝむ化合物存在ノ確徵ナリ。此くらゝむ化合物ガ、如何ナル形トナリテ存在セルカヲ知ルコト困難ナリト雖、化學的ニくらゝむ存在ヲ徵スレバ、法醫學的ニハ已ニ十分ナル毒物存在ノ徵標ヲ得タルナリ。

鑑定實例

鑑定書

重くろゝむ酸加里中毒鑑定實例

大正〇年六月二十一日〇地方裁判所豫審判事KハN殺人未遂被告事

件ニ付同第五號豫審延ニ於テ檢第一號證及警第一號證ヲ交付シ

一、檢第一號證ノ茶劑中ニ劇毒又ハ毒藥ノ類ヲ混入セルヤモシアラバ其分量

二、警第一號證ノ赤色粒狀物ハ如何ナルモノナリヤ

ヲ鑑定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同證品ヲ京都帝國大學醫學部法醫學教室ニ持參シ翌二十二日ヨリ七月六日ニ互ル期間同教室ニ於テソノ検査ヲ施行セリ

第一、檢第一號證検査

甲、肉眼的及顯微鏡的検査

檢第一號證ハ硝子罐中ニ入レラレ内容ハ外部ヨリ察フニ帶緑汚灰色ニ潤澤セル液體ニシテ器底ニ飯粒様ノモノ稍多量沈澱シ罐頭ハ

〔N〕檢第一號證品及二領三四號〇年六月十八日ナル紙札各一枚結ビ付ケアリ罐口ニハ紙封ヲ施シロナル封印ヲ施セリ紙封ヲ撤ス

ルニ罐口ヘケルケラ檢ヲ以テ閉ジテ檢ヲ抜キテ之ヲ嗅グニ特異ナク腐敗セル氣味ノ臭アリ之ヲ全部「あすちりん」ニ移シテソノ内容及重量ヲ精檢スルニ、二二・〇立方仙速重キ二二・三瓦アリ之ヲ大ナル

レ「因ニ記ス檢第一號證ハ已ニ高熱ニ係リシモノナリト事ナレバ揮發性毒物ノ證明殆ド不可能ト思惟セシモ保リ官ノ希望ニ依リテ之ヲ施行セリ

(ろ)苦味質及「あるからいど」検査

(い)項ノ蒸餾殘渣ヲ製蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ徐ニ水分ヲ蒸散乾固シ之ニ九十八「%」あるこゝろヲ加ヘ加温浸出スル事數回濾過シソノ殘渣ハ後出(ハ)項金屬性毒物ノ検査ニ用ヒ濾液ハ合併シテ蒸發皿ニ移シ靜ニ重湯煎上ニテ「あるこゝろ」分ヲ蒸散シ鹽味アル無色弱酸性ノ粘稠物少許ヲ得タリ之ニ温水ヲ加ヘテ浸出濾過シ白色ニ輕濁シ鹽味アル弱酸性ノ濾液ヲ得タリ之ヲ「原液」ト名ヅク

(天)原液ヲ「がだーめ」氏浸出器ニ移シ「えーて」氏以テ浸出スル事二時間「えーて」氏原液(地ニ用ユ)トヲ分離シ「えーて」氏蒸散シテ無味透明ニシテ中性反應ヲ徵スル粘稠物極メテ少量ヲ得タリ之ヲ温水ニ浸出シ純白小囊皿ニ分チ重湯煎上ニテ乾固シ各々夫々濃硫酸、濃硝酸、鹽化鐵、臭素水ヲ加フルモ特異ノ呈色ヲ來スモノナシ即チ苦味質(びくろくときしん、こるひらん、ふえなせちん、アエらなゝ、さるちる酸等)ノ存在ヲ徵スベキ反應ナシ

(地)原液ニ「なとろん」鹼汁ヲ加ヘテ「あるかり性」トナシ「がだーめ」氏浸出器ニテ更ニ「えーて」氏以テ浸出スル事二時間「えーて」氏原液(安ニ用ユ)トヲ分離シ「えーて」氏蒸散シテ無味無味中性ノ殘渣少許ヲ得タリ之ヲ純白小囊皿數個ニ分チ重湯煎上ニ乾固シシメ各個ニ夫々濃硫酸、濃硝酸、えどん氏試藥、ふれえーて氏試藥ヲ加フルニ無色ニシテ鹽化鐵水溶液ヲ加フルモ變色セズ即チ「こちん」、「いん」、「すとりひん」、「ぶらん」、「あんちりん」、「あとろびん」、「かいん」、「こでいん」、「ひどらすらん」、「こふいん」等ノ存在ヲ徵スルノ反應ナシ

(安)原液ヲ「あんも」氏以テ浸出スル事二時間「えーて」氏原液(黄ニ用ユ)トニ分離シ「えーて」氏蒸發皿ニ移シテ蒸散シ無味無味中性ノ殘渣少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ浸出後小囊皿ニ分チ重湯煎上ニテ乾燥シ

(一)濃硝酸少許ト濃硫酸ヲ加フルモ變色ナシ

乙、化學的検査

(い)揮發性毒物検査

本品ヲ佳ク振盪混和後、九〇〇立方仙速ヲ採リ檢スルニ弱酸性ノ反應ヲ徵ス之ヲ「あるべん」ニ移シ「さく」檢ニテ輕ク檢シ其中ニ硝酸銀液或ハ醋酸鉛液ヲ以テ濾過セル濾紙各一條ヲ下垂シ靜ニ重湯煎上ニ攝氏五〇度内外ニ熱スルニ毫モソノ濾紙ニ變色ナシ(弱陰性)於テ可檢液ニ一〇「%」ノ酒石酸水溶液少許ヲ滴下シ全液ヲ酸性トナシ更ニ五〇立方仙速ヲ蒸餾水ヲ加ヘテ「りーびつひ」氏冷却裝置ニ連結シ式ノ如ク蒸餾スル事二時間ニシテ弱酸性無味無臭ノ濾液約七〇〇立方仙速ヲ得タリ之ヲ以テ揮發性毒物ノ検査ヲナス即濾液約五〇立方仙速中ヨリソノ部度適量ヲ試験管ニ取リ(一)乃至(七)ノ反應ヲ施行セリ

(一)濾液ニ加里鹼汁ヲ滴下シ更ニ濃硫酸并鹽化鐵溶液一、二滴ヲ加ヘ僅ニ熱シ而シテ鹽酸一滴ヲ加フルニ褐色ヲ呈ス(青酸及ソノ鹽類ノ反應陰性)

(二)濾液ニ「れぞろちん」水溶液少許ト「なとろん」鹼汁一滴ヲ加ヘ煮沸スルニ淡黃色ヲ呈ス(「くろ、ほるむ」、「くらら」る、「よーどほるむ」ノ反應陰性)

(三)濾液ニ鹽化鐵ノ水溶液ヲ加フルモ變色ナシ(石炭酸ノ反應陰性)

(四)濾液ニ「重くろゝむ」酸加里ノ水溶液ト鹽酸ヲ加ヘ熱スルニ淡黃色ナリ(「あるこゝろ」陰性)

(五)濾液ニ「にとろぶるしつど」なとりゆむ「液」ト加里鹼汁ヲ加フルニ淡黃色ナリ(「あせとん」陰性)

(六)濾液ニ臭素水ヲ加フルニ變色ナク「重くろゝむ」酸なとりゆむ「液」ヲ加フルモ呈色セズ(「あにりん」陰性)

(七)前記ノ如ク濾液ハ硫化水素臭成ハ「にとろべん」含有スルヲ含有スルガ如キ臭氣ナシ

以上ノ検査ニ據リ濾液中ニ揮發性毒物又ハ劇藥ヲ含有スルノ徵標ナシ

所第五號豫審延ニ於テ係リ官ニ返却セリ

此鑑定ハ大正〇年六月二十一日著手

同年七月六日結了

大正年月日

鑑定人 醫師 小南又一郎

四、銅化合物中毒

Coppersalts, le Cuivre, Kupfersalze

銅化合物中毒

銅化合物中ニハ硫酸銅、醋酸銅、亞砒酸銅及炭酸銅等アレドモ、ソノ代表者トスベキハ硫酸銅ナリ、是等ハ工業上ノ中毒或ハ錯誤ニヨリ中毒ヲ來スト雖、他殺ノ目的ニ用ユルハ甚ダ稀ナリ、食物調理ノ際往々銅鍋ニ醋酸ヲ用ヒタルモノヲ食シ銅中毒ヲ來スコトアリ。

作用、本劑ノ多クハソノ接觸部ニ凝固壞疽ヲ起シ、血色素ヲ溶解セズト雖、直ニめとへもぐろびんヲ作ル、又中樞神經ヲ犯シ嘔吐甚シク、筋肉麻痺ヲ來シ、而シテコハ小腸、唾液、膽汁、尿及皮膚等ニ析出ス、鐘詰ニ添加セラレタル少量ノ銅化合物ハ、何等中毒ヲ來スコトナシ。

症狀、急性中毒、硫酸銅等ヲ内用スレバ口内ハ綠色ニ腐蝕セラレ、不快ナル銅味ヲ感じ、嘔吐甚シク吐物ハ綠色ヲ帶ブルヲ常トス、次デ垂涎、腹痛、腹部膨滿及赤褐色下痢、裏急後重、頭痛、眩暈、痙攣及黃疸等ヲ發シ虚脱ニ陥リ死ニ至ルカ、或ハ慢性ノ胃疾患ヲ始シテ治スルコトアリ。

銅劑ノ慢性中毒者ハ黴ミタル、淡微綠色ヲ帶ベルガ如キ顔色ヲ呈シ、齒牙ニハ銅條アリ、腹痛及胃腸炎ヲ伴ヒ、次第ニ衰弱シ行クモノナリ。

剖檢所見、口腔ヨリ肛門ニ至ル迄強キ胃腸炎アリ、吐物及胃内容ハ往々綠色ニ染ム、胃粘膜ハ充血腫脹シ溢血ヲ來シ、潰瘍ヲ見ルコトアリ、大腸ニハ灰白乃至綠色ノ斑ヲ見、穿孔スルコトアリ。肝臓及心筋ハ脂肪變性ニ陥ルヲ常トス、其他實質性腎臟炎乃至肝臟炎ヲ伴フコトアリ。

硫酸銅中毒

致死量、硫酸銅及醋酸銅十瓦内外ヲ服用スレバ死ニ至ルコトアリト云フ。

化學的證明、可檢物ヲふれせにゆす、ばばー氏法ニテ所置スレバ、銅化合物ハ鹽化物トシテ濾液中ニ移行シ、爲メニ濾液ハ綠色ヲ呈ス、此濾液ニ硫化水素瓦斯ヲ通ジテ黒褐色ノ沈澱ヲ生ジ、黄色血滴鹽ヲ加ヘテ帶褐赤色トナリ、かり淘汁ヲ加ヘテ、初メ青色次イデ褐色ニ變ズル沈澱ヲ生ズレバ、銅化合物ノ存在スルコト明ナリ、尙銅ノ微量ハ生理的ニモ肝臓中ニ存在スルモノナレバ注意ヲ要ス、モシ銅化合物多量ヲ含メル吐物等アレバ、之ヲ濾過シ濾液ヲ強酸性トナシ、之ニ研磨シ光澤アル鐵片ヲ浸漬スレバ、暫時ニシテ鐵面ニ銅色ノ薄層ヲ附着ス、之ヲ乾燥シ研磨スレバ銅ナルコト益々確實トナル、之ヲ通常銅鏡ト稱ス。

五、亞鉛中毒

Zinc salts, le Zinc, Zink.

亞鉛中毒

鹽化亞鉛、硫酸亞鉛、酸化亞鉛及炭酸亞鉛等ハ何レモ毒物トシテ、殺人及自殺ノ目的ニ用ヒラレ、或ハ工業上又ハ錯誤ニヨレル中毒トシテ來ルコトアリ。

作用、亞鉛化合物ノ毒作用ハ、略銅ノソレト同ジケレドモ、其毒力ハ弱シ、吸收サレテ神經系統ヲ犯スコトアリ、排出ハ重ニ胃腸ノ粘膜腺ニ依リ、ソガ内臓中ニ蓄積サル、コトハ少シ。

症狀、本劑ヲ内用スレバ口腔粘膜ハ灰白色トナリ皺襞ヲ呈シ、強キ金屬味ヲ感じ、垂涎、嘔吐及血便ヲ來シ、次デ全身衰弱、眩暈、冷汗等ヲ伴ヒ、慢性中毒ニテハ胃腸炎、脊痛、筋肉衰弱前頭痛及多量ノ發汗等ヲ來ス。

剖檢所見、口粘膜ハ恰モ糝メサレタルガ如ク、胃内面腐蝕サレ、溢血點ヲ見、所々剝離ス、腸粘膜、軟腦膜、肺及腎等ニ血量多シ。

致死量ハ硫酸亞鉛ニテ六乃至七瓦、鹽化亞鉛ニテ六瓦ナリ。

化學的検査、ふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ白色透明ノ濾液ヲ得、此濾液ヲ中性トナシ、硫化あんもんヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ、又前記濾液ニカリ滴汁、或ハあんもにやヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ來シ、コハあるかりノ過剰ニ溶解ス、又別ニ前記濾液ニ、黄色血滴鹽液ヲ加フルニ白色沈澱ヲ生ズ、之レ亞鉛存在ノ徴ナリ。

(二) 腐蝕性瓦斯 Corrosive Gas, gas corrosif. Acetide Gase und Dämpfe.

工業上發生スル瓦斯ニ腐蝕性ノモノアリ、例ヘバ發煙硝酸、鹽酸、あんもにあ、くろろーる、ぶろーむ、よーど等ノ瓦斯之レナリ、是等ハ多クハ職業上ノ中毒ニシテ、今回ノ歐洲大戰ニ於ケル毒瓦斯ハ、發煙硝酸、くろろーる、ぶろーむ及ぼすげん等ナリト云フ。ソノ他錯誤ニヨレル中毒アレドモ、是等ノ瓦斯ヲ以テ自殺又ハ他殺ヲ行フコトハ稀有ナリ。

一、くろろーる瓦斯中毒 Chlorgas, Le gas de chlor, Chlorgas.

くろろーる瓦斯ハ漂白業、諸種ノ消毒及ソノ他ノ工業ニ使用サル、ヲ以テ、職業上ノ中毒ヲ來スコト多シ。作用、總ベテノ蛋白ヲ崩解セシメ、結膜或ハ上皮細胞ヲ腐蝕ス、少許ノ水分アル所ニテハくろろーる瓦斯ハ水ト結合シ、一部鹽酸トナリ兩々相持シテ粘膜ヲ犯ス、且血色素ヲ犯シテめとへもぐろびん及へまらんニ變ズ。

症狀、くろろーる瓦斯刺戟ノ爲メ、氣管枝肺炎、眼、鼻、口等ニ於ケル炎症即チ呼吸困難、咳嗽、結膜炎或ハ角膜炎等ヲ來シ、内用スレバ甚キ胃腸炎ヲ起シ、下痢、嘔吐、咽頭ニ於ケル輕痛、黃疸、聲門水腫

腐蝕性瓦斯

毒瓦斯

くろろーる瓦斯
中毒

或ハ聲門痙攣ヲ惹起ス。

剖檢所見、くろろーる瓦斯ヲ吸入シテ死セルモノハ、死體ニくろろーる臭アリ、肺ニハ溢血點ヲ見、所々ニ肺炎竈散在シ、且此部ハ赤褐色ニ染ム、胃粘膜ニモ溢血點アリ、ソノ他ノ眼結膜、鼻粘膜咽頭及食道、氣管等ニかたる性變狀ヲ見、角膜溷濁ヲ來シ居ルコトアリ。

致死量、液狀くろろーるヲ内用スレバ稍多量ニ耐ユルコトヲ得ルモ、空氣中ニ〇・〇六%ノくろろーるヲ含有スレバ、人ヲ死ニ致スコトヲ得ト云フ。

化學的證明、遊離セルくろろーる瓦斯ハ、濕潤セル沃度澱粉紙ヲ最初藍色トナシ、次デ褪色セシメ、又らくむす或ハいんでいご青試験紙ヲ褪色セシム、金屬性銀ハくろろーる瓦斯ニ遭遇シテ鹽化銀ヲ生成シ、コハ日光ニ觸ルレバ黑變ス、然レドモくろろーる瓦斯ノ臭氣ハ、ソノ發見ニ最モ好都合ナルモノナリ。

附。ぶろーむ及よーど瓦斯ノ中毒モ、亦略くろろーる瓦斯ノ中毒ニ似タレドモ其毒力稍弱シ、此等中毒ノ詳細ハ、本書ノ如キ小冊子ノ能ク記載スル處ニアラズ。

二、硫化水素瓦斯中毒 Sulphuretted Hydrogen, L'hydrogene sulfurique, Schwefelwasserstoff.

化學實驗室、或ハ下水抗道内等ニ充滿セル硫化水素瓦斯ニヨリテ、往々中毒死ニ至ルコトアリ。作用、硫化水素瓦斯ハ、一面ニハ血液ヲ犯シテ窒息死ニ導キ、他面ニハ接觸セル局部ヲ刺戟スルモノナリ。

症狀、硫化水素ノ逸出セル室内ニ入レバ一種ノ惡臭アリ、眼鼻等ニ微痛ヲ感ジ、又呼吸器粘膜ヲ刺戟ス、一乃至二%ノ硫化水素瓦斯ヲ含有スル室内ニ入レバ、往々瞬間ニシテ窒息死ニ陥ルコトアリ、之ヲ卒中様

硫化水素瓦斯
中毒

硫化水素中毒死ト名ヅク、普通硫化水素瓦斯ヲ含有スル所ニ至リ、之ヲ避クルコトヲ知ラザレバ、咳嗽、呼吸困難、心悸昂進、眩暈、四肢ノ震顫、表皮蒼白、冷汗等ヲ來シ、遂ニ人事不省ニ陥リ窒息死ニ至ル。

剖檢所見、卒中様型中毒ニテハ窒息急死ノ所見アルノ他、硫化水素中毒死ニ特有ナル所見ナシ、徐々ニ硫化水素ヲ吸入シテ、窒息死ニ至リタルモノハ表皮ノ色、血液及内臓等綠色ノ調ヲ帶ビ、且一種ノ硫化水素臭ヲ發ス、ソノ他一般ニハ窒息死ノ所見ヲ有ス。

化學的證明、硫化水素ニ特有ナル臭アルヲ以テ、ソガ中毒死ナルノ疑ヲ發ス、化學的ニハ可檢物ヲ蒸餾スレバ、硫化水素ハ餾液ニ移行シ、金屬鹽ヨリ硫化物ヲ沈澱ス、即チ醋酸鉛紙ヲ黒變シ、或ハにとろぶるしとなりゆゑ弱あるかり性ノ餾液ニ加フレバ、紫色ヲ呈スルニ依リ、ソノ存在ヲ徵ス、茲ニ注意スベキハ、人體ハ死後自然ニ腐敗ニ依リ硫化水素ヲ發生シ、又死體ガ糞壺内等ニ在ル時ハ、其處ニ在存スル硫化水素ガ死後體内ニ滲入シテ、比較的早期ニ皮色及血液并ニ臟器等ヲ淡綠色トナシ、硫化水素中毒ニ非ラザルヤヲ疑ハシムルコトアリ、コハ小兒死體ヲ糞壺中ニ投ジタル時ニヨク見ルコトニシテ、注意スベキコトナリト信ズ。

(ホ)有機性腐蝕毒

Caustic organic substance, Les substances corrosives organique, Atzendc organische Stoffe.

接觸セル局部ニ刺戟乃至腐蝕ヲ與フル有機性毒物ニハ、かんたりちん、がま毒、一種ノ魚毒及蛇毒等アルモ、法醫學的ニ必要ナルハかんたりちん中毒ノミナリ。

一、かんたりちん中毒

Cantharidine, Cantharidin, Kantiheridin.

かんたりちんハ豆斑猫屬ノ昆蟲ノ體内ニ有スル毒物ニシテ、芫菁ちんキトシテ販賣セラル、コハ自殺或

かんたりちん中毒

ハ他殺ノ目的ニ往々用ヒラレ、俗間ニハ墮胎劑或ハ催淫劑トシテ使用サレ、又醫療ニモ用ヒラル、故、錯誤ニヨレル中毒ヲ來スコトアリ。

作用、かんたりちんハ非常ニ強キ局所刺戟劑ニシテ、ソノ排出口ヲスラモ甚シク刺戟ス、吸收サレテ腦神經ヲ犯スコト屢ナリ。

中毒症狀、かんたりちんノ接觸セル外皮ニハ水泡ヲ作り、内用スレバ口内ニ熱灼ノ感アリ、此所ニモ水泡ヲ作ル、ソノ他嚥下困難、垂涎、血樣液ノ吐瀉、腎臟部及尿道ニ於ケル疼痛、尿意頻發等ヲ來シ、尿ハ少量ニシテ、蛋白、糖及血液ヲ含有スルニ至ル。

剖檢所見、出血性胃腸炎ヲ來シ、コハ特大腸ニ於テ甚シ、ソノ他實質性腎臟炎、尿道粘膜ノ引赤及溢血等ヲ見、時トシテ胃腸ノ内容ニ、光輝アル豆斑猫ノ翼片ヲ發見スルコトアレバ、注意シテ檢スベシ、又此翼片ノ永ク附着セリト認メラルル粘膜部ハ特ニ甚シク犯サル、ヲ見ル。

化學的證明、モシかんたりちん含有ノ疑アル散藥等、交付サレタル場合ニハ、注意シテ該蟲ノ小翼片存在セザルヤ否ヤヲ檢スベシ。化學的檢出法トシテハ、先ヅ可檢物ニかり滴汁ヲ加ヘテ煮沸シ、次デ濾過シ濾液ヲ硫酸ニテ酸性トナシ、くろゝほるむニテ振盪シ、該くろゝほるむヲ分取シ、更ニ此くろゝほるむヲ蒸散シ、殘渣ヲ以テかんたりちんノ證明ヲナシ、又内臓等ヨリかんたりちんヲ證明スルニハ、すたーす、をつとー氏法ニ從ヒ所置シ、比較的純粹ナルかんたりちんヲ抽出シ、以テソノ證明法ヲ施行スベシ。即チくろゝほるむ或ハえーてる殘渣ヲ油類ニ溶解シ、皮膚ニ貼付スレバ水泡ヲ生ズ、之レ即チかんたりちん存在ノ徵ナリ、本劑ハ甚ダ腐敗ニ對スル抵抗強キモノナリト云フ。

實質毒

乙、實質毒

Poisons of protoplasm, Les poisons des Protoplasmes, Parenchymgifte.

實質毒ハ其接觸部位ヲ犯スコト比較的ニ少ク、唯僅ニ刺戟反應アルノミナルヲ常トス、主トシテ一旦體內ニ吸收サレ、生活細胞ノ原形質ヲ犯シ、酸素ノ供給ヲ妨グ、生活體ノ新陳代謝機能ニ大ナル障礙ヲ來シ種々ノ臟器ニ脂肪變性ヲ起サシム、之ニ屬スルモノハ磷、砒素劑、鉛及麥角等ナリ。

磷中毒

一、磷 中 毒 Phosphorus, I-phosphor, Phosphor.

磷ニハ赤磷ト黄磷トノ二種アリ、前者ハ無毒ナレドモ、黄磷ハ猛毒ニシテまつち、殺鼠劑ノ主成分ヲ成スコトアリ、此等ハ日用品ナルヲ以テ、偶々不知ノ間ニ來ル中毒甚ダ多ク、又他殺ニモ用キラル、著者ノ遭遇セル二例ハ、一ハ猫いらすと稱スル磷ヲ含有セル殺鼠劑ヲ、嬰兒ノ口内ニ押込ミ中毒セシメタルモノニシテ、他ハ同上劑ヲ食物ニ混ジ中毒ヲ計リシモ、ソノ臭氣ニ依リテ發見セラレ、目的ヲ達スルニ至ラザリシモノナリ。泰西ニテハ往々磷まつちヲ以テ墮胎ヲ企ツルモノアリ。磷まつちノ球頭ニ含有スル磷ノ含量ハ一定セザルモ、平均一本ニ〇・〇〇五瓦アリ、成人ニテハ其百本ヲ用ユレバ、已ニ重篤ノ中毒症ヲ發スト云フ。含磷殺鼠劑ノ公稱含磷量ハ猫いらすと八%、らつとべん十%、らつとりん四%、さるらつと五%等ナレドモ定量ノ結果、常ニ之ヨリ稍少量ナリ、是等ハ現今我邦流行毒トシテ毒物學上注意スベキモノナリ。
作用、磷ヲ脂肪或ハ油類ニ溶解スル時ハ、其吸收セラル、コト速ナルヲ以テ、局部症狀ナクシテ直ニ全身症狀ヲ來ス、溶解セザル磷ハ蛋白ニ作用シテらいちん、ちろじん等ヲ作り、又血管壁、肝、胃、腎、筋肉心筋等ニ脂肪變性ヲ來シ、血球ヲ犯シ膽汁ノ分泌過多トナリ、黄疽ヲ發セシム、又骨質ヲ犯シ壞疽ニ陥ラシムルコトアリ。

猫いらすと等

筋等ニ脂肪變性ヲ來シ、血球ヲ犯シ膽汁ノ分泌過多トナリ、黄疽ヲ發セシム、又骨質ヲ犯シ壞疽ニ陥ラシムルコトアリ。
症狀、磷ハ脂肪ニ溶解シテ用フレバ、汎發性作用ヲ速ニ發スレドモ、通常ハ嚔下後數時間ニシテ、口内異常ノ味覺、口渴、胃部壓痛及嘔吐アリ、吐物ハ磷臭ヲ有シ、暗處ニテ之ヲ窺ヘバ磷光ヲ放ツ、ソノ他頭痛不安等アリ、諸症増悪シ數日ノ後虛脱ニ陥リ死ス、慢性症ニテハ肝ノ腫大及黄疽ヲ來セドモ、急劇症ニテハ之ヲ見ルコト能ハズ。

中毒ノ經過遷延スル時ハ、嘔吐、口渴、腹痛等一旦輕快シ、外見上良好ノ經過ヲ取ルガ如キモ、第二、三日ニ至リ黄疽ヲ發シ、嚔下困難胃部ニ於ケル苦悶、嘔吐ヲ伴ヒ、吐物ニハ往々血液ヲ混ジ、次デ肝腫大、關節痛、全身衰弱シ心音微弱、脈搏細小、眩暈等ヲ發シ、尿ハ蛋白ヲ含ミ、膽汁及血液ヲ混ジ、又尿量減ズ、意識ハ多クハ障害セラレザルモ、間々瀕死時ニ譫語ヲ發シ、昏睡ニ陥ルコトアリ、往々齒齦、子宮、胃、直腸、皮膚及結膜、筋間等ニ溢血ヲ來ス。

磷ヲ用ユル工場ニテハ、磷中毒ノ爲メ齒牙弛ミ齶齒多ク、下齶骨壞疽ヲ來スコトアリ。
剖檢所見、磷中毒後急死セルモノニ在テハ、胃腸ノ内容往々ニシテ磷臭ヲ帶ビ、暗處ニテ磷光ヲ放チ、磷片又ハまつちノ球頭片ヲ發見スルコトアリ、胃腸粘膜ハ僅ニ潤濁セルノミ。

中毒後二三十時間ヲ經過セルモノニ在テハ、肝細胞ハ顆粒變性ヲ來シ、腎上皮及心筋纖維ニハ顆粒狀ノ觀アルヲ明ニ認ムルコトヲ得、三乃至五日ヲ經テ死亡セル者ニ在テハ、剖檢上極メテ明ナル特徴ヲ呈ス、即チ全身黄疸色ヲ呈シ、皮膚及粘膜下ニ溢血ヲ認メ、肝臟ハ脂肪變性ヲ來シ、腫大シテ黃色ヲ呈ス、之ニ

觸ルレバ捏粉狀ノ硬度ヲ有シ、断面亦黃色ナリ、處々ニ出血點ヲ見、實質細胞ハ多量ノ脂肪ヲ充盈シ、肝小葉ノ境界明ナリ、腎及胃腸粘膜モ亦脂肪變性ニ陥リ、溢血ヲ來シ、ソノ内容モ亦血液ヲ混ジ汁粉樣ノ觀アリ、心筋ニモ亦脂肪變性ヲ來ス。血液ハ一般ニ流動性ニシテテゝる狀ヲナシ、血球崩壊ス、ソノ他網膜腸間膜、胸膜、筋間等ニ大小種々ノ大サノ溢血ヲ見ル。

致死量、燐ノ致死量ハ〇・二乃至〇・〇五瓦ナリ。猫いらすとシテノ致死量ハ大人ニ對シニ〇・乃至五〇ナリ、然レドモ之ヲ攝取後嘔吐多ケレバ五〇ヲ取りテスラ、何等ノ症狀ヲ遺サズシテ治癒シタル者スラアリ。

化學的證明、可檢物ニ硫酸及水ヲ加ヘテ酸性トナシ、みつちえりひ氏裝置ヲ用ヒテ蒸餾スル時ハ、燐ハ水蒸氣ト共ニ蒸餾サル、此蒸餾ヲ暗所ニテ行フ時ハ、ソノ冷却部ニ於テ燐光ヲ放ツ、但シ莢雜物多キ時ハ之ヲ妨グルコトアリ。硝酸銀紙ハ燐蒸氣ニヨリテ黒變スレドモ、醋酸紙ハ然ラズ。尙燐ヲ水素瓦斯ト共ニ發生セシメ、之ニ點火スレバ綠色ノ炎ヲ以テ燃ユ、一般ニ燐ハ空氣中ニ於テ甚ダ酸化シ易キモノナレバ、可檢物ハ成ルベク早ク検査スベシ、若シ燐ガ酸化シテ燐酸トナレバ、最早毒物トシテ證明スルコト能ハズ、何トナレバ燐酸ハ人體ノ生理的成分ナレバナリ。

鑑定實例

鑑定書

大正〇年十月十五日、區裁判所判事K、Sハ同庭法廷ニ於テK地方裁判所Mノ委託ニ係ル〇〇郡〇〇村字〇〇、殺人未遂被害事件ニ付テノ證據品タル檢第一號(飯籠中ノ燐飯)同第二號(小皿左中ノ味噌)及同第三號(紙箱中ノ小罐内ニ入レル燐)ヲ交附シ、檢第三號ノ燐品中ニハ何ナル毒藥ヲ含ミ居ルヤ又如何ナル分量ヲ飲食物ニ混入シテ食用ニ供セバ人ヲ殺害スルニ足ルベキモノナルヤ

ナルヤ
二、檢第一號飯籠在中ノ燐飯中并ニ檢第二號小皿在中ノ味噌中ハ人ヲ殺害スルニ足ル毒藥混入シ居ルヤ否ヤ若シ混入シ居ルトスレバ如何ナル毒藥ガ混入シアルヤ又檢第三號同標ノモノナリヤ否ヤ
ヲ鑑定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同判事ノ許可ヲ得右記ノ證據品ヲ京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ持參シ翌十六日ヨリ同年十一月

機中毒鑑定實例

三日ニ至ル期間同教室ニ於テテノ検査ヲ施行セリ

第一、一般検査

檢第一號強ハ古キ竹製飯籠中ニ在ル汚灰白色ノ燐飯ニシテ白色ノ燐飯ヲ生ジ強キ一種ノ酸臭ヲ感ズ而シテ飯粒ハ竹籠ニ粘着シテ全部ヲ摘出スル事不能ナルヲ以テテノ燐飯器ト共ニ之ヲ秤量スルニ全量一九五〇・〇グラムアリ、以テテノ各部ヲ精視スルニ燐飯粒及白色ノ菌絲無數アリ、燐飯二五〇・〇グラム平皿ニ採リ蒸餾水ヲ加ヘテ軟塊ヲ碎シ分碎シ燐飯トナシ、以テテノ燐飯ヲ以テテノ燐飯トシテ略略前述ノ如ク又ソノ燐飯ヲ載物硝子板上ニ取り覆蓋硝子ヲ被セ顯微鏡下ニ檢スルニ無色、灰色、褐色乃至帶濁綠色ノ糊狀ヲナセル植物組織片、無色ノ植物纖維及澱粉ノ小顆粒無數ヲ見ル糊狀トナシタル檢査物ヲ一夜硝子罐内ニ閉置シテ之ヲ試嗅スルニ酸臭ノ外特異アルヲ感ゼズ

中、化學的検査

前記燐飯ニナシタル檢査物ハ弱酸性ヲ呈シ酸味ヲ有ス之ヲ以テ後記甲乃至丁ノ毒物検査ヲ施行セリ

甲、揮發性毒物ノ検査

平皿内ノ燐飯檢査物ノ全部ヲ稍大ナル「こるべん」ニ移シ、「こるべん」頭部ノ内側ヲ蒸餾水ニテ洗滌シ木枠ヲ施シソノ内ニ一葉ハ硝酸銀水溶液ヲ以テ一葉ハ醋酸鉛水溶液ヲ以テ温潤セル小ナル濾紙片ヲ相互ニ又頭壁ニ觸レザル様垂下シソノ下部ヲ黒布ニテ掩ヒ重湯煎上ニ攝氏四十度乃至五十度ノ微温ヲ加フル時ハ暫時ニシテ硝酸銀紙ハ淡黑色トナレ共醋酸鉛紙ニ變化ナシ(硫化水素陰性)

乙、苦味質及、あるかろい、検査

甲項ノ殘渣ヲ蒸發皿ニ移シ靜ニ重湯煎上ニ蒸散シテ軟泥樣トナシ更ニ「こるべん」ニ移シ之ニ九十三%ノ酒精ヲ加ヘ微温ニテ浸出シ冷後濾過シソノ殘渣ヲ酒精ニ加ヘテ同一所置ヲ數回反復シ殘渣ハ金屬性毒物検査ノ(丙)ニ用ヒ濾液ヲ集メテ蒸發皿ニ入レ重湯煎上ニ熱シ酒精分ヲ蒸散シ殘渣ノ乾燥セル後無水酒精ヲ以テ所置スル事數回之ヲ濾別シ得タル濾液ハ重湯煎上ニテ酒精分ヲ蒸散シ殘渣ヲ温水ニ取り之ヲ原液ト假稱ス原液ハ輕濁セル淡褐色ノ弱酸性液ナリ

丙、原液ノ検査

一、濾液ノ八〇〇立方仙速ヲ取り硝酸ヲ加ヘテ重湯煎上ニ蒸散乾固シ殘渣ヲ少量ノ水ニ取り所定ノ「もりぶでん」酸あんもに溶解シ加ヘテ一夜放置スルニ黃色ノ沈澱ヲ生ジ此沈澱ヲ濾紙上ニ集メテあんもにあ水ニ溶解シ「まぐれしや」混合液ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ「まぐれしや」混合液ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ「まぐれしや」混合液ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ

發血ニ移シ蒸散シテ味臭ヲ有スル褐色粘稠物少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ取リ濾過スルニ濾液ハ弱酸性ニシテ無色無味ナリ之ヲ純白ノ小磁皿數個ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥セシメテ之ヲ反應ヲ試ミタリ

一、(イ)濃硫酸ヲ滴加スレバ褐色トナリ更ニ重クロム酸加里ヲ加フルニ接觸線鮮紅色ニ變ジ後淡紫色ニ移行ス

(ロ)硝石ニ硫酸少許ヲ加ヘタルモノニテ過シ之ニ「なとろん」濾汁ヲ加フルモ無色ナリ

即「びくとしん」存在ノ微標ナシ

二、硝酸ヲ加フルニ黄色トナリ之ニ「かり濾汁」ヲ加フルニ變色シ又「あいせる」氏反應陰性ナリ故ニ「こらひん」存在ノ反應ヲ呈セズ

三、硫化「あんらん」液ヲ加フルニ黄色トナリ「あんらん」ヲ加ヘテ熱スルニ無色ナリ即「びくりん」存在ノ反應ヲ呈ス

四、鹽化鐵水溶液ヲ加フルニ黄色ナリ即「さりち」る酸「あんらん」存在ノ微標ナシ

五、ソノ他「べろなる」こふえいん「かんたりにん」「ふえなせちん」「あせとあにり」「の反應ハ材料少キ爲メ之ヲ施行スル事能ハザリシト雖母液ノ性状、臭、味等ヨリ考察スルニ此等ノ毒物ヲ含有セズ

地、原液(天項)ニテ「えーてる」ヨリ分離セシモノ「なとろん」濾汁ヲ以テ「あるかり」性トナシ前記ノ如ク「えーてる」ヲ以テ浸出スル事二時間原液ト「えーてる」ニ分離シ「えーてる」ヲ以テ蒸發皿ニ取リテ重湯煎上ニ蒸散シ無味無臭中性和シ濾液少許ヲ得タリ之ヲ濾過シ數個ノ小磁皿ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥シソノ反應ヲ試スルニ濃硫酸ニテ淡褐色、えどまん氏試薬ニテ淡褐色、フレネデ一氏試薬ニテ淡綠色、硫化「わなでいん」ニテ無色、濃硝酸ニテ無色ナリ即「あにらん」「あとろびん」「こにいん」「てるひにん」「えめちん」「ひをすちあみん」「ふるちん」「へりにん」「ひにん」「こかいん」なる「こらひん」「にこらひん」「ばべりにん」「ひぞすちあみん」「びろかるびん」「ざらにん」「てびいん」「すとりにん」「べらちりん」等ノ存在ヲ微標ナシ

玄、原液(地項)ニテ「えーてる」ト分離セシモノ「なとろん」濾汁ヲ以テ前記ノ如ク「えーてる」ヲ以テ浸出スル事二時間「えーてる」分ト原液ト分離シ「えーてる」分ヲ蒸發皿ニ集メテ重湯煎上ニ蒸散シ

無色無味中性ニシテ濾過セル濾液少許ヲ得之ヲ濾過シ白色ノ小磁皿ニ取リ重湯煎上ニ乾燥シ濃硝酸一滴ヲ加ヘタル濃硫酸ヲ加フルニ淡褐色ナリ即「アゴモルフェイン」存在ヲ微標ナシ

黃、原液(玄項)ニテ「エーテル」ト分離セルモノ「アゴモルフェイン」重湯煎上ニテ全ク「えーてる」ヲ濾過シ重クロム酸加里ヲ加フルニ「重クロム酸」ニシテ「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間原液ト「エーテル」分ト分離シ「エーテル」分ヲ蒸發皿ニ取リ重湯煎上ニ蒸散シ褐色中性ノ鹽味ヲ有スル粘稠液少許ヲ得之ヲ濾過シ數個ノ小磁皿ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥シコレニ「れ」で氏試薬ヲ加フルニ先ヅ褐色トナリ後綠色ニ移行ス「れ」氏試薬ニシテ「ア」褐色トナル即「モルヒネ」存在ヲ微標ナシ

丙、金屬毒物ノ検査

乙項ノ濾液ヨリ酒精性濾過セル濾液ノ適量ト鹽酸ヲ加ヘ重湯煎上ニ熱シ之、時々鹽酸加里ノ少量ヲ加ヘ重湯煎上ニ熱スルモ褐色乃至黑色ヲ呈セザルニ至リ濾過シ「天」ト濾液(地)トニ分ツ

天、濾液検査

前記ノ濾液(天)ヲ乾燥セシメ磁製坩堝内ニ移シ強熱シテ炭化セシメ之ニ硝石、ソーダ混合物ヲ加ヘテ融解シ濾過セル濾液ヲ通過スル事二十分間煮沸シテ後硝酸ヲ加ヘ濾過シ「天」ト濾液(ロ)ニ分ツ

(イ)濾液検査

天項ノ濾液(イ)ヲ濾過セル濾液ニニ硫酸ヲ加フルニ透明ニシテ(白色)ノ濾液ニ生ゼズ即「バリニウム」化合物ノ存在ヲ微標ナシ

(ロ)濾液検査

一、天項ノ濾液(ロ)ノ一部ニ鹽酸ヲ加フルニ沈澱ナリ即「バリニウム」及鉛性ナリ

二、同濾液ノ一部ニ硝酸ヲ加フルニ透明ナリ即「バリニウム」及鉛化合物ノ存在ヲ微標ナシ

三、同濾液(地)少許「あんらん」に水ヲ加ヘテ弱酸性ニ中和シ「べん」ニ入レ重湯煎上ニ微温ヲ加ヘテ、徐々ニ酸化水素ヲ通ズル事三時間、一夜之ヲ靜置シ翌朝強熱シ酸化水素アリ淡褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ其ニ於テ濾過セル濾液(イ)ト濾液(ロ)ニ分ツ

(イ)濾液検査

有毒燐ノ定量

濾液(イ)ハ之ヲ「びくかし」ニ取リ重湯シテ酸化水素ヲ濾過シ且乾燥セシメソノ濾液ヲ坩堝ニ移シ「硝石」ソーダ混合物ヲ加ヘテ靜ニ融解シ冷後温水ニ取リ次ノ試験ヲナス

一、ソノ一部ニ「あんらん」に水ヲ加フルニ褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ(酸ノ少許陽性)

二、(ア)浸出液ヲ濾過シテ濾液ヲ強酸性トナシ酸化水素水ヲ加フルニ白色ノ沈澱多量ニ生ジソノ沈澱ハ酸ニ溶解ス

(イ)濾液ニ黃血鹽水溶液ヲ加フルニ黄色透明ナリ

(ウ)濾液ニ「なとろん」濾汁及「そーだ」水溶液ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ

(エ)更ニ原液(第一號)ヨリ約一〇〇瓦ノ濾液ヲ取り白金坩堝内ニ強熱シテ炭化セシメ「硝石」ソーダ混合物ヲ加ヘテ融解セシメ冷後温水ニ取リ濾過シテ濾液ヲ強酸性トナシ之ニ酸化水素ヲ加フルニ透明ナリ

黃血鹽ヲ加フルニ透明ナリ

即チ亞鉛ノ存在ヲ微標ナシ

三、濾液ヲ強酸性トナシ硝酸ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ即チ「くろ」ニ化合物ノ存在ヲ微標ナシ

四、濾液ヲ強酸性トナシ硝酸ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ即チ「ばり」ニ化合物ノ陰性ナリ

(ロ)濾液検査

地項ノ濾液(ロ)ヲ濾過セル濾液ニ取リ發煙硝酸ニ酸化シ重湯煎上ニ熱シテ強熱シテ強熱シ後濾液ト鹽酸加里ニテ所置シテ濾過シ濾液ヲ重湯煎上ニ熱シ之、酸化水素ヲ通ズル事三時間一夜之ヲ靜置シ後試薬スルニ酸化水素アリ褐色ノ濾液ハ褐色ノ他沈澱ヲ認ムル事能ハズ即チ「鉛」試薬「あんらん」水銀、鉛、銀「びすむ」と、銅、「かどみゆい」等ノ化合物ノ存在ヲ微標ナシ

丁、強酸及「あるかり」検査

第一號證ヨリ事飯五〇〇瓦ヲ取り蒸餾水ヲ加ヘテ微温ニテ浸出濾過シテ酸性ノ濾液ヲ得タリコノ濾液ハ

一、「鹽化」(り)「む」ヲ加フルニ濾過セル濾液ハ

二、硝酸銀ヲ加フルニ淡褐色ノ呈ス(強酸性)

三、「べろなる」硫酸ニシテ濾液ヲ酸層スルニ接觸面ニ褐色ノ輪ヲ生ズ

四、(一)「あにらん」反應ヲ合セ考フル時ハ恐ラク硫酸ノ存在セルモノニシテ即チ本液酸性ノ由テ來ル所以ナリ

(二)「あるかり」濾汁ノ存在セザル事ハ言フ俟タズ

以上ノ検査成績ニ依レバ第一號證(事飯中)ニハ有毒燐ノ存在ヲ微標シソノ他ノ毒物ヲ發見スル事能ハズ

下、有毒燐ノ定量

按ニ於テ検査物中ニ有毒燐幾何ヲ含有スルヤヲ定メント欲シ第一號證ヨリ事飯一五〇〇瓦ヲ以テ検査時此事飯ノ普通ノ飯茶碗ニ普通一杯盛リシ重量ニシテ此重量モ時日ヲ経ルニ從ヒ事飯乾燥シ水分ヲ失フヲ以テ自ラ變化ス)ヲ取り水ヲ加ヘテ糊狀トナシ攪ル、なづつて「まん」氏法(みつちえり)氏法ノ改良法ニ從ヒ炭灰ヲ通過シ之、蒸餾スル事三時間ソノ濾液及黑燐セル硝酸銀液ヲ合併シ濃硝酸及鹽酸ヲ加ヘテ強熱シ之、重湯煎上ニ蒸發乾燥シ濾液ヲ成ルベク少量ノ水ニ取リ小濾紙ニテ濾過シ少量ノ水ニテ洗滌シ濾液ニ「硝酸」あんらん」に飽和水溶液ト「れ」ふでん酸あんらん」に水ヲ加ヘテ一夜靜置スレバ美麗ナル黄色ノ沈澱ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ「れ」ふでん酸あんらん」に水ヲ加ヘテ硝酸ノ混合液ニテ洗ヒ次ニ受器ヲ管ヘ濾紙上ノ沈澱ヲ三割ノ「あんらん」に水ニ溶解シ少量ノ「あんらん」に水ニテ洗滌シ此濾液「まぐれし」や混合液ヲ加ヘテ一夜靜置シ析出シタル「硝酸」あんらん」に「まぐれし」や「無灰」濾紙上ニ捕集シ少量ノ「あんらん」に水ニテ洗滌シ濾液ト共ニ乾燥シ重量已知ノ坩堝ニ移シ強熱シテ「焦性」硫酸「まぐれし」や「トナシ」ノ得タル重量〇〇七五ニ〇二七八九ニ乗ジ換算スレバ燐ノ重量〇〇〇一五二五トナル

次に第一號證事飯一〇〇〇瓦ニ取リ前記ノ方法ニ依リ有毒燐ノ定量ヲナセシニ「焦性」硫酸「まぐれし」や「トナシ」〇〇五瓦ヲ得タリ之ヲ燐ノ重量ニ換算スレバ〇〇〇一三九四トナル

前述ノ如ク第一號證ノ事飯ハ時日ノ経過ニ依リテ水分ヲ失ヒソノ重量ニ變化ヲ來シ又ソノ内ニ含有セザル有毒燐モ時日ヲ経ルニ從ヒ酸化するレテ有毒燐トシテ證明シ得ル量次第減ズルヲ以テ子ノ検査當時ノ現狀トソノ結果ニ依レバ

普通ノ飯茶碗ニ普通ニ盛ル時ハソノ毒飯(第一號證)ノ量ハ約一五〇〇〜二六八五ヲ含有スル割合ナリ

第二、第三號證(毒飯)ノ検査

檢第三號證ハ「猫いらず」ト表記シ且猫ト鼠取籠トヲ商標トセル小紙箱内ニ納メタル小鐘内ニ入り居リ小鐘ニモ紙箱ト同様ノ商標ヲ附シ「醫藥用外毒物」ト記載シアリ鐘ニ開キテ箱内内容ヲ窺フニ褐色

本品約三〇五ヲ取り蒸留水ヲ加ヘテ細分シ之ヲ以テ檢第一號證ノ通り甲乃至丁ニ至ル毒物ノ検査ヲ施行セリト雖ソノ重要スル記載ハ之ヲ省キ必要ナル點ノミヲ擧ゲム

甲、揮發性毒物ノ検査

みつちえるりひ氏法ヲ施行スルニ當リソノ燐光瓶長時開蓋シテソノ他ノ燐存在ノ反應モ亦明ナリ即チ燐含有量ニ檢第一號證ヨリ多キ事ヲ示セリソノ他毒物ノ存在ヲ徴セズ

乙、苦味質及、あるかろいど、ノ検査

檢第一號證(乙)ノ部ト同様ニシテ作りシ原液ハ無色透明無味無臭ニシテ一般ノ苦味質及、あるかろいど、ニ類シテ加フルニ何等ノ沈澱ヲ來サズ即チ苦味質及、あるかろいど、ノ存在ヲ徴セズ

丙、金屬性毒物ノ検査

檢第一號證検査(丙)ノ部ト全ク同様ニ所置シテ有機物ヲ破壊シ濾過シタル後(第一、(丙)、(地)ニ相當ス)ニ硫化水素ヲ通ズル事前、如クスルニ黄色細末狀ノ沈澱少許ヲ生ジ之ニ濾過スルニ細末ハ濾紙ヲ通過シ濾別瓶ノ困難ニシテ濾紙上ニ殘存スルモノナリ即チ輕薄液ニ強硝酸ヲ加ヘテ酸化スルニ直ニ透明トナリ後、酸化ばりゆいむヲ加フルニ酸ニ溶解セザル白色ノ沈澱多量ヲ生ジ即チ前記黄色ノ細末ハ硫黃(硫化水素)ヨリ來リシナリトシテ知ル

しやレトシテ○二四四三ヲ得テ有量ニ換算スルニ○二〇六八五トナル

第四、說明

前記第一乃至第三検査ノ結果ニ依レバ檢第一、二、三號證内ニハ執レモ有毒燐ヲ含有シソノ他ノ毒物ノ存在スル微標ナシ

二、砒素劑中毒 Arsenic, arsenical

金屬砒素自身トシテハ無毒ノモノナレドモ、空氣中ニ於テハ直ニ酸化シテ亞砒酸トナリ猛毒ヲ有スルニ至ル。亞砒酸(或ハ砒石)ハ無臭無味白色ノ結晶或ハ粉末ニシテ、冷水中ニハ溶解シ難ク、温水或ハあるかり性ノ水ニハ溶解ス、亞砒酸加里、亞砒酸なとりゆむモ亦有毒ナリ、亞砒酸ハ古來毒物ノ王者ト稱セラレ

檢第一號證検査(丙)(天)ニ相當スル殘渣ヲ檢スルニ銀、「ばりゆいむ」、砒化合物ノ存在スルノ微標ナリ此所ニ「硝石ソーダ」混合物ヲ加ヘテ強熱スルモ融解セザル灰白色ノ殘渣極メテ多量殘存セルヲ以テ之ヲ温水ニ採リ濾過シ濾液ヲ以テ次ノ反應ヲナス

本品約三〇五ヲ取り水ヲ加ヘテ細分シ第一、檢第一號證検査(下)ノ部ト同様ニシテ有毒燐定量ヲナスニ焦性磷酸ニ加フルニシテ○二四四三ヲ得之ニ有毒燐ニ換算スレバ○二四五二トナル

磁製小皿ハコレヲ八片(大八片三個小片五個)ニ碎解シ内ニ味噌糖ノモ少許ト檢第三號證ノ毒物標ノモノ乾着セリソノ全量七・〇五ニシテ「るべ」ヲ以テ類フニ特異ノ所見ナク顯微鏡標本ヲ作りテ檢スルニ數多ノ植物組織或ハ細胞ヲ見略檢第三號證ノ所見ニ同ジ

下、化學的検査(有毒燐ノ定量)

本品約三〇五ヲ取り水ヲ加ヘテ細分シ第一、檢第一號證検査(下)ノ部ト同様ニシテ有毒燐定量ヲナスニ焦性磷酸ニ加フルニシテ○二四四三ヲ得之ニ有毒燐ニ換算スレバ○二四五二トナル

上、一般検査

檢第一號證検査(丙)ノ部ト同様ニシテ作りシ原液ハ無色透明無味無臭ニシテ一般ノ苦味質及、あるかろいど、ニ類シテ加フルニ何等ノ沈澱ヲ來サズ即チ苦味質及、あるかろいど、ノ存在ヲ徴セズ

註ニ一ヨリ附加スベキハ有毒燐ノ酸化シ易キモノニシテ空氣ニ曝レ或ハ他ノ有機物ト混在スル時ハ餘々ニ變化シテ亞砒酸或ハ磷酸モシテハソノ類トナリ有毒燐トシテ證明スル事困難トナルヲ以テ予ノ證明定量セル有毒燐ノ量ヲ以テ直ニ中毒時含有セル量ト見做ス事能ハズ即チ尙注意スベキハ飯茶碗中ノ毒飯ナリ○日時日經過ト共ニ乾燥ウ水分ヲ失フヲ以テ予ノ検査時ノ容量及重量ト一定時日前ノソレトハ多少ノ差アル事ヲ考ヘザルベカラズ換算スレバ検査物ハ一方水分ヲ失フヲ以テソノ濃度ヲ増シ他方ニ變化サル、ニ依リ有毒燐トシテ證明シ得ル量次第ニ減ズコト三要素ヲ顧慮スル時ハ一定時日前ノ有毒燐含有量ヲ確定スル事ハ頗ル困難乃至不可能ナリ

第五、鑑定

前記検査ノ結果及說明ニヨリ鑑定スル事左ノ如シ

宿 鑑定人 醫師 小南又一郎

彼ガ無味無臭ナルヲ利用シテ、他殺の中毒ニハ最も多ク用ヒラレ、予ハ亞砒酸ヲ以テ一家五人ヲ屠殺セル例、及自己ノ妻ヲ保險ニ加入セシメ、其妻ガ風邪ニ罹レル際、醫藥ニ亞砒酸ヲ混ジテ毒殺シ、保險金ヲ詐取シ、同様ニシテ保險金詐取ヲ目的トシ第二、第三ノ妻ヲ毒殺シ、第四ノ妻ニ至リテ發覺シ、遂ニ予ノ化學的検査ニ依リテ、ソガ亞砒酸ノ中毒ナルコト明トナリ、且第二、第三等ノ妻ノ火葬遺骨ヨリモ、砒素ヲ發見セル例ニ遭遇セリ。亞砒酸ハ亦種々工業ニ用ヒラル、故、職業上ノ中毒ヲ來シ、或ハ自殺ノ目的ニ使

用セラル、コト多シ。
其他砒素化合物トシテハちめちるあるせん、かこちる酸、おとさしる、さるばるさん及其異名同體等ハ醫藥ニ供セラル、故往々中毒ヲ來シ、鷄冠石、石黃等ハ純粹ナラバ毒性少キモ、不純物ヲ混合スル時ハ一部ハ亞砒酸ニ變ジ、一部ハ砒酸トナリ、毒性ヲ發揮ス、次ニしえーる氏線及ふくしんハ又砒素含有ノ染色劑ニシテ、之ヲ以テ敷物、玩具、食用品等ヲ染色シ、中毒ヲ來スコトアリ。

此等ノ砒素化合物中、最も多ク中毒例トシテ顯出スルハ亞砒酸中毒ニシテ、自殺或ハ他殺ノ目的ニ用ヒ誤用、醫藥ノ錯誤等ニヨリ中毒ヲ來ス、即チ法醫學上最も大切ナル毒物ナリ。

作用、接觸セル局部ヲ刺戟シ、且吸收サレテ血球ヲ犯シ、實質性臟器ヲ害シ出血ヲ來シ、粘膜ニ炎症ヲ發シ、強キ新陳代謝障害ヲ來スモノナリ。其他内臟神經及心臟ノ麻痺ヲ供ヒ、外皮及中樞神經ノ作用ヲ害シ諸種ノ腺ニ排出セラレテ亦ソノ排出口ヲ犯スモノナリ。

中毒症狀、大量ヲ服用セル時ハ、通常半乃至一時間ノ後ニ至リ始メテ中毒症狀ヲ現ハシ、往々三乃至十時間以後ニ中毒ヲ來スコトアリ。即チ胃腸盈虛ノ如何ニ依リテ差アリ。

作用

中毒症狀

急性中毒狀ヲ分チテ二種トナス、一ハ急性胃腸炎ノ症狀ヲ以テ來リ、他ハ重ニ神經症狀ヲ以テ終始ス。即前者ニ於テハ、服毒後咽頭食道等ニ熱灼苛辣ノ感アリ、次デ劇シク嘔吐シ、吐物ハ無色粘液樣ニシテ、ソノ末期ニハ血液ヲ混ズ。砒素ヲ含有セル色素中毒ノ際ハ、吐物中ニソレ等ノ毒物ヲ發見スルコトアリ、胃及腹部ニハ劇痛ヲ覺エ、多量ノ米泔汁樣便ヲ瀉出シ、便中ニハ剝脫セル上皮ト多量ノ粘液ヲ混ズ、其他裏急後重、頻渴、頭痛、薦骨部ノ拘攣、腓腸筋ノ攣痛ヲ訴へ、尿ハ其量ヲ減ジ、蛋白及血液ヲ含有シ、時々尿閉ヲ來ス、四肢厥冷シ、顔面及手足蒼白トナリ、次デ紫藍色ニ變ジ、脈搏小、呼吸促進、聲音嘶嘎、胸内苦悶等ヲ來シ、意識ハ明瞭ナルモ、終ニ虛脱ニ陥リ、五乃至二、三十時間ニシテ死ス。恰モ虎列刺病ノ症狀ニ彷彿タリ。故ニこれら流行ノ際ニ、往々砒素劑ニテ中毒セシメ其罪ヲ掩ハント企ツルモノアリ。此等ノ鑑別ニハ、細菌學的ニ一方これら菌ノ有無ヲ檢シ、他方ニ化學的ニ毒物ノ證明ヲナシテ、ソノ何レナルヤヲ決定スベシ。

前記胃腸炎ノ症狀ハ輕ク、反テ神經症狀ノ劇烈ナルモノアリ、此症ニ在ツテハ初メ頭痛眩暈ヲ訴へ、四肢ニ拘攣ヲ發シ、瞳孔散大シ、次デ失神、譫語、麻痺症狀ヲ來シ、屢瘧擊ヲ起シ、遂ニ全身麻痺ニ依リ、數時間乃至十數時間ニシテ死ス、之ヲ特ニ腦脊髓性砒素劑中毒ト云フ。

砒素劑ノ吸收緩徐ニシテ、經過數日ニ亘ルモノニ在テハ、劇甚ノ嘔吐ハ一、二日ノ後ニ輕快スルモ、皮膚ニ熱灼ヲ覺エ、脈搏細小頻數不正トナリ、舌ハ乾燥シ、紅色トナリ、蛋白尿、血尿等實質性腎臟炎ノ徵ヲ來シ、不眠呼吸困難アリ、皮膚ニハ發病後第三乃至第五日ニ紫斑、丘疹蕁麻疹、黃疸等ヲ生ジ、遂ニ三乃至十日ニシテ斃ル。

慢性中毒、少量ノ砒素劑ヲ毎日少シク、吸入、服用乃至外用スルモノニハ、胃腸かたゝる、肋膜炎、腹膜炎、知覺異常麻痺、震顫、攣縮、神經炎、帶狀匍行疹等ヲ來シ、皮膚ニハ亞砒酸黒皮症乃至角化症等ヲ見精神ヲ抑鬱シ、不眠、營養不良ヲ來シ、遂ニ衰弱ニ依リテ死スルニ至ル。

剖檢所見

急性中毒ニテ死セルモノハ、嘔吐下痢ノ爲メニ水分ヲ失ヒ、眼窩陷没シ、皮膚彈力ナク、藍紫色ヲ呈シ、腸間膜及胃腸粘膜下ノ血管ハ、暗赤色濃厚ノ血液ヲ以テ滿サレ、胃ノ内面ニハ粘稠ニシテ、膠様若クハ血液様ノ粘液ヲ附着シ、噴門及幽門部ノ粘膜ハ瀉瀉腫脹シ、一部ハ充血シ、一部ニハ溢血點アリ、此部ニ往々砒素劑ノ顆粒ヲ觸知スルコトアリ。ソノ内容ハ米泔汁様ナリ、慢性中毒者ニテハ胃腸、肝臟及心筋等ニ脂肪變性ヲ來ス、神經性中毒症狀ニテ急死セルモノハ、中毒後ニ於ケル生存時間ニ比例シテ、胃腸ノ症狀明トナレドモ、最モ急ニ死亡セルモノニテハ、何等ノ胃腸症狀ヲ發見セザルコトアリ。

砒素劑中毒死者ハ多量ニ水分ヲ失ヒ居リ、又砒素劑ハ防腐ノ效アルニヨリ、ソノ死體ガ往々容易ニ木乃伊トナルコトアリ。

致死量

致死量、亞砒酸ノ中毒量ハ〇・〇一乃至〇・〇五瓦ニシテ、致死量ハ〇・一乃至〇・一五瓦ナリト云フ、然レドモ人々ニヨリテ多少ノ差アリ、砒素劑ヲ常ニ美容劑トシテ用ヒ、或ハ之ヲ貪食スルモノニハ十數瓦ヲ用ユルモ差支ナシト云フ。

砒素ノ化學的證明ニ就テノ注意

化學的證明、砒素劑ハ最モ多ク他殺ニ用ヒラル、モノニシテ、而モ其證明最モ困難ナリ、何トナレバ少量ノ砒素ハ、地上何レノ處ニモ散在シ、或ハ中毒死ナラザル死體ノ外部ニアル飾花等ヨリ、砒素ガ體內ニ滲入スルコトアリ、或ハ埋葬地ノ土壤ニ含砒ノ處アリ。故ニ砒素劑中毒ノ疑アル死體ヲ發掘セル場合ニ

ハ、周圍ニアル物品及土壤等ヲモ採集シ來ルノ必要アリ、ソノ他砒素劑ハ醫療ニ甚ダ屢々使用サレ、一度使用サレタルモノハ、數ヶ月間肝臟等ニ蓄藏セラル、コトアリ、或ハ吾人使用ノ化學的藥品ハ、一定量ヲ超過スレバ、常ニ證明スルニ足ル砒素ヲ含有シ、最モ含砒量多キハ鹽酸ナレバ、吾人ハ常ニ無砒ノ藥品ヲ使用スルコトニ努力セザルベカラズ。此等ノ諸方面ニ充分ナル注意ヲナシ、而モ比較的少量ノ砒素ヲ發見シ、中毒症狀、解剖所見ヲモ合セ考ヘテ、始メテ砒素中毒ナル診定ヲ下スベシ、微量ノ砒素ヲ發見シタル場合ニハ、十分ナル考慮ト研究ノ上ナラデハ、ソノ斷定ヲナササルヲヨシトス。

砒素析出

砒素劑ヲ臟器等ヨリ析出スルニハ、ふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ、濾過シテ得タル透明濾液ニ微温ヲ加ヘツ、硫化水素瓦斯ヲ通ジ、暫時靜置後、得タル黄色沈澱ヲ濾別シ、此沈澱ヲ溫硫化おんもんニテ所置スレバ、砒素化合物ハ皆溶解ス、コノ溶液ヲ水溶上ニテ乾燥シ、二、三回發煙硝酸ニテ酸化シ、過剰ノ硝酸ヲ去リ、なとろん滴汁ニテ濕シ、而シテ後まいる氏ノ溶解物ヲ作り、之ヲ水ニ取り無砒硫酸ヲ加ヘテ煮沸シ、而シテ後まいる氏裝置ニ導キ、砒素鏡ヲ作りテ檢スベシ。砒素鏡ニ類似セルモノハ、硫黃鏡及あんちもん鏡ナレバ注意シテ鑑別スベシ。

砒素鏡

尙此ノ如ク砒素鏡ニ依リテ、砒素劑ノ存在ヲ知リタレバトテ、直ニソガ如何ナル化合物トシテ使用セラレシカハ不明ナリ、此際毒物材料ガ尙殘存セル場合ニハ、鏡檢シテ結晶形等ヲ研究スベシ、予ハ粉類ニ混ジタル亞砒酸結晶并ニ藥瓶ノ器底ニ沈澱シ居リシ沈渣ヲ檢シテ、亞砒酸ニ特有ナル結晶ヲ發見シ、ソガ亞砒酸中毒ナルコトヲ確定シタルコトアリ。ソノ他砒素劑ヲ、糸狀菌ヲ應用シテ檢出セント企テタルモノアリト雖、實際ニハ用ユルニ足ラズ。

第二編 身體ニ於ケル犯行ノ痕跡検査 十二、中毒各論 砒素劑中毒 六一四

清淨場第一號ニ採取)

一、胸腔開視

右死因鑑定ノ爲メ明治〇十年十二月十八日午後二時ヨリ東京帝國大學醫科大學法醫學教室解剖場ニ於テ〇〇警察署勤務視察警部〇〇〇〇立會ノ上石川哲郎執刀宮永學而補助之ヲ解剖スルニッ所見左ノ如シ

其一 外表検査

一、男屍身長一五九仙達、體重四八七〇〇〇五營養佳良、前面ノ皮膚ハ蒼白背面ニ於テハ暗紫色ノ死斑一般ニ存在ス死後強直ハ凡テノ關節ニ於テ存在ス

二、頭部ハ〇・五仙達ノ髮ヲ密生シ少許ノ白髮ヲ混ズ別ニ損傷異常ヲ認メズ

三、顔面兩眼半閉シ眼瞼及眼球結膜淡紫色、角膜透明、中等度ニ散大セル瞳孔ヲ透見シ得、眼球ハ少シク柔軟ナリ鼻翼ヲ壓スルニ異液ノ漏出ナシ鼻ノ直下ニハ鼻翼ノ横徑ニ一致シ表皮ノ割離ニテ許テ附著セルヲ見ルハ牛ノ開キ口唇ニハ乾固セル時濁色ノ血液少許ヲ附著ス損傷ヲ認メズ口腔内ノ粘膜ハ蒼白舌端ハ齒列ノ後ニ在リ口腔内異物ヲ存セズ左右ノ耳翼及外聽道内ニハ異物ナシ

四、頸部及項部ニ損傷異常ナシ

五、前胸部ニハ約十個ノ皮下注射ノ痕跡ヲ存ス心窩部ニ蠶豆大ノ褐色表皮剥脱一個ヲ存ス腹背及背部ニ異常ナシ

六、左右ノ上肢及下肢ニ損傷異常ヲ認メズ

七、外陰部陰阜ニハ黒色ノ陰毛密生シ陰莖陰囊等ニ異常ヲ認メズ肛門ハ哆開シ周圍ハ黒褐色ノ糞便ヲ以テ汚染セラル

第二 内蔵検査

甲、胸腔開視

八、胸腹部ノ正中ヲ式ノ如ク縱斷開視スルニ皮下脂肪組織乏シク橙黄色ヲ呈ス筋肉ノ色ハ赤褐色稍乾燥ス大網膜ハ腸管ノ全面ヲ掩ヒ脂肪含量稍乏シク血管充盈シ全體ニ紫色ヲ帶ブ腹腔内臟器ノ位置形狀等ニ異常ヲ認メズ腹腔内ニハ上部ニ赤色血管盤腔内ニ赤黄色血液ヲ存シ其量合計約二〇〇〇リ計算ス検査材料トシテ

九、肺助膜ニハ橙黄赤色ノ胸腔内ニハ赤褐色透明液少許ヲ含有ス

十、心囊内ニハ橙黄色透明液約三〇〇リ計有ス(検査材料トシテ清淨場第二號ニ採取)内面白色膠樣滑澤血液點等ヲ認メズ

十一、心臓ハ該屍手摺ノ約一倍半大ニシテ心外膜下ノ血管充盈中等度右心内ニハ濃厚ニシテ「コロレット」様色ヲ呈スル大部分流動性一部分分脈膠樣塊ヲ有セル血液約一八〇〇リ計有シ(検査材料トシテ第二號ニ合併)左心内ニハ同様血液約二〇〇〇リ計有ス(同上)右房室間孔ニハ四指通シ左房室間孔ハ二指ヲ過ス大動脈瓣ハ浦水ニ依ツテ能ク閉鎖スルモ肺動脈瓣ハ閉鎖完全ナラズ心筋ノ色ハ淡赤褐色稍濁色ノ調ヲ帶ブ心内膜ハ白色膠樣滑澤肉粒ノ部分ヲ於テ多數ノ心内ニ下ノ血液點存在スルヲ認ム僧帽瓣三尖瓣及半月瓣異常ヲ認メズ大動脈根部下ノ内環ニ於テハ其形不規則ナル硬變ヲ呈スルヲ認ム

十二、前縦隔洞ノ結締組織ヲ約雀卵大ノ組織間出血ノ存在スルヲ認ム

十三、右肺表面ノ色ハ上葉ノ前面及中葉ノ前面ハ蒼白色、氣腫狀ヲ呈スル外一般ニ帶紫紫色ナリ肺助膜下ニハ蚤刺大ノ血液多數存在スルヲ認ム上、中、下ノ三葉ノ根部ニ於テ稍廣汎ノ肺動脈下血液點アリ之ヲ觸ルニ硬度ハ一般ニ柔軟ニシテシテラ喘鳴ヲ感ズ空氣ノ含量多シ斷面ノ色ハ表面ノ紫色部ニ相當セル部ハ赤褐色ヲ呈シ、血液稍々多ク、之ヲ壓スルニ少許ノ泡沫ヲ混セル赤色液中等量ヲ洩出ス、表面ノ蒼白色部ニ相當セル部ハ帶褐色、蒼白色之ヲ壓スルニ白色ノ泡沫ヲ混セル中等度ヲ洩ラシ其外硬結等ノ異常ヲ認メズ、氣管枝ノ内面ハ汚穢濁色ノ泡沫ヲ混セル粘液ヲ以テ蔽ハル結膜ノ色ハ淡紅色異物ナシ

十四、左肺、表面ノ色及性状全ク右ト同シク肺動脈下ノ血液點ハ多數ニ存在ス、斷面ノ性状全ク右ト同シク、氣管枝ノ内容及結膜ノ性状亦右ト同シ

十五、胸腺腫大、舌ニ異常ヲ認メズ、咽頭及食道ノ結膜ハ帶黃蒼白

色ヲ呈スル外損傷等ノ異常ナシ、喉頭ハ泡沫ヲ混セル粘液ヲ以テ蔽ハル、結膜ハ一般ニ上部ハ紅色、下部ハ蒼白ヲ呈ス、聲帶ノ縁ニ沿フテ赤褐色ヲ呈セルヲ認ム、舌骨ノ右側ノ右側ノ左ニ向ツテ各々一個ノ贅骨ヲ生ジ移動ス、此贅骨ノ右側ノモノハ三・五仙達長、左側ノモノハ一・五仙達長、太サ各々〇・三仙達ナリ、其外舌骨及喉頭ノ諸軟骨ニ損傷等ナシ

其二 腹腔開視

十六、脾臟大サ九、〇一五〇一〇仙達、其周圍ニ於テ三個ノ腹痕ヲ有ス、表面ハ帶褐色ヲ呈シ被膜ハ緊張ス、之ヲ觸ルニ、弾力性硬固、斷面ノ色帶紫褐色、血液ノ含量中等度、脾臟脾材ノ別明ナリ

十七、右腎、大サ一〇・七〇一三・五仙達、表面ノ色ハ帶黃淡褐色、之ヲ觸ルニ、弾力性硬固莖葉ハ稍々割離シ難ク強シテ之ヲ割離スレバ所々ニ實質欠損ヲ伴フ、斷面ノ色ハ皮質部ハ帶褐灰白色潤滑シ著シク膠質セルヲ認ム、血漿中等度ナリ

十八、左腎、大サ一〇・六〇一五・三仙達、表面ノ色硬度性狀共ニ右ト同シク前面ノ殆ド中央部ニ於テ小豆大ノ赤褐色ヲ呈セル莖葉下ノ出血存在セルヲ認ム、斷面ノ性状及色共ニ莖葉ノ關係等皆右ニ等シ

十九、膀胱ハ強ク收縮シ殆ド空虚、結膜ノ色ハ淡紅色ヲ呈シ異常ヲ認メズ

二十、胃、其外面ニ於テハ小嚢ニ沿フテ漿膜下血液點ノ存在セルヲ認ム、内容ハ汚穢帶褐色ノ液約三〇〇〇リ計有シ(検査材料トシテ清淨場第三號ニ採取)中ニ蛔蟲一條ヲ存ス、結膜ハ其前壁ニ於テ體部及噴門ニ近キ部分ハ一般ニ赤褐色ヲ呈シ大嚢ノ上部ニ沿フテハ赤褐色ヲ呈シ其他ノ部分ハ汚穢帶褐灰白色ヲ呈ス、結膜ハ一般ニ肥厚シ之ヲ觸ルニ、粗滑ナリ、前記赤褐色ノ變色部ヲ精査スルニ皆粘膜炎ノ出血及血液迄ノ莖葉セルモノナルヲ認ム又小嚢ノ中央ヨリ一指横徑後壁ノ方ニ偏シテ小指頭大ノ分部ノ結膜ハ粗糙面ヲ呈シ其中ニ大サ麻實大ノ凝血一個ヲ附著セルヲ認ム

二十一、十二指腸ノ内容ハ胃ノ内容ト同シク其量約一五〇〇リ計有シ(検査材料トシテ第三號ニ合併)ナリ結膜ノ色ハ同シク汚穢帶褐色ヲ呈シ粘膜炎ハ肥厚シ水分ニ富ムヲ認ム、腸道ハ能ク通ズ

二十二、小腸上部ノ内容ハ汚穢帶褐色ノ粘液下部ハ赤褐色ノ粘液混合セテ約一〇〇〇リ計有シ(検査材料トシテ清淨場第四號ニ採取)中ニ蛔蟲一條ヲ存ス結膜ハ汚穢帶褐色ヲ呈シ、赤褐色ヲ呈シ、結膜ハ一般ニ肥厚セルヲ認ム、下部ノ結膜ハ赤褐色ヲ呈シ、集腺ハ著明ナリ

二十三、大腸ハ赤褐色ノ稍々粘濁ナル液約二〇〇〇リ計有シ(検査材料トシテ第四號ニ合併)結膜ノ色ハ赤褐色ヲ呈シ著シク肥厚ス腺腫ノ頂點ニ於テ赤褐色ニ變色セルヲ認ム、孤腺ハ著明ナリ

二十四、胃腸ノ内容ヲ水ヲ以テ薄メ之ヲ濾過シタル液ニ就キ光像鏡ヲ以テ檢スルニ酸化(ヘモクロビン)ノ二條ノ吸收線ヲ認ム

二十五、肝臟、其周圍ノ結締組織ニハ血液點ノ存在セルヲ認ム、腸ノ長サ、一七・〇仙達、幅四、五仙達一般ニ肥大シ實質稍々黄色ノ調ヲ帶ブ

二十六、胸部及腹部大動脈内ニハ一部暗黒色ノ流動性血液ヲ含ミ内環ニハ異常ヲ認メズ

乙、頭腔開視

二十七、頭皮ヲ式ノ如ク横斷開視スルニ軟部組織ハ一般ニ淡紅色ヲ呈シ、水分ニ乏シキヲ認ム

二十八、頭蓋骨縫線ノ際ニハ殆ド血液ヲ漏ラサズ、頭蓋腔内ニハ流動性暗褐色血液少許ヲ含ム、骨ノ厚サ最厚部一・五仙達、最薄部〇・二仙達、板障ノ血漿中等、骨折等ナシ底面ノ骨質ニモ損傷異常ナシ

二十九、硬腦膜ハ白色膠樣滑澤、血管ノ充盈中等度、軟腦膜血管ノ充盈著シク且ツ濕潤セルモ別ニ異常ヲ認メズ基底部ノ軟腦膜亦然

ワロル氏橋ト小腦トノ間ノ右側ニ於テ銀杏實大ノ透明ナル漿液ヲ含ムトコロノ軟腦膜下囊腫一個存在ス、腦底ノ脈管ニハ硬膜等ノ

異常ヲ認メズ
大脳實質、腦室内、大脳神經節、小脳大脳脚、小脳脚、ツロル氏脚、延髄等ニハ別ニ記スヘキ異常ヲ認メズ
右ニテ解剖検査終了時ニ午後四時二十分ナリ

第三、化學的検査

明治〇十年十二月二十五日〇〇警部ノ交付セル灰白色ノ粉末極少許ト註ニ前記屍體ヨリ採取セル第一號ヨリ第四號ニ至ル検査材料ニ就キ砒素定性試験ヲ施行シタルニ其成績左ノ如シ
第一、飲用ノ疑アリトシテ交付セラレタル粉末ヨリ一帽頭大量ヲ取リテ細ナル試験管内ニ入レ其上ニ新鮮ナル炭末極少量ヲ加ヘテ之ヲ熱シタルニ著明ナル砒素鏡ヲ作成ス
第二、検査材料第一號ヨリ第四號ニ至ル者ニ就キノイマン氏有機質破壊法ニヨリテ此ヲ灰化シ次テ適當ニ所置シテマルシユ氏法ニヨリテ砒素定性試験ヲ施シタルニ其成績皆陰性ナリキ
右ニテ化學的検査終了時ニ明治〇十年〇月〇日ナリ

說明

右解剖所見及ビ化學的検査ノ結果ニ據レバ本屍ノ死因ハ著シク暗紫色ヲ呈シ(記録第一項)、皮下組織並ニ筋肉ハ乾燥シテ水分ニ乏シク(記録第一項及第二十七項)、血液ハ濃厚ニシテ「チコレット」様ヲ

三、あんちもん中毒 Antimon, l'antimoine, Antimon

あんちもん化合物中、最も多ク中毒ヲ來スモノハ吐酒石ニシテ、五硫化あんちもん、しりつべ氏鹽等モ往々中毒スルコトアリ、多クハ醫療上ノ錯誤、或ハ誤用等ニヨリ本劑ノ中毒ヲ來ス、自殺或ハ他殺ノ目的ニ用ユルコトハ少シ、あにりん色素中ニあんちもん含有ノモノアリ注意スベシ。
作用ハ砒素劑ニ酷似ス、只ソノ作用ハ砒素劑ニ比シ弱シ。

中毒症狀、急性中毒ノ症狀トシテハ悪心、金屬味、垂涎、甚シキ嘔吐及胃腸炎ヲ來シ、これら様ノ症狀ヲ見ル、次デ皮膚厥冷、脈搏細小、頭痛、眩暈、人事不省、排腸筋痙攣、全身ノ痙攣來リ虚脱ニ陥ル。

職業等ニ起因スル慢性中毒トシテハ、胃腸がたゝる、頭痛、眩暈、聲音嘶啞、筋力衰弱、皮膚厥冷、蛋白尿、甚シキ下痢等來リ、虚脱ニ陥ルコトアリ。

剖檢所見、胃腸炎、腎、肝、心、血筋壁ニ於ケル脂肪變性等ノ所見ハ、砒素中毒ノ場合ニ於ケル所見ニ酷似ス。

致死量モ亦一定セズト雖、一般ニ砒素劑ニ比シ多量ナリ。

化學的證明、砒素劑ニ於ケル場合ト同ジ方法ヲ取レドモ、まいる氏融解物ヲ水ニ溶解セル際、砒素劑ハ水ニ溶解スルモ、あんちもん劑ハ溶解セズ、又まるしゆ氏法ニ依リ得タル砒素鏡ト、あんちもん鏡トヲ鑑別センニハ、前者ハ次亞鹽素酸なとりゆむニ溶解スルモ、あんちもん鏡ハ否ラザルヲ以テ、容易ニソノ何レナルカヲ知ルコトヲ得ルモノナリ。

四、鉛 中 毒 Plumb, Plomb, Blei,

鉛化合物中、鉛糖ハ腐蝕性ヲ有ス、ソノ他ノ酸化鉛炭酸鉛等ハ接觸局部ヲ犯スコトナシト雖、吸收サレテ所謂慢性鉛中毒ヲ發ス。諸種ノ顔料、白粉、べんき等ニハ鉛化合物ヲ主成分トスルモノアレバ、往々職業上、食用上ノ中毒ヲ來スコトアリ、鉛糖ハ甘味ヲ有スルヲ以テ、往々錯誤ニヨレル中毒アリト雖モ、鉛化合物ヲ以テ、自殺或ハ他殺ヲ企ツルモノハ非常ニ少シ。

作用、大量ヲ内用スレバ口腔、胃腸等ノ粘膜ヲ犯シ、ソノ外觀恰モ繸シタルガ如ク見ユト雖モ、小量ニテハ之ヲ見ズ、多クハ吸收サレテ新陳代謝障害ヲ來シ、中樞神經麻痺、營養不良、胃腸ノ強キ痙攣、筋肉羸瘦等アリテ、慢性ニ經過スルヲ常トス、鉛化合物ハ永ク臓器中ニ蓄積セラレ、徐々ニ腸、腺、腎臟、皮

砒素鏡トあんちもん鏡トノ鑑別

鉛中毒

皮膚液、乳汁等ヨリ排出サル。
中毒症狀トシテハ急性中毒ノ場合ニハ垂涎、一種ノ金屬味、齒牙ニ於ケル鉛條、胃痙攣、腹痛、便秘、發汗、蟻走ノ感等アリ。脈搏ハ便ニシテ遅徐トナリ、知覺異常、四肢ノ麻痺、人事不省等來ル。慢性中毒症狀トシテハ一般ニ氣分勝レズ、腹痛、關節痛、知覺異常、視力減弱、譫語、搖擗、攣骨神經麻痺等ヲ見ル。

剖檢所見、急性毒中ノ場合ニハ特有ナル剖檢所見ナキコト多シ。慢性中毒死ノ場合ニハ、上肢ニ於ケル伸展筋ノ麻痺、副腎ノ硬變、肝臟實質ノ腫脹等ヲ見ル。

致死量、鉛醋ニテハ二〇・〇瓦以上、鉛糖ニテハ五〇・〇瓦以上ナリ。

化學的證明、可檢物ニふれせにゆす、ばばー氏法ヲ施シ、高溫ニテ濾過スレバ、濾液ノ冷ユルニ從ツテ鹽化鉛ヲ析出ス、此濾液ニ硫化水素瓦斯ヲ加ヘバ、直ニ黑色沈澱ヲ、硫酸ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ、くろーむ酸カリヲ加ヘテ、黃色ノ沈澱ヲ生ズレバ鉛化合物ノ存在ヲ徵ス。鉛化合物ハ往々食器等ヨリ、微量ヅ、人體内ニ攝取サレ居ルコトアレバ、化學的證明ノ注意ヲ要ス。

五、麥角中毒 Ergotism, ergoté, Ergotin

麥角トハ麥實ニ一種ノ糸狀菌 (Claviceps purpurea) ノ寄生セルモノニシテ、此中ニハ無毒ナル色素及脂肪ノ外ニ、有毒ナルすばちえりん酸及こるぬらんヲ含有ス。前者ニヨリテ所謂壞疽性麥角中毒ヲ來シ、後者ニヨリテ痙攣性麥角中毒ヲ惹起シ、兩者相合シテ亦蟻走感症ヲ起スコトアリ、麥角ハ往々麵粉中ニ混入シテ食用中毒ヲ來シ、或ハ墮胎ノ目的ニ使用シテ中毒ニ陥ルコトアリ、自殺或ハ他殺ノ目的ニ麥角ヲ使用

スルコトハ甚ダ稀ナリ。麥角ハ收穫後一、二月間ハ最モ毒性強キヲ以テ、食用中毒ハ多クハ此期間ニ來ル。

作用、すばちえりん酸ハ接觸セル局所、并ニ吸收後身體ノ末端ニ所謂麥角壞疽ヲ來ス、之レ其部ニ於ケル細血管ガ痙攣ニ陥ルニ由ル、こるぬらんハ最初中樞神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、時トシテ神經或ハ筋纖維ニ退行變性ヲ伴フコトアリ、是等ノ副作用トシテ子宮ヲ收縮セシムルノ力ヲ有ス。

症狀、壞疽或ハ痙攣ハ麥角中毒ノ際各別ニ來ルコトアリ、或ハ相伴フテ顯ハル、コトアリ、時トシテ壞疽性ノモノヨリ痙攣性ニ移行スルアリ、兩者共最初ハ四肢端ニ蟻走ノ感及吐瀉アリ、次デソノ末端感覺鈍麻シ、厥冷シ紫藍色トナリ、遂ニ壞疽ニ陥リ離脱スルコトアリ、腸内面ニ於テハ集腺ハ恰モちふす狀トナリ、特ニ痙攣性麥角中毒ノ際ハ、蟻走ノ感ニ次デ脈搏遲徐トナリ、血壓昂進シ往々ニシテ胎兒ヲ母體ヨリ離脱セシメ、ソノ他癩癩様發作、痲鈍、たーべす様步行障害、前膊及下腿ニ於ケル筋萎縮ヲ來ス。

剖檢所見、腸内血ニ於ケルちふす様變化、及出血并ニ腸間膜及ソノ他諸所ノ臟器ニ於ケル出血ヲ見、壞疽部ハ乾燥セルニ拘ラズ、血管内ニ血液充盈シ、筋或ハ神經組織ハ退行變性ニ陥ルヲ見ル。

致死量、麥角ノ產地及收穫ノ時期等ニヨリ致死量ハ一定セズ。

化學的證明、麥角ハソノ特有ナル形態ニ依リ、容易ニ鑑別スルコトヲ得ルヲ以テ、麥角中毒ノ疑アル時ハ、注意シテ有形組織塊ノ存否ヲ檢シ、モシアラバ之ヲ植物學的ニ研究スベシ。

化學的ニハ可檢物ヲ濃あるこほるヲ以テ、四十五度ニテ一晝夜浸出シ、浸出液ヲ減壓ノ下ニ濃縮シ、之ヲあるこほる含有ノ酸性ノ水ニ取り、えーてるヲ以テ振盪スレバ、麥角存在ノ場合ハ、えーてるハ赤色ヲ呈シ、或ハ六十%ノくろらるひどらーと水溶液ニテ浸出スレバ水溶液ハ同ジク赤色トナル、此液ヲ白色濾

紙ニ附シテ乾燥セシメ、之ヲあるこほるあんもにや水ニテ濕セバ、汚紫色トナル、尙此赤色ヲ呈スル色素ハ一定ノ吸收線ヲ有ス。

丙、血液毒

Bloodpoison, Le poison du sang
Blutgifte.

血液毒
本類ニ屬スルモノハ血色素ト結合シテ、ソノ本來ノ作用ヲ障害スルモノニシテ、或ハ血色素ヲめとへもぐろびんとナシ、或ハ之ヲ溶解シ、或ハ更ニ結合力強キ血色素ノ變成物ヲ作り、酸素ノ供給ヲ不十分ナラシムルモノナリ。

一、ころる酸かり中毒

Chlorate, chlorate
Chlorsäurekali

ころる酸かり
中毒

本劑ハ醫療或ハ工業上ニ汎用サル、故、往々錯誤ニヨレル中毒ヲ來ス、自殺ニハ稀ニ用ヒラル、コトアレドモ、他殺ノ目的ニハ常識アルモノニハ使用スルコト能ハズ。

作用、ころる酸かりヲ血液ニ加フル時ハぐろびんヲ析出シ、且血色素ヲめとへもぐろびんニ變化シテ、赤血球ヲ崩解セシム。動物ノ體內ニ於テ此ノ如キ血液變化起ル時ハ、呼吸障害ヲ招來シ、窒息急死スルモノナリ。

症狀、ころる酸かりノ稍多量ヲ嚥下スレバ、先ヅ嘔吐、下痢ヲ來シ、次デ血液犯サレ、呼吸困難、ちやのーせ、心臟衰弱、體溫下降等ヲ見、尿ハ暗赤褐色トナリ、腎臟ノ作用充分ナラズ、即尿毒症ヲ起シテ死シ、或ハ窒息急死ス。

剖檢所見、本劑中毒ニテ最モ著シキ變化ハ、血液ガ暗赤褐色トナレルコトナリ、ソノ爲メニ視診シ得ル

粘膜、屍斑ハ赤褐色トナリ、内臟ノ色モ亦同色ヲ呈ス、ソノ他ニハ一般窒息急死ノ所見アリ、尙あんちびりん、ふえなせちんノ中毒症物ハ、ころる酸かり中毒ノソレニ酷似ス。

致死量、大人ニテハ十五瓦内外、小人ニテハ十瓦内外ニテ死ニ至ルト云フ。

化學的證明、本劑ハ中毒後、成ルベク早クソノ化學的證明ヲ施行セザレバ、漸次變化シテソノ證明困難乃至不可能トナル。ころる酸かりヲ證明スルニハ、可檢物ヨリ透析法ニヨリテ本劑ヲ抽出シ、ソノ抽出精製液ニ硫酸及いでいごー溶液少許ヲ加ヘ微熱スルニ變色ナケレドモ、一二滴ノ亞硫酸液ヲ加フレバ、直ニ褪色ス、之レ遊離ころるヲ發生シタルノ證ナリ。

二、青酸及青酸加里中毒

Prussic acid and its salts, l'acide
cyanhydrique et les cyanures, Cyanvergiftung

青酸中毒

純青酸ハ無色ノ液ニシテ、固有ノ苦扁桃様臭氣ヲ放チ、猛毒ナレバ之ヲ吸入スルカ、或ハ嚥下セル時ハ數秒ニシテ斃ル、此毒物ハ天然ニ遊離シテ、存在スルモノニ非ラザレドモ、苦扁桃、櫻、桃、杏、梅等ノ核中ニ在ルあんちびりんガ、胃中ニ入りテ分解シテ青酸ヲ發生シ中毒スルモノナリ、小兒ガ青梅ヲ食シテ中毒急死スルハ、重ニ此種ノ中毒ニヨレルナリ、青酸化合物中容易ニ分解シテ、青酸ヲ發生スルモノハ凡テ猛毒ニシテ、青酸加里ノ如キ此例ナリ。青酸加里及ソノ他ノ青酸化化合物ハ、工業上多ク使用セラレル、モノナレバ、錯誤ニヨリ、或ハ自殺ノ目的ニ、時トシテハ他ノ食物ニ混ジテ他殺ノ目的ニ用ヒラル、アリ。

作用、初メ神經中樞ヲ刺戟シ、後之ヲ麻痺ス。最モ急速ナル中毒ニ於テハ、毒物攝取從他ニ何等ノ症候ヲ呈スル邊ナク、殆ンド瞬間ニ斃死スルモノアリ、然ラザル時ハ先ヅ血色素ヲ犯シ、ちあんへもぐろびんヲ作り、血液ハ鮮紅色ニシテ美麗ナル色彩ヲ呈スルモ、酸素ノ輸送ヲナス能ハザルニ至リ、呼吸困難ヲ來

シ、次デ中樞神經系統ヲ侵スモノナリ。青酸カリ中毒ノ際ニハ蛋白ニ對シ崩解壞疽ヲ來サシメ、尙心臟ニ對シ、かりゆむ作用アレドモ、青酸ノ中樞神經ニ及ボス作用劇甚ナル爲メ、此等ノ作用ヲ充分發揮スルノ邊ナクシテ死ニ至ルモノナリ。一般ニ青酸ハ皮膚又ハ創面ヨリモ容易ニ吸收サレ、中毒作用ヲ惹起スルモノナリ。

症狀、多量ノ青酸或ハ青酸加里ヲ嚥下スル時ハ、忽チ昏倒シテ人事不省、呼吸困難ヲ來シ、呼吸ニハ青酸様臭氣ヲ放チ、全身痙攣ヲ發シ、毒物攝取後二、三十秒時乃至五六分時ニシテ死亡ス、經過稍緩漫ナルモノニ在リテハ、毒物攝取後、直立不能、歩行蹣跚トナリ、惡心、頭痛、眩暈ヲ訴へ、脈搏細小ニシテ呼吸促迫シ、次デ皮膚厥冷、冷汗、瞳孔散大、全身痙攣等ノ症狀ヲ發シ、呼吸及心跳不正トナリ、遂ニ昏睡ニ陥リ死亡ス。若シ毒量少キ時ハ中毒症狀經過シ去ルノ後、害ヲ殘サズシテ治スルコトアリ。

死體所見、青酸中毒ニ在テハ、經過極メテ迅速ナルヲ以テ獨特ノ剖檢所見ナク、胃或ハ腹腔開檢ノ際青酸ノ臭氣ヲ感ズ。其他ニハ一般窒息急死ノ所見アルノミナリ。

青酸加里中毒ノ際ニハ、胃等ニ青酸ノ臭氣ヲ感ズルコト前者ニ同ジト雖、毒物ノ觸レタル胃腸粘膜ハ鮮紅色ヲ呈シ、著シク腫脹シ、所々膠狀ヲ呈ス、胃内容ハ強あるかり性粘滑ニシテ紅色ヲ帶ブ。此等中毒ノ際、腦ハ久シク青酸ノ臭氣ヲ放ツコトアリ故、特ニ注意シテ密閉保存スベシ、ソノ他咽頭、食道等ノ消化管ニ於テ青酸加里ノ接觸セル部分ハ、粘膜亦胃ニ於ケル如ク腫脹シ、血色素ノ滲潤ヲ來スコトアリ。血液ハ鮮紅色流動性トナリ、死斑ハ鮮紅色ヲ呈ス、之レ血色素ガちあんへもぐろびんニ變化スルガ故ナリ。致死量、純青酸ニテハ〇・〇五瓦、青酸加里ニテハ〇・一五瓦ヲ以テ普通致死量トナス。

化學的證明、青酸或ハソノ化合物中毒死體ハ一種ノ特臭ヲ放チ、胃腸内容モ亦然ルヲ以テ、該毒ノ中毒ナル疑ヲ起スコトヲ得、化學的ニハ可檢物ニ酒石酸水ヲ加ヘテ蒸餾スレバ、青酸ハ餾液中ニ移行ス。此餾液ヲ更ニ一二回精餾シ、ソノ餾液ニ硫酸鐵液及かり滴汁ヲ加ヘテ加熱シ、更ニ鹽化鐵液ヲ加フレバ柏林青ヲ生ジ、或ハ餾液ニ硫化あんもんヲ加ヘテ水浴上ニ乾燥シ、鹽酸一、二滴ヲ滴加シ、更ニ鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色トナル、或ハ餾液ニかり滴汁及びくりん酸溶液ヲ加フレバ紫赤色トナル、之レ青酸存在ノ徵標ナリ。青酸ハ甚ダ揮發滲透シ易キ藥品ナレバ、死後往々體外ヨリ體內ニ滲入スルコトアリ注意ヲ要ス。

三、酸化炭素中毒 Carbon monoxide, l'oxyde de carbone, Kohlenoxyd.

酸化炭素ハ木炭、石炭等ノ不完全ナル燃燒ニ依リテ發生スルモノニシテ、燈用或ハ燃燒用瓦斯ハ石炭ヨリ製セラレ、際ハ、六乃至十%ノ酸化炭素瓦斯ヲ含有シ、薪材ヨリ製セラレ、時ハ六十%以上ノソレヲ含ム、ソノ他水製燈用瓦斯ハ酸化炭素ト水素トノ混合物ニシテ、前者ハ凡ソ三十%アリ、抗氣ハ四乃至十%ノ酸化炭素、一%内外ノ硫化水素、五十三%ノ炭酸瓦斯ヨリ成ル。無煙火藥爆發ノ際ニハ三十%ノ酸化炭素瓦斯、二十%ノ炭酸瓦斯、十%ノめたん瓦斯、八%ノ窒素瓦斯、二十三%ノ水蒸氣等ヲ發生シ甚ダ危険ナルモノナリ。

酸化炭素中毒ハ燈用瓦斯漏洩、大火災ノ際或ハ密閉室内ニ於ケル多量ノ炭火等ニヨリ、不注意ノ爲メニ中毒死ニ至リ、或ハ故意ニ自己ノ室内ニ少量ヅツ燈用瓦斯ヲ漏ラシテ、一夜中ニ徐々ニ中毒死ニ至ルモノアリ。而シテ呼吸中ニ於ケル燈用瓦斯ノ含有量ノ多少ト、吸入時間ノ長短トニ依リテ中毒症狀ニ強弱アリ。作用、酸化炭素ハ赤血球中ノ血色素トノ結合力强ク、所謂酸化炭素へもくろびんヲ作リテ、酸化へもく

酸化炭素中毒

抗氣

ろびんニ復歸スルコト困難ナレバ、爲メニ赤血球ハ最早酸素ノ輸送器官タル能ハズシテ、内室息ニ陥ルモノナリ。而モ同時ニ先ヅ中樞神經ニ於ケル痙攣中樞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、中毒ガ徐々ニ經過シタル時ハ心臟、腎臟及肝臟ニ退行變性ヲ來スヲ常トス。

症狀、酸化炭素瓦斯含有ノ空氣ヲ吸入スレバ、先ヅ耳鳴、眩暈、嘔氣、嘔吐ヲ來シ、次デ呼吸ハ響音性トナリ、顔面潮紅シ、酩酊狀ヲ呈シ、感覺異常、知覺消失、痙攣、麻痺等ヲ來シ、昏睡状態ニ陥ル、此ノ如キ中毒状態ヲ呈スルモノヲ、新鮮ナル氣中ニ出セバ、知覺等ハ徐々ニ恢復スト雖、頭痛、嘔氣、全身衰弱ノ感ハ永ク殘存ス、或ハ精神異常ヲ來スモノアリ。本中毒ニ於ケル死因ハ呼吸麻痺、腦出血乃至腦軟化等ナリ。

剖檢所見、死斑及諸内臟ハ鮮紅色ニシテ、血液中ニハ酸化炭素ヘもぐろびんヲ證明ス、ソノ他心肝及腎ニ於ケル退行變性、腦出血、皮膚ニ於ケル火傷發疱、痔瘡、肺炎、肋膜炎ヲ伴ヒ、尿ニ糖并ニぐるくるん酸及乳酸ヲ證明スルコトアリ。

致死量、〇・八瓦ナリト云フモ一定セズ。

化學的證明、血液中ノ酸化炭素ヘもぐろびんヲ證明シ、ソノ中毒ナルコトヲ確定スルヲ以テ、一ノ據リ所トス。酸化炭素ヘもぐろびんヲ含有スル血液ニハ次ノ反應アリ。

(イ)酸化炭素ヘもぐろびん含有ノ血液ハ、酸化ヘもぐろびント略同様ノ吸收線ヲ現ハスモ、之ニ還元劑ヲ加フルニ、吸收線ハ何等ノ變化ヲ來サズ、然ルニ酸化ヘもぐろびンノミノ血液ナレバ、還元劑ニヨリテ還元ヘもぐろびントナリ、一條ノ吸收線ヲ顯出ス、コハ酸化ヘもぐろびンノ二條ノ吸收線ヲ融合セシメ

酸化炭素ヘもぐろびん

ほつべざいれる氏検査法

硫化水素水検査法

片山氏検査法

たんにん法

タル太ク稍薄キ一條ノ吸收線ナリ。

(ロ)ほつべざいれる氏検査法、十%ノなとろん滴汁ニ酸化ヘもぐろびん血液ヲ滴下スルニ、直ニ汚褐色トナルモ、酸化炭素ヘもぐろびん血液ナレバ毫モ變色セズ。

(ハ)硫化水素水ニ酸化炭素血液ヲ滴下スレバ鮮紅色ナルモ、通常ノ血液ナレバ徐々ニ汚綠色トナル。

(ニ)十%ノ硫酸銅水溶液ニ酸化炭素血液ヲ滴下スレバ變色ナキモ、通常ノ血液ナレバ汚赤褐色トナル。

(ホ)醋酸鉛液ニ酸化炭素血液ヲ加ヘ振盪スルモ變色ナシ、通常ノ血液ナレバ汚赤褐色トナル。

(ヘ)片山氏検査法、黄色硫化あんもんニ、血液ヲ水ニテ稀釋セルモノ同量ヲ加ヘ、之ニ氷醋酸ヲ加フルニ、酸化炭素ヲ含有スル血液ハ鮮紅色ノ沈澱ヲ作り、通常ノ血液ニテハ帶綠灰色ノ沈澱ヲ生ズ。

(ト)たんにんノ一乃至三%ノ水溶液ヲ作り、之ニ血液約二倍量ヲ加ヘ、放置スルコト二十四時間ニシテ窺フトキハ、酸化炭素ヘもぐろびん血液ナレバ鮮紅色トナリ、通常血ナレバ汚灰色トナル。

此等ノ検査法ハ皆酸化炭素ヘもぐろびンガ酸化ヘもぐろびンニ比シ、比較的安定ナルコトヲ基礎トシタルモノニシテ、酸化炭素中毒ノ際血液ハ全部酸化炭素ヘもぐろびントナルモノニ非ラズシテ、必ズ酸化ヘもぐろびンヲ混在スルモノナレバ、此等ノ検査法ノ成績不明瞭トナルヲ免レズ、故ニ可檢液ハ確實ニ通常血液ナルコトヲ知レルモノニシテ、相對照シテ検査スルヲ必要トス。此ノ他石油べんじん、にとろぐりせりん、さばにん等動物及植物ヨリ由來セル血液毒數多アレドモ、コレ等ハ多クハ藥物學的興味ヲ有スルモノニシテ、法醫學的ニハ大ナル意義ナキヲ以テ之ヲ省略ス。

丁、神經及心臟毒

Poison of nervous system,
Le poison du system nerveux,
Nerven-und Herzgifte.

神經及心臟毒

本項ニ屬スル毒物ハ、ソノ接觸局部ニハ注意スベキ症狀ヲ起サズ、吸收後主トシテ中樞神經及心臟ヲ侵害スルモノニシテ、ソノ他ノ内臟ニハ著變ヲ見ルコト少ナク、即チ獨特ナル剖檢所見ヲ有セズ。而シテ植物性毒物、例ヘバ苦味質及あるかろいどノ多數ハ、主トシテ神經及心臟ニ作用シテ中毒ヲ來スモノナリ。

一、くらゝほるむ中毒

Chloroform, chloroforme, Chloroform.

くらゝほるむ中毒

外科の手術ノ際、麻醉ニ用ヒラル、ニ由リ往々中毒死ヲ來ス、麻醉ノ際、偶然くらゝほるむ死ヲ來スハ約五千人ノ麻醉施術ニ對シ、死者一人ノ割合ナリト云フ。ソノ他くらゝほるむヲ自殺ノ目的ニ用ヒ、或ハ惡意ヲ以テ睡眠者等ニ之ヲ吸入セシムルコトアリ。

作用、くらゝほるむハ原形質毒ニシテ、先ヅ腦ノ節細胞ヲ麻醉セシメ、次デ赤血球ヲ溶解シ、組織ニ退行性變化ヲ來サシムルコトアリ。

症狀、接觸セル局部ヲ僅ニ刺戟シ、吸收サレテ先ヅ腦及其他ノ毒經細胞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻醉セシメ最後ニ延髓ヲ犯ス。瞳孔ハ最初縮小シ、終ニ開大ス、筋ハ張力ヲ失ヒ、凡テノ反射機能亦消失ス、長時間麻醉ヲ繼續スル時ハ、赤血球ヲ犯シ黄疸ヲ惹起ス。慢性的ニくらゝほるむヲ用ユルモノハ、之ニ對スル習性ヲ得、羸瘦、貧血、黄疸、心臟衰弱等ヲ來ス。

くらゝほるむ急性中毒ノ際ノ死因ハ、多クハ呼吸麻痺ニシテ、慢性中毒ノ場合ニハ心臟休止ニヨリテ死

ニ至ルコト多シ

剖檢所見、急性中毒死ノ場合ニハ、窒息急死ノ所見アルノミナリ、慢性中毒死ノ際ニハ、黄疸、肝、腎及心筋ノ脂肪變性、貧血等ヲ認メ、屍體或ハ臟器ノくらゝほるむ臭ヲ發スルコトアリ。

致死量、内用スレバ五〇・〇瓦内外ニテモ死ニ至ラズ、吸入スレバ一〇・〇瓦内外ニテ死ニ至リ、或ハ約一〇〇・〇瓦ヲ吸入シテ死ニ至ラザルコトアリ。即チくらゝほるむノ致死量ハ、個人關係ニヨリテ多大ノ差異アルモノナリ。

化學的證明、屍體ヨリ腦及血液等ヲ採集シ、其ノ約百瓦ヲ取り、酒石酸ノ少許ト水ヲ加ヘテ蒸餾スル時ハ、くらゝほるむハ餾液ノ最初ノ部分ニ油滴狀ヲナシテ餾出シ、特有ノ臭氣ヲ發ス。此餾液ニれぞるちん水溶液(〇・一一二、cc)、及一滴ノなとらん滴汁ヲ加ヘ煮沸シ、帶黃赤色トナリ、透見スレバ帶黃綠色ノ螢火ヲ發シ、或ハあるふあなふとをるノ少許ヲ、三十%ノかり滴汁ニ溶解シ五十度ニ温メ、之ニ可檢餾液ヲ加ヘ青色トナリ、次ニ綠色乃至褐色トナレバ、くらゝほるむ存在ノ徵ナリ。

二、抱水くらゝる中毒

Chloralhydrate, L'hydrate de chloral
Chloralhydrat.

本劑ハ催眠劑トシテ使用セラル、故、錯誤ニヨリ往々中毒スルコトアリ、ソノ他自殺或ハ他殺ノ目的ニ稀ニ用ヒラル。

作用、本劑モ原形質毒ニシテ、先ヅ血管壁ヲ麻痺セシメ、次デ中樞神經ノ作用ヲ障害シ、腎臟ニ退行變性ヲ來サシム。

症狀、本劑ヲ多量内用スレバ、先ヅ嘔吐ヲ來シ、次デ甚シキ催眠感、血壓下降、表在血管ノ擴張ヲ見、

抱水くらゝる中毒

呼吸遅徐トナリ、表皮ハ紫藍色ヲ呈シ厥冷ス、往々突然ニ來ル呼吸麻痺、心臟休止ニ依リ死ニ至ル、慢性中毒ノ際ハ、消化器障礙、口腔粘膜ノ腫脹、無力、羸瘦、下痢、譫言等ヲ來シ、時トシテ本劑ニ對スル習性ヲ得テ、恰モもるひね中毒ニ於ケルガ如クナルコトアリ。

剖檢所見、本劑ヲ内用シ死ニ至リタルモノニ在リテハ、口腔及咽頭粘膜腫脹シ、胃粘膜ニハ退行變性アリ、所々ニ溢血點ヲ認ム、細尿管上皮細胞ニハ脂肪變性ヲ來ス。

致死量、心臟疾患アルモノハ既ニ一・〇瓦ニテ死ニ至ルコトアリ、普通ニハ五・〇瓦以上ヲ用ヒザレバ中毒セズ。

化學的證明、前記くらゝほるむニ於ケルガ如ク蒸餾スレバ、ソノ餾液ハ亦くらゝほるむニ於ケルガ如キ呈色反應ヲ呈スルモ、くらゝほるむノ有スルガ如キ特臭ナク、又餾液ニねずれる氏試薬ヲ加フレバ、帶黃赤色ノ沈澱ヲ生ジ、又ちを硫酸なとりゆむ溶液ト餾液トヲ加へ煮沸スレバ、煉瓦様赤色ヲ呈スルニ依リ、くらゝほるむト鑑別スルコトヲ得。

附、近時催眠劑ヲ以テ自殺シ、或ハ他殺ノ補助ニ、往々之ヲ用ユルコトアリ、即チあたりん Bronchia-thylacetyltharstoff、ぶろばりん、かるもちん及びぶろむらゝるハ異名同體ニシテ、 α -Monobromisovalerian-thylacetyltharstoff、ナル化學名ヲ有シ、又べえろなゝる Diäthylbarbitursäure、でいあゝる Diäthylbarbitursäure、等ノ如キ之レナリ、是等ハ尿素モシクハソノ誘導體ニ臭素、緋草酸等ノ如キモノノ結合シテ生ジタルモノナレバ、此等ノ中毒ノ際ニハ、夫等ガ單ニ有機基ノミニヨリテ成ル時ハ、剖檢上多クハ目ニ立ツガ如キ異常ナク、時トシテ肝臓ノ脂肪變性ニ見ルノミナレバ、其内ニテ臭素いせんヲ遊離スルガ如キモノニアリテハ、

ぶろばりん
かるもちん
あたりん
でいあゝる

胃腸ノ内面ニ刺激性症狀ヲ來シ、時トシテ粘膜下出血ヲサヘ見ルコトアリ。

而シテ此等ノモノ、中毒症狀ハ、深キ睡眠ニ陥リ、中樞性麻痺ノ如キ有様ニテ、毒物攝取后、通常二三日ニシテ、窒息死ニ陥ルヲ常トス。

致死量ハ一定セザレバ、大體ニ於テ、でいあゝる五・〇瓦―七・〇瓦、ぶろむらゝる及かるもちん約五・〇瓦、べえろなゝる約一〇・〇瓦ナリトス、但シコハソノ體質、胃腸ノ盈虚等ニヨリ、可ナリ差アルヲ忘ルベカラズ。尙此等ノ錠劑ハ不溶性ノモノナレバ、其十數瓦ニ相當スル量ニテ死ニ致ラザルコトアリ。

三、急性あるこほる中毒 Alcohol, alcohol, Alkohol.

あるこほる中
毒

あるこほる性飲料ノ濫用、自殺ノ目的、或ハ愚鈍ナル飲酒競争等ニヨリあるこほる中毒ヲ來ス。

作用、本劑ハ接觸セル局部ノ水分ヲ奪取シ、蛋白ヲ凝固セシメ、血色素ヲ溶解セズ、即チ局部ニ炎症ヲ惹起ス、吸收サルレバ先ヅ腦細胞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム。

症狀、急性中毒ノ場合ニハ、酩酊ニ次デ卒倒、人事不省、顔面潮紅、響音性呼吸、嘔吐、脱糞等來リ、終ニ脈搏細少、ちやの―せ、血壓及體温下降ヲ招來シ、呼吸麻痺或ハ心臟障害ニヨリテ死ニ至ルコトアリ。慢性中毒ノ際ハ、消化器管ニ於ケル一般性炎症、肝臓ノ脂肪變性乃至硬化、血管硬化、譫語、震顫、體力減退及虚脱等ヲ來シ又特ニ精神的方面ノ甚シク犯サル、コトアリ。

致死量、あるこほるノ含有量ト個人ノ特異性乃至習性ニヨリテ、ソノ致死量ハ一定セズ。

剖檢所見、急性あるこほる中毒死者ニハ、腦ニ於ケル充血乃至出血ヲ見、胃内容あるこほる臭ヲ放チ、胃腸炎ヲ見、肺水腫ヲ伴フコトアリ、慢性中毒者ニハ肝臓ノ脂肪變性乃至硬化、血管壁ノ硬化、消化器一

般ニ互レル炎症等ヲ見ル。
化學的證明、あるこほるハ水蒸氣ト共ニ容易ニ餾出スルモノナレバ、可檢物ヲ蒸餾シ、ソノ餾液ヲ取リ次ノ反應ヲ行フ。

- (イ) 餾液ニ沃度沃度加里液ヲ加ヘ微熱スレバ、沃度ほるむ臭ヲ發シ、又沃度ほるむノ結晶ヲ見ルヲ得、
- (ロ) 餾液ニ鹽酸少許ヲ加ヘ、更ニ重くろーむ酸加里液一、二滴ヲ注加シ水浴上ニ熱シ綠色トナリ。
- (ハ) 且餾液ニあるこほる臭アレバ、

あるこほるノ存在ヲ確徵ス。尙僅微ノあるこほる、あせとん等ハ生體內ニモ(青木氏ニヨル)又屍體現象ノ進行ト共ニ、死後體內ニ於テ醱酵作用ニヨリ發生スルコトアレバ、化學的證明ノ際ハ此點ニ留意スベシ。尙血行中ノあるこほる量ヲ測定シテ、酩酊ノ有無ヲ定メントセルモノアリ。

四、めちるあるこほる中毒
Methyllic alcohol, Alcohol methylicque, Methylalkohol.

めちるあるこほるハ通常ノあるこほるニ比シ、廉價ナル爲メ酒類偽造ニ用ヒ、或ハ不快ノ味アル故、工業用あるこほるヲ飲用不能トナラシムル爲メ、之ニ混入サレアリテ、ソヲ飲用シ中毒ヲ來スコトアリ、自殺或ハ他殺ニ用ユルコトハ稀有ナリ。あめりか合衆國ニテハ往時ヨリめちるあるこほる中毒ニ注意シ、之ヲ報告セシガ、獨乙及我國ニ於テ注意サル、ニ至リシハ、千九百十一、二年ノ交、伯林市ノ共同宿泊所ニテめちるあるこほるノ多數中毒アリテヨリ後ノコトナリ。

症狀、本劑ヲ内用スレバ、間モナク頭痛、眩暈、急性胃腸炎、視力減退、四肢ノ麻痺、呼吸困難、譫語、人事不省、虚脱等來リ、遂ニ呼吸麻痺ニ依リテ死亡ス。此中毒ニテ特有ナルハ一種ノ視力障害ナリ。

めちるあるこほる中毒

剖檢所見、急性あるこほる中毒ニ略類似ス、胃内容ニハめちるあるこほるノ臭アリ、肝、腎ハ腫大シ、網膜炎、視神經炎等ヲ見ル。

致死量、百乃至二百瓦ナリト云フト雖、十瓦内外ニテモ視力障害ヲ來シタルモノアリ。

化學的證明、めちるあるこほるハ人體ニ入りテ、直ニ蟻酸化合物トナル故、吾人ハ可檢物ヲ蒸餾シ、餾液中ヨリ蟻酸ノ證明ヲ行ヒテ、めちるあるこほるノ證明トナス。

五、阿片及もるひね中毒
Morphia, Opium et la morphine

阿片及もるひね中毒

阿片ハ罌粟果皮汁ヲ乾燥シタルモノニシテ、阿片中ニ含有スル數多ノあるかろいど中、最モ有力ナルモノハもるひねナリ。故ニ阿片中毒トもるひね中毒トハ略其形ヲ同ジクス、阿片及もるひねハ共ニ甚ダ屢醫療ニ供セラレ、又嗜好品トシテ汎用セラル、所アレバ、手ニ入り易キヲ以テ、自殺及他殺ノ目的ニ用ヒラレ、又醫療上ノ中毒ヲ來スコトアリ。特ニ其鎮痛劑トシテ、もるひねヲ用ユル時ハ、常習性ニ陥リ易ク、即チ慢性もるひね中毒ハ醫師、看護人、藥種商等ニ甚ダ多ク見ル所ノモノナリ、もるひねハ多ク皮下注射ニ用ヒ、阿片ハ多ク内用セラル、此兩者ノ中毒ハあるかろいど中毒中甚ダ屢遭遇スルモノナリ。

作用、猫、犬、牛、馬等ハもるひね劑ニ依リテ、先ヅ大脳ヲ刺戟サル、モ、人類ハ之ニ由リテ麻酔セラル、即チ反射機能及知覺ハ消失シ、嗜眠昏睡ニ陥リ、又腸ノ蠕動運動及呼吸運動ヲ低下乃至休止セシム、慢性中毒者ハ往々一種ノ精神異常ヲ來スモノナリ。

致死量、五歳以下ノ小兒ハもるひね〇・〇一乃至〇・〇四瓦ニテ甚シク中毒シ、大人ハ〇・四瓦ニテ死ニ至ル。但シもるひねニ習性アルモノハ、數瓦ヲ攝取スルモ生命ニ危險ヲ及ボスコトナシト云フ、阿片ノ致

死量ハ稍多ク一〇—二・瓦ニ達ス。

症狀、急性中毒ニテハ服用後三十分乃至一時間ニシテ、頭痛、眩暈、酩酊狀興奮アリ、視覺及聽覺混亂シ、光及音響ニ對スル感覺銳敏トナリ、次デ人事不省ヲ來シ、反射機能消失シ熟睡ニ陥リ、鼾聲ヲ發シ、筋肉麻痺、脈搏ノ遅徐及細小、瞳孔縮小、尿閉等來リ、遂ニ昏睡ニ陥リ五乃至十二時間ノ後死ス、時トシテ一旦神識明亮トナリ、諸症輕快スルモ、再ビ昏睡ニ陥リ死ニ至ルモノアリ、亞急性中毒ニテハ皮膚ニ癢痒ヲ感ジ、口渴甚シクシテ便秘ス、稀ニ一、二日ノ後醒覺シテ治療スルモノアリ。

慢性中毒者ハ睡眠及食欲少クナリ、便秘シ、瞳孔狭ク、注射癱アルモノニシテ、注射部位ノ皮膚ハ硬化シ、往々膿瘍ヲ生ジ、血便嘔吐等アリ、色慾及體力減弱ス、而シテ精神界ニモ異常ヲ來シ、家族妻子等ヲ省ミズ、手指ニ震顫來リ往々幻覺ヲ供フコトアリ。

剖檢所見、阿片ヲ内用セル時ハ、腸内容ニ特有ナル阿片臭アリ、もるひね中毒屍ニハ、何等特有ナル剖檢所見ナシ、時トシテ軟腦膜ニ於ケル血管充盈シ、腦脊髄液ハ腦室ニ集マリ、肺ニハ鬱血アリ、膀胱ハ尿ニテ充滿サル、等ノ所見アリ、慢性中毒者ニテハ注射痕跡、身軀ノ羸瘦胃腸炎等ヲ認ム。

もるひねト腐敗

化學的證明、もるひねヲ内用シタルモノハ勿論、又注射セラレタルモノモ、大腸等ニ大部分ソヲ析出スルモノナレバ、此點ニ注目シテ材料ヲ蒐集スベシ、亦もるひねハ複雑ナルあるかろいどナルニ拘ラズ、死體内ニ於テ比較的永ク腐敗ニ抵抗シ、證明可能ナルモノナレバ、古キ屍體ヨリ得タル可檢物ニ付テモ、落膽セズシテ検査ニ着手スベシ、予ハもるひね劑ヲ内用シテ中毒死ニ至レル一老女ノ屍體ヲ、埋葬後六ヶ月除ニシテ發掘シ、ソノ臟器ノ中ヨリ明ニもるひねヲ證明シタル例ヲ有ス、尙もるひね中毒ノ際注意スベキ

ハ、屍體もるひねナリ。コハ屍體現象進行中、體内ノ蛋白質ヨリ自然ニ分解生成スルモノニシテ、之ト實際ノもるひねトハ、動物試験ノ結果ニ依リテ鑑別スルヲ得ルコトアリ、阿片ヲ内用セルモノハめこん酸ノ檢出、阿片ニ特有ナル鏡檢所見ニヨリ、ソヲ鑑定スルコトヲ得。

可檢物ヨリ化學的ニもるひねヲ檢出スルニハ、前記すたし、をつと一氏法ニ從ヒ所置シ、コハソノあんにあ性母液ヨリくろくほるむ、或ハあみーあるこほるニ移行スルモノナレバ、此くろくほるむノ蒸散殘渣ニ更ニ一、二回精製法ヲ施シテ後、所謂もるひねノ實性反應ヲ試ムベシ。即チ可檢物ヨリもるひねヲ比較的純粹ニ析出スルコトヲ得バ、次ノ呈色反應ヲ行フベシ。

もるひねノ呈色反應

- 一、ふれえで一氏試薬ヲ加フレバ、初メ紫色トナリ、次第ニ藍色、綠色、黃色、淡紅色ニ移行ス。
- 二、まるき一氏試薬ニテ鮮紅色ヲ呈ス。
- 三、ふーせまん氏法ニテ赤血色トナル。
- 四、沃度酸ノ結晶ヨリ沃度ヲ析出セシメ、或ハ鹽化鐵液ニ遭遇シ藍色ヲ呈ス。
- 五、動物試験トシテハ可檢物ヲ白鼠ニ注射シテ、尾ヲS字狀ニ曲グレバ真正もるひねニシテ、然ラザレバ假令化學的ニもるひねノ呈色反應ヲ呈スルモ、もるひねニ非ラズト、併シ此動物試験ノ結果ハ、尙此ノ如ク確實ナルモノニハアラズ。

鑑 定 實 例

檢 案 書

○地方裁判所檢事SハYOガ明治〇十年八月六日解剖セルMノ死體中ヨリ採取セル左記物件ヲ化學的ニ検査シテ「もるひね」存否ヲ確

定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ

第一號瓶 血液

三二〇〇瓦

九七五〇瓦

もるひね中毒鑑定實例

第三號瓶 胃腸及其内容 七一〇〇瓦

第四號瓶 腎、肝、脾、心臓 一六〇〇〇瓦

第一試驗 血 液

第一號瓶申ノ血液ヲ檢スルニ暗赤色ヲ呈シ凝固シ、あるかり性ノ反應ヲ呈ス其重量即一〇五・〇瓦ヲ取り九十三・〇ノ純、あるこゝろ約三倍量ヲ加ヘ鹽酸ヲ以テ弱酸性トナシ水浴上ニテ攝氏五十度内外ニ加温スル事數時間、冷後、あるこゝろ濾過シ濾液ニ尚「あるこゝろ」ヲ加エテ前同標ニ所置スル事二回前後三回ノ「あるこゝろ」濾液ヲ集メ水浴上ニテ靜ニ蒸散シテ舍利別標ノ濾液ヲ得タリ次デ之ニ無水「あるこゝろ」ヲ加エテ置スル事十數時間ニシテ濾過シ濾液ヲ更ニ無水「あるこゝろ」ニテ所置スル事數回此濾液ヲ集メテ靜ニ「あるこゝろ」ヲ蒸散シ冷却後蒸留水ヲ加エテ放置スル事數時間濾過シ濾液ヲ蒸留水ヲ以テ此濾液ヲ集メテ淡黄色酸性ノ液ヲ得タリ之ヲ靜ニ蒸散シ約三〇・〇乃至四〇・〇珉トナセリ。

一、右酸性ノ水溶液ヲ「あるこゝろ」ノ浸出器ヲ以テ「えーてる」ニテ浸出スル事一時間、並ニ於テ「えーてる」層ト水層トヲ分離シ、二、ソノ水溶液ニ「なとろん」滴汁ヲ加エテ「あるかり」性トナシ更ニ「えーてる」ニテ浸出スル事一時間「えーてる」層ト水層トヲ分離シ。

三、ソノ水溶液ヲ靜ニ熱シテ「えーてる」ノ殘餘ヲ驅逐シ冷却後「あるこゝろ」ニテ浸出器ニ加ヘテ「あるこゝろ」性トナシ蒸散シ「えーてる」ヲ以テ浸出スル事數時間此濾液「えーてる」ヲ集メテ大氣中ニ靜ニ蒸散セシメ得タル濾液ヲ可成純粋ニスル爲メ。

四、ソノ濾液ニ水ヲ加エ更ニ鹽酸數滴ヲ加エテ放置スル事十數時間、之ヲ濾過シ濾液ニ「あるこゝろ」ニテ水ヲ加エテ「あるこゝろ」性トナシ蒸散シ「えーてる」ヲ以テ前ノ如ク浸出スル事一時間後鹽酸「えーてる」ヲ集メテ蒸散シ得タル濾液ヲ更ニ前ノ如ク所置スル事數回ニシテ最後ニ比較的純粋ナル中性淡黄色ニシテ苦味ヲ有シ無色ノ結晶ヲ存スル粘稠物ヲ得タリ。

此粘稠物ヲ取り「あるこゝろ」ノ反應ヲ施行セリ。

即チ、一、ふれえで氏試驗ニ依リテ先ツ淡紫色ヲ呈シ暫時ニシテ藍色綠色、稍多時ニシテ黄色ニ移行ス。

二、まるきい氏試驗ニヨリ淡紅色ヲ呈シ。

三、一牛鹽化鐵溶液ヲ加フレバ淡藍色ヲ呈ス。

四、沃度酸ニ遇フテ紫色ヲ呈ス。

上記ノ反應ニ依リ第一號検査物件中ニハ「するびれ」ノ痕跡ヲ存スルモノト認ム。

第二試驗 腦

腦ハ帶綠灰色ヲ呈シ酸性ナリ其重量即チ四八七・〇瓦ヲ取り第一號同標ノ所置ヲナシテ「するびれ」ノ反應ヲ試ミ略同標ノ結果ヲ得タリ。

第三號瓶 胃腸及其内容

第三號瓶内ニハ汚穢綠灰色ノ粘稠物ト同色ノ胃腸壁ヲ存シ酸性反應ヲ呈ス、コノ三五・〇瓦ヲ取り第一號同標ノ所置ヲナシテ苦味ヲ有シ褐色ニシテ中性ノ粘稠液少許ヲ得タリ之ヲ以テ「するびれ」ノ反應ヲ檢スルニ

一、「ふれえで」氏試驗ニヨリ美麗ナル紫色ヲ呈シ次第ニ藍色、綠色、黄色ニ移行ス。

二、まるきい氏試驗ヲ注加スルニ紫紅色ヲ呈ス。

三、一牛鹽化鐵溶液ヲ加フレバ美麗ナル藍色ヲ呈ス。

四、沃度酸ニヨリテ紫色ヲ呈ス。

以上ノ反應ニヨリ胃腸及其内容中ニハ「するびれ」ノ存在スル事明ナリ。

第四試驗 腎、肝、脾、心臓

此等ノ臟器ハ一般ニ帶灰赤褐色ニシテ弱酸性ヲ呈ス。其重量即チ各臟器共約半分宛(八〇・〇瓦)ヲ取り第一號同標ノ所置ヲナシテ第三號同標ノ結果ヲ得故ニ上掲ノ各臟器ニモ「するびれ」ノ存在ヲ認ムル事ヲ得タリ。

此試驗ハ明治〇十年八月十五日ヨリ同年同月二十九日ニ至ル期間京都帝國大學醫科大學法醫學教室東化學室ニ於テ施行セリ

明治〇十年十月日

京都市吉田町腰前一番地

小南又一 郎 謹

六、すとりきにーね中毒

Strychnine, strychnine

すとりきにーねハ無色無臭ニシテ強キ苦味ヲ有シ、水ニ溶解シ難ケレドモ、ソノ鹽類ハ皆水ニ溶解シ、猛毒性ヲ有ス。之ヲ用ヒテ自殺セル例少ナカラズト雖、其味甚苦キヲ以テ他殺ニ用ユルニハ、びーる或ハ醫藥ニ混ジテ用ヒザルベカラズ、予ハ醫藥ト共ニすとりきにーねヲ服用セシメ、二名ヲ毒殺セル例ニ遭遇セリ。

ソノ他すとりきにーねハ醫藥或ハ惡獸驅除用ニ供セラル、ヲ以テ、錯誤ニ依レル中毒往々アリ。致死量ハ小兒ニ對シテハ四・〇珉内外、大人ニ對シテハ〇・〇四乃至〇・〇八瓦トス。

作用、接觸セル局部ニハ何等ノ作用ナク、吸收セラレテ脊髓ニ在ル反射中樞、及血管ノ運動神經中樞ヲ犯シ、痙攣及血管壁收縮ヲ來ス、往々ニシテ蓄積作用アリ、本劑ハ比較的速ニ尿ヨリ排出セラル。

症狀、通常服用後十五分乃至二十分ニシテ、先ヅ羞明、不安ノ感并ニ筋肉ノ攣縮ヲ以テ始マリ、呼吸及嚥下困難トナリ、皮膚紫藍色ヲ呈シ、終ニ僅微ノ刺戟ニ遇フモ、全身痙攣ヲ來スト雖、神識ハ初メヨリ明瞭ニシテ毫モ障害セラレズ、最後ニ呼吸筋強直ノ爲メ窒息急死ニ至ル、全身痙攣ハ極メテ激烈ナレドモ、多クハ二乃至五分ニシテ諸症一旦輕快シ、更ニ多少ノ時間ヲ經テ發作スルモノアリ、服用後中毒症狀ヲ發スル迄ノ時間ハ、藥物ヲ水溶液トシテ服用セシカ、或ハ結晶ノ儘用ヒシカニ由リテ多少ノ差アリ、血管内ニ注入シタル時ハ最モ早ク中毒症狀ヲ惹起ス。

剖檢所見、死直後ニハ痙攣性死體強直アリ、腦脊髓ニ於テハ充血、或ハ出血ヲ見、肺ハ鬱血シ、心臓ニハ血液少ク、尿ニハ蛋白、乳酸、すとりきにーね及糖ヲ證明ス、肝臓及腦ニハすとりきにーねノ含有量多

すとりきにーね中毒

十、苦味質及、あるかいど検査

此屍體化セル内臓ノ一部ト攪混合シテ百三十五ヲ取り「ころるべん」ニ移シテおつと一氏法ニ從ヒ純「あるかいど」約三倍量及少量ノ酒石酸溶液ヲ加ヘ約三尺ノ濾液硝子管ヲ附セル「ころく」ヲ以テ檢査シ攝氏約八十度ノ水浴上ニテ時々震盪シツ、數時間放置シテヨリ一日間室温ニ靜置セル後濾過シ殘査ニハ更ニ純「あるかいど」ヲ加ヘテ二回前同様ニ所置セリ最後ノ殘査ハ第二十三項ニ用ユ

十一、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ磁皿ニ取り扇風器ヲ以テ風ヲ送り且攪拌シツ、水浴上ニテ微熱ノ下ニ「あるかいど」ヲ濾過シ豆腐同様ノ濾液極メテ多量ヲ得之ニ蒸留水ヲ加ヘテ數時間放置後濾過ス濾液ハ淡褐色ニシテ極メテ多量ナリ之ヲ水浴上ニ濃縮スレバ褐色ニシテ透明ナル酸性液ヲ得之ヲ原液ト名づけ之ヨリ苦味質及、あるかいど」ヲ抽出シ行フ

十二、前項ニ於ケル原液ヲ分液漏斗ニ取り「えー」ヲ加ヘテ振盪スルコト十數分、暫時靜置後「えー」ヲ層ヲ分離シ更ニ新鮮ナル「えー」ヲ加ヘテ同様ニ處理セルコト數回、原液ハ次ノ硝子皿ニ集メテ檢査ニ用ヒ前後數回ニ分離セル「えー」ハ之ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散スルニ弱酸性ニシテ苦味質ヲ呈スル褐色液少許ヲ得タリ此殘査ヲ少許ノ水ニ取り第十三項ノ一、般、あるかいど」沈澱試驗ヲ行フ

十六、前項ノ濾液ニ取レル濾液ヲ小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ檢査ヲナス

十三、各一硝子板上ニ取り黒板上ニ置き各々次ノ「あるかいど」一般試驗ヲ加フルニ
まいえる氏試驗
しやいぶれる氏試驗
昇 汞 溶 液
鹽 化 金 溶 液
びくりん酸溶液

十七、前項ニ於ケル原液ニテ抽出セル液少許ヲ白色小磁皿ニ取り水浴上ニ乾燥シ此ヲ以テ次ノ檢査ヲ行フ

イ、十七瓦ノ白鼠ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ注入スルニ五分シテ強キ痙攣ヲ起シテ死亡ス
ロ、十一瓦ノ蛙ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ與フルニ三分目ニ角弓反張ヲ來ス
ハ、十九瓦ノ蛙ニ可檢液一〇〇ヲ皮下ニ與フルニ五分ノ後「すと」リキニ「れ」ニ持テ有ナル痙攣ヲ起シテ死亡ス

イ、まいえる氏試驗
ロ、しやいぶれる氏試驗
ハ、昇 汞 溶 液
ニ、鹽 化 金 溶 液
ホ、單 寧 酸 溶 液
ハ、びくりん酸溶液

即チ「すと」リキニ「れ」ノ存在ヲ確證ス
可檢液ノ殘餘(全量ノ三分ノ一)ハ更ニ精製法ヲ施シテ比較的純粹ナル「すと」リキニ「れ」ノ結晶ヲ作り之ヲ秤量スルニ〇・〇〇三瓦アリ即チ全量中ニハ〇・〇〇九瓦アルナリ

二十一、前項ニテ濾過セル液少許ヲ白色小磁皿ニ取り水浴上ニ乾燥シ此ヲ以テ次ノ檢査ヲ行フ

十八、第十四項ニテ「ころる、ほるむ」アル濾液ヨリ「ころる、ほるむ」ヲ濾過シ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後「あるかいど」性ヲ呈スル迄「あるかいど」ヲ加ヘテ「えー」ヲ以テ第十四項ニ於ケルガ如ク所置シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「えー」ヲ以テ分離シ「えー」ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散シテ無味無臭ニシテ中性ヲ有スル液少許ヲ得タリ此液ヲ以テ次項ノ檢査ヲ施行ス

二十二、前記第十項乃至第二十一項檢査ノ結果ニ依レバGノ内臓中ニハ明ニ「すと」リキニ「れ」ノ存在ヲ微ス而シテ余ノ得タル「すと」リキニ「れ」量ノミニテモ〇・〇〇九瓦アリ「すと」リキニ「れ」ノ此ノ如キ量ハ決シテ死後周圍ヨリ滲入スルモノニ非ラザルヲ以テコハGガ生前攝取セシモノナラント思料ス

イ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ
ロ、濃硫酸ヲ加ヘ硝酸ノ一滴ヲ加フルニ無色ナリ
即チ「あるかいど」ノ存在ヲ微セズ
二十、第十八項ニテ分離セル原液ヨリ「えー」ヲ濾過シ約三倍量ノ「ころる、ほるむ」ヲ加ヘ十分間強ク震盪シ後靜置シ「ころる、ほるむ」ト原液トヲ分離シ分離セル原液ニハ更ニ新鮮ナル「ころる、ほるむ」ヲ加ヘテ同様ニ所置スルコト二回、前後三回ノ「ころる、ほるむ」

二十三、第十項ノ濾過殘液ヨリ殘餘「あるかいど」ヲ濾過シ「ころるべん」中ニ蒐集シふれせに「すと」リキニ「れ」氏法ニ從ヒ濃鹽酸四〇匹ヲ加ヘテ一夜放置後約三尺ノ硝子管ヲ穿通セル「ころく」ヲ以テ檢査シ水浴上ニ加温シツ、時々開檢シテ鹽素酸加里ノ粉末少許ヲ加ヘ振盪混和シ有機物ノ大略碎解セシ後冷却シ濾過シテ濾液(第二十項ニ用ユ)ト殘液(次項ニ用ユ)ニ分ツ

十、第五項ノ可檢液ヲ試驗管ニ三託取り鹽酸ヲ加ヘテ煮沸シ冷後一、二滴ノ飽和石炭酸及くるるるかるく水一、二滴ヲ加フルニ白色ニシテ更ニ「あんも」ニ水ヲ滴下スルモ變色ナシ
即チ「ふなせらん、あんちふなせらん」ノ存在ヲ徵セズ

十一、イ、第五項ノ可檢液ニ「みるるんす」氏試薬ヲ加ヘ加熱スルニ黄色ナリ
ロ、第七項ノ可檢液ニ鹽化鉛水溶液ヲ加フルニ黄色ニシテ之ニ水ヲ加フルモ變色ナシ

十二、イ、第七項ノ可檢液ニ鹽化鉛水溶液ヲ加フルニ黄色ナリ
ロ、同上物ニ發煙硝酸ヲ加フルニ黄色ナリ
即チ「あんちびりん」ノ存在ヲ徵セズ

十三、イ、第五項ノ可檢液ハ單寧酸ニテ沈澱ヲ生ズ
ロ、同上ノ可檢液物少許ヲ小磁皿ニ取り「くるるる」水ヲ加ヘテ水浴上ニ蒸散スルニ無色ノ殘渣少許ヲ留メ之ニ「あんも」ニ水ヲ加フルモ著色セズ

十四、第五項ニテ「えー」ノ存在ヲ徵セズ
ヘテ「あるかり」性トナシ更ニ第五項ト同様ニ「くるるる」水ヲ加ヘテ蒸散シ原液(第十八項ニ用ユ)「くるるる」水ヲ加ヘテ同様に「くるるる」水ヲ加ヘテ小磁皿ニ取り水浴上ニ蒸散シテ褐色ノ殘渣中ニ結晶性ノモノヲ有スル殘渣ヲ得タリ

十五、前項ノ殘渣ハ中性ニシテ無臭苦味アリ結晶ハ水ニ溶解シ易シ此殘渣ヲ温水ニ取り前記第六項ノ如クシ一般「あるるる」沈澱試驗ヲ行フ

イ、まいえろ氏試薬
ロ、しやいぶれる氏試薬
ハ、昇 漿 液
ニ、びくりん酸溶液
ホ、たんじん酸溶液
ヘ、鹽化金溶液
イ、濃硝酸ヲ行フルニ無色ナリ
ロ、濃硝酸ヲ加ヘ之ニ硝酸一滴ヲ加フルニ無色ナリ
即チ「あほも」ノ存在ヲ徵セズ

十九、前項ノ水溶液ヲ白色小磁皿ニ、三個ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ反應ヲ行フ
イ、濃硝酸ヲ行フルニ無色ナリ
ロ、濃硝酸ヲ加ヘ之ニ硝酸一滴ヲ加フルニ無色ナリ
即チ「あほも」ノ存在ヲ徵セズ

二十、第十八項ニテ分離セル原液ヨリ「えー」ノ濃縮液約三倍量ノ「くるるる」水ヲ加ヘ十分間強ク震盪シ靜置シテ原液ト「くるるる」水トヲ分離シ更ニ新鮮ナル「くるるる」水ヲ加ヘ同様ニ蒸散スルコト二回、前後三回ノ「くるるる」水ヲ加ヘ同様に水浴上ニ蒸散シ褐色中性ニシテ弱苦味ヲ有スル殘渣極メテ少許ヲ得タリ之ヲ温水ニ取り一部ヲ以テ次ノ検査ヲ行フ
イ、まいえろ氏試薬
ロ、しやいぶれる氏試薬
ハ、昇 漿 液
ニ、鹽化金溶液
ホ、單寧酸溶液
ヘ、びくりん酸溶液

二十一、前項ニテ温水ニ浸出セル液少許ヲ白色小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ之ヲ以テ次ノ検査ヲ行フ
イ、ふれえでー氏試薬ヲ加フルニ無色ナリ
ロ、ふーゼまん氏反應陰性ヲ呈ス
即チ「しるひれ」ノ存在ヲ徵セズ

二十二、第二節第三項乃至第二十一項検査ノ結果ニ依レバGノ胃壁ニハ稍多量ノ「すとりきにーれ」ノ附着セルコトハ明ナリ但シ本検査ニ於ケル犯行ノ痕跡検査 十三、中毒各論 すとりきにーれ中毒

十六、前項ノ温水ニ取レル液ヲ小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ検査ヲ行フ
イ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ニシテ之ニ重「くるるる」水ヲ加フルニ淡黄色ナリ
ロ、えろどまん氏試薬ヲ加フルニ淡黄色ナリ
ハ、ふれえでー氏試薬ヲ加フルニ無色ナリ
ニ、まんてりん氏試薬ヲ加フルニ始メ紫色ニシテ後赤色ヲ呈ス
ホ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ
即チ「あにん、あとりびん、ふるちん、へりどにん、ひにん、こかいん、こでいん、にこにん、でるひにん、えめちん、ひおすちあみん、なるこちん、にこちん、ばべりん、ひせちん、びん、びん、びん、せらにん、てばいん、べらとりん」等ノ存在ヲ徵セズ「すとりきにーれ」ノ存在ヲ徵セズ

十七、第十五項ノ化學的反應ニ依レバ「すとりきにーれ」ノ存在ヲ徵標アリト雖本検査物ノ如ク死體現象ノ進行セルモノニハ蛋白質ノ分解産物タル屍毒ノ多ク存在スルアリテ實際「すとりきにーれ」ヲ用ヒザル死體ヨリ往々化學的ニ「すとりきにーれ」類似ノ反應ヲ來スコトアルヲ以テ之ヲ鑑別セン爲メ次ノ生理的試驗ヲ行フ
イ、七〇五蛙ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ注入スルニ五分ニシテ蛙ノ輕キ搖擗ヲ來シコハ周圍ノ刺戟ニヨリテ間代性ニ亢進十分ニシテ死ス
ロ、五〇五ノ蛙ニ可檢液〇・三ヲ腹部ノ皮下ニ注入スルニ三分目ニ特有ナル角弓反張ヲ來ス
ハ、八〇五ノ白鼠ニ可檢液〇・五ヲ背部皮下ニ注入スルニ二分ノ後「すとりきにーれ」ニ特有ナル痙攣ヲ起シテ死亡ス
即チ「すとりきにーれ」ノ存在ヲ確證ス
本検査物ニ於ケル「すとりきにーれ」ハ貯藏液交換ノ爲メ大部分除去セラレ僅ニ一小部分存セルモノナレバ敢テ定量ヲ行ハズ

十八、第十四項ニテ「くるるる」水ヲ加ヘテ蒸散セル原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後「あるるる」性ヲ呈スル迄「あんも」ニ水ヲ加ヘテ「えー」ノ存在ヲ以テ「くるるる」水ヲ加ヘテ蒸散シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「えー」ノ存在ヲ以テ「くるるる」水ヲ加ヘテ蒸散シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「えー」ノ存在ヲ以テ「くるるる」水ヲ加ヘテ蒸散シ原液ニ集メ靜ニ蒸散シテ中性無色ニシテ弱苦味ヲ有スル殘渣物少許ヲ得

イ、第一項ニ記セルGノ病歴ニ就テ見ルモ本章第一及第二節ノ化學的検査ニ依ルモGノ中毒セル主要毒物ハ「すとりきにーれ」ナルヲ以テ第三節ニ於テハ單ニ「あるるる」ノ検査ノミヲ行フコト、セリ

(甲) 一般検査
二、採集セルGノ骨ハ上膊骨二本及肋骨數本合セテ二四五〇瓦アリソノ表面ハ淡黑色ニシテ少許ノ泥土ヲ附着ス之ヲ清拭シテ檢セルニ骨體ト骨端トノ間ニ尙明ニ接合線ヲ認メ得テ上膊骨上端ノ如キハソノ接合比較的ニシテ骨體ト骨端トノ容易ニ脫離スルコトヲ得

(乙) 化學的検査
三、今全部ノ骨ヲ鋸斷シテ薄片ヲ製シ「くるるる」ニ移シ「あるるる」及酒石酸溶液ヲ加ヘテ温浸シ以テ第二節第三項乃至第二十一項ノ如ク處置シ「すとりきにーれ」ノ有無ヲ檢スルニ陰性ナリ
之レ恐ラクハ死後體外ニ滲透シ盡セシニヨルナラン

第三章 Gノ死因決定
一、予ハ化學的検査ニ入ルニ先テソノ必要上第一章ニ於テ已ニGノ病歴解剖所見等ノ大要ヲ述ベ而シテ第二章化學的検査ニ於テ毒物トシテノ内臟百三十五ヨリ〇〇九ノ「すとりきにーれ」錠ニ多量ノ水銀ヲ及胃壁ヨリ「すとりきにーれ」ヲ檢出セリ而シテ此等ノ毒物ハ生理的ニハ體內ニ存在セルモノナルヲ以テ前述G死直前ノ病狀ト併セ考ヘテ死因ニ關シテハ頗ル疑問ヲ挾マザルベカラズ

(甲) 死直前病狀
二、吾人ハ先ヅ以テGノ死ハ疾病ニ起因スルモノナルヤ否ヤヲ決定セザルベカラズ一件記録ニ徵スルニ
大正〇年二月二十七日付醫師「聽取書中」
問、KHノ先妻〇〇ノ姉G死亡ノ際ニモ診察シタル趣左様ナリヤ
答、左様ナリ
問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

問、其當時ノ模様ハ如何ナリシヤ
答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記憶ハナキガ大正三

年十月末ナリシト思フ頸部ニ「れ」ヲ生ジタリト診察ヲ求メ...

八、問、KHノ先妻Gヲ診察セシ時ノ顔末如何...

大正三年十一月初頃喉痛痛ムニ依リ見テ吳レト云フテGガ自分...

十、問、答、保險醫ガ一度來リ診察セシ由ニテKHハ保險醫ガ流...

十一、問、Gニ就テ「れ」ノ中毒ノ疑ハナカリシヤ...

大正六年五月十六日第三回公判始末書中證人Y訊問調査中...

問、是迄見テ居タルニ此ノ如キ急變ハ在ル等ナリト思ヒタル様ノコ...

答、ソレハナカリシヤ

問、左様ノ二三日頃頃ニ死ノ結果ヲ來タス可キコトヲ認メタルヤ...

答、左様ニテ死亡ノ二三日頃頃ニ於テ最早四五日位ヨリ持テモノト...

見込ミタルガ同ハ散毒性ノ弱毒ニテ急變ヲ來タシ死亡シタルモ...

ノト考ヘタリ

問、何故左様ニ考ヘタルヤ

答、一月一日ニ同人ガ川邊ニ倒レタル時ヨリ左頸部ニ腫起物ガ生ジ...

タリ私ハ之ハ散毒性弱毒ニ因ルモノト思ヒタルガ其時ヨリ餘程弱...

リ居リ死亡ノ二三日頃頃ニ診察シタルトキハ漸次虚脱スル様ノ現...

ハレ居リシ故ナリト云フ...

三、要之Gハ大正三年十月末頃頸部淋巴腺ノ腫脹ヲ示シタル爲メ...

治療ヲ受ケテ後同十一月十日頃頃突然自宅前川邊ニ於テ卒倒シ...

神識トナリ三十九度餘ノ熱發アリシモ治療ニ依リテ漸々解熱シ...

居リタル所同十五日頃頃ヨリ熱度ノ痙攣ヲ來シ同月二十一日ニ至...

リ強度ノ痙攣ヲ發シ終ニ死亡セルモノナリト云フニアリ...

單ニ此等ノ所見ノミヲ以テGノ死因ヲ散毒性弱毒ニ歸セリ...

四、然ルニY醫師ノ述ブル簡單ナル二、三ノ症狀ヲ以テGノ疾病ヲ...

散毒性弱毒ト決定スルハ甚ダ早計タルヲ免レズ何トナレバ急性ノ...

熱發痙攣等ハ該弱毒ノ症狀ニアラザレバナリ今日ヨリ見レバ...

之等ノ陳述ノミニ依リテハ單ニGガ成種ノ疾病ニ罹リタルコトヲ...

推知シ得ルノミニシテ何病ナリシカハ之ヲ知ルコト能ハズ從テ...

ノ死因トナリ得ル程ノモノナリシヤ否ヤモ全ク不明ナリ

五、按ニ於テ吾人ハ大正五年三月四日WS醫師ガGノ死體ヲ剖檢シ...

タル記録ヲ參考シ死因決定ニ向ツテ一步ヲ進メザルベカラズ大正...

五年四月十五日付同醫師ノ提出セル鑑定書ヲ見ルニ...

前略

(一)女性屍全身ノ表面殆ンド屍脹化シ身長體重等ヲ知ルコト能ハズ...

(二)頭部、顔面、頸部、胸部、腹部、背部、左右上下肢、外...

陰部、肛門等ニ損傷異常存在セザルモノ、如キモ表面ノ皮膚屍脹...

化セルヲ以テ精細ノコトヲ檢スルコト能ハズ

(三)頭蓋腔内ハ概ニ腐敗軟化ニ陥リ検査ノ目的ヲ達シ得ラザルベ...

キニ依リ開檢ヲ行ハズ

(四)胸、腹部ノ正中ヲ法ノ如ク縱斷シ次ニ胸腔ヲ檢スルニ左右肋膜...

ニ異常ヲ認メズ

(五)心内異常ヲ認メズ

(六)心臓大ヤ約本屍ノ手拳大ニシテ瓣膜及房室間孔等ニ異常ナク房...

ノ大人ニ對スル致死量〇・〇三乃至〇・〇四ヲ數倍ニ相當スルシ...

テ該毒ガ死後體内ニ滲入シタルモノニアラザルコトハ骨ニソノ痕...

跡ヲ見出ス能ハザルヲ以テ「れ」ノ證左トス

八、「すとりきに「れ」」ノ大人ニ對スル致死量ノ少クトモ數倍ヲ攝取...

セルGガ間代性痙攣ヲ起シテ短時間ニ死亡セルトセバGノ死因...

ガ「すとりきに「れ」」ノ中毒死ナルコトハ殆ンド疑フノ餘地ナシ此...

ノ如クナルヲ以テ「すとりきに「れ」」ノ攝取當時Gガ病身ナリシニセ...

ヨ「Y醫師曰ク弱毒ノ彼女ノ直接死因ト該病トハ直接ナル關係ナ...

キモノナルベシ

九、尙Gガ「すとりきに「れ」」中死死ナルコトWS醫師ガ胃内容中ヨ...

リ相當量ノ同劑ヲ檢出セシコト及胃壁等ニ特記スベキ變狀ナカリ...

シコトモ亦ソノ證左トスベシ

十、予ガ検査セルGノ死體ノ如ク腐敗進行セルモノニ在リテハ假令...

(「すとりきに「れ」」)標物多量ヲ檢出シ得タリトモ之ニ類似セル「ア...

ト「メイン」トハ充分ナル注意ヲ以テ鑑別セザルベカラズ予ガGノ...

内臓及胃ヨリ檢出セル「すとりきに「れ」」ハ明ニ針狀ノ結晶ヲ作り...

(第二章第一節第十五十六十七項參照)又動物ニ對シテ常ニ特有ナ...

ル痙攣ヲ來セシヲ以テ「アトメイン」(屍毒)ニアラザルコトハ明白...

ナリ屍毒ハ多ク結晶ヲ作ルコトナク又「すとりきに「れ」」ノ如ク特...

有ナル痙攣ヲ起スコトナシ

第二章 KH後妻Rニ關スル記録(全部略ス)

第一章 病歴、死後ノ經過並解剖所見

第二章 化學的検査

第一節 肝臓検査「すとりきに「れ」」陽性

第二節 腸及肝臓検査 同右

第三節 腸及ソノ附著物検査「すとりきに「れ」」陰性

第四節 骨質検査 同右

第五節 筋肉検査 同右

第六節 胃壁検査「すとりきに「れ」」陽性

第三章 死因決定

第一及第二編ニ於ケル検査ノ結果及説明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ...

如ク鑑定ス

室内ニ血液存在セズ

(七)左右肺臟著シク萎縮シテ詳細ヲ檢スルコト能ハズ

(八)喉頭全骨ニ異常ヲ認メズ

(九)脾臟、腎臟、肝臟、子宮等死後ノ變化ヲ來シ詳細ニ檢ス...

ルコト能ハズ

(十)胃、噴門及幽門部ニ於テ堅ク結聚ヲ行ヒ其結聚ノ近傍ニ於テ切...

除シ清澄ナル硝子壺ニ採集シ置ケリ

(十一)小腸内ニハ汚穢草綠色ノ軟便存シ他ニ異常ヲ認メズ

(十二)大腸内ニハ汚穢草綠色ノ軟便存シ他ニ異常ヲ認メズ

中略

前記解剖検査記録(十)ニ採集シ置ケタル胃壁ヲ開檢スルニ汚穢赤...

褐色ノ流動性内容約百三十五存在ス依リテ右流動性内容物約七十...

瓦ヲ取り毒物「すとりきに「れ」」ノ存在スルヤ否ヤヲ検査...

後略

トアリテ腐敗ノ進行甚シキ爲メ注目スベキ記載ナク予等ノ剖檢所...

見ニ於テハ特ニ然リ又極メテ必要ナル胃壁ノ性質ニ付テモWSノ...

鑑定書ニハ何等ノ記述ナケレドモ貯藏後予ニ交附セラレタル胃壁...

ヲ精檢スルニ内外面共全部蒼白ニシテ特ニ濃色ノ部ナクソノ内面...

ニハ粘膜ノ缺損剝脫異物ノ附著ヲ見ズ(第二章第二項參照)即チ是...

等解剖所見ニ依リテモGガ死因ニ對シ何等ノ據リ所ヲ得ル能ハズ

六、最後ニ吾人ハ最早化學的検査ノ成績ニ依リテGガ死因ヲ決定セ...

ザルベカラズ然リ而シテ予ガ毒物トシテGノ内臓ヨリ證明セル水...

銀ハ醫師(第三章第二項參照)ガ治療ニ用ヒタル水銀劑ヨリ由來セ...

ルモノナルベキハソノ死直前少シモ水銀中毒ノ症狀ナキヲ以テソ...

ノ證左トス即チGノ死因ト水銀劑トハ何等關係ナキモノナリ

七、次ニ予ガ檢出シタル「すとりきに「れ」」ハ腐敗セル内臓百三十五...

中ニ〇・〇九五アリタリ夫レ毒物ガ身體内ニ輸入セルハ、ヤ多...

クハ間モナク血行中ニ入りテ全身ニ分布スルモノニシテ又人類ノ...

臟器ガ腐敗シ或ハ水中等ニ置カル、時ハ毒物ハ外界ニ滲透シテソ...

ノ量遞減スルモノナレバモシ當人ガGノ死直後ニ毒物検査ヲ行ヒ...

且全身ニ分布スル「すとりきに「れ」」全部ヲ捕集スルコトヲ得バ...

〇・〇〇九五ノ十數倍ヲ得タル「事明カナリコトハ「すとりきに「れ」」...

一、KHノ先妻G及後妻Rノ直接死因ハ「すとりきにーれ」中毒ニ在リ
此鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手
同年〇月〇日終了

大正〇年〇月〇日
京都市外田中村大溝二十一番地
鑑定人 醫師 小南又一郎

以上神經毒及心臟毒トシテ、甚ダ屢遭遇スルモノニ就テ述ベタルガ、之ヨリ以下ノ毒物ハ、法醫學的事
件トシテ遭遇スルコト甚ダ稀有ナルモノナレバ、單ニソノ名稱ト大要トニ就テ述ベシ。

七、あとりびね中毒 Atropine, Iatropine, atropin.

莨菪ノ實、根或ハ葉ヲ食スルカ、或ハあとりびん溶液ヲ誤用スルニヨリテ中毒ヲ來ス、他殺ノ目的ニ本
劑ヲ用ユルハ甚ダ稀有ナリ。

致死量、大人ニ對シ〇・〇七乃至〇・〇八瓦ナリト云フ。

症狀、内用後二、三分ニシテ口腔咽頭ノ乾燥、嚔下、發語ノ困難、聲音嘶啞、顔面潮紅、瞳孔散大、筋
肉震顫、體溫下降、觸覺減少、呼吸及脈搏緩徐、頭痛、眩暈及痙攣等ヲ發シ、次デ括約筋ノ麻痺ヲ來シ、
呼吸及脈搏頻數トナリ、全身麻痺ニ依リテ斃ル、剖檢所見ニハ特徴ナシ。

化學的證明、あるかり性母液ヨリ、えーてる或ハくろゝほるむニ移行シ、あとりびんノ溶液ハ沃度カリ
溶液ニテ沈澱ヲ生ジ、發煙硝酸ヲ加ヘテ蒸散シ、あるこほる性カリ滲汁ニテ濕セバ櫻赤色トナリ、あるこ
ほる性昇汞溶液ヲ加フレバ、先ヅ黄色トナリ次ニ瓦赤色トナル。

八、ていぎたりん、ていきたれいん及ていぎときしん中毒 Digitaline, Digitalin, Digitoxin.

本劑ハ甚ダ多ク醫藥ニ用ヒラル、故、ソノ錯誤ニヨリテ往々中毒ヲ來シ、或ハ之ヲ栽培スル地方ニテハ、

ていぎたりん
等中毒

ていぎたりん葉ヲ喰ヒテ中毒スルコトアリ。中毒ノ輕症ナルモノハ、往々醫師ノ遭遇スル所ナレドモ、本
劑ヲ用ヒテ自他殺ヲ企ツルモノハ甚ダ稀ナリ。

致死量、ていぎたりんノ產地、ソノ收穫ノ時期、或ハ製劑ノ種類新古等ニヨリテソノ作用程度種々ナレ
バ從テ致死量亦一定セズ。

作用、接觸セル局部ヲ輕ク刺戟シ、吸收サレテ後迷走神經中樞、心臟經神ヲ犯シ、遂ニ心臟ヲ麻痺セシ
ム。

症狀、本劑ヲ内用スレバ嘔氣、嘔吐、胃部ノ疼痛、腹痛、下痢、心氣亢進ヲ來シ、次デ脈搏ハ非常ニ硬
ク且ツ不正、遅徐、後ニハ速トナリ、頭痛、眩暈、耳鳴、視野暗黒、尿閉等ヲ招來シ、遂ニ心臟休止ニ依
リ斃ル。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ナシ、但シ輕キ胃腸かたゝるヲ見ルコトアリ。

化學的證明、ていぎたりん等ノ少量ハ、不變ニ尿ニ排出サル、ト雖モ、ソノ發明ハ困難ニシテ、寧ロ胃
腸内容ヨリ、ていぎたりん葉片ヲ證明シタル時ハ鑑定確實ナリ。化學的ニハ可檢物ヲどらげんどのる法ニ
テ所置スベシ、本劑ハいそぶちるあるこほるニテ振盪スルコトヲ得ト云フ報告アレドモ、ソノ成功ハ甚ダ
困難ナリ。

九、にこちん中毒 Nicotine, Nicotinic, Nikotin.

煙草ノ濫用、或ハ灌腸劑トシテ、本劑含有品ヲ應用スルコト等ニヨリテにこちん中毒ヲ來シ、ソノ他ノ
原因ニヨリ來ル中毒ハ甚ダ稀有ナリ。

にこちん中毒

作用、接觸セル局所ヲ犯シ、あとりびねニヨリ侵サル、臟器ヲ神經側ヨリ先ヅ刺戟シ、次デ麻痺セシム。又神經中樞ニモ同様ニ作用シ、終ニ呼吸中樞ノ麻痺ニ依リテ斃ル。

本劑多量ヲ内用スレバ、先ヅ口内熱灼ノ感、垂涎、嘔氣、吐瀉ヲ來シ、次デ脈搏緩徐不正トナリ、發汗、瞳孔縮少、眩暈、人事不正、呼吸困難、痙攣等ヲ招來シ、慢性中毒ノ際ニハ咽頭、喉頭又をいたさき氏管ニ於ケルかたゝる、心機昂進、視力減弱、眩暈、胃痛、動脈硬化等ヲ來シ、時トシテ精神異常ヲ惹起スルコトアリ。

剖檢所見、屍體及内臟ニ煙草臭アリ、咽頭、胃腸ニかたゝる性變化ヲ見、心臟弛緩シ、硬、軟腦膜充血ス、要之、にこちん中毒ニ特有ナル解剖所見ナシ。

致死量、純にこちんニテハ〇・〇六瓦ニシテ、煙草葉ニテハソノ量ヲ確定スルコト能ハズ。

化學的證明、にこちんハあんもにお性溶液ヨリ、石油えーてるニテ振盪抽出スルコトヲ得、或ハあるかり性溶液ヨリ蒸溜スルヲ得。にこちんノえーてる溶液ニ沃度ヲ加フレバ、るびん紅色ノ結晶ヲ生ジ、くろゝる瓦斯ニ觸レシメバ血赤色トナル、尙植物學的ニ胃内容等ヨリ煙草葉片ヲ檢出スレバ、ソノ鑑定確實トナル。

十、あこにつと中毒 Aconitine, Aconitine, Akonitin,

あこにちんハ雙蘭菊ノ根花中ニ含有スル有毒成分ニシテ、往々自殺又ハ他殺ノ目的ニ用ヒラレ、又藥用上ノ過失ニ依リ中毒ヲ來スコトアリ。我國ニテ烏頭、とりかぶと、またかぶと、かぶとばな、ふすいも、はなづる、たりこさす、わたりざくと俗稱スルモノ、中毒ハコノあこにつと中毒ナリ。

作用、接觸セル局所ヲ犯シ、次デ先ヅ中樞神經、并ニ心臟神經ヲ刺戟シ、然ル後麻痺セシメ、尙瞳孔擴大中樞ヲ刺戟ス。

致死量、一・二瓦ナリ。

症狀、胃部ニ劇シキ刺スガ如キ痛ヲ覺エ、嚥下困難、流涎、嘔吐、舌麻痺ノ感、知覺異常、頭部壓重、三又神經痛アリ、脈搏幽微ニシテ不正トナリ、呼吸緩徐、眩暈、痙攣、四肢厥冷、胸内苦悶、筋力ノ衰弱等ヲ來シ、遂ニ呼吸及心動停止ニ依リ、痙攣ヲ伴ヒテ死ス。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル剖檢所見ハナシ、往々胃腸粘膜或ハ漿膜ニ腫脹或ハ溢血點アリ、尿ニハ不變ナルあこにつとヲ出シ、肝腎血液等ニ之ヲ蓄積ス。

化學的證明、あこにつとハ甚ダ分解シ易キ毒物ナレバ、臟器ヨリ抽出檢査スルコトハ殆ド不可能ナリ、コハあるかり性母液ヨリ、くろゝほるむニ移行スレドモ、本品ヲ確實ニ證明スベキ呈色反應ハ尙未ダ發見セラレズ。

十一、綿馬えつきす中毒 Filix maris, —, —

綿馬えつきすハ驅蟲劑トシテ用ヒラレ、往々中毒ヲ來スコトアリ、重症ニ於テハ胃腸炎乃至神識障害及痙攣ヲ發シ、昏睡ヲ以テ斃ル、輕症ニテハ頭痛、眩暈、視力障害、并ニ神識障害及痙攣等ヲ發ス。

十二、商陸中毒

商陸ハ民間ニ山午勞ト稱ヘ、水腫或ハ微毒ニ效アリトナシテ内用シ、往々中毒スルコトアリ、其症狀ハ急劇ノ嘔吐、腹痛、下痢ヲ發シ、便ハ水様ニシテ四肢厥冷シ、脈搏幽微細小、顔面紫藍色トナリ、遂ニ心

あこにつと中毒

烏頭中毒

綿馬えつきす中毒

商陸中毒

臟麻痺ニ依リテ死亡ス。

十四、さんとにん中毒

Santonine, —, Santonin

さんとにん中毒

さんとにんハちな花ノ有毒成分ニシテ、水ニ溶解シ難キヲ以テ、胃腸内ニ於ケル吸收モ從テ遅ク、排泄モ亦遅ク、ソノ致死量ハ不明ナリ、本劑ハ驅蟲劑トシテ用ユル爲メ、醫療上ノ錯誤ニ依リ中毒ヲ來スコト多シ。

症狀、本劑多量ヲ攝取スレバ、數時間ニシテ始メテ眩暈、頭痛、不安震顫、呼吸困難及顔面筋ノ搐搦等ヲ來シ、次デ癲癇様痙攣ヲ發作ス、而シテ明所ハ黃色ニ、暗所ハ淡紫色ニ見エ、皮膚ニハ蕁麻疹ヲ生ジ、顔面ニハ水腫ヲ發シ、尿意頻數、尿閉、膀胱痙攣、黃疸、へもぐろびん尿ヲ起シ死ニ至ル、ソノ死因ハ多クハ痙攣發作ノ際ニ於ケル窒息、若クハ反復スル痙攣ニ依ル虚脱ナリ。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ハナシ、但シ本中毒死ニテハ腦ニ於ケル充血、溢血斑、黃疸等ヲ見、尿ニカリ滲汁ヲ加フレバ赤色ヲ呈ス。

化學的證明、さんとにんハ酸性母液ヨリ、えーてる或ハくろ、ほるむニテ振盪抽出シ、其抽出物ヲ六六六ノ硫酸ト共ニ熱シ、次デ鹽化鐵液ヲ加フレバ赤色トナリ、漸時ニシテ紫色ニ移行ス、靑酸カリト共ニ融解スレバ赤色ヲ呈シ、透視スレバ綠色ノ螢光ヲ發ス、さんとにんハ臟器内ニ於テ變化シテ、證明困難トナルコト多シ。

十四、急性にかいん中毒

Cocaine, —, Kokaïn.

急性にかいん中毒

にかいんハこ葉ノ有效成分ニシテ、醫藥ノ誤用ニ依リ中毒スルコトアリ、或ハ嗜好品トシテ濫用シ、

中毒ヲ來ス、自殺或ハ他殺ニ用ヒラル、コトハ甚ダ稀ナリ。

致死量ハ個人的關係ニヨリテ大差アリ、通常ハ大人ニ對シ一〇瓦ナリト云フ。

作用、先ヅ中樞并末梢神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、即チ知覺神經鈍麻シ、心臟ニ於ケル迷走神經ヲ麻痺セシメ、瞳孔ヲ廣大シ、慢性中毒者ニ在リテハ精神的異常ヲ來スコトアリ。

症狀、本中毒ニ於テハ、先ヅ咽頭ニ於ケル乾燥及熱灼ノ感、嚥下困難、嘔氣、嘔吐等ヲ來シ、次デ腹痛、脈搏頻數、心機昂進、瞳孔擴大、呼吸困難等ヲ見、又精神的ニハ爽快ノ感アリ、酩酊狀トナリ、次デ抑壓狀ヲ呈シ、胸内苦悶、不安、ちやのーせ、虚脱、視力減弱、知覺異常、搐搦痙攣、麻痺等相次デ來ル、慢性中毒者ハ非常ニもるひね中毒ニ類似シ、體力及精神的能力ノ減弱ヲ訴フ。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ナシ、但シ本中毒屍ニハ腦、肝、脾、腎等ニ於ケル充血、瞳孔擴大ヲ見、尿ニハ不變ニにかいんノ排出セラル、ヲ認ム。

化學的證明、にかいんハあるかり性母液ヨリ、えーてるヲ以テ振盪抽出スルコトヲ得、此抽出物ヲ精製シ、硝酸ヲ以テ水溶上ニ乾燥セシメ、更ニあるあるこほる性カリ滲汁ト共ニ加温スレバ紫色トナル、ソノ他ニハ著明ナル呈色反應ナシ、但シ此抽出液ヲ舌上ニ試ミ、知覺鈍麻ノ感アレバ略こかいんナリト推定スルコトヲ得。

十五、毒うつぎ中毒

Coriaria Japonica A. Gr.

毒うつぎ中毒

本品ハ又いぢろべころし、ねすみころし、うまをどろかし、みそやかす、河原うつぎ、をにうつぎ、いぼのき等ノ名アリ、本邦ニ於ケル植物性中毒中、本中毒ハ最多クシテ小兒ニ於テ食用上ノ錯誤ニ依リテ

毒うつぎ中毒

中毒スルヲ見ル、即チ毒うつぎノ果實ガ成熟シテ紅色ヲ呈スル七月ノ交ニ於テ、中毒者甚ダ多數ナリ。此果實中ニハこりあみるちんと稱スル猛毒ヲ含有スト云フ。

症狀、少量ヲ食シタル場合ニハ、食後一、二時間内外ニシテ腹痛ヲ起シ、下痢、嘔吐アルノミニシテ、治スルモ、稍多量ヲ攝取スレバ口唇ちやのーせヲ呈シ、不安苦悶、失神ヲ來シ、次デ腹痛、嘔吐、下痢、間歇性痙攣、呼吸促進、四肢厥冷、發汗、牙關緊急、全身搐搦、心機亢進、發音障礙、嗜好、人事不省等ヲ來シ、遂ニ死ス。致死量ハ四、五粒以上ニシテ剖檢所見等未詳ナリ。

十六、まんだらげ中毒 *Datura alba Nees.*

まんだらげ中毒
まんだらげ中
毒
き
ち
か
ひ
な
す
び

食用上或ハ醫療上ノ錯誤ニ依リテ本品ノ中毒ヲ來ス、本品ハ俗ニきちがひ茄子或ハてうせんあさがほと稱シ、果實ハ直径一寸許ニシテ其形茄子ニ似タリ、種子ハ扁平ニシテ黒褐色ヲ呈シ西洋胡麻ト稱セラル、ひをすちあみん及あとりびんヲ含有ス。

症狀、本品ヲ内用スレバ、數分ニシテ早ク四肢ノ自由ヲ失ヒ、起立スルコト能ハズ、脈搏急速、嘔吐、發音障礙、顔面潮紅、皮下靜脈怒張、觸覺過敏、四肢厥冷、熱發、呼吸困難、四肢麻痺、痙攣ヲ來シ、次デ腹痛、嘔氣、頭痛、眩暈、煩喝、嚔下困難、視力及聽力減弱等アリ、服毒後數時間乃至十數時間ニシテ人事不省トナリ、讒語ヲ發シ、無意味ニ怒リ、或ハ笑ヒ、手指ノ異常運動アリ、瞳孔散大シテ光線ヲ忌ミ往々ニシテ錯覺ヲ來ス、然レドモ豫後ハ多ク良好ニシテ死スルモノ少ク、致死量ハ全ク不明ナリ。

十七、しきみ中毒 *Hilicium Anisatum L.*

本品ハ又しきび、はなのき、はなしば、ここのき等ト云ヒ、枝葉根皮花實共ニ有毒ニシテ、種子ノ内ニ

しきみ中毒

ハしきみんと稱スル結晶性ノ毒物ヲ含ム、食用上及醫療上ノ錯誤ニ依リ、往々本品ノ中毒ヲ來ス。

症狀、激烈ナル腹痛、嘔吐、瞳孔縮小、四肢厥冷、ちやのーせ、顔面蒼白、發作性ノ痙攣、次デ全身ノ麻痺、人事不正ニ陥リ、輕症ナルモノハ數日内ニ治癒スルモ、中毒者ノ約半數ハ死亡ス、致死量ハ大人ニ對シ種子四、五十粒以上ナルベキモ未定ニシテ、剖檢所見亦詳ナラズ、本品ノ有毒成分ハ人體内ニ入りテ後ハ直ニ變化サル、ガ如ク、ソノ證明不能ナルモ、植物學的ニ未消化ノ細片ヲ檢出スルコトヲ得バ、ソノ中毒ナルヲ鑑定スルコトヲ得。

上記ノ如ク毒うつぎ、まんだらげ、しきみ等特ニ我國ニ於テ見ラル、草木類ニ依ル中毒ニ就テ略述シタレバ、最近予等ノ統計ニ依レル此等各中毒ノ出現頻度ヲ表示スレバ左ノ如シ。

有毒植物ニ依レル中毒者三百九十五人中

毒うつぎ中毒	百七十七例	まんだらげ中毒	四十七例
蘇鐵粥中毒	三十例	蓬ニ似タル不詳草中毒	二十一例
しきみ中毒	十八例	うづ中毒	十五例
馬鈴薯中毒	十一例	商陸中毒	九例
麻中毒	七例	天南星中毒	七例
蛇毒中毒	六例	以下略之	

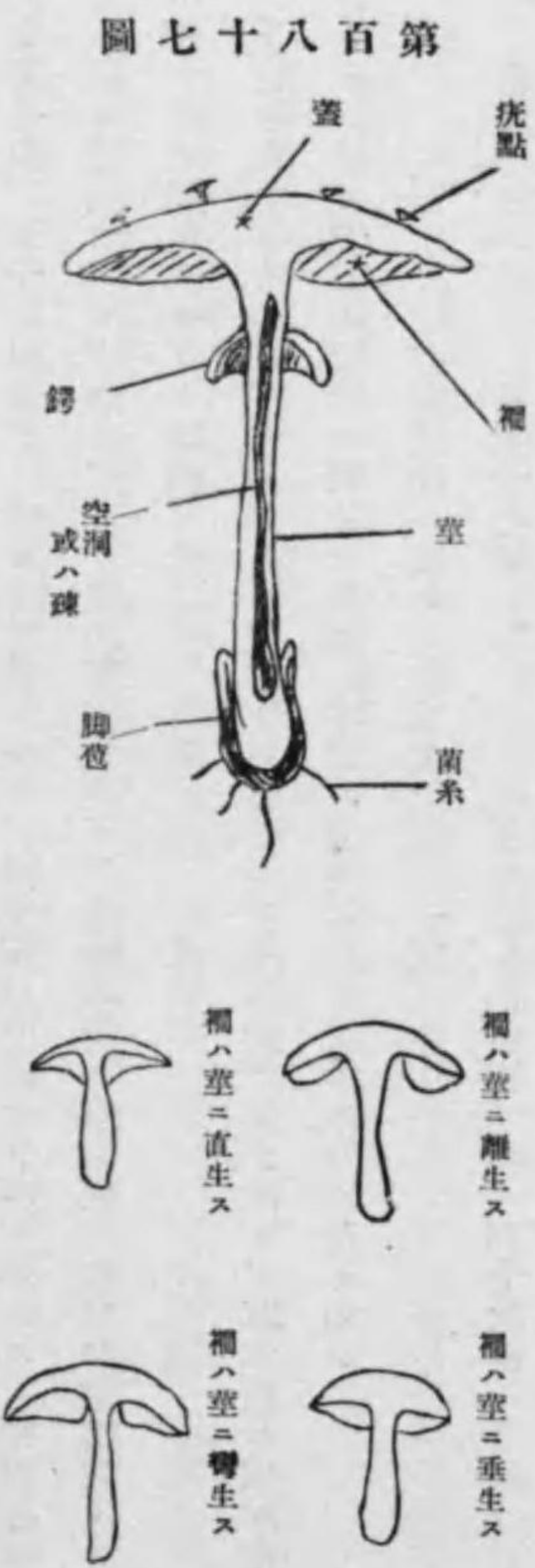
戊、菌蕈類中毒

Fungus-poisoning, Empoisonnement
par les champignons, Pilzvergiftung.

菌蕈類中毒

多クハ毒菌ヲ食用菌ト誤認シテ食スルニ依リ中毒ヲ來ス、我國ニ於ケル菌類中毒統計ヲ見ルニ、西川氏ニヨレバ、大正四年ヨリ大正七年ニ至ル四年間ニ、故意中毒八、誤用中毒四六七八人アリテ、内五十七人ハ死亡セリト云フ、高田氏及子ノ蒐集セル統計ニヨレバ、菌類中毒者三百四十五名中、月夜茸中毒者五十五名、一本占地中毒者十六名、さ、茸中毒者十三名、天狗茸中毒者十六名、軸大占地中毒者八名、千本占地中毒者七名等アリキ。

以下菌類中毒ノ記載ニ付テハ、西川博士、(日新醫學第九年五、六號)ニ依ル所多シ、今同氏ニ從ヒ菌類ノ性状記述ニ必要ナル、菌各部ノ名稱ヲ圖示セバ左ノ如シ。



菌類ヲ以テ自殺或ハ他殺スルコトハ稀有ナリ。多クハ食用菌ト誤用シテ中毒シ、或ハ民間治療劑トシテ用ヒ中毒ヲ來スコトアリ、其毒成分ハむすかりん、ふありん、ひよりん及あとりびん等ナルガ、是等ハ化學的ニ檢出スルコト困難ナル毒物ナルガ上ニ、菌類中毒ノ際ニハ特有ナル剖檢所見少キヲ以テ、未消

化ノ菌片ヲ吐物或ハ胃腸内容ヨリ檢出スルコトハ、菌中毒診斷上最モ緊要ナルコトナルガ、幸ニモ菌類ハ消化不良ノモノ多キヲ以テ、此目的ヲ達スルニハ好都合ナリ。

今菌類中毒ノ大要ヲ示セバ概ネ左ノ如シ。

一、五子天狗茸中毒 (Death-cup fungus, Orange signe, Knollen Wulstling. Amanita phalloides Bull.)

蓋ノ形初メハ球狀ニシテ鶏卵ノ如クナレバ此名アリ、蓋ハ後チ漸次展開スルモ上ニ反リ返ルコト少ク、直徑三乃至八種、表面ハ白色ニテ濕ヘル時ハ粘滑ナルガ、乾燥セバ平滑ニシテ光澤アリ、肉及褶ハ純白、莖ハ長ク六乃至十五種ニ達シ、白色ニシテ内部空虚ナレドモ、初期ニハ軟ナル菌絲ヲ充シ、中央ニ弛緩下垂セル鏢アリ、下端膨大シテ壺トナル、夏日山野陰濕ノ地ニ生ジ、胞子ハ白色球狀ナリ。本品ハ原茸、玉子茸或ハがん茸等ト誤認シテ中毒スルコトアリ、而シテソノ毒分ハふありんと稱スルモノニシテ、血球ヲ溶解スル毒作用アリ。中毒症狀ハ本菌攝取後通常約十時間内外ニシテ顯ハル、モ、稀ニハ二、三時間ニテ發症スルモノモアリ、主トシテ中毒性胃腸炎ヲ來シ、心窩苦悶、胃痛腹鳴、煩嘔吐、下痢、腓腸筋痙攣等ヲ起シ、其狀恰モこれら病症ニ酷似スルコトアリ、又時トシテ中枢神經性症狀ヲ見、意識瀰濁強直、痙攣顔面搐搦斜視、間代性痙攣、嚔下困難、麻痺及虛脱等ヲ來シ、短時間内ニ死亡ス、通常ハ中毒後二、三日ニテ死亡スルヲ普通トス。解剖所見ハ磷或ハ砒素中毒ノ所見ニ類似シ、肝、腎心筋等ニ於ケル脂肪變性、肋膜下及肺實質内點狀出血及胃腸壁ニ於ケル毛細管出血等ヲ見ル。

二、紅天狗茸中毒

(Fly-fungus, Fly-amanita, Fausse orange. Phlegenzpilz, Amanita muscaria L.)

又ノ名赤蠅取茸、又ハ足高紅茸ト云ヒ、蓋ノ徑四五寸、形扁平、表皮紅色ニシテ初メ小ナル白砂様多數

ノ疣點附着スルモ、後ニハ消失スルコトアリ、ソノ赤色ハ日ヲ經ルニ從ヒ褪色スルモ、特ニ中央部ハ鮮紅ナリ、肉及襷ハ白色、莖ハ長クシテ八乃至二十五種ニ達シ、白色ニシテ内部ハ初メ蜘蛛狀ナルモ、後ニ空虚トナル、莖ノ中央ニ下垂セル白色ノ皮膜樣鋸ヲ有ス、多クハ秋季高山地帯ニ生ジ、胞子ハ白色短楕圓ナリ。

本品ハ往々玉子茸ト誤用シテ中毒シ、有毒成分トシテハ、むすかりん及ビヒよりんナリトセラレ、而シテ本菌ノ約六分ノ一ハ十歳ノ小兒ヲ倒スニ足り、ソノ二個ハ大人ヲ重症ニ陥ラシメ、四個ハ大人ニ對スル致死量ナリト云フ。

中毒症狀ハ食後短時間内ニ發來シ、胃腸ノ症狀ハ比較的少クシテ、重ニ中樞神經系ノ症狀ヲ來シ、屢酪酩發揚狀態トナリ、恰モ泥醉者ノ如ク昏朦、幻覺、譫語、躁狂性發作、四肢ノ震顫顔面筋ノ搐搦、輕度ノ痙攣等ヲ來シ、遂ニハ冷汗、ちやのーせ呼吸困難體溫下降等ヲ招來シ、攝取後十時間乃至三日ニシテ死ニ至ル、解剖所見トシテハ胃腸加答兒、肺水腫、内臓ノ脂肪變性及出血等ナリトス。

三、天狗茸中毒

Gollmelle Fausse, Orange dartreuse
Krotenschwamm, Amanita pantherina D. C.)

一名蠅取茸、豹茸、蠅とまらず、蠅取占地或ハ蠅殺シト云ヒ、蓋ノ徑三乃至五寸、形狀ハ前記紅天狗茸ト同様ナルモ、唯ソノ表面茶褐色ナルヲ異トシ、小ナル白色疣點ヲ散布シ、斑紋ヲ有スルヲ以テ豹茸ナル別名ヲ有ス、襷ハ白色ニシテ幅廣ク、遊離端ハ莖ノ近傍ニテ上方ニ灣曲シ莖ニ直生セズ、莖ハ長ク四五寸ニシテ白色中實ナルヲ常トス、九、十月頃人里近キ林野、路傍ノ陰地等ニ生ズ。

本菌ハ蠅ニ固有ノ毒性ヲ有シ、蠅此液ヲ吸吸スル時ハ直ニ死ニ至ルガ故ニ又蠅取茸トモ云フ、其味及臭

氣ニ特有ナル點點ナキヲ以テ、秋季松茸玉子等ト誤用シテ中毒スルコト稀ナラズ。

本菌ノ有毒成分ハむすかりんニシテ、尙内ニあとりびんヲ含有スト稱スルモノアリ、攝取後凡ソ二、三時間ニシテ渴、惡心、眩暈、幻覺、嗜眠、譫語及散瞳等ヲ來スモ、本邦産ノモノニハ時トシテ胃腸ノ症狀、主トシテ顯出シ、錯覺、躁狂、意識濁濁等ヲ伴フコトアリト云フ、輕症ナル時ハ三日計ニシテ全治スルモ重症ナル時ハ中毒後數日ニシテ手足厥冷シ、視力朦朧トナリ、遂ニハ呼吸又心臟麻痺ニヨリ斃ル。

致死量ハ不明ニシテ、剖檢的ニハ重ニ急性胃腸炎ノ所見アリ、法醫學的ニハ吐物或ハ胃腸ノ内容ヨリ、未消化ノ莖斤ヲ檢出シテ、植物學的ニ之ヲ攻究シソノ鑑定ヲナスベシ。

四、一本占地中毒

Entoloma sinuata. Fr.

蓋ノ大サ徑三、四寸淡灰色乃至淡黄色ニシテ、其表面平滑光澤アリ、襷ハ初メハ白色ナルモ胞子成熟後ハ淡紅色、莖ニ接スル部分ハ上方ニ彎曲シ、莖ニ接觸セズ、莖ノ長ハ平均三―五寸徑一寸、内外ニシテ白色、太クシテ且長シ、鋸ヲ有セズ九、十月頃山中ニ生ズ。

本菌ハ占地、杖つき茸、椴茸等ト誤用シテ中毒ス、ソノ症狀ハ天狗茸ニ酷似セリト云フ。

五、毒杉茸中毒

Inocybe rimosa Bull (Kriesspilz)

一名汗茸トモ云フ、蓋ノ大サ凡ソ一寸、圓錐形ヲナシ、表面茶褐色ニシテ光澤アリ、且絹糸狀ノ纖維ヲ被リ、往々ニシテ裂ケ白色ノ肉ヲ露ハセリ、襷ハ稍彎生シ、初メ白色ナルモ後ニ黄褐色トナル、莖ハ長ク一寸五分乃至二寸、白色纖維質ニシテ穴洞ナシ、九、十月頃樅或ハ檜等ノ樹下蘚台ノ生ゼル土上ニ生ジ、胞子ハ茶褐色ニシテ楕圓ナリ。

本菌ニハ不快ナル臭氣アルヲ以テ、誤用スルコトハ甚ダ少シト雖、赤蠅捕茸及蠅取茸ニ比シ、大量ノむすかりんヲ含有スレバ、ソノ中毒症候ハむすかりんノ中毒ニ一致シ、通常消化管ニ異狀ナク、高度ノ發汗、唾液、氣管枝液等ノ分泌亢進シ、縮瞳症、徐脈及腸蠕動亢進等ノ諸徴アリ。

六、色變り中毒

Boletus luridus(Schäfer), *Faux cepes*
Oignon des loups.

又ノ名あはたけ、あみたけ、あいたけ、いくち、或ハをせん殺しと云ヒ、蓋ノ徑一・五乃至五寸ニシテ、表面暗褐色、裏面ノ管孔面ハ鮮紅色ニシテ、肉ハ黄色ナルモ、毀傷セラレテ空氣ニ觸ル、ヤ、忽チ青藍色ニ變ズル特徴アリ、夏期山中ニ生ズ。

本菌ハひよりんノ外ニむすかりん様物質ヲ含有シ、中毒症候トシテハ胃腸加答兒、痙攣、昏睡等ヲ起スト云フモ、本菌ノ毒力ハソノ發生地ニヨリテ大差アリ、時トシテハ全ク無毒モノアリト云フ。

七、毒紅茸中毒

Russula emetica Fr. *Speiteufel*
Giffiger Täubling.

蓋ノ直徑三・四寸ニシテ初メ鐘狀ナレドモ、後ニ展開シテ平面トナリ、中央ニ窪ミアリ、表面平滑ニシテ光澤ヲ有シ、鮮紅色又ハ暗赤色ナルモ、時トシテ褪色シテ殆ンド白色トナレルモノアリ、肉ハ白色ニシテ厚ク且脆シ、褶モ亦白色ニシテ幅廣ク且疎ナリ、莖ハ質脆ク白色又ハ淡紅色ナリ、長サ一・五乃至三・〇寸初メ中實ナルモ後ニハ内部海綿狀トナル、夏秋ノ季、雨多キ時山林原野ニ生ズ、胞子ハ白色ニシテ味ハ苦烈ナリ、本菌ハ小形ナル小紅茸ト誤用スルコト多シ、毒成分ハむすかりん、あとりびん及びひよりんヲ含有スト云フ、中毒症候ハ主トシテ中毒性胃腸炎ニシテ、時ニシテこれら様症候ヲ來ス。

八、土かぶり中毒

Lactarius pipernatus Fr.
Peffermichling.

一名地割リト云ヒ、蓋ノ徑三乃至八寸、漏斗狀ヲ呈シ、表面平滑白色ニシテ、菌體ヲ毀損スレバ、白色ノ乳汁ヲ出スコト多シ、質硬クシテ厚シ、莖ハ太クシテ短ク半バ地中ニ在リ、充實セルモ脆シ、夏秋山野ニ生ジ辛味アリ、胞子ハ白色球狀ニシテ一般ニ毒性弱シ。

本菌ハ赤井ニ白樺茸及初茸ト誤用スルコトアリ、本菌ノ毒成分ハ脂油ニシテ、胃腸加答兒ヲ惹起スルコトアルベシ、死ノ轉歸ヲ取ルモノハ殆ドナシ、中毒症候トシテハ咽喉、痒痒、嘔氣、心窩疼痛、惡心嘔吐腹痛及下痢等ヲ見ル。

九、からはつたけ及火傷菌中毒

Lactarius torminosus (Schäfer)
Gifmichling.

蓋ノ徑五乃至一〇糎、表面平坦ニシテ白色ノ綿毛ニテ掩ハレ、中央ハ陥入シテ漏斗狀トナリ、淡黄褐色ニシテ、内ニ數條ノ濃黄褐色ヲ呈スル同心環アリ、分泌セル液汁ハ白色、褶ハ淡黄褐色ニシテ薄ク且密生シ、肉ハ淡赤色ニシテ質脆シ、莖ハ長サ一、二寸表面平滑黄褐色ヲ呈シ、斑紋ヲ有スルコトアリ、内部ハ空洞ヲ形成ス、十月頃芝原牧場等ニ生ズ。

本菌ハあかはつ茸ト誤用シテ中毒ス、ソノ毒成分ハ尙未ダ明カナラズト雖、多分ハこりんナラント云フ、中毒症候トシテ特有ナルハ、肢端紅痛症ヲ來シ即四肢ノ末端腫脹、潮紅、灼熱シ疼痛甚シ、發病ハ食後數時間、或ハ一、二日後ナリ、胃腸症候ヲ見ルコト少ク、重症ノ際ハ精神昏瞶ヲ來シ遂ニ死ニ至ル。

火傷菌ハソノ名やぶしめじ、笹茸、やぶ茸、竹もたし、笹もたし或ハ叢もたしと云ヒ、其蓋直徑二乃至一〇糎、中央凹ミ鱗片ナク表面平滑ニシテ、橘黄色乃至暗赤褐色ナリ、褶ハ薄クシテ密、白色ナリ、莖ノ長サ一・五乃至五・〇糎、蓋ノ中央ニ附着シ空洞アリ、蓋ト同色ヲ呈シ、十、十一月ノ交、叢地ニ生ズ、ソ

からはつたけ
毒

第二編 身體ニ於ケル犯行ノ痕跡検査 十三、中毒各論 菌毒類ニ依ル中毒 六六〇
ノ中毒症候ハ前記からはつたけニ同ジ。

十、月夜茸中毒

Pleurotus Japonicus (Kawamura)

本菌ハ又ノ名光りごけ、くまびら、わたり、をめき、どくかたは等ト呼ビ、蓋ノ徑二乃至七寸、半圓形團扇形ヲ呈シ、初メハ凸圓ナルモ後ニ展平トナリ、淡紅紅褐乃至暗紫色ヲ呈シ、表面平滑ナリ。褶及肉ハ白色ニシテ一種ノ臭氣アリ、葉ハ短クシテ長サ約四五分乃至七八分、太サ四五分ニシテ蓋ノ側面ニ附着シ秋時山毛櫨等ノ枯朽セルモノニ發生ス。

本菌ハソノ含有スル發光素ノ酸化ニヨリテ、褶ハ暗處ニ於テ燐光ヲ發ス、椎茸平茸等ト誤用シテ中毒ス、而シテソノ毒成分ハ恐ラクハこりんなラント云フ、中毒症候ハ嘔吐下痢腹痛等ニシテ又昏睡ヲ伴フコトアリ。

十一、笑茸中毒

Panaeolus papilionaceus Fr. Ka.

又ノ名踊茸又ハ舞茸ト云ヒ、蓋ノ徑約一寸、原質ニシテ半球狀、平滑、表面暗赤褐色ニシテ、中央部稀濃ナリ、褶ハ廣クシテ莖ニ近ク生ジ、幅約三分、胞子ノ成熟後ハ其色遂ニ黒變ス、莖ハ徑一分長サ三四寸内部空虚ニシテ纖維質ナリ、ソノ中毒症候ハ唯中樞神經系統ヲ犯シ、酩酊狀態ニ陥リ意識ヲ亡失シ、興奮ノ極歌舞跳躍ヲナスト云フ。

十二、裏紅いくち中毒

Helvella satanas Lenz

蓋ニ於ケル管ハ黄色ニシテ入口ハ血赤色、又ハ柑黄色ナリ、莖ノ上部ハ黄色ニシテ網狀紋アリ、いくち又ハ山鳥茸ト誤用シテ往々中毒ヲ來ス、中毒症候ハ多クハ一、二時間後ニ發現シ、眩暈、不快、嘔氣、頭

部搔痒感、發汗、胸内苦悶、起立不能、嘔吐、不安、眼光閃發、視力及聽力減退脈搏不正、心悸亢進、煩渴、胃炎乃至下痢等ヲ來シ、終ニハ血性嘔吐或ハ血性下痢ヲ見ルコトアリ。

十三、鞍茸中毒

Hevelia esculenta L. Pers.

本菌ハ一名のぼりやうト云ヒ、蓋ハ結節狀ニ膨大シ、外面波狀ノ皺襞ヲ呈ス、幅二乃至八種ニシテ珈琲様褐色ナリ、莖ハ白色ニシテ長サ三乃至九種、大サ一・五乃至三種、圓筒狀ヲ呈ス、春秋ノ候、森林中ノ砂地ニ發生ス、本菌ハ乾燥シ或ハヨク洗滌スレバ、無毒トナルコトアリト云フ、本菌ノ毒成分ハへるべら酸ニシテ、尙のいりん、毒蛋白等ヲモ含有スト云フ、中毒症候ハ通常攝食後四五時ニシテ來リ、玉子天狗茸ノ中毒症候ニ酷似ス、即チ輕症ノモノハ嘔吐散瞳及輕度ノ黄疸ヲ起シテ治療スルモ、重症ノモノハ虎列拉様症候ヲ呈シ、下痢、嘔吐、腹痛、眩暈、頭痛、ちやのーせ、冷汗、細胞虛脫ヲ來シ、時トシテ血性下痢ヲ見次デ黄疸ヲ發シ、牙關緊急、瞳孔散大、麻痺、譫語、昏睡ヲ來シ、一、二日後死亡ス、解剖所見トシテハ諸臟器ノ脂肪變性、中毒性腎炎、及黄疸等ヲ認ム。

十四、小玉子天狗茸

Ananita nappa

蓋ハ初メ鐘狀ニシテ後扁平トナル、表面平滑ニシテ淡黄色ヲ呈ス、褶ハ白色ニシテ莖ニ離生シ、莖ハ下端球狀ニシテ肥大シ、上部ニハ軟カナル鏝ヲ有シ、臭氣アリ、玉子天狗茸ノ一種ナリト目セラレ、其毒性ハ玉子天狗茸ニ讓ラズト云フ。

其他やなぎ茸(苦杉茸)毒つる茸、絹傘茸、さくくれ一夜茸、紅茸、すつばん茸、いんき茸等アリテ中毒シ、又毒性ノ有無未定ナル狐ノ繪筆(鬼筆)狐ノ蠟燭、やぶ茸、涙菌等アリ。

己、魚介竝ニ食物中毒

Poisoning of fishes and the other foods,
L'empoisonnement par le poisson et l'autre
nouriture,
Vergiftung durch Fisch und Nahrungsmittel.

魚介竝ニ食物
中毒

予等ノ集メ得タル食品中毒者二千二百二十一名中、ふぐ中毒者五百〇三名、ゑび中毒者二百十五名、さば中毒者百五十六名、かに中毒者百五名、いか中毒者七十三名、たこ中毒者七十九名等ヲ最モ多シトス。

一、河豚中毒 Tetrodon

河豚中毒

多クハ食用上ノ中毒ニシテ、時トシテ本品ヲ食ヘバ、梅毒或ハ癩病ヲ治スト信ジテ内服シ中毒スルモノアリ、我國到ル處ふぐ中毒ヲ見、食品中毒中最モ多數ヲ占ム、予等ノ集メ得タル河豚中毒五百〇三名中、三百十五名ハ死亡セリ。河豚ノ身體中、卵巣最モ有毒ニシテ、所謂てとろどときしんヲ含有シ、コハ神経系ヲ犯シテ麻痺状態ヲ起サシメ、顔面潮紅、瞳孔縮小、嘔吐、四肢厥冷、言語澀滯全身麻痺、脈搏亢進、呼吸不正等ヲ來シ、心臟麻痺ニ依リ死亡ス。

剖檢所見トシテハ特異ノ徴ナク、本毒ノ化學的證明法トシテハ、未ダ確實ナルモノナシ。

二、食品中毒

Foodpoisoning. L'empoisonnement par la nourriture,
Nahrungsmittelvergiftung.

食品中毒

新鮮ナラザル肉類、ゑび、かに、たこ、かまぼこ、腸詰、けいせ等ヲ食スル時ハ蛋白質ノ分解物、或ハたこ、ゑびノ如キニ至リテハ、ソノ生殖時期ニ有スル或毒物ニ依リテ甚シキ中毒ヲ來シ、時トシテハ宴會等ノ食物ノ爲メニ、多數ノモノガ一時ニ此中毒ニ陥ルコトアリ。

症狀ニハ二種アリ、一ハ重ニ胃腸ヲ犯シ、即チ急性中毒性胃腸かたゝるヲ起シテ、腹痛、吐瀉甚シクコレらトノ鑑別容易ナラザルガ如キ激症ヲ來スコトアリ、他ハ重ニ神経系ヲ犯シ、痙攣、麻痺、譫語等ヲ來ス。抑食品中毒ナルヤ、或ハ藥劑中毒ナルヤノ鑑別ハ、化學的毒物ノ證明ニ依ルノ外ナシ、又一面ニハ細菌學的ノ検査ニ依リテ、急性傳染病ノ病源ヲ發見スルコト能ハズ、他面ニハ化學的検査ヲ、充分ナル注意ト熱練ヲ以テ行フモ、何等毒物ヲ發見スルコト能ハズ、而モ臨床的症狀ガ前記食品中毒ノソレニ一致スル時、初メテ食品中毒ナラント診定ヲ下スベキモノニシテ、此診定ヲ下スニハ充分ナル注意ヲ要ス。予ハかすのこ及鯖ヲ食シテ中毒死ニ至レル母子ノ一例ガ、刑法上ノ問題トナレル事件ニ遭遇セリ、即チ母子ノ屍ヲ剖檢セルニ、急性胃腸炎ノ外、特記スベキ剖檢所見ナク、而モ採集セル材料ヨリハ、約一ヶ年ニ亘レル化學的検査ニ依リテ、何等毒物ヲ發見スルコト能ハズ、即チ死直前ノ症狀ヲ綜合シテ熟慮ノ結果、右母子ハ前記かすのこ及鯖ノ中毒死ナラント推定セシコトアリキ。

第三編 法醫學的精神病學
Forensic Psychiatry
Psychiatrie médico-légale
Forensische Psychiatrie.

甲、總論

精神病者監護
法

精神病者監護法

(明治三十三年三月法律第三十八號)

第一條 精神病者ハ其ノ後見人配偶者四等親内ノ親族又ハ戸主ニ於テ之ヲ監護スル義務ヲ負フ但シ民法第九百八條ニ依リ後見人タルコトヲ得サル者ハ此ノ限ニ在ラス

監護義務者數人アル場合ニ於テ其ノ義務ヲ履行スヘキ者ノ順位ハ左ノ如シ但シ監護義務者相互ノ同意ヲ以テ順位ヲ變更スルコトヲ得
第一 後見人 第二 配偶者 第三 親權ヲ行フ父又ハ母 第四 戸主 第五 前各號ニ掲ケタル者ニ非サル四等親内ノ親族中ヨリ

親族會ノ選任シタル者
 第二條 監護義務者ニ非サレハ精神病者ヲ監置スルコトヲ得ス
 第三條 精神病者ノ監置セムトスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ
 前項監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ
 行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキハ行政廳第九百二十二條ニ依リ禁治產者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ届出ベシ
 第四條 精神病者ノ監置ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ二十四時間内ニ行政廳ニ届出ベシ
 第五條 監置シタル精神病者治癒シ死亡シ若ハ行方不明ト爲リタルトキ又ハ其ノ監置ヲ廢止シタルトキハ七日内ニ行政廳ニ届出ベシ
 第六條 精神病者ヲ監置スル必要アルモ監護義務者ナキ場合又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行スルコト能ハザル事由アルトキハ精神病者ノ住所、住地ナキトキ又ハ不明ナルトキハ其ノ所在地市區町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ監置スベシ
 第七條 行政廳ハ精神病者ノ監置ニ關シ必要ト認ムルトキハ監置ノ許可ヲ取消シ監置ノ廢止ヲ命ジ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更ヲ命ズルコトヲ得
 監置ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ廢止ヲ命ゼラレタル者監置ヲ廢止セザルトキハ行政廳ニ直接ニ監置ヲ廢止スルコトヲ得
 第八條 精神病者監置ノ必要アルトキ又ハ監置不適當ト認ムルトキハ行政廳ハ第一條第二項ノ規定ニ拘ラズ監置義務者ヲ指定シ之ガ監置ヲ命ズルコトヲ得但シ急迫ノ事情アルトキハ行政廳ハ假リニ其ノ精神病者ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス
 市區町村長ニ於テ監置スル精神病者ノ監護義務者ヲ發見シ又ハ監護義務者其ノ義務ヲ履行シ得レズ至リタルトキハ亦前項ノ同じ本條ニ依リ精神病者ノ監置ヲ命ゼラレタル監護義務者其ノ命ヲ履行セザルトキハ第六條ノ例ニ依リ市區町村長ニ於テ之ヲ監置スベシ本條ニ依リ監護義務者ノ監置シタル精神病者ニ關シテハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ズ
 第九條 住宅監置室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十條 監置ニ要シタル費用ハ被監置者ノ負擔トシ被監置者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
 市區町村長ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得
 第十二條 本法又ハ本法ニ基ヅキテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十三條 本法又ハ本法ニ基ヅキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アルモノハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處ス
 第十六條 左ニ掲グル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 一 詐欺ノ行爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者
 二 醫師精神病者ノ檢診書ニ虚偽ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら檢診セズシテ檢診書ヲ授與シタル者
 前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
 第十七條 左ニ掲グル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

精神病者監置法施行規則

日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
 一 許可ヲ受ケズ又ハ届出ヲ爲サズ若ハ命ヲ受ケズシテ精神病者トシテ人ヲ監置シタル者
 二 禁治產ノ宣告又ハ監置ノ許可ヲ取消シ又ハ監置ノ廢止ヲ命ゼラレ若ハ假監置ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セザル者
 三 許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シ若ハ命ヲ受ケタル程度ヲ超ユテ精神病者ヲ拘束シタル者
 第十八條 左ニ掲グル者ハ一月以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 精神病者ノ監置ニ關シ虚偽ノ事實ヲ記載シタル願届其ノ他ノ書類ヲ行政廳ニ提出シタル者
 二 監護義務ヲ履行スベキ順位ニ在ラザル者ニシテ許可ヲ受ケズ又ハ命ニ依リニ非ズシテ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更シタル者
 三 官吏又ハ行政廳ノ指定シタル醫師ノ臨檢若ハ檢診ヲ拒ミ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ答辭ヲ爲シタル者
 第十九條 左ニ掲グル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 監置ノ方法若ハ場所ヲ變更ヲ命ゼラレ其ノ命ヲ履行セザル者
 二 監護義務者精神病者ノ監置ヲ命ゼラレ其ノ命ヲ履行セザル者
 三 第八條第四項第九條第一項ニ違背シタル者
 第二十條 第四條及第五條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
 附 則
 第二十一條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本法施行前ヨリ精神病者ヲ監置シタル者ニシテ仍之ヲ繼續セントスルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月内ニ第三條ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲スベシ
 第三條ノ許可ヲ受ケズ又ハ届出ヲ爲サズシテ前項ノ期間ヲ經過シタル後監置ヲ廢止セザル者ハ第十七條ノ例ニ照ラシテ處斷ス本法中市區町村長ニ屬スル職務ハ市區町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市區町村長ニ準ズベキ者ニ行フ
 第二十二條 外國人タル精神病者ノ監置ニ關シ別段ノ規定ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十三條 人事訴訟手續第五十條又ハ第六十條ニ依リ裁判所ニ於テ
 許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ監置ヲ廢止シ又ハ監置ノ方法若ハ場所ヲ變更スルコトヲ得ズ
 第九條 住宅監置室、公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ノ構造設備及管理方法ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第十條 監置ニ要シタル費用ハ被監置者ノ負擔トシ被監置者ヨリ辨償ヲ得ザルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス
 市區町村長ニ於テ之ガ爲メ要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行政廳ハ必要ト認ムルトキハ其ノ指定シタル醫師ヲシテ精神病者ノ檢診ヲ爲サシメ又ハ官吏若ハ醫師ヲシテ精神病者ニ關シ必要ナル尋問ヲ爲サシメ又ハ精神病者アル家宅病院其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得
 第十二條 本法又ハ本法ニ基ヅキテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第十三條 本法又ハ本法ニ基ヅキテ發スル命令ノ執行ニ關スル行政廳ノ處分ニ不服アルモノハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
 第十四條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第十五條 官吏公吏又ハ行政廳ノ命ヲ受ケテ公務ヲ行フ醫師本法ノ執行ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ刑法第二百八十六條ノ例ニ照ラシテ處ス
 第十六條 左ニ掲グル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 一 詐欺ノ行爲ヲ以テ行政廳ノ許可ヲ受ケ若ハ虚偽ノ届出ヲ爲シ精神病者ヲ監置シ又ハ拘束ノ程度ヲ加重シタル者
 二 醫師精神病者ノ檢診書ニ虚偽ノ事實ヲ記載シ又ハ自ら檢診セズシテ檢診書ヲ授與シタル者
 前項第一號ノ場合ニ於テハ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
 第十七條 左ニ掲グル者ハ二月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加シ又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ監置又ハ拘束ノ日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

出ハ警察官署ニ之ヲ爲スベシ
 第八條 自宅監置室ハ精神病者ノ資産又ハ扶養義務者扶養ノ程度ニ
 應ジ相當ノ設備ヲ爲シ及之ヲ管理スルコトヲ要ス
 第九條 府縣立ヲ除ク外公私立精神病院及公私立病院ノ精神病室ヲ
 設置セムトスルキハ其構造設備及管理ニ關スル事項ヲ具シ地方
 長官ノ許可ヲ受クベシ其ノ之ヲ變更セムトスルキ亦同ジ
 第十條 精神病者監置法第七條及第八條行政廳ノ職權ハ地方長官之
 ヲ行フ但シ急迫ノ事情アルトキハ警察官署ニ於テ之ヲ行ヒ直ニ地
 方長官ノ指揮ヲ請フベシ
 第十一條 精神病者監置法第九條第一項行政廳ノ職權ハ地方長官之
 ヲ行フ但シ私宅監置室ニ關シテハ警察官署之ヲ行フ
 第十二條 精神病者監置法第十一條行政廳ノ職權ハ內務大臣地方長
 官又ハ警察官署之ヲ行フ
 第十三條 本則第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ
 處ス
 第十五條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

法律第二十五號精神病院法

(大正八年三月二十六日)

第一條 主務大臣ハ北海道又ハ府縣ニ對シ精神病院ノ設置ヲ命ズル
 コトヲ得
 第二條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル精神病者ヲ前條ノ規定
 ニ依リ設置スル精神病院ニ入院セシムルコトヲ得
 一、精神病者監置法ニ依リ市區町村長ノ監護スベキ者
 二、罪ヲ犯シタル者ニシテ司法官廳特ニ危險ノ虞アリト認ムルモ
 三、療養ノ途ナキ者
 四、前各號ニ掲グル者ノ外地方長官特ニ入院ヲ必要ト認ムル者前
 項ノ規定ニ依リ精神病者ヲ入院セシムルニハ命令ノ定ムル所ニ
 依リ醫師ノ診斷アルコトヲ要ス
 第三條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第一條ノ規定ニ依リ設置スル
 精神病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス
 第四條 第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定
 ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上ノ必要ナル處置ヲ行フコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

勅令第三百六十五號 (大正八年八月二日)

精神病院法第七條ノ規定ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行シ同法第
 一條乃至第五條第八條ノ規定ハ同法第七條ノ規定ノ施行ニ必要ナル
 範圍ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス
 ●勅令第三百六十六號 (大正八年八月二日)
 第一條 國庫ハ北海道地方費又ハ府縣カ精神病院法第七條ノ規定ニ
 依リ代用精神病院ニ對シ支出シタル入院費ノ精算額ノ六分ノ一ヲ
 北海道地方費又ハ府縣ニ補助ス但シ北海道地方費又ハ府縣カ入院
 費又ハ入院費ニ充ツベキ寄附金ヲ受クルトキハ其ノ金額ヲ精算額
 ヲリ控除ス
 第二條 精神病院法第七條ノ規定ニ基キ同法第五條第一項ノ規定ニ
 ヲリ徵收スル入院費ニシテ指定期限内ニ納付ナキモノニ付テハ國
 庫納付處分ノ例ニ之ヲ徵收スルコトヲ得
 第三條 入院費ノ徵收ハ必要アルトキハ納付義務者ノ居住地又ハ財
 產所在地ノ地方長官ニ之ヲ囑託スルコトヲ得
 第四條 精神病者入院中死亡シタルトキハ其ノ遺留財產ヲ以テ入院

精神病院法

費ノ全部又ハ一部ニ充ツルコトヲ得
 本令ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行ス
 ●內務省令第七號 (大正八年八月四日)
 精神病院法ニ關スル件左ノ通定ム

精神病院法第七條ノ規定ニ依リ代用
 精神病院法第七條ノ規定ニ依リ代用精神病院ニ關スル件
 第一條 精神病院法第七條ノ規定ニ基キ同法第二項ノ規定ニ
 依リ診斷ハ地方長官ノ指定シタル醫師ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ
 第二條 市區町村長ハ精神病者監置法ニ依リ監護スベキ精神
 病者ノ入院ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得
 第三條 精神病者ノ監護義務者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ精神病者ノ入
 院ヲ地方長官ニ出願スルコトヲ得
 第四條 地方長官ハ入院者ノ必要ナルシト認ムルトキハ速ニ退院
 セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ豫メ當該代用精神病院ノ長ノ意見ヲ
 徵スルコトヲ要ス
 第五條 入院者ノ監護義務者ハ入院者ノ退院ヲ地方長官ニ出願スル
 コトヲ得
 第六條 精神病院法第七條ノ規定ニ基キ同法第四條ノ規定ニ依リ代
 用精神病院ノ長ノ入院者ニ對シテ行フヘキ監護上必要ナル處置ニ
 置ニ付テハ內務大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム
 第七條 精神病院法第七條ノ規定ニ基キ同法第二條及本令ノ規定ニ
 依ル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監之
 ヲ行フ

精神病者取扱
書々式

附 加
 本令ハ大正八年八月十日ヨリ之ヲ施行ス
 次ニ精神病者監置ノソノ他ニ要スル書類ノ型式ハ大要左ノ如シ
 精神病者監置許可願(別紙診斷書添付)
 原籍地 福井縣南條郡山村千福第五號拾貳番地
 現住所 京都市上京區出町今出川上ル青龍町七拾四番地
 族籍職業 平民乾物商
 姓名 川上金之助
 年齡 當貳拾五年

入院假監置ノ日 昭和參年貳月貳拾日
 右者精神病ニ罹リ治療上急迫監置ノ必要有之候ニ付○○○病院ハ
 入院假監置候間此段御届仕候也
 昭和參年貳月貳拾日 監護義務者父戶主
 川上 太郎 兵衛

診 斷 書

京都市上京區出町今出川上ル青龍町七拾四番地
 川上 金之助
 當貳拾五年
 ○○警察署長○○○殿
 病名 躁鬱病
 發病不明
 疾病狀態 目下躁狂狀態ニシテ不穩行爲ヲ發作スルノ虞アリ依テ入
 院セシメ監置治療スルノ必要アルモノナリ
 右昭和參年貳月二十日本院ニ於テ診定候也
 昭和三年二月二十日
 ○○府○○郡○○村○○病院
 醫 師 土 屋 榮 吉 印

精神病者監置許可願(別紙診斷書添付)

原籍地 福井縣南條郡山村千福第五號拾貳番地
 現住所 京都市上京區出町今出川上ル青龍町七拾四番地
 族籍職業 平民乾物商
 姓名 川上金之助
 年齡 當二拾五年
 監置場所 京都市愛宕郡岩倉村岩倉病院内
 右者精神病ニ罹リ監置治療相受度候ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ得タ
 ル上入院可爲致之處不穩ノ狀態ニテ其暇無之候間明治三十五年內務
 省令第參拾五號精神病者監置法施行規則第四條ニ據リ貴署ニ於テ監
 置ノ義御許可相成度別紙醫師診斷書相添此段奉願候也
 昭和參年貳月 日 右監護義務者父戶主
 川上 太郎 兵衛
 ○○警察署長○○○殿

精神病者入院監置許可願(別紙診斷書添付)

原籍地 福井縣南條郡山田村千福第五號拾貳番地
現住所 京都市上京區出町今出川上ル青龍町七拾四番地
族籍職業 平民 乾物商
姓名 川上金之助
年齡 明治參拾七年九月參日生

右之者精神病ニ罹リ治療上監置ノ必要有之候ニ付京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置致度候間御許可被成下度別紙醫師診斷書相添へ此段願上候也
昭和參年貳月日 右監護義務者父戸主 川上太 郎兵衛

京都府知事〇〇〇〇殿

精神病者監置場所變更再監置願(診斷書添付)

滋賀縣栗太郡常盤村字支那百五拾八番地平民農

冬 野 進

明治參拾年拾月拾五日生

右者精神病ニ罹リ大正拾四年四月拾八日附貴廳指令第二五八九號ノ許可ヲ得京都帝國大學醫學部精神科へ入院監置致シ同年拾貳月貳拾五日退院監置廢止仕候然ルニ今般同病ノ再發ニ依リ本日京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置場所變更再監置致シ度候間別紙醫師診斷書相添へ此段御届申上候也

昭和參年貳月貳拾日 右監護義務者夫戸主 冬 野 進

滋賀縣知事〇〇〇〇殿

滋賀縣知事〇〇〇〇殿

岡山縣吉備郡新木村字長谷一一二番地

木村長 太郎

明治貳拾年拾月八日生

病名 麻痺性痴呆病

發病 不明

疾病狀態 目下輕快ス

右昭和三年二月二十二日本院ニ於テ診定候也

昭和三年二月二十二日

京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院
醫師 土屋 榮 吉原

監置廢止御届(輕快診斷書添付)

原籍 岡山縣吉備郡新木村字長谷千貳拾壹番地

族籍職業 平民農

姓名 木村長太郎

監置許可指令 昭和貳年八月五日岡山縣指令第五九二三號

年齡 明治貳拾年拾月八日生

監置廢止事由 輕快退院

監置廢止日付 昭和參年貳月貳拾日

右者精神病ニ罹リ大正拾五年貳月拾五日貴廳指令第一二二六號ノ許可ヲ得京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置中之處今同監置廢止候間別紙醫師診斷書相添へ此段御届仕候也

昭和參年貳月貳拾日 右監護義務者妻 木村 綾 野

岡山縣知事〇〇〇〇殿

精神病者再監置願(診斷書添付)

京都府久世郡淀町字新町參百貳拾五番地 平民 理髮業

松本 竹次 郎

明治貳拾五年五月貳拾日生

右者精神病ニ罹リ大正拾五年貳月拾五日貴廳指令第一二二六號ノ許可ヲ得京都府愛宕郡岩倉村岩倉病院へ入院監置致シ昭和貳年八月八日退院監置廢止仕候然ルニ今般同病ノ再發ニ依リ本日同院へ入院再監置致シ度候間別紙醫師診斷書相添へ此段御届仕候也

昭和參年貳月貳拾日 右監護義務者妻 松本 ムメ

京都府知事〇〇〇〇殿

向此等各類願書々式ニ付テハ、各府縣ニ於テ多少ノ規定ヲ異ニスル所アレバ、注意ヲ要ス。

一、緒言 Introduction, — Einleitung.

法醫學的精神病學トハ、人ノ精神狀態ヲ探究シテ、立法、司法乃至行政ニ、科學的補助ヲ與フル學問ニシテ、換言スレバ、應用精神病學ノ一ナリ。法醫學的精神病學ハ立法者、或ハ行政官ヲ裨益スルコト少ナカラズト雖、ソノ最モ重要ナル事業ハ、法術ニ訴ヘラレタル人ノ精神狀態ヲ調査診定シテ、司法官ヲ補助シ法ノ適用ヲ誤ラシメザルニ在リ。茲ニ於テカ吾人ハ精神狀態鑑定ノ必要上、犯罪若シクハ犯罪人ニ關スル大體ノ智識ヲ得ルノ必要ヲ感ズ、一般ニ法律上、犯罪トハ犯意若シクハ過失ヲ伴フ責任能力者ノ反社會的行為ニシテ、刑罰法規ニ列舉セラレタルモノヲ云ヒ、所謂、法ナクレバ罰ナキノ謂ニシテ、嘗テ或ハ現今ニ於テモ、或社會ニテハ殺人モ竊盜モ單ニ罪トセザルノミナラズ、勇者ノ行為トシテ稱讚セラル、所サヘアリ、故ニ犯罪ノ觀念モ、時ト所トニヨリ大ニ其意義ヲ異ニス、但シ吾人ノ述ブル所ハ、現代ノ文明國ニ於ケル普通ノ觀念ヲ以テ、之ヲ取扱ハントス。

通常犯罪ヲ分チテ、自然犯罪ト人爲犯罪トニ大別ス、前者ニ屬スルモノハ、殺人、竊盜、詐欺、偽造乃至性慾性及激情性犯罪ニシテ、後者ニ屬スルモノハ、其社會ニ於テ必要上、或ハ任意ニ規定シタル法律ニ觸レタルモノナリ、次ニ犯罪者ヲ分ツニ、罪質、犯行ノ方法、性、年齢、犯數乃至犯罪ノ原因等ニヨリ、種々ノ區分法アレドモ、ソノ内最多ク分類ノ規矩トナルハ犯罪ノ原因ナリ。今茲ニ有名ナル犯罪學者ノ犯罪者分類ヲ列舉セントス。但シソノ各分類種別ガ、如何ナルモノヲ包含スルヤハ、ソノ分類ガ、略ソレヲ指示スルヲ以テ、敢テ説明ヲ加ヘズ。

らんぶろぞう氏ノ分類

- 一、生來性犯罪者、二、精神病性犯罪者、三、感情性犯罪者、四、癲癇性犯罪者、五、偶發性犯罪者
はテえろつく、えりす氏ノ分類
- 一、政治的犯罪者、二、激情性犯罪者、三、精神病性犯罪者、四、偶發性犯罪者、五、習慣性犯罪者
- 六、職業性ノ犯罪者
- あつしやつふえんぶるぐ氏ノ分類
- 一、發作性犯罪者、二、感情性犯罪者、三、偶發的犯罪者、四、豫謀性犯罪者、五、再發性犯罪者、六、
習慣性犯罪者、七、職業的犯罪者
- ふえり氏ノ分類
- 一、犯罪狂、二、生來性犯罪者、三、習慣性犯罪者、四、偶發性犯罪者、五、感情性犯罪者
- くらうす氏ノ分類
- 一、勢力的犯罪者、二、惡性的犯罪者、三、虛弱性犯罪者
- かうふまん氏ノ分類
- 一、浮浪性犯罪者、二、勢力性犯罪者、三、非型的犯罪者
- 一般ニ病理的犯罪者トハ、心身ノ上ニ或疾病ヲ有スル爲メニ、普通ノ健全者ナラバ、何等ノ影響ヲ受ケ
ザルガ如キ刺戟ニモ、容易ニ支配サレテ犯罪ヲ敢行スルモノニシテ、多クノ精神病者ノ犯罪ハ之ニ相當ス。
- 生來性犯罪者トハ、生レナガラ犯罪ヲナスベキ傾向ヲ有スルモノニシテ、ソノ不健全性ノ發生ニ、境遇
ノ影響ノ多ク加ハラザルモノヲ云ヒ、變質者、悖德性ノ犯罪ノ如キハ之ニ屬ス、習慣性犯罪者ハ、前者ノ

病理性犯罪者

生來性犯罪者

如ク、ソノ生來ノ不健全性ハ甚シカラズシテ、相當ノ境遇ニ置カバ、犯罪ヲナサザルモ、不適當ナル不幸
ナル位置ニ生育シ、或ハ遭遇セバ、比較的容易ニ犯罪ニ陥ルモノヲ云フ、換言スレバ、ソノ性質ト境遇ト
ガ相俟ツテ、其人ヲ不良化セシムルモノニシテ、例ヘバ意志薄弱ナルモノガ、竊盜、詐欺、賣淫等ニ習慣
性トナリ、之ヲ改ムルコト困難ナルガ如キ之レナリ。

偶發性犯罪者

偶發的犯罪者トハ、普通ノ性格ヲ有スルモノガ、甚大ナル事情ニ接シ、反社會的行爲ニ陥ルモノニシテ、
其原因トシテハ、生活上ノ窮迫、感情ノ激發、模倣、一時的的精神異常、例ヘバ利慾ニ迷ヘル時、焦心狼狽
セル時、強キ刺戟ニ接スル時、沮喪時乃至發揚時、迷信、夢遊、空腹、月經、妊娠及產褥或ハ錯誤誤解ア
ル時ノ如キニ、普通立派ナル性格者ガ、突然恐ロシキ犯罪ヲナスガ如キハソノ例ナリ。

感情性犯罪者

感情性犯罪者、一般ニ感情ノ激昂ハ、人ヲシテ冷靜ナル判斷ヲナスノ余裕ナカラシメ、殆ト爆發的ニ思
ハザル犯行ヲナサシムルコトアリ、例ヘバ復讐的ニ、他ノ窮迫ヲ救ハンガ爲メニ、救治的ニ、宗教的或ハ
迷信的ニ犯罪シ、其心情ノ多クハ自己犠牲的ニシテ、他ノ犯罪ト大ニ其趣キヲ異ニス、即チすとらいきノ
眞面目ナル指導者、暴動ノ煽動者、宗教的犠牲者等ノナス犯罪ハ多ク之ニ屬ス。

要之、多クノ犯罪ハ食慾、色慾、優越慾、及所持慾等ガ、社會適應以上ニ勃發スル時ニ、敢行サレ易キ
モノナリ。然ラバ、犯罪行爲ノ過程ハ如何ト云フニ、特別ナル思慮ヲ廻ラスコトナク、或刺戟ニ對シテ、
殆ンド盲目的ニ行ハル、ガ如キ時ハ、ソノ動機ヲ意識セズシテ行ハル、モノニシテ、之ヲ衝動性犯罪ト云
ヒ、憤怒、恐怖、嫉妬及怨恨等ノ情極度ニ昂進シテ、其動機ニ付テ考フルノ暇ナク、敢行サル、ガ如キハ
ソノ例ナリ。

衝動性犯罪者

次ニ一定ノ慾望ヲ満足セシメントシテ、犯罪ノ手段、方法等ヲ考フル場合ニハ、動機ト決意トノ間ニ相當ノ餘裕アリ、而シテ後敢行スルモノニシテ、之ヲ有意犯罪ト云フ、此決意ヲ助長スルモノハ、犯罪ニ對スル興味、好奇心、冒險心、空想、病的妄想等ニシテ、之ヲ制止スルモノハ、犯罪ニ對スル不安、恐怖等ナリ、尙犯罪ノ決意ニ影響ヲ及ボスモノハ、自暴自棄、自己の辯解、反抗心等トナス。

又犯罪ノ結果ヲ豫見シテ、其決意ヲ助長スルモノニ、利慾、境遇ニ對スル空想、排他的特殊感情、犯罪ニ對スル虛榮等ニシテ、決意ヲ制止スルモノニ道德感情、社會的刺戟及法律的刺戟等アリ。

犯罪ヲ實行シタル後ニハ、衝動的犯罪ニ於テハ、ソガ何等ノ熟慮考察ヲ待ツテ行ハレタルモノニアラザレバ、犯罪者ハ犯行ヲ反省シテ、恰モ夢ノ如ク感ジ、或ハ自己ガ行ヒタルコトハ確實ラシキモ、他人ガナシタル犯罪ノ如ク感ズルコトアリ、故ニ犯行ノ詳細ヲ想起スルコト能ハザル場合多シ、然ルニ有意犯罪ニ於テハ、犯行ニ自覺アリ、實行中感情の要素加味サル、ガ故ニ、時トシテ最初ノ計畫ヲ變更シ、例ヘバ犯罪者ガ行爲中ニ得タル恐怖ニ依リテ竊盜ガ強盜トナリ、詐欺ガ恐喝トナルガ如キ之レニシテ、又犯行中ニ得タル虛榮心ニヨリテ、之ヲ決意スル迄ハ、思ヒモ及バザリシ犯行ノ型式方法乃至規模ヲ取ルコトアリ、反之、犯行中道德的感情、恐怖等ニヨリ之ヲ中止シ、モシクハ未遂ニ終ルコトアリ、尙其他ニ犯行中種々ノ思考行ハレ、犯罪ノ型式及手段ヲ變化セシムルモ、不慣ノ犯罪者ニ在リテハ犯行中意外ノ不注意、焦心、狼狽乃至錯誤ヲナシ、爲メニ犯罪搜查ニ一道ノ光明ヲ與フルヲ常トス。

次ニ犯行ノ着手ヨリ完了ニ至ルマデノ經過中ニハ、種々ノ心的過程ヲ伴フ、今之ヲ列舉スレバ左ノ如シ。
躊躇、一般ニ犯罪ハ道德的ニモ、社會的ニモ極メテ不良ノモノナレバ、假令、之ニ着手ストモ犯罪者ハ其

間ニ、往々遠慮躊躇ノ伴フモノナルガ故ニ、多クハ酒或ハ共犯者等ノ力ニヨリテ、之ヲ排除スルヲ常トス。興奮、犯行ニ感情の要素が多クナルホド、興奮状態ニ陥ルモノニシテ、此興奮甚シキ程、智的要素ノ作用少クナル故、犯罪中ノ行爲ヲ記憶スルコト少ク、往々犯罪者ガ全ク夢中ニシテ、犯行ノ覺エナシナド云フハ、此心理ヲ説明スルモノナリ。

沈靜、犯行ノ進行中、ソノ初期ニ於ケルガ如キ興奮ヲ繼續スルモノト、反之、其間ニ漸次沈靜シ行クモノトアリ、性的犯罪ノ如キハ、初期ノ興奮ガ末期迄續クコト少ク、竊盜ノ如キモ、犯行進行スルト共ニ、次第ニ落付キ來ルヲ常トス。

不安、犯行愈終末ニ近ヅケバ、其目的ヲ達シタル爲メ、其緊張セル精神ハ急速ニ弛緩シ、同時ニ不安ノ念ヲ生ジ、犯罪者ガ最モ甚シク不安ヲ感ズルハ此時ナリ、故ニ彼等ガ此際最モ強ク驚カサレ、或ハ刑事巡查等ヲ錯覺スルガ如キコトアリ。

而シテ犯行後犯罪者ハ、捕縛ニ對スル恐怖乃至社會ニ對スル危懼アリ、爲メニ速ニ犯行ヲ自白シ、若クハ被害者ニ對スル錯覺、幻覺ヲ來スコトアリ、犯行後此等ノ恐怖ノ爲メニ、充分ニ睡眠スルコト能ハズ、却テ捕縛セラレテ、其心痛去リ、就縛當夜ノ如キ熟眠スルガ如キ實例往々アリ。

次ニ犯罪發覺ヲ防止センガ爲メ、犯罪者ハ種々ノ努力ヲナシ、却テ其發覺ヲ速カナラシムルコトアリ、尙犯罪者ハ自ら招キタル社會的冷遇ヨリ、猜疑偏曲ノ心ヲ起シ、反抗的態度ヲ取り變則ナル生活ヲナシ、或ハ累犯者トナルコトアリ、反之、自己ノ犯罪ニ對シテ、悔悟ノ傾向アリ、自己不良行爲ニヨリテ得タルモノヲ、窮迫者ニ分チ、贖罪セントスルモノスラアリ。

尙犯罪者ハ、犯行後、内容的ニ満足、悔悟、寂寞、孤獨ノ感アリ、不知不識ノ間ニ社會的壓迫ヲ感ジ、外圍ヨリ蔑視乃至疎外セラルト思ヒ、所謂、犯罪者ニ友ナシトナリ、自ラ進ンデ社交ヲ避ク、其他犯罪者ハ、尙自己的辯解、自暴自棄乃至良心ノ呵責ヲ感ジ、酒ニヨリテ之ヲ忘レントシ、或ハ遊蕩ノ巷ニ入り自ラ慰ム、反之、時トシテ、所謂、犯罪虛榮ナルモノアリ、犯罪者ト名ヅケラル、位ナラバ、小盜ト云フヨリモ寧ロ大盜ト云フニ如カズト、自己ノ犯罪ヲ誇大化シテ得々タルガ如キアリ、或ハ死刑囚ガ死ニ就クニ際シ、我犯罪ノ世評ヲ氣ニスルガ如キ、實ニ興味深キ心理状態ト云フベキナリ。

然リ而シテ、犯罪者ニハ精神病者多キコトハ、己ニ一般ニ知悉サル、所ニシテ、杉江氏ノ報告ニヨレバ、巢鴨病院ノ在院患者四百二十五名中、ソノ過半数ニ犯罪モシクハ不良行爲アリタリト云ヒ、あつしやつムえんぶるぐ氏モ亦、精神病患者ヲ調査シ、其四十三%ハ犯罪性精神病者ナリシト云ヘリ。

今大正二年乃至五年ノ日本刑事統計年報ニヨレバ、犯罪者中心神喪失ノ理由ニ基キ、不起訴モシクハ免訴トナリタルモノ千百二十五名ニ就キ、ソノ罪質及件數ヲ示セバ左ノ如シ。

罪 質	不起訴	免訴	計	百分率
殺 人	一八七	七六	二六三	二二・三三
傷 害	一〇七	三	一一〇	九・六〇
竊 盜	二九九	一	三〇〇	二六・六七
放 火	二三二	二六	二五八	二二・九三
詐 欺	四二	一	四三	三・八〇
其 他	一四〇	一一	一五一	一三・三〇
計	一〇〇七	一一八	一一二五	一〇〇・〇〇

即チ之ニヨリテ犯罪人中ニ、如何ニ精神病者多キカヲ知ルニ足ルベク、其他受刑者中ニモ、随分精神異常者アリ、累犯者ニハ所謂精神の中間者多ク、ねめと氏ニヨレバ、六千四百九十八人ノ在監者中、六百五十人ハ變質者(一〇・七%)、八百四十六人ハ酒客(二三・八%)ニシテ、初犯者中ニハ變質者及酒客八・九%ナルニ、累犯者中ニハ三九・七%アリシト云フ。

尙一般ニ猥褻行爲者ニハ癡癡者、變質者、痴呆、痴愚及酒客等多ク、殺人犯人ニハ痴愚、癡癡變質者、放火犯人ニハ痴愚、婦人、幼者等ヲ見ルコト多シ、其他不良少年、浮浪者乃至賣笑婦等ニモ精神異常者、精神低格者等多シト云フ。

而シテ或病の心理ニヨリテ、精神病者ガ犯行ヲ爲シタル疑アル場合、一般ニ犯罪者ノ智的方面ノ缺陷ニハ相當ナル注意ヲ拂フモ、精神界ノ他ノ二大方面タル、感情及意志ノ障礙ニ就テハ、左程重キヲ措カザルヤノ憾アリ、之レ大ナル誤謬ト云ハザルベカラズ、何トナレバ、精神界ヲ假リニ大別シテ、智情意ノ三要素トスレバ、ソノ何レニ障礙モシクハ缺陷アルモ、之ヲ健全ナル精神ト見做スコト能ハズ、故ニ精神状態鑑定ノ際ハ、ソノ何レヲモ平等ニ取扱ハザルベカラズ、往々犯罪者ガ犯行ノ方法ヲ良ク考ヘ、或ハ其際ノ行動ニ大過ナシナドノ理由ヲ以テ、精神ニ障礙ナクシテ敢行サレタル犯罪ナリト速断スル人アルモ、コハ精神界ノ全方面ニ、眼ヲ放タザリシ爲メニ來リシ誤謬ニシテ、之レ犯時ノ精神状態ヲ研究スルモノ、心セザルベカラザルコトナリ。

即チ茲ニ如何ナル病的心理ニヨリテ、精神病者ガ往々犯罪ヲナスモノナルヤノ大要ヲ畧記セン。

(甲) 智能界ノ障礙

智世界ノ障礙

錯覺

(イ) 知覺ノ障礙ハ所謂妄覺ニシテ、通常之ヲ分チテ、錯覺及幻覺トス、前者ハ刺戟ニ適應セザル知覺ニシテ、之ヲ錯視、錯聽、錯味、錯觸乃至錯嗅等ト云ヒ、例ヘバ夜中石燈籠ヲ盜賊ト見、風聲ヲ戸ヲ叩ク聲ナリト聽クガ如キ之レナリ。

幻覺

後者ハ何等ノ刺戟ナクシテ起ル知覺ニシテ、幻味、幻聽、幻視、幻嗅乃至幻觸ト云ヒ、例ヘバ空中ニ妖怪ヲ見、或ハ何等ノ裝置ナク立ちおろ聞キ、故ナク食物中ニ毒嗅アリト云フガ如キ之レナリ。是等ノ妄覺ハ多ク判斷力ノ衰弱セル精神病者ニ來ルモノナルモ、時トシテ精神發育弱キ小兒、婦人、或ハ強ク心身ノ疲勞セルモノ等ニ來ルコトアリ。例ヘバ小兒ガ往々幽靈ヲ見、斷食セル不眠ノ迷信者ガ、神佛ノ聲ヲ聞キ、或ハ其妻ヲ幻視スルガ如キ、或ハ過度ニ疲勞セル難船者數十人ガ、同時ニ打揃ヒテ救助船ヲ望見シ、如何ニ追跡スルモノノ實物ニ遭遇スルコト能ハザルガ如キ之レナリ。

然リ而シテ此妄覺ニヨリテ、往々犯罪ヲ惹起スルコトアリ、即チ罵詈惡口ヲ幻聽シテ、假想發言者ヲ傷害シ、食物ニ毒アリト幻味シテ、ソノ加害者ト思フ人ヲ斬リ、或ハ神ノ命令ト信ジテ、故ナク人家ニ放火スルガ如キ、其二三例ヲ舉ゲタルニ過ギズ、又妄覺アル證人ヲ取調ブル際ノ如キモ、ソノ供述ヲ如何ナル程度迄信用スベキカハ、十分ナル考慮ノ必要アルモノトス。

注意

(ロ) 注意障礙、多數ノ刺戟中ヨリ、任意ニ其一ヲ選擇シテ、明瞭ニ之ヲ知覺スルヲ注意スト云フ、注意ノ喚起セラル、ハ、刺戟ノ強度及情調、潛在觀念ノ多少等ニヨルモノニシテ、一定ノ刺戟ニヨリテ自ら注

記憶記録

意ヲ向クルヲ、能動的注意ト名ヅケ、他ヨリ促サレテ之ニ注意ヲ集中スルヲ、被動的注意ト云フ。往々妄想ニ氣ヲ取ラレ、或ハ一事ニ熱中スル時ハ、他事ニ注意ヲ向クルコト困難ナリ、時トシテ注意ヲ一事ニ固定スル能ハズシテ、一ヨリ他ニ容易ニ轉移スルコトアリ、之ヲ注意散漫ナリト名ヅク。小兒或ハ精神薄弱者ハ注意散漫ニシテ、常人ノ甚シク疲勞セル時ノ如キモ亦然リ、此ノ如キ場合ニ精密ナル仕事ニ従事スル時ハ、往々ニシテ必要ナル事ヲ觀過シ、過失ノ罪ヲ犯スコトアリ。

(ハ) 記憶及記録ノ障礙、記録トハ知覺像ノ痕跡ヲ保存スル能力ニシテ、記憶力トハ一旦得タル知覺ヲ再生セシムル能力ナリ、故ニ記録力ニ障礙アル時ハ、事物ノ知覺ヲ腦裡ニ殘存スルコト困難ニシテ、新事實ヲ速ニ忘レ去ルガ如キ之レナリ、通常記録ハ若年者ニ強ク、老年者ニ漸次薄弱トナルモノナリ、而シテ一時的ニハ疲勞、嗜眠、酩酊、感動乃至頭傷等ニヨリ、記録障礙ヲ來シ、病的ニハ癡呆性精神者ノ症狀トシテ來ル。

次ニ記憶力ニ障礙アル時ハ、往時ニ於ケル經驗ヲ再生想起スルコト、困難乃至不可能トナル、即チ前記ノ如ク記録不良ナル時ノ知覺ハ、追想モ亦困難ニシテ、全ク追想力ヲ失フ時ハ、之ヲ健忘症ニ罹レリト云フ。

健忘症

一般ニ健忘症ヲ分チテ、ソノ分量ノ關係ニヨリ、部分性或ハ全部性健忘、時間上ヨリシテ一時性或ハ持續健忘、ソノ進行ノ方向ニヨリテ、前進性、後進性及遲發性健忘等ニ大別ス。例ヘバ酩酊、腦震盪、絞縊或ハ痙攣發作等ニ際シ、諸種ノ健忘ヲ來スコトアリ。即チ病的酩酊中、數人ヲ殺傷シテ之ヲ記憶セズ、殺人後縊頸ヲ企テ、全ク其殺人行爲ヲ知ラズト云ヒ、癲癇ノ發作中種々難多ナル行爲ヲナシテ、之

虛談症

ヲ想起スルコト能ハザルガ如キ之レナリ。時トシテ記憶不良ナルモノガ、往々記憶ノ缺陷ヲ、諸種ノ想像ヲ以テ補綴スルガ爲メ、追想ハ全ク虚談トナルコトアリ、之ヲ虚談症ト云ヒ、低能者ハひすてり或ハ痴呆性精神病者等ニ之ヲ見、彼等ハ全ク悪意アルニアラズシテ、虚談潤色ヲナスモノナリ。故ニ此ノ如キ精神缺陷者ガ、原告或ハ被告トナレル際ニハ、ソノ申立ノ眞實性ニ就テハ、十分ノ注意ヲ以テ評價スベキモノトス。

時トシテ記憶ノ障礙ノ爲メ、他人ヨリ委任セラレタル金品ノ交付期限ヲ忘レ、或ハ契約ヲ履行スルヲ忘却シテ、對者ニ損害ヲ被ラシメ、或ハ自己ノ職責ヲ忘レテ官吏服務令ニ違反シ、不實ノ供述ヲナシテ偽證ノ罪ニ問ハレ、或ハ奇異誇大ノ流言ヲナシテ世人ヲ惑ハシ、以テ諸種ノ犯罪ニ該當スルコトアリ。

(二) 次ニ想像ハ記憶ト異ナリ、實際知験ノ單ナル再生ニアラズ、之ニ一定ノ觀念ヲ結合シテ、新ラシキ觀念ヲ生ゼシムル作用ナリ、即チ想像ニモ昂進ト減退トアルハ言ヲ俟タズ、一般ニ小兒、婦人、ひすてり患者及變質者等ニ於テハ、想像力昂進シ、精神薄弱者ニ在リテハ減退スルヲ常トス、而シテ彼等ハ追想不良ナルガ故ニ、想像力昂進スル時ハ、ソノ虚談症ハ益々著明トナル。

(ホ) 抽象障礙、吾人ハ數多ノ觀念群中ヨリ、右觀念ニ共通類似セル點ヲ抽出シ、夫等ヲ集合シテ、其概念ヲ構成スル能力ヲ有ス、之ヲ抽象力ト云フ、即チ此力アルニヨリ、吾人ハ能ク具體的觀念ヨリ、形而上ノ概念ヲ構成スルコトヲ得ルモノナリ、而シテ此概念ノ構成ハ、無教育者、及ビ精神薄弱者ニハ著シク貧弱ニシテ、例ヘバ痴愚者ハ窃盜乃至殺人ノ惡事ナルヲ知ルモ、罪惡ナル概念ノ如何ナルモノナルヤヲ、十分會得スル能ハザルガ如キ之レナリ。

抽象

想像

觀念

考慮

強迫觀念

(ハ) 觀念聯合障礙、觀念聯合ハ記憶、思考及ビ判斷等ノ複雜ナル精神作用ノ結合ヲ要スルモノナレバ、其障礙ハ直ニ精神作用ノ障礙ヲ來サシム、而シテ觀念聯合ノ遲徐トナルハ、精神薄弱者、憂鬱者等ニシテ、ソノ速進スルハ興奮時及酩酊時ニ在リ、特ニ酩酊時ニハ類音聯合多シトナス。

(ト) 考慮障礙、吾人ガ或考慮ヲ表出セントスルニハ、先ヅソノ目的觀念ヲ定メ、之ニ關係アル觀念群ヲ選擇排列スルノ要アリ、故ニ觀念聯合ノ障礙アラバ、考慮モ亦自ラ障礙ヲ被ルハ自然ノ數ナリ、例ヘバ老人或ハ精神薄弱者ハ考慮拙ナル爲メ、ソノ表出ガ目的觀念ニ達スルニハ、頗ル迂遠冗長ヲ極メ、時トシテ或觀念ガ考慮中ニ絶ヘズ浮出シテ去ラズ、到底之ヲ排除スルコト能ハザルコトアリ、之ヲ強迫觀念ト云ヒ、コハ神經質者或ハ憂鬱病者ニ、屢々現出スルモノナリ。

考慮ノ進行促進スルモノハ、酩酊者、躁病者等ニシテ、甚シキハソガ輕移奔逸シテ、談話ニ系統連絡ヲ缺クコトアリ、或ハ思考錯亂セルモノニアリテハ、單ニ無意味ノ音聲ヲ羅列セルニ過ギズ、之ヲ語臚ト云フ、反之、鬱病者及神經質者等ノ沈鬱時ニ於テハ、考慮ノ進行ハ著シク遲徐トナリ、思想ノ發表極メテ貧弱單調トナル、之ヲ考慮制止ト云フ、往々ニシテ思考錯亂シ、或ハ考慮制止アル爲メ、訊問ノ際、言ヲ左右ニ托スルガ如ク思ハレ、意想奔逸スルヲ見テ、出鱈目ヲ云ヒ居ルガ如ク思惟サル、事アリ。時トシテ、強迫觀念ガ優越ナル勢力ヲ有シ、常ニ思考ノ中心ヲ占居シテ、甚シク強迫的ニ病者ヲ壓迫シ、病者ハソノ惡事ナルヲ知リツ、モ、ソレニ左右セラレテ不快不安ニ陥リ、此病的觀念ノ命令ニ從ハバ、一時ハ安易ヲ感ズルモ、然ラズンバ容易ニソノ不安ヲ脱出スル能ハザルコトアリ、爲メニ一時ノ安易ヲ得ントシ、或ハ止ムナキ苦悶ニ驅ラレ、諸種ノ犯罪ヲ敢行スルコトアリ、例ヘバ潔癖、水淫、穿鑿癖、

判斷及推理

計算辨等ニヨリ家宅侵入ヲナスガ如キ之レナリ。

妄想

(チ)判斷及推理ノ障礙、多クノ命題ノ意義ヲ斷定スルヲ判斷ト名ヅケ、其内ヨリ更ニ新ラシキ命題ヲ構成スルヲ推理ト云フ、而シテ此推理ニハ歸納的ノモノト、演繹的ノモノトアルハ言フ俟タズ、而シテ此判斷及推理ハ、精神健全人ニテモ、觀察ノ粗漏ナルコト、熟慮ヲ缺クコト、乃至偏見ニ捕ハル、コト等ニヨリテ、往々誤謬ニ陥ルヲ免レズ、低能者或ハ精神病者ハ、ソノ病的心理ニ驅ラレテ、往々判斷及推理ニ誤謬ヲ來ス、之ヲ妄想ト名ヅク、換言スレバ妄想トハ一種ノ錯誤的所信ナリ、故ニ妄想ハ他ヨリ如何ニ、其誤謬乃至矛盾ヲ力説スルモ、毫モ之ヲ訂正變更スルコトナキヲ特徴トシ、之ヲ以テ精神健全人ニ來ル誤信乃至迷信ト鑑別スルコトヲ得、即チ誤信迷信等ハ、他ヨリ其反證ヲ舉ゲ來ラバ、容易ニ之ヲ訂正スルコトヲ得ルモ、妄想ハカ、ルコトニヨリテ、却テソノ強度ヲ増シ、或ハ系統的ニ變ジ、所謂妄想城府ヲスラモ形成スルコトアリ。

然リ而シテ、妄想ハ全ク原發的ニ來ルコトアリ、或ハ幻覺、錯覺ニ誘發サル、アリ、或ハ感情ノ激發、意識渾濁、精神薄弱、追想錯誤等ニヨリテ顯出スルコトアリ、而シテ妄想ノ種類ハ極メテ多ク、誇大性、發明性、及ビ色情性妄想ノ如キハ、一括シテ發越性妄想ト云ヒ、反之、抑鬱性妄想ニ屬スルモノハ罪業性、被害性、追跡性、關係性、嫉妬性、化身性、憑依性、貧困性、心氣性及虛無性妄想等ナリ、是等ハ夫々凡ソ名詮自稱ノ意味ヲ有スレバ一々之ヲ説明セズ、例ヘバ化身性妄想ニ於テハ男ニシテ女化シタリト妄信シ、憑依妄想ニ於テハ神或ハ狐狸等ニ取り付カレタリト思惟スルガ如キ之レナリ、尙妄想ニハ一時性ノモノアリ、或ハ持續性ノモノアリ、遂ニ一生不拔ノ妄想城府ヲ作ルコトスラモアルモノナリ。此

智力

ノ如キ有様ナレバ、妄想ガ犯罪ノ原因トナルコト甚ダ多ク、通常ノ考ヘ方ニ於テ、非常ニ奇妙ナル動機ノ或ハ原因不明ノ犯罪アラバ、先ヅ眼ヲ此方面ニ向クル必要アルナリ、例ヘバ被害妄想アル患者ガ、假想ノ仇敵ヲ斬リ、嫉妬妄想アルモノガ、假設ノ姦夫ヲ害スルガ如キ、或ハ罪業妄想ニヨリ、自殺ヲ企ツルガ如キ之レナリ。

(リ)智力薄弱、先天性ニ智力薄弱ヲ示スモノハ、白痴、痴愚及魯鈍等ニシテ、後天的ニハ諸種ノ痴呆症、中毒症、老耄病、腦ノ疾患及外傷等ニ精神薄弱ヲ見ルモノニシテ、ソノ思慮淺薄、判斷力十分ナラズ、意志ノ被影響性ニ富メルガ故ニ憤激シ易ク、他人ノ犯罪ヲ模倣シ、或ハ他人ニ教唆セラレテ、諸種ノ犯罪ヲ來スモノニシテ、犯罪者中痴愚者ハ甚ダ多キモノナリ。

意識

(ヌ)意識障礙、意識トハ外界ヨリ來ル刺激ヲ、精神作用ニ轉化スルカナレバ、完全ナル無意識狀態ト、不完全ナル意識狀態トノ間ニ、濃淡種々ノ程度ノモノアリ。即チ意識渾濁狀態ニ在リテハ、外界ノ事物ヲ了解スルコト正シカラズ、注意不完全ニシテ、考慮ノ進行ハ妨害セラレ、判斷ニ誤謬多ク、記憶不良、感情ノ發露十分ナラズ、行爲ハ衝動性無目的トナリ、精神ハ一般ニ茫乎トシテ、外界ノ認識ハ不確實、往々妄覺妄想ヲ伴フモノナリ、而シテ此意識渾濁中ノ行爲ハ、多クハ追想不能ナルカ或ハ不十分ニシテ、事實ヲ錯誤シテ追想スルコトアリ。

朦朧狀態

次ニ意識全ク缺如スル場合ニハ犯行ヲナスコト少ナシ、然ルニ意識渾濁スレドモ、朦朧ナガラニモ外來ノ刺激ニ對シテ反應ヲ呈スルコトアリ、之ヲ朦朧狀態ト稱シ、往々此間ニ犯罪ヲナス。一般ニ意識障礙ハ睡眠、酩酊、感動、月經時、分娩時、頭部外傷、高熱、中毒等ニヨリテ來ルモ、特ニひすてり及癲癇ニ

二重人格

來ル朦朧狀態中ニハ、種々ノ犯罪ヲ惹起スルモノアリ。即チカ、ル患者ガ朦朧狀態ニ陥ラバ、亢奮、躁暴、苦悶乃至譫妄等ヲ來シ、恐怖性或ハ被害性ノ幻覺、又ハ妄想ヲ有シ、爲メニ種々ノ危害ヲ招ク、時トシテ同一人ニテ異ナル意識狀態ニ相當シ、相違セル二種、モシクハソレ以上ノ人格ヲ有スルコトアリ、之ヲ二重人格ト云フ、而シテ此朦朧狀態ノ持續ハ、短キハ一、二時間ナルモ、長キハ數週乃至數ヶ月ニ亘ルコトアリ、而シテ此間ニ於テ、往々萬引、放火、家宅侵入、猥褻行爲乃至殺人等ヲナシ、而モ爾後全ク之ヲ想起シ得ザルコトスラアリ。

被催眠狀態

次ニ被催眠狀態ニモ、濃淡種々ノ程度アリ、良ク催眠術ニ罹リシモノハ一般ニ術者ノ暗示ノマ、ニ行動スルモノナリ、然レドモ催眠術ヲ利用シテ犯罪ヲナスコトハ、非常ニ困難ナルモノニシテ、催眠術ニカケラレテ強姦セラレタリ、殺人ヲ暗示ニヨリテナセリ、ナド云フ時ハ非常ナル注意ヲ以テ之ヲ診定スベキモノニシテ、被催眠術者ハ無害ノ暗示ハ容易ニ之ヲ行フモ、有害ナル暗示ハ實行セザルヲ常トスト云フ。

酩酊

酩酊ノ際ニモ、意識濁濁ノ程度ニ種々アリ、其輕度ノ際ニハ思考散亂シ、多辯トナリ、洒落ヲ亂發シ、多動不安ニシテ考慮ハ淺薄トナリ、批判偏狹、感情刺戟性ニ變ジ、憤怒シ易ク、ヨク喧嘩シ、從テ傷害放火等ノ犯罪ニ陥リ易シ。次ニ酩酊ノ極、全然意識ヲ喪失スレバ、却ツテ反社會行爲ニ出ヅルコト少シ、時トシテ癲癇、ひすてり或ハ變質者等ニハ、酒精ノ作用常人ニ比シ甚ダシク強ク、所謂病的酩酊ニ陥リ、比較的少量少ナキニ係ハラズ、甚シキ意識濁濁ヲ來シ、抑鬱性苦悶性トナリ、盲目的ニ暴行乃至自殺等ヲ企テ、甚シキ場合ニハ狂亂狀態ニ變ジ、恐怖性ノ幻覺及被害妄想等ヲ來シ、甚シク殘酷ナル犯罪ヲナスコトアリ。

病的酩酊

精神感動

次ニ精神感動甚シキ時ハ、常人ニテモ多少意識濁濁ヲ免レズ、思慮アル人モ感激ニ驅ラレ、思ハザル傷害乃至殺人等ヲナスコトアルガ、精神病者等ニ於テハ、感動ノ異常發作常人ニ比シ尙甚シ、從テ此ノ爲メニ犯行ヲナスコト多シ。

月經時異常

ひすてり性及變質性婦人ニ在リテハ、月經時及分曉時ニ往々意識濁濁ヲ來シ、萬引、放火乃至殺兒等ヲナスコトアリ、此際重症ナル時ハ、ソノ兇行ノ記憶殆ンド無キヲ普通トス、原因不明ナル婦人ノ萬引、或ハ放火等ニ就テハ、常ニ此點ニ注意スベシ。

其他腦震盪ノ際ニ意識濁濁ヲ來シ、逆行性健忘ヲ伴フコトアリ、躁暴譫妄狀態ニテモ、意識濁濁ヲ來スコトアルハ言フ俟タズ。

睡眠酩酊

時トシテ、生理的睡眠ノ際ニモ、種々ノ病的意識濁濁ヲ來スモノナリ、例ヘバ突然睡眠ヨリ覺醒セントスル際、暫時意識朦朧トシテ、周圍ヲ辨ゼザルコトアリ、之ヲ睡眠酩酊ト云フ、此間ニ於テ、感動若クハ夢中ノ觀念ニ捉ハレテ、意外ノ犯罪ヲナスコト稀ナラズ、特ニ酒客及癲癇ニ罹レルモノニ、此ノ如キコト多シ、又往々不快恐怖性ノ夢ニ襲ハレ、或ハ酩酊シテ睡眠セルモノガ、突然覺醒セントスル時ニ、所謂睡眠酩酊ヲ來シ、多少原因アルガ如ク見ユル犯罪ヲナスコトアリ。夢中遊行トハ、睡眠中起キ上リテ諸所ヲ徘徊遊行シ、或ハ複雑ナル行爲ヲナシタル後、再ビ床中ニ復歸シ、睡眠ヲ續ケ、覺醒後ニ何事モ夢中遊行中ニ行ヒタルコトヲ記憶セザルモノヲ云フ、本症ヲ來シ易キモノハ、癲癇、ひすてり及變質者等ニシテ、小兒ニモ往々之ヲ見、此發作中、時トシテ竊盜放火等ヲナシテ之ヲ知ラザルコトアリ。

夢中遊行

感情界ノ障礙

(乙) 感情界ノ障礙

情緒氣分

通常快、不快ノ如キ、要素的感情ヲ單一感情ト名ヅケ、憤怒恐怖、鬱憂ノ如キ複雑ナル感情ヲ、複合感情又ハ情緒ト云フ、情緒ノ稍永續的ノモノヲ氣分ト云ヒ、氣分ノ露ハレ方ノ傾向ヲ氣質ト名ヅク、時トシテ強甚ナル情緒起リテ、思考及行爲ヲ支配スル時ハ、之ヲ感動ト云フ、而シテ高等ナル審美及道義ニ關スル感情ヲ情操トシ、情操ノミ先天的乃至後天的ニ鈍麻スルヲ道德狂ト云フ。

而シテ癲癇モシクハひすてり患者變質者等ハ、多クハ異常氣質ヲ有スルモノニシテ、俗ニ變人ト呼バル、モノハ之ニ屬ス、例ヘバ常ニ陰氣ニシテ、些細ナルコトニ苦慮心配シ、前途ヲ悲觀シ、厭世ノ極、自殺ヲ企圖スルガ如キ悲觀性氣質者、反之、常ニ爽快、上機嫌ニシテ希望幸福ニ充タル樂天性氣質者、小膽臆病ニシテ決斷力ニ乏シク、恐怖羞耻ノ念アリ、常ニ孤獨閑居ヲ好ム怯懦性氣質者及自恣ニシテ不平不滿多ク憤怒激昂シ易キ憤怒性氣質者等アリ、舉ゲテ數フベカラズ、ソノ氣質ニ殊ヒサレテ、諸種ノ犯罪ヲナスモノナリ。

(イ)感情過敏、精神異常者ニハ、往々ニシテ感情過敏ナルモノアリ、僅微ナル誘因ニヨリテ、忽チ不滿乃至憤怒ヲ來ス、コハ酩酊者癲癇者乃至ひすてり患者ニ見ルコトニシテ、又感情轉換ノ甚シキモノアリ、忽チ笑ヒ、忽チ泣ク、ひすてり患者癲癇等ニ此ノ如キモノ多シ、時トシテ精神病者ニ於テ、全ク外因ナクシテ突然強激ナル感動起リ、或ハ妄覺妄想ノ爲メニ感動續發シ、又ハ僅微ノ原因ニヨリ、意外ニ大ナル感動ノ來ルコトアリ、例ヘバ、病的憤怒ノ如キレニシテ、癲癇者ひすてり患者乃至神經質者ガ、僅カノコトニ甚シク憤怒シ、強度ノ意識瀾濁ヲ伴ヒ、後ニ至リテ追想不充ナルコト多キハ其例ニシテ、此際ハ顔

感情過敏

病的恐怖

面蒼白、四肢震顫、發汗及筋肉攣縮等ヲ見ル。

(ロ)病的恐怖モ亦屢精神病者ニ顯出シ、恐怖ノ餘リ逆襲的ニ、妄想上ノ仇敵ヲ傷害スルコトアリ、次ニ病的鬱憂モ亦、罪業乃至心氣妄想ニ伴ヒテ來リ、遂ニ憂鬱ノ極、所謂苦悶發作ヲ來シ、激情ノ爲メ身體的ニモ、知覺脫失、心悸亢進、顔面蒼白、呼吸困難、四肢震顫乃至發汗等アリ遂ニ肺心ノ壓迫感、意識瀾濁等顯出シ、最後ニ所謂暴動發作、或ハ苦悶性暴動トナリ、殆ンド衝動的無目的ニ暴行シ、自殺ヲ計リ、人ヲ殺傷ス、而シテ此暴行ヲ遂行スルヤ、苦悶ハ突如トシテ消去シ、胸内苦惱去リ、恰モ深夢ヨリ醒メタルガ如ク、暴行ヲ悔イ、後ニ至リテ、發作中ノ言動ニ對スル追想不十分ナルヲ常トス、而シテ此暴動發作ノ持續時間ハ、通常數分間乃至三十分位ナルモ、稀ニハ數ヶ月ニ互ルコトアリ。

(ハ)反之、感情鈍麻シ來レバ、刺戟ニ對シテ感情動カズ、如何ナルコトニ遭遇スルモ、一向平氣ニシテ恰モ知ラザルガ如クス、之ヲ感情不管性ト云フ、コハ精神薄弱者及痴呆者ニ見ル徵候ナリ、一般ニ痴呆ニ進ム精神病ニ於テハ、ソノ初期ニ智力ノ甚シク犯サレザルニ先チ、感情ハ著シク鈍麻シ、喜怒哀樂ノ情動カズ、事物ニ對シテ無趣味冷淡トナリ、破廉恥ニシテ、只管、我儘強情トナルコト多シ。

時トシテ、精神ノソノ他ノ方面甚シク犯サレザルニ比シ、道德的感情ノミ甚シク發育セザルカ、若シクハ退化セルモノアリ、之ヲ道德狂ト云ヒ、或ハ尋常人ニ不快嫌惡ヲ催スガ如キコトヲ、却テ好快ニ感ズルモノアリ、之ヲ感情倒錯ト云フ、神經質者或ハひすてり患者ガ花ノ香ヲ嫌ヒ、妊婦ガ奇異物ヲ食フヲ好ミ、道義的感情ノ倒錯ヨリ、人或ハ動物ノ痛苦ヲ見テ、却テ好快ノ情ヲ催スガ如キノ例ナリ。

(二)慾情障礙、時トシテ餓餓感情ノ減退セル爲メ、精神病者ガ數日乃至數週拒食シ、或ハソガ昂進セル爲

感情障礙

道德狂

不管性

感情鈍麻

暴動發作

メ、盜食或ハ窃盜ニヨリテ、ソノ食欲ヲ滿サントシテ犯罪ヲナスコトアリ、コハ屢々白痴及痴愚者等ニ見ルコトナリ、又飢餓感情倒錯シ、砂礫、壁土、白墨乃至炭等ヲ好ンデ食フモノアリ、コハ痴愚者、ひすてり患者等ニ多ク現出ス。

色慾昂進

次ニ色慾ノ昂進ハ、痴愚者及變質者等ニ多ク、男子ハ荒淫ニ流レ、姦通、強姦及之ニ關スル詐欺窃盜等ヲナス。女子ニ於テハ、不貞破倫ノ行動ヲナスコト多シ。

色慾減退

色情ノ減退ハ、生理的ニハ老年、病的ニハ精神病ノ初期及中毒等ニ於テ來ル、又生來性ニ色情ニ全ク冷淡ナルモノアリ、或ハ色慾アルモ精神的ニ交接不能トナル場合ヲ見、之ヲ精神的陰萎ト云フ、此ノ如キ人ハ普通ノ性交ニ成功セザルガ故ニ、婦女ノ衣服ニ觸レツツ手淫ヲナスガ如キコトアリ。

色慾早發

而シテ色慾ハ通常春機發動期ヨリ起リ、女子ニ於テハ四五十歳、男子ニテハ六、七十歳ニ及ベバ、漸次減退スルヲ常トスルモ、時トシテ十二、三歳稀ニ六、七歳ニシテ、生殖器ノ異常發育ヲ伴ヒ、或ハ然ラズシテ、色慾ノ早發ヲ來シ、異性ヲ追ヒ、或ハ公然手淫ヲナスガ如キコトアリ、之ヲ色慾早發症ト云フ、反之、常人ナラバ已ニ色慾ノ甚シク減退スル頃ニ至リ、頓ニ亢進シ來リ、或ハ老年者ガ少女ヲ弄ビ、老女ガ青年ニ戯ムルガ如キコトアリ、之ヲ色慾再燃症ト云フ、何レモ精神薄弱者及痴呆者ニ多ク顯出ス。尙尋常ノ手段ニヨラズ、變態的方法ニヨリテ、色慾ノ亢進ヲ感ズル色慾倒錯症ナルモノアリ、之ニ屬スル手淫、陰部露出症、淫虐症、被淫虐症、淫物症、同性愛、鷄姦及屍姦等ニ就テハ、前記猥褻行為ノ部ニ略述シタレバ、茲ニ之ヲ省畧ス。

色慾再燃

(丙) 意志障礙

行爲

意志行爲

凡ソ行爲ヲ心的過程ニヨリテ、五種ニ區別ス、即チ單ニ刺激ヲ受ケタル後、直ニ反射ニ來ルモノヲ反射行爲ト云ヒ、本能ニ基キテ無意識ニ行ハル、ヲ本能行爲、衝動ノミニ驅ラレテ行ハル、ヲ衝動行爲、始メハ意識的ニ行ハレタルモ、習慣的ニ殆ント無意識ニ行ハルルニ至リタルヲ自動行爲、二以上ノ動機ノ内ヨリソノ一ヲ撰擇シ、意志ノ自由決定ニヨリテ行ハル、モノヲ意志行爲ト云フ、此内ニテ完全ナル責任能力ヲ有スルハ、即チ意志行爲ニシテ、コハ意志ノ自由ナル決定ヲ經テ行爲ヲナスガ故ナリ。

意志ノ變常

(イ) 意志亢進セルモノハ舉止落付カズ、忍耐力ニ乏シク、同一事ニ長ク從事スルコト能ハズ、從ツテ動モスレバ、輕舉暴動ニ出デ易シ、酩酊者、發揚者、癲癩病者、緊張病者等ニ之ヲ見ル。

(ロ) 意志ノ減退セルモノハ言動緩漫トナリ、不活潑ニ見ユ、早發痴呆者、泥醉者、老耄者等ニ之ヲ見ル。

(ハ) 意志被影響性ノ昂進セルモノニアリテハ、容易ニ外界ノ刺激ニ支配セラレ、模倣性ニ富ミ、他人ニ使喚煽動サレ易シ、コハ被催眠術者、早發痴呆患者、痴愚者、ひすてり患者等ニ見、甚シキニ至リテハ、所謂反響症狀ヲ呈スルコトアリ。

衝奇症狀

(二) 意志倒錯セルモノニアリテハ、行動ハ錯亂シ、ソノ行爲ノ目的ヲ知ルコト能ハズ、或ハ態ト奇體ナル行動ヲナスコトアリ、之ヲ衝奇症狀ト云ヒ、或ハ一定ノ行爲ヲナサントスル際ニ、故ナク他ノ行動顯出シ、初メノ目的ヲ逸脱スルコトアリ、之ヲ意志ノ脱線ト名ツケ、或ハ一旦始マレル運動ヲ永ク變化セズ、ソノマ、ニ長時間續クルコトアリ、之ヲ常同症ト云フ。

(ホ) 時トシテ癲癩及ひすてり患者或ハ變質者ガ、衝動的ニ種々ノ犯行ヲナスコトアリ、即チ殆ンド動機モ原因モ知ル能ハズシテ、殺人、自殺、窃盜乃至放火等ヲナシ、或ハ徘徊衝動ニヨリ、何等ノ目的ナク屢

外出彷徨ナスガ如キ之レナリ。

此ノ如キ有様ナルガ故ニ、精神健全人ニテモ、往々犯罪時ニハ、一時的ニ多少精神ニ異常ヲ來シ居ルコトアリ、又前記犯罪者ノ分類乃至犯罪心理ヲ丁寧ニ研究スレバ、犯罪人ノ多數ハ生レナガラノ精神の缺陷者ナリト云フヲ得ベシ。而シテ是等犯罪人等ノ精神の缺陷ヲ調査シテ、ソガ如何ナル程度ニアルカヲ診定スルハ、法醫學的精神病學ノ對象トスル所ニシテ、ソノ診定ニ基キ、社會ニ於ケル危險分子ヲ適當ニ所置シ、法益ヲ保護スルハ司法官并ニ行政官ノ爲スベキ事業ナリ。輒近世界文明ノ躍進ト共ニ、精神病者モ亦甚ダ増加シ、從テ一面ニハ犯罪人乃至訴訟事件増加シ、他面ニハ法ノ適用益々巧妙トナルニ從ヒ、法醫學的精神病學ノ應用愈多キヲ加フルニ至レリ。論ジテ茲ニ至レバ、社會公安ノ義務ヲ分擔スル醫師ハ、ソノ職責上并ニ彼ノ専門の技術上、是非法醫學的精神病學ノ智識ヲ豊富ニシ、常ニ眼ヲ社會問題ノ上ニ放タザルベカラズ。

予ハ本書ニ於テ法醫學的精神病學ノ大要ヲ述べ、一ハ初學者ノ嚮導トナリ、他ニハ實地醫家ノ參考ニ供セントス、即チ本書ヲ閱ミスルモノハ、已ニ精神病學ノ大體ニ通曉シ居ラル、ヲ前提トシ、精神病學の事項、例ヘバ精神病ノ症候、診察法等ニ就テハ、精神病學書ニ譲リ、敢テ贅言ヲ費サズト雖、我等ノ遭遇シタル鑑定例ハ長キヲ厭ハズ添加シテ、一面ニハ精神病者診察法等ノ補助トナシ、他面ニハ鑑定書記載方ノ參考トナサント欲ス。

II. 刑法ト精神病者

Criminal law and the insane.
Le Code penal et les malades mentaux.
Das Strafgesetz und die Geisteskranken.

刑法ト精神病者

刑法ノ目的

刑法ノ目的トスル所ニ二學說アリ、一ハ報復主義ニシテ、コハ其犯シタル罪ノ結果ヲ以テ標準トナシ、社會又ハ個人ニ及ボシタル損害ノ程度ニ正比シテ罪ノ輕重ヲ定メ、以テ罪人ニ報復シ、同時ニ社會ヲ威嚇シテ、ソノ公安ヲ保持ストノ主意ヲ有スルモノナリシガ、現今ニ至リテハ此主義ニ贊同スルモノ少クナレリ。他ハ目的主義ト云ヒ、專ラ社會ニ犯罪ヲ斷絶スルヲ以テ原則トシ、犯罪者ノ心性ヲ矯正馴化シテ、惡事ヲ再ビセザル様ニシ、以テ出來ル限リ社會ヨリ、犯罪ノ源泉ヲ除去セント欲スルニ在リ。今日ノ刑法學者ハ多ク此主義ニ從フ。刑法ノ目的此ノ如クナルニ於テハ、精神の缺陷ニ基キ、或ハ無意識ノ間ニ爲サレタル犯罪ニ對シテ、犯人ニ刑ヲ加フルモ、報復威嚇ノ效ヲ奏セズ、況ンヤ矯正馴化ニ於テヤ、茲ニ於テ精神病者ノ犯行ニ就テハ、之ニ刑罰ヲ加フルニ當リ、司法官ハ一定ノ考量ヲ費サルベカラズ、即チ犯罪人ノ精神狀態鑑定ノ必要茲ニ於テカ起ル。ソノ他犯罪者ノミナラズ、刑法上ノ原告或ハ證人參考人等ニ就テモ、豫メソノ精神狀態ニ異常ナキヲ確實ニシ置カザレバ、彼等ノ申立モ何等法廷上ニ價值ナキモノトナラン。今刑法ト精神病異常トノ關係ニ付注意スベキ要點ヲ舉グレバ左ノ如シ。

(イ)精神病者ノ犯罪行爲、犯罪人ノ多數ハ、精神の缺陷者ナルコトハ已述ノ如シ、逆ニ精神病者ハ甚屢々犯法の行爲ヲナスモノニシテ、例ヘバ、癲癩病者、或ハ變質者ハ往々極メテ慘酷ナル殺人ヲナシ、老耄狂者、麻痺狂者或ハ變質者ハ、意外ナル猥褻行爲ヲナシ平然タルガ如キ之レナリ。ソノ他分娩直後ノ婦人ノ初生兒殺害、常習性犯罪、外見上動機ナキ犯罪等ヲ發見シタル場合ニハ、必ズ犯人ノ精神狀態ニ注目スベシ、實ニ精神病者ハソノ内の興奮、或ハ刺戟性亢進ノ爲メ、輕微ノ動機或ハ刺戟ニ依リ、不相應ナル反應の行動ヲ惹起シ、社會ニ不測ノ災禍ヲ及ボスモノナリ。然レドモ或種ノ精神病ノ一症候アリトテ、之ヲ

精神病者ノ犯罪

色慾異常責任能力

以テ直ニ病的行爲ト論ジ、殺人、竊盜、乃至放火等ノ行爲ヲ目シテ、容易ニ殺人狂、放火狂或ハ竊盜狂トシテ、精神病ノ名ヲ亂用スル傾キアレド、精神病學ニハ此ノ如キ名稱ナシ、實際放火ハ愚鈍者、婦人ニ多ク、同ジク自殺行爲ノ如キモ、精神病者ニ多キハ事實ナルモ、自殺者ヲ目シテ、直ニ精神病者トナスガ如キハ穩當ナラズ。又性的犯罪ノ如キモ、精神異常者ニ來タル事多ク、あつしやふえんぶるぐ氏ノ報告ニヨレバ、猥褻罪ヲ犯セル受刑者二百名中、精神健全ナルモノ僅ニ四十五名ナリシト云ヒ、れつぶまん氏ノ研究ニヨレバ、強姦犯人九十名中、精神健全ナルモノ三十名ニシテ、他ハ皆精神病者ナリト云ヒ、ぼんふえへる氏モ亦、略同様ノ報告ヲナシ、ろんぶろどう氏ハ、癲癇病者ハ發作性ニ情慾甚シク發揚シ、強姦罪ヲ犯スコト多キモノナリト云ヘリ、尙色慾異常、例ヘバ、淫虐症、被淫虐症等モ亦、精神病者ノ一症狀トシテ來ルコト多キモ、斯クノ如キ色慾異常アレバトテ、悉クソヲ精神病者ト斷ズルハ早計ナリ。即チえりす氏ハ全ク精神健全ナル人ニ、淫虐症ノ來ルコトアルヲ報告シ、榊氏ハ色慾異常者ト稱セラル、モノ、狀況ヲ視ヒテ、ソレヲ健全者ニ發見スルモノトセバ、強サヲ異ニスル爲メ、重態ナル名ヲ附セラ、ニ過ギズト云ヘリ、故ニほふまん氏ノ如キハ、色慾ノ異常ハ、完全ニ責任能力アル状態ニテ行ハル、コトアリ、ソノ行爲自身ハ、如何ニモ奇抜ニシテ、人ノ耳目ヲ惹クベキモノナルニモセヨ、只ソレノミヲ以テ精神異常者ノ行爲ナリト云フ能ハズト云ヘリ。

予ヲシテ一言ニ之ヲ盡サシメバ、斯ル奇妙ナル行爲ガ、精神病ノ一症候トシテ現出スレバ、勿論責任能力ニ影響ヲ及ボスナランモ、單ニ健康人ニ來ル異常ノ行爲ニ關シテハ、寧ロ十分ナル責任ヲ負ハシムベキモノナリト信ズ、之レ單ニ異常行爲ナルガ故ニ、直ニ責任能力ヲ左右セシメントスル人ノ爲メニ、一言附

證人及原告ノ精神狀態

加シタル所以ナリ。

(ロ)證人及原告トシテノ精神病者、證人ノ證言及原告ノ申立ヲ確實ナラシメンニハ、ソノ精神狀態完全ニ正常ナルヲ必要トス、何トナレバ精神病者ハ妄覺、妄想及記憶錯誤等ニ依リテ、種々ノ虛言ヲ吐キ、事實ヲ忘ル、等ノ事アレバナリ。例ヘバひすてり患者ガ想像ヲ以テ事實ヲ虛談潤色シ、癲癇患者ガ記憶ノ缺損ヲ、想像の夢想ヲ以テ補綴シ、妄想性癡呆患者ガ妄想ヲ事實トシテ申立ツルガ如キ之レナリ。

(ハ)精神病者ニ對スル犯罪、精神病者或ハ白痴ヲ利用シテ之ニ淫行ヲナシ、心神喪失或ハ抗拒不能ニ乘ジ種々ノ惡事ヲ行フコトアリ。

三、民法ト精神病者

Civil law and the insane
Le code civil et les malades mentaux
Das Zivilgesetz und Geisteskränke

民法上成年ニ達シタルモノハ、自己ノ財産ヲ合法的ニ且安全ニ處理シ、民法ノ規定スル所ニ從ヒ、財産權ニ對シ、同意拒絶等ノ意思表示ヲ明瞭ニセザルベカラズ、即物權及債權ニ於テ讓渡、契約、贈與、賣買、交換、貸借、委託、管理等ヲ履行シ、又親族關係ニ於テ婚姻、離婚、養子、扶養、相續、遺言等ヲ所理セシメニハ、各般ノ習慣的乃至學習的智識、及正常ナル判斷、并ニ意思作用ノ完備ヲ緊要トス、今是等ニ對スル能力ノ幾分或ハ全部ヲ缺如セルモノハ、自己ノ家族ニ對シ相當ナル處分ヲナスコト能ハズシテ、小ニシテハ自己ノ不幸ヲ招キ、大ニシテハ國家管理上ニ障害ヲ來スモノナリ、斯カル能力缺如者ニ對シテハ、國家ハ其者ノ權利ヲ制限シ、以テ不測ノ災ヲ避ケザルベカラズ、之レ民法上精神狀態鑑定ノ必要ナル所以ナリ。

精神病者ニ對スル犯罪

民法ト精神病

四、精神狀態ニ關スル鑑定事項

Expert evidence on the insanity.
Examen psychique
Gutachten über den Geisteskranken.

精神狀態鑑定

刑法第三十九條及四十一條ニ依レバ、心神喪失者及滿十四歲以下ノ者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ、心神耗弱者ノ行爲ハソノ罪ヲ輕減セラル、又民法第七條ニヨレバ心神喪失ノ常態ニ在ル者ハ、一定ノ人ノ請求ニ依リ禁治産トナシ、尙民法第七百十三條ノ規定ニヨレバ、心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ、賠償ノ責ニ任セズトアリ、ソノ他之ニ準ジテ心神耗弱者ヲ準禁治産トナスコトヲ得ルモノナレバ、是等ノ關係上醫師ガ屢法廷ニ關係アルモノ、精神狀態ニ關シ鑑定ヲ命ゼラル、コトアリ。

今醫師ノ鑑定ヲ命ゼラル、重大ナル事項ヲ舉グレバ左ノ如シ。

- 一、犯罪者ガ刑法上ニ所謂心神喪失者ナルヤ、將タ心神耗弱者ナリヤ。(責任能力)
- 二、民法上自己ノ財産、又ハ家族ノ損益ニ關シテ之ヲ處分乃至管理スルノ能力アリヤ否ヤ。(處分能力)
- 三、處分或ハ管理能力ナキ爲、一旦禁治産、準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルモノガ、若干ノ時日ヲ經テ精神上ソノ能力ヲ恢復シタリヤ否ヤ。
- 四、原告或ハ證人トシテ信據スルニ足ルベキ陳述ヲナスコトヲ得ルヤ否ヤ。(信證能力)
- 五、契約又ハ遺言ヲ爲セシトキニ、其者ノ精神狀態ハ健全ナリシヤ否ヤ。(契約能力及遺言能力)
- 六、婚姻、養子又ハソノ他縁組ノ際ニ當リ、完全ナル意思表示ヲ爲シ得ルヤ否ヤ。
- 七、裁判未決ノ中ニ精神異常ノ疑アリテ、尙裁判上ノ審理ヲ續行シ得ル精神能力アリヤ否ヤ。(審理能力)
- 八、裁判確定後ニ精神異常ノ疑アリテ、刑ノ執行ヲ續行シ得ルヤ否ヤ。

九、負傷ノ結果トシテ精神障害ヲ起シタリト稱スルモノ、眞偽。

十、精神障礙ノ疑アルモノニ、虐待、淫行、自由束縛等ヲナシタル場合、ソガ犯罪ノ構成ニ關スル鑑定。是等ノ件ニ關シ鑑定ヲ命ゼラレタル場合、醫師ハヨクソノ患者ノ心身狀態ヲ診定シ、精神病學上如何ナル疾患ニ罹レルモノナルカ、或ハソノ智識ノ程度ハ、凡ソ何歳位ノ小兒ノソレニ比較スルヤ等ヲ記載スルニ止メ、問題ノ人ハ心神喪失者ナリ、或ハ耗弱者ナリト斷定スルコトハ成ルベク避クルヲ良シトス、然レドモ、一般ニ司法官ハソノ鑑定命令ニ心神喪失者ナリヤ否ヲ問フヲ常トス、醫師ニシテ之ヲ心神喪失者ナリト答フル場合アリトセンカ、ソハ醫師ガ犯罪人ニ對シ、判決ヲ與フルガ如キ感ナキ能ハズ、然リ而シテ尙司法官ハ醫師ニ心神喪失者ナリヤ、將タ耗弱者ナリヤノ問題ヲ課スルトセバ、醫師ハ法官ノ云フ所ノ法律的術語ノ大要ヲ了解シ居リテ鑑定ニ從事シ、一面ニハ法官ノ命令ニ、他面ニハ個人ノ利益ニ悖ラザル様心掛ケザルベカラズ、即チ以下法律的術語ノ一、二ヲ説明セントス。

五、責任能力
Responsibility.
Zurechnungsfähigkeit.

責任能力

刑法第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セズ

同 第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罪セス

同 第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合

ニ限リ之ヲ罪セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス
同 第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罪セス
心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス
同 第四十條 癡癡者ノ行爲ハ之ヲ罪セス又ハ其刑ヲ減輕ス
同 第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罪セス
同 第四十三條 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失ノ狀態ニ在ルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ執行ヲ停止ス
 前二項ノ規定ニ依リ死刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ痊愈又ハ分擔ノ後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス
 第五百四十四條 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ハ心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ其ノ痊愈ニ至ル迄執行ヲ停止ス
 第五百四十五條 前條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テハ檢事ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヲ監護義務者又ハ町村長ニ

引渡シ病院其ノ他適當ノ場所ニ入レシムルコトヲ得
 刑ノ執行ヲ停止セラレタル者ハ前項ノ處分アル迄之ヲ監獄ニ刑期ニ算入ス
 陪審法第十三條 左ニ掲クルモノハ陪審員タルコトヲ得ス
 一、禁治產者準禁治產者
 二、破產者ニシテ復權ヲ得サルモノ
 三、聾者、啞者、盲者
 四、懲役六年以上ノ禁錮若シテ重罪ノ刑又ハ重禁錮ニ處セラレタル者

責任能力ノ各説

責任能力ナル文字ノ定義ハ、多クノ刑法學者乃至精神病學者間ニ於テモ、其意義ノ解釋區々タルガ如シ、ぞんめる氏ニヨレバ、責任能力ナル文字ハ「數エ込ム能力」ナル意ニシテ、嚴格ナル意義ニ於テ、裁判ニ關與スル司法官ノ能力ヲ示シ、初メ被告ヲ罪人中ニ數エ込ム能力ノ謂ヒナリシガ、漸次犯罪者ガ犯人中ニ數エ込マル、能力ノ意ニ轉ジ、更ニ責任能力ナル意ニ用ヒラル、ニ至リシモノナリト云フ。
 而シテあるふえらんと氏ハ、責任能力ハ、負責能力トハ、刑法上ノ責任負擔ヲ創立シ得ベキ精神状態ナリト説キ、りすと氏ハ社會的動作、即チ國家的共同生活ニ、適應スル動作ヲ爲シ得ベキ行為者ノ心理状態ニアル時ハ、其行為者ハ責任能力アルモノナリト論ジ、びるくまいや一氏ハ、責任能力トハ動作ニ就キ、刑事上ノ責ヲ負ヒ得ベキ人ノ資格、即チ罰セラルベキ資格ナリト稱シ、すとうす氏ハ行為ノ當時ニ於ケル行為者ガ、刑法上ノ責ヲ負ヒ得ベキ心理状態ナリト爲シ、勝本氏ハ凡人ガ或行為ニ付、責ヲ負フガ爲メ、即チ其行為ガ其人ノ行為スルガ爲メニハ、其人ハ負責能力ヲ有スルコト、即チ其人ニ健全純常ナル精神状態ヲ有セザルベカラズト稱へ、泉二氏ハ責任能力トハ、法律ガ違法行為ニ就キ、本人ヲシテ法律上ノ制裁ヲ

責任能力ノ條件

負擔セシムルニ適當ナリトスル、常則的精神状態ナリト云ヒ、大場氏ハ負責能力トハ、自己並ニ外界、及自己行為ノ事實上、並ニ法律上ノ意義ヲ辯識シ、且ツ此辯識ヲ從ヒ、現ニ有スル動機ニ關シ、行為ヲナスヤ否ヤヲ通常ニ決定シ得ル能力ナリト主張シ、最後ニ牧野氏ハ、責任能力トハ一定ノ行為ニ付、一定ノ刑法上ノ效果ヲ受クベキ資格ヲ云フト爲セリ、是等責任能力ニ對スル定義ハ、多ク刑法學者ノ作レルモノナレバ、吾人醫師ヨリ見レバ余リニ純法律的ニ傾キタルヤノ嫌ナキニアラズ。
 然ラバ責任能力ヲ有ストナスニハ、如何ナル條件ヲ備フベキヤト云フニ、りすと氏ハ負責能力アリトナスニハ、次ノ如キ精神状態ニアルヲ要スト云ヘリ。
 一、行為者ノ精神ガ、社會ニ必要ナルモノニ關シ、豫見ヲナスコト。
 二、平常ナル方法並ニ速度ニ於テ、觀念聯合ヲナスコト。
 三、觀念ノ感覺及ビ一般的、法律的、道德的、宗教的準則、其他ノ誘導力ガ、平均點ニ適合スルコト。
 四、意志感動ノ傾向及強度ガ、甚シク異常ナラザルコト。
 五、觀念ガ通常ナル内容及誘導力ヲ有スルコト。
 次ニ花井氏ニヨレバ、行為者ガ侵害行為ニ對シ、責任ヲ負擔スルニハ、行為及侵害ヲ意志シ、自己ノ満足ヲ慾望シ、行為ガ無挑撥ニ出デザルベカラズ、而モ行為者ハ行為ノ行ハルベキ周圍ノ狀況ヲ理解シ、且之ヲ測量スルコトヲ要ストナセリ。
 故ニ或個人ノ責任能力ヲ有スルヤ否ヤヲ鑑定スルニハ、如何ニ細心綿密ナル注意ヲ拂ハザルベカラザルカヲ知ルニ足ラン。

茲ニ於テ、精神病者ノ刑罰ニ關スル歴史ヲ探グルニ、已ニ羅馬法ニ於テハ、明ニ痴呆、亂心、愚鈍及強キ感動者ノ行爲ハ罰セズ、酩酊者ノ行爲ハ過失ヲ以テ論ゼラレタリ、ざくせん法ニ於テモ、愚人及失神者ヲ罰セズトノ規定アリ、其他之ニ類似ノ立法、諸國ニ散見セシガ、中世ニ至リ一時精神病者ヲ、宗教的迷信ヨリ過酷ナル取扱ヲナシタルコトアリ、然ルニ十九世紀ニ至リ、又々精神病者ヲ責任無能力及輕減責任能力トスベシトノ觀念起リ、次第ニ現今ノ法律觀念ニ迄進化シタルモノナリ。

我邦ニ於テモ、大寶令中、老者及癡疾者ハ其罪ヲ論セズ、若クハ減刑シ、徳川、御定書百ヶ條ニ於テモ、亂心、愚昧者ハ重罪ニ限リ處罰シ、其他ハ不論罪トナシ、幼者ハ其罪ヲ輕減シ、酒狂者ノ犯罪ハ處罰スルノ規定アリ、明治ノ新律綱領ニ於テモ、老幼者ノ罪ハ論セズ、若クハ輕減シ、癡癲者ノ殺人罪ハ、終身禁固ヲ命ジ、又狂者ヲ假リテ殺人ヲナセルモノハ、謀殺ヲ以テ論ジタルモ舊刑法ニ於テハ、幼者ハ輕減責任能力者トシ、精神病者ニ對シテ責任能力ノ有無ハ、其場合ニヨリテ之ヲ定メ、其中間ナル輕減責任能力ヲ認ザリシガ、現行刑法ニ於テハ、精神病者中ニモ、責任能力アルモ又ナキモアリ、且輕減責任能力者ノ存在スルヲ認メタリ。

尙參考ノ爲メ、各國ニ於ケル責任能力ニ關スル規定ヲ一、二茲ニ參照セントス。
那威刑法第四十四條、行爲當時ニ於テ、精神能力ノ發育制止、若クハ薄弱、又ハ病的障礙ノ爲メニ、行爲ノ本態及違法ナリシコトヲ理解セザリシ場合、又是等ノ理由、若クハ強制急迫ナル危險、又ハ特殊ノ精神狀態ニヨリテ、自己ノ行爲ヲ制シ得ザリシ場合ハ犯罪成立セズ。
伊太利刑法第四十六條、行爲ノ當時、精神病ノ爲メ、意識若クハ行爲ノ自由ヲ喪失セルモノハ罰セズ。

佛刑法第六十四條 行爲ノ當時精神病狀態ニ在リタルモノハ罰セズ。

英刑法第二百二十七條 精神薄弱、精神病ノ爲メ、行爲ノ本質ヲ識別シ得ザリシモノ、若クハ行爲ノ法律的意思ニ違反セルコトヲ知り得ザリシモノ、若クハ自由ナル意志決定ヲナシ得ザリシモノハ罰セズ。

瑞西刑法(改正草案)行爲ノ當時精神病、若クハ痴呆、又ハ無意識ナリシモノハ罰セズ。

埃刑法第一條 次ノ場合ニハ犯罪成立セズ、(一)理性ヲ喪失セル場合、(二)間歇性精神錯亂ニ於テハ、行爲當時錯亂狀態ニ起リシ場合、(三)犯意出デサル泥酔、又ハ他ノ精神錯亂ニヨリ無意識ニテナシタル場合(但シ草案ハ略獨刑法五十一條ニ似タリ)

獨逸刑法第五十一條 行爲ノ當時、無意識若クハ精神能力ノ病的障礙ノ狀態ニ在リテ、自由ナル意思決定ヲ喪失セルモノハ罰セズ(改正草案略同様)

即チ此等ノ刑法規定ハ、ソノ云フ所ノ言語種々ナレドモ、根本觀念ニ至リテハ大差ナク、是等ニヨリテ吾人ハ、法律家ガ如何ナル意味ニ於テ、責任能力問題ヲ取扱ハントシテツ、アルカノ大要ヲ知ルコトヲ得タリ。

然ルニ輓近諸種ノ科學進步スルニ從ヒ、人ニ實際意志ノ自由存在スルモノナルヤ否ヤノ疑問ヲ生ジ、且理性是非ノ辨別ノ有無ヲ以テ、責任能力ノ有無ヲ論ズトセバ、小兒或ハ或種ノ精神病者ニハ是非ノ辨別、或ハ一定度ノ理性ヲ有スルモノ少ナカラズ、從テ此等ノ理由ヲ以テ、十四歳以下ノ小兒或ハ智識ノ比較的犯サレザル精神病者ヲ、責任能力ヲ有セザルモノトスルハ、甚ダ根據少キノ感ナキニアラズ、即チ前述セラルガ如ク、刑法ハ其目的ヲ變ジテ報復主義ヨリ目的主義トナリ、責任能力ニ對スル思想モ、犯罪ノ方面ヨ

リ考フル代リニ、刑罰ノ方面ヨリ考究セラル、ニ至リ、其極責任能力ヲ以テ刑罰ヲ加フルニ效アル能力ト解スルニ至レリ、即チ矯正遷善ノ望ミナキモノニハ刑罰ヲ加フルモ效ナキニ依リ、責任無能力者ト見做セリ、予ヲ以テ之ヲ云ハシメバ、理想トシテコハ甚ダ良好ナル主義ナレトモ、我國ノ如ク感化院。孤兒院及精神病院ノ設備不充分ナル所ニ於テハ、一考ヲ費サソベカラズト思惟ス、何トナレバ此主義ニ從ヒ、到底改善ノ見込ナキ慣習性犯罪者等ノ如キヲ、責任無能力者トシテ刑罰ヲ課セズトセバ、彼等ヲ監禁スル所ナク徒ニ社會ニ散逸シテ公安ヲ害スルニ至レバナリ。

輕減責任能力

輕減責任能力トハ、報復主義ノ刑法學者ノ考案ニ基クモノニシテ、半バ理性ヲ保ツガ故ニ、責任無能力トスル能ハズ、サレバトテ完全ナル人格ヲ供フル人ニモ非ザルモノヲ云フ、例ヘバ、幼者ト成年トノ中間ニ位スル智識ヲ有スルモノ、或ハ精神病者ト健者トノ間ニ位スル精神薄弱者ノ行爲ハ、半バ責任ヲ有スルモノニシテ、幾分ノ刑罰ヲ受クベキモノトシ、之等ヲ輕減責任能力者トナセリ、精神病學及科學的ノ立場ヨリ云ヘバ、カ、ル中間性ノモノノ存在スルヤ否ヤハ甚ダ疑問タリ。

刑法上ノ責任無能力者ハ心神喪失者、滿十四歲以下ノ小兒及ビ強度ノ瘖啞者ニシテ、輕減責任能力者ハ弱度ノ瘖啞者及心神耗弱者ナリ。

處分能力

民法上ノ責任能力トモ云フベキ處分能力ハ、成年滿二十年ヲ以テ完全ナルモノトナシ、未成年者ハ處分能力ナキモノトシタリ、民法ニ於ケル處分能力ノ發生ガ、刑法ニ於ケル責任能力ノ發生ヨリモ、尙高年ヲ要スルハ、是非善惡ノ辨別ハ卑近ナル道義的觀念ヲ以テ足ルモノニ過ギザレドモ、民法上ノ治産ニ關スル處分能力等ハ、多大ノ智識ト考慮決意ニ俟ツコト多キガ故ニ、心身ノ十分發育セル時期ヲ成年トシ、法律

的行爲ヲナスヲ得ルコト、ナシタルモノナリ。

六、心神喪失者及耗弱者

Absence and disturbance of mind.
Absence et derangement de la conscience.
Bewusstlosigkeit und krankhafte Störung der Geistes
tätigkeit.

心神耗弱

心神喪失トナルベキ條件

心神喪失

刑法上ノ心神喪失乃至心神耗弱ナル文字ハ、モト立法者ガ類推的ニ責任無能力者及之ニ準ズルモノヲ、概括シテ命名シタルニ過ギザルモノニシテ、心理學的或ハ精神病學的名稱ニハアラズ、故ニ司法ノ局ニアルモノスラモ、ソノ解釋ヲ異ニシテ、或司法官ノ如キハ、心神喪失者ハ前後左右ノ辨別モ、自他ノ異同モ明ニセザルモノト思惟セリ。況ンヤ法律的術語ヲ知ラザル醫師ニ於テオヤ、元來心神喪失ト云ヒ耗弱ト云フハ、精神障礙ノ或程度ヲ表示セルモノニシテ、即意識ノ清明、是非ノ辨別及自由ナル意志決定ニ障礙アルヲ云フモノナリ。然レドモ此喪失ト耗弱トノ間ニ、嚴密ナル境界ヲ立ツコト能ハザルハ自明ノ理ナリ。刑法學者ハ行爲者ガ行爲ノ當時、事實上、自己外界及行爲ノ事實上及法律上ノ意義ヲ辨識スルノ能力ナキカ、又ハ現ニ存スル動機ニ關シ、通常ソノ意志ヲ決定スル能力ナキ者、又ハ此兩能力共ニナキモノヲ心神喪失者ナリトシ、心神耗弱者トハ行爲ノ當時、責任能力ニ必要ナル辨識及意志ニ完全ナラザル所アルモ、不完全ノ程度薄弱ニシテ、未ダ心神喪失ノ程度ニ達セザル者ヲ指稱セリ。

心神喪失トナルベキ重要ナル要件、是非辨別ノ缺如、衝動ニ對スル抑制力ノ缺如、熟慮及決意ノ障礙アル場合、病的動機ニ基ク動作等ニ起因スル犯罪行爲ニシテ、之ヲ精神病學上ヨリ見ル時ハ如何ナル狀態ニ在ルモノナルカト云フニ、大略左ノ如シ。

(イ)意識ヲ全然喪失セルモノ、例ヘバ卒中發作時、病的酩酊癲癇性或ハひすてり性痙攣發作時、全身麻醉時等ノ如キ之レナリ。

(ロ)強度ナル意識濁濁ニ陥レルモノ、例ヘバ癲癇性又ハひすてり性朦朧狀態、泥醉、酒客譫妄、熱性譫妄中毒又ハ急性傳染病ニ顯出スル意識障害、夢中遊行ニ陥レル際ノ意識濁濁等之レナリ。

(ハ)病的動機ニ基ク行爲、例ヘバ躁鬱病、早發癲狂、麻痺狂、憂鬱狂、及偏執病ニ來ル衝動行爲及憂鬱者癲癇病者乃至あるこほる中毒ニ來ル暴動發作、病的性慾ニ基ク犯罪、妄想妄覺ノ爲メニナセル行爲等ノ如キ之レナリ。

(ニ)衝動ヲ抑制スルニ能力ナキ場合ノ行爲、例ヘバ強迫觀念、白痴、痴愚、悖德病、麻痺狂、早發癲狂、老年性癲狂、中酒性癲狂等ニ罹レル爲メ衝動及抑制ノ能力ナキ行爲、即チ此等ノ患者ノナセル狼褻、竊盜、暴行等ノ動作之レナリ。

(ホ)熟慮決意ノ障礙アルモノ、即チ白痴、痴愚、早發癲狂、麻痺狂、噪揚狂、ひすてり、癲癇者及變質者ノ重症ナルモノニ見ルソレノ如キ之レナリ。

學者ニヨリテハ精神病ガ現存スト診斷セバ、ソノ病症ノ輕重ヲ問ハズ、直ニ心神喪失者ノ内ニ數ヘ込ムモノアリ、理論上ヨリ云ハハ誠ニ然ラン、何トナレバ、心神ノ基底ニ於テ、已ニ多少ナリトモ質的ノ變化アル精神病者ニ於テ、イカデカ尋常ナル精神の作業ノ運用ヲナスコトヲ得ンヤト云フ理由ノ存スレバナリ。

然レドモ予ハ精神病者、即心神喪失者ノ說ニハ贊スルコト能ハズ、精神病者ニテモノノ輕度ナル場合、若クハ發作寛解ニ近キ時ニハ、或程度ノ精神作業ヲナシテ誤リナキ事アレバ、斯ル際ニ或犯罪ヲナシ、ソ

ノ動機ノ選ビ方、決行ノ意思、之ニ伴フ感情、及ソノ欲スル所ト違シタル結果ニシテ異常ナクバ、假令精神病者ナリトスルモ、相當ノ責任ヲ科スベキモノナリト信ズ、即チ現行刑法ガ心神耗弱者ナルモノヲ有スルハ、全ク此意味ニ外ナラズト信ズ、何トナレバ精神病者即心神喪失者ノ說ニ從ヘバ、純理論的ニ云ハバ、精神健全者ト病者ト二者アルノミニシテ、其中間性ノモノハアルベキ理ナクレバナリ、從ツテ心神耗弱ナルモノノ存在スベキ理ナシ、予ハ已ニ現行刑法ガ心神耗弱ナル語ヲ有シ、之ヲ實行シツ、アルニ鑑ミテ、精神健全者ト精神病者トノ間ニ、ソノ中間性モシクハ移行型ノ存在ヲ實用上便利ナリト信ジツ、アリ、但シ行爲ニ對シ幾分ノ責任アリト云フハ、直ニ刑罰ヲ加ユルニ適應性アリト云フニアラズ、加刑スル際ニハ、更ニ其時ノ精神狀態ヲ鑑定シテ、之ヲ決定セザルベカラズ、故ニ心神耗弱ノ範圍ニ入ルベキモノハ概ネ左ノ如シ。

(イ)輕度ノ痴愚者及魯鈍者。

(ロ)癲癇ノ小發作、ひすてりノ中等症、神經衰弱、ひよれあ等ニ於ケル氣質異常。

(ハ)酩酊者、變質者、悖德者、氣質異常者、中間者。

(ニ)精神病ノ前驅期タル輕度ノ精神變調又ハ刺戟狀態(月經、妊娠、分娩等)ニ於ケル行爲。

心神喪失或ハ耗弱ナル文字ハ、民法ニ於テハ前記セル刑法ニ於ケルモノトソノ意義ヲ異ニス、民法上ノ心神喪失ノ常況ナル文字ハ、カ、ル精神異常ガ現時ニ於テ存在シ、且ツ將來ニモ持續シテ永クソノ能力ヲ失墜セルコトヲ意味スルモノニシテ、自己ノ地位財産ニ對シ、之ヲ適應ニ管理處分スル能力、即處分能力ノ喪失ヲ意味スルモノナリ。故ニ同程度ノ精神障礙モ、日々僅微ノ出納ヲ司ル車夫ノ如キモノニ在リテハ

心神耗弱ニ過ギズシテ、大會社ノ重役等ニ在リテハ、心神喪失ト解スベキガ場合アリ。即チ民法上ノ心神状態ヲ鑑定スル場合ニハ、ソノ人ノ精神状態ト共ニ、財産或ハ四圍ノ狀況ヲ合セ考ヘテ診定スベキモノトス。

今上記責任能力ノ有無、處分能力、罪科等ニ關スル大體ヲ表示スレバ左ノ如シ。

精神發育程度及障礙程度ト法律的關係			
民法上	禁治產(廿歲以下)	準禁治產	治產
利法上	責任無能力(十四歲以下)	輕減責任能力	責任能力
精神病學的	幼者及心神喪失者、瘡癩者	心神耗弱者、瘡癩者	成人、健全者
處罰	無罪	刑罰輕減	刑罰
法律行為	爲ス能ハズ	或種ノ行為ヲ爲スコトヲ得	爲ス

註、上表ニ於テ横列ニ在ルモノハ相類似ノ意味ヲ有スルモノナリ

七、審理及證言能力

Faculty of the examination and of the evidence.
Faculte d'examen et de temoignage.
Verhandlungs- und Eides-fähigkeit.

已ニ前述セルガ如ク、審理能力トハ司法官ノ訊問ニ對シ、確實ナル解答ヲ與ヘ得ベキ能力ニシテ、證言能力トハ同ジク信憑シ得ルニ足ル正確ナル證言ヲ爲シ得ベキ能力ヲ云フ。此ノ能力ハ精神状態ニ異常アルモノニハ、往々缺如スルモノニシテ、之ニ對スル法律規定ハ左ノ如シ。

審理及證言能力

刑訴第三十七條 刑法第三十九條乃至第四十一條ノ例ヲ用キサル限リ
 一 該ル事件ニ付被告人意思能力ヲ有セサルトキハ其ノ法定代理人訴訟行為ニ付之ヲ代表ス

同 第三十八條 前二條ノ規定ニ依リ被告人ヲ代表スル者ナキトキハ檢察ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ特別代理人ヲ選任スヘシ特別代理人ハ被告人ヲ代表シテ訴訟行為ヲ爲ス者アルニ至ル迄其ノ任務ヲ行フ

同 第三十五條 豫審判事ハ左ノ場合ニ於テハ檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

一 被告人ノ所在分明ナラサルトキ
 二 被告人心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

前項ノ決定ハ之ヲ遡達セス

同 第三十五條 左ノ場合ニ於テ辯護人出頭セサルトキ又ハ辯護人ノ選任ナキトキハ檢察ノ意見ヲ聽キ辯護人ヲ附スルコトヲ得

一 被告人二十歲未滿又ハ七十歲以上ナルトキ
 二 被告人婦女ナルトキ
 三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ
 四 被告人心神喪失者又ハ心神耗弱者タル疑アルトキ
 五 其ノ他必要ト認ムルトキ

同 第三百五十二條 被告人心神喪失ノ状態ニ在ルトキハ檢察ノ意見

見テ決定ヲ以テ其ノ狀態ノ繼續スル間公判手續ヲ停止スヘシ但シ無罪、免訴、刑ノ免除又ハ公訴棄却ノ裁判ヲ爲スヘキ事由明白ナル場合ニ於テハ被告人ノ出頭ヲ待タズ直ニ其ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

被告人疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ檢察ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ出頭スルコトヲ得ルニ至ル迄公判手續ヲ停止スヘシ

第三百三十一條ノ規定ニ依リ代理人ヲシテ出頭セシメタル場合ニ於テハ前二項ヲ適用セス

同 第三百五十三條 開廷後被告人ノ心神喪失ニ因リ公判手續ヲ停止シ又ハ其ノ事由ニ因リ引續キ十五日以上開廷セザリシ場合ニ於テハ公判手續ヲ更新スヘシ

同 第三百五十二條 死亡者又ハ回復ノ見込ナキ心神喪失者ノ利益ノ爲ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付テハ公判ヲ開カス檢察及辯護人ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ再審ノ請求ヲ爲シタル者辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ附スヘシ

有罪ノ判決ヲ受ケタル者ノ利益ニ再審ノ請求ヲ爲シタル事件ニ付再審ノ判決ヲ爲ス前再審ノ判決ヲ受ケタル者死亡シ又ハ心神喪失ノ状態ニ在リテ回復ノ見込ナキニ至リタルトキ亦前項ニ同シ

前二項ノ規定ニ依リ爲シタル判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得

禁治產及準禁治產

八、禁治產及準禁治產

Civil Incapacity, Incapacité civile.
Entmündigung und beschränkte Geschäftsfähigkeit.

民法上成年滿二十歲ニ達シ、心神ノ發育適度ニシテ、十分ナル處分能力ヲ有スルモノヲ治產トシ、精神病者、或ハ智識ノ發育程度ニ缺陷アル爲メ、處分能力全然缺如セルモノヲ禁治產トシ、精神状態或ハ智識ノ缺陷程度、前者ノ如ク甚シカラズシテ、若干ノ制限ヲ附セバ處分能力ヲ發揮セシメ得ルモノヲ、準禁治產トス、處分能力ノ如何ナルモノナルヤハ、已ニ便宜上責任能力ノ條下ニ略述シ置キタリ、今禁治產及準禁治產ニ關スル法律の規定ヲ舉グレバ左ノ如シ。

民法第三條 滿二十年ヲ以テ成年トス
 同 第七條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ニ付テハ裁判所ハ本人、配偶者、四等親内ノ親族、戸主、後見人、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
 同 第八條 禁治產者ハ之ヲ後見ニ付ス
 同 第九條 禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
 同 第十條 禁治產ノ原因止ミタルトキハ裁判所ハ第七條ニ掲ケタル者ノ請求ニ因リ其宣告ヲ取消スコトヲ得
 同 第十一條 心神耗弱者、啞者、聾者、盲者及ヒ浪費者ハ準禁治產者トシテ之ニ保佐人ヲ附スルコトヲ得
 同 第十二條 準禁治產者カ左ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニハ其保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
 一 元本ヲ領收シ又ハ利用スルコト
 二 借財又ハ保證ヲ爲スコト
 三 不動産又ハ重要ナル動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲スコト
 四 訴訟行爲ヲ爲スコト
 五 贈與、和解又ハ仲裁契約ヲ爲スコト
 六 相續ヲ承認シ又ハ之ヲ拋棄スルコト
 七 贈與若クハ遺贈ヲ拒絕シ又ハ負擔附ノ贈與若クハ遺贈ヲ受諾スルコト
 八 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲スコト
 九 第二百二條ニ定メタル期間ヲ越スル貨貸借ヲ爲スコト
 同 裁判所ハ場合ニ依リ準禁治產者カ前項ニ掲ケタル行爲ヲ爲スニモ亦其保佐人ノ同意アルコトヲ要スル旨ヲ宣告スルコトヲ得
 同 前二項ノ規定ニ反スル行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得
 同 第十三條 第七條及ヒ第十條ノ規定ハ準禁治產ニ之ヲ準用ス
 同 第十七條 左ノ場合ニ於テハ妻ハ夫ノ許可ヲ受クル事ヲ要セス

九、遺言能力

Testamentary faculty
Faculté testamentaire
Testierfähigkeit

一 夫ノ生死分明ナラサルトキ
 二 夫カ妻ヲ遺棄シタル時
 三 夫カ禁治產者又ハ準禁治產者ナルトキ
 四 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ私宅ニ監置セララル時
 五、六 (略之)
 同 第七百十二條 未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ其行爲ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ智能ヲ具ヘサリシトキハ其行爲ニ付キ賠償ノ責任ヲ負フ
 同 第七百十三條 心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス
 同 第七百十四條 前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラサリシトキハ此限ニ在ラス
 同 監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責任ヲ負フ
 同 第九百七十五條 法定ノ推定家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人ハ其推定家督相續人ノ廢除ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ之ニ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト
 二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルコト
 三 家名ニ汚辱ヲ及スヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト
 四 浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト
 此他正當ノ事由アルトキハ被相續人ハ親族會ノ同意ヲ得テ其廢除ヲ請求スルコトヲ得

遺言能力

遺言能力トハ遺言ヲナスニ當リ、遺言者ガ自由意思ヲ以テ、之ヲ爲ス精神的能力ヲ有スルヲ云ヒ、民法ニ於テハ年齢滿十五年以上ノ精神健全者、或ハ成年ノ精神病者ガ本心ニ復シタル時ハ、遺言能力アルモノトナセリ。精神病者ガ自由意志ニ復シ、遺言ヲナス場合ニハ、醫師二人以上ノ立會ヲ以テ、遺言能力アルヲ證明シタル時、始メテ民法上ノ效力ヲ生ズルモノトス、遺言能力ニ關スル法律の規定ハ左ノ如シ。

民法第六十一條 滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得
 同 第六十三條 遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其能力ヲ有スルコトヲ要ス
 同 第七十三條 禁治產者カ本心ニ復シタル時ニ於テ遺言ヲ爲スニハ醫師二人以上ノ立會アルコトヲ要ス
 遺言ニ立會ヒタル醫師ハ遺言者カ遺言ヲ爲ス時ニ於テ心神喪失ノ狀況ニ在ラザリシ旨ヲ遺言書ニ附記シテ之ニ署名捺印スルコトヲ要ス但秘密證書ニ依リテ遺言ヲ爲ス場合ニ於テハ封紙ニ右ノ記載及ヒ署名捺印ヲ爲スコトヲ要ス

十、精神異常者ニ對スル犯罪

Crime against the insane
Crime vis-a-vis des malades mentaux.
Verbrechen an Geisteskranken

精神異常者ト雖モ相當ノ手續ヲ履マズシテ監禁スレバ、不法監禁ノ罪ニ問ハレ、精神異常者、或ハ十三歳未滿ノ幼者ニ對シテハ、假令ソノ承諾ヲ得タル後ト雖、之ニ對スル姦淫ノ行爲ハ、強姦ヲ以テ論ゼラレ、精神異常者ヲ利用シテ犯罪ヲナシ、又ハ特別ナル利益ヲ取得スル時ハ、又一定ノ罪ヲ課セラル。今精神異常者ニ對スル犯罪ニ關シ、法律ノ規定スル所ヲ舉グレバ左ノ如シ。

刑法第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

精神異常者ニ對スル犯罪

第三編 法醫學的精神病學 十一 精神病患者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ 七〇六

同 第七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ毀壞ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

同 第八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

同 第二百四十八條 未成年者ノ智慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交附セシメ又ハ財産上ノ不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルモノハ十年以下ノ懲役ニ處ス

十一、精神病患者ニ對スル鑑定書作成ニ就テ
 Certificat de l'insane
 Certificat des malades mentales
 Gutachten der Geisteskranken.

精神病患者ノ鑑定ニ對シテ、特ニ所定セラレタル所ナシト雖、簡潔且明瞭ニ鑑定ノ要項ヲ記載シ、十分ニ鑑定命令ノ所旨ヲ満足セシメンニハ、鑑定書ハ自ラソノ體裁ヲ整頓セザルベカラズ、精神鑑定ニ於テ、ソノ據ル所ハ多クハ形而上ノ現象ニシテ、一々之ヲ五官ニ憑テ證徴スルコト困難ナルヲ以テ、鑑定人ハソノ診査ノ方法及結果ヲ成ルベク綿密ニ記述シ、之ニ因リテ鑑定ヲ下シタル理由ニ就キテハ、特ニ明瞭ニ説明シテ、法官ガ一讀以テ鑑定ノ要旨ヲ了解シ得ルモノヲラザルベカラズ、然リ而シテ鑑定ヲ命ゼシ司法官ハ、必ズシモ精神病學ニ精通セル專門學者ニ非ラザルヲ以テ、鑑定書ニハ専門學の素養ナケレバ解シ得ザルガ如キ事項ハ成ルベク避クルヲヨシトス、然レドモ人ノ精神狀態ハ瞬時モ同狀態ニアルコトナク、常ニ一ヨリ他ニ轉移スルモノナレバ、鑑定書ハ問題ノ人ノ精神狀態ニ關シ、唯一ノ證據物件ニシテ、後日ニ至リ如何ナル手段ヲ盡スモ、ソノ當時ノ精神狀態ヲ記載スルコト不可能ナルモノニシテ、且當時ノ精神狀態再鑑定ノ場合ニハ、該鑑定書ハ甚重要ナル役目ヲ演ズルモノナレバ、時トシテハ醫學的術語ヲモ使用シ、成ルベク丁寧ニ記載シ置クベキモノトス。鑑定書ノ形式トシテハ、已ニ本書ノ初頭ニ於テ詳記セルガ如ク、鑑定命令官、月日、事項、命令ヲ受ケタル場所ヲ記載シ、次デ鑑定ヲ要スルニ至リタル事實ノ大要ヲ述ベ、信據スルニ足ルベキ人ヨリ既往歴ヲ探リ、現在症候トシテハ、心身兩方面ヨリ丁寧ニ診査シタル所

見ヲ全ク客觀的ニ記載シ、次デ説明ノ部ニ及ビ、自己ノ考案ヲ附加シテ診定ヲ下シ、最後ノ鑑定ノ部ニ於テハ、綜合的ニ、簡明且直截的ニ鑑定ヲナシ、次デ月日ヲ録シ記名調印シテ鑑定書ヲ結ブベキモノトス。

凡ソ精神病患者鑑定書ニハソノ記載方ニ兩様式アリ、一ハ精神病患者ヲ診査シタル都度、ソノ模様ヲ詳細ニ記載シ、換言スレバソノ病床日誌ノ一部ヲソノマ、鑑定書ニ襲用シ、之ニ説明ヲ加ヘ、最後ニ簡明ニ鑑定ノ要旨ヲ述ブル式ノモノニシテ、後出ノ(甲)鑑定書ニ於ケルガ如キ之レナリ。此記載法ハ全ク精神病學的記述ヲ、ソノマ、鑑定書ニ引用スルモノナレバ、假令、鑑定人ガソノ説明或ハ診斷ノ部ニ於テ、獨斷的錯誤ニ陥ルコトアルモ、再鑑定ノ場合、此部分ヲ讀過スレバ、ソノ當時ノ精神狀態ヲソノマ、想起シ得ルノ利益アリ。然ルニ此(甲)様式ノ不利益トスル所ハ、鑑定書ノ冗長ニ流ル、ノ嫌アルコトナリ。然レドモ事態ソノマ、ヲ、永ク記録ニ殘スコトヲ得ト云フ大利益ノアルアレバ、ソノ短所タル鑑定書ノ冗長トナル如キハ忍バザルベカラズ。

更ニ他ノ(乙)様式ハ、數回診察ノ結果ヲ綜合シ、指南力ニ對スル問答或ハ検査ハ指南力ノ部ニ集メ、注意力ニ關スル検査ハ、全部注意力記載ノ部ニ蒐集シ、追テ此ノ如クシ鑑定書ヲ作成スルニ在リ、ソハ後出(乙)様式鑑定書ニ於テ見ルガ如キ之レナリ。此様式ノ前者ニ比シ優越スル所ハ、鑑定書ニ一種ノ緊張アリ、且之ヲ簡潔ニ記載スルヲ得ルニ在リテ、ソノ不利益トスル所ハ、數回ノ検査記録ヲ記載整理スル際、全然客觀的記載タルベキ検査記録ニ、多少ノ人工ノ加ハルコトナリ、鑑定書記載ニ當ニ此二者中、何レノ様式ヲ選ブカハ、人々ノ趣味ニヨルベキモノトス、今此二様式ヲ舉ゲテ之ヲ比較セン。

大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審廷ニ於テ豫審判事〇〇〇〇

原告 平民奉助長男

被告 文助

一、被告文助ハ大正〇年〇月廿七日午前四時頃自宅ニ於テ實弟文二ニ對スル殺人未遂被告事件ニ付左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨ヲ予ニ命ゼ

一、既往歴

文助ノ父奉助ノ實母ノ姉ナシノ煩〇〇〇ハ京都在住中今ヲ去ル十

乙、生活歴

文助ハ明治〇〇年九月廿六日〇〇縣〇〇市ニ生ル八歳ニシテ同地ノ

二、犯罪顛末

文助ハ父ト奥六疊ニ文二及文三ハ母ト共ニ蠶所ニ蚊帳ヲ同ジクシテ

三、檢診記錄

第一回檢診(大正〇年九月廿五日)〇〇監獄拘置

大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所豫審廷ニ於テ豫審判事〇〇〇〇

原告 平民奉助長男

被告 文助

一、被告文助ハ大正〇年〇月廿七日午前四時頃自宅ニ於テ實弟文二ニ對スル殺人未遂被告事件ニ付左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨ヲ予ニ命ゼ

一、既往歴

文助ノ父奉助ノ實母ノ姉ナシノ煩〇〇〇ハ京都在住中今ヲ去ル十

乙、生活歴

文助ハ明治〇〇年九月廿六日〇〇縣〇〇市ニ生ル八歳ニシテ同地ノ

二、犯罪顛末

文助ハ父ト奥六疊ニ文二及文三ハ母ト共ニ蠶所ニ蚊帳ヲ同ジクシテ

三、檢診記錄

第一回檢診(大正〇年九月廿五日)〇〇監獄拘置

ソコデ學校ニ行ツタノカ
 ハアソコデ三年生カ四年生迄居テ(杉木新)ト云フ高岡カラ二里カ
 三里ノ所ニ變リマシタ
 ドウカキマスカ
 杉ノ木ノ杉ソレカラ木ソレカラ新ラシイト云フ字ダロウト思ヒマ
 スヨク知リマセン
 ソレカラ
 ソレカラ〇〇デ高等ノ三年ノ一學期迄ヤリマシタソレカラ〇〇ニ
 來テ高等ヲ卒業シマシタ
 フコデス
 〇〇市立第二高等小學校デス
 ソレハドコデス
 〇〇市高辻通り〇〇(ヤ、迷ヒツ、)西南角デス
 小學校卒業迄ソコニ居マシタカ
 ハア
 ソレカラドウシマシタ
 ソレカラソコノ小學校ガソデカラ〇〇第二中學校ニ試験ヲ受ケ
 テ進入リマシタ其時亦私ノ家ガ〇〇ニ變ツテ行キマシタカラ直ダ
 ニ家ニ歸リテ〇〇ノ中學校ニ轉學シマシタ
 〇〇ノ中學ヲ卒業シマシタカ
 二年終リマデ
 ソレカラ
 ソレカラ又〇〇ニ來テ第二中學校ヲ卒業シマシタ
 幾歲ノ時ニ卒業シマシタカ
 大正〇年廿一歳ノ年デス
 ソレカラドウシマシタ
 ソレカラ〇〇高ニ這入リマシタ九月カラ第一學期丈ケ居リマシタ私
 ノ五年ノ時内ガ明石ニ變リマシタ家ニ歸リテ二日程タツテ海ニ這
 入ツタラ腹痛ガ痛シクソレデ近所ニ居ル醫師ニ見テ貰フテ治ツ
 タガマダ一寸イ一寸イ腹痛ガ痛シク下痢シタリスル許リデシ
 タ
 ソレハ中學校ノ時ダネ
 ソウデス五年ノ夏休デス

ソレカラ
 ソレカラ二學期三學期モ少シ痛タンダケレドモホツテオイト醫師
 ニカ、ランデモ治ルダロウト思ツテ居マシタソレカラ〇〇高ニ入學
 スルコトニキマツタノハ六月末デシタロウ其時一度醫師ニ見テ貰
 ツタコトガアリマシタソノ時迄ハ腹痛ガ痛シク一寸イ、下痢スル
 許リデシタガソレカラ體ガ辛度クナツテゴロ、シタクナツタリ
 スルモンデスカラ一月バカリ休ンデ居マシタ
 何科ニ這入ツタノデスカ
 工科……………ソレカラ少シ暖カツタ寒カツタリナンゾスルト身體
 ガ辛度クナリテ工合ガ惡カツタンデス
 此頃モ工合ハヨクナイカネ
 ドウモヨクアリマセン結シテ五日モ六日出マセン氣振ツテモ出マ
 センソレガ又ドウツト下ツタリシテ腹痛ガ痛ムノデス
 ソウカ
 前カラ腹痛ハ……………ゴク小サイ時ハ知リマセンガ前カラ結スル方
 デ二三日モ出マセンソレカラアト下ル方デシタ海ニ這入ルノガ嫌
 イデガタ、振ヘマスガ嫌ダツタノデスガ父ナンカ海ニ這入ル方
 ガヨイト云フノデ這入リマシタ……………ドウモ明石ノ水ハ冷イデ
 ス七尾ノ方デスト暑イ時ニ一寸イ、這入ツタコトモアリマスガ
 明石ノ方ハドウモ冷イ機デス
 冷イ
 ハア
 二部ニ這入ツテ何ヲヤロウト思ヒマシタ
 始メニ二部ノ乙ニ這入ツテ物理デモヤロウト思ヒマシタガ甲ニ這
 入ツテオレバ乙ニ代レルト勸メテ吳レタ人ガアリマシタノデ甲ノ
 方デスト電氣カ機械カラ……………私ハ甲ノ方ニ這入リマシタモア
 トデ物理ノ方カ何カニ代リタイト思フテ居マシタ
 重ニ惡イノハ腸デスカ
 私ノ惡イト思フハ腸デス——腸ガ惡クナツタカラ身體ガ辛度ウテ
 寝タイト思フコトガアリマスソレバカリデナク身體ガ辛度クテ讀
 ンダリ書イタリスルコトガドウモ惡ウナツタ様ニ思ヒマス
 腸ガ惡ウナツタカラカ
 ドウモ腸ガ惡ウナツタカラノ機デス

中學校デハ何ガ面白カッタカ學科デハ
 一番面白ク思ツタノハ物理デスソレカラ數學ソレカラ唱歌ハ小サ
 イ時カラ好キデシタ小サイ時カラ唱歌カ機械ノ機ナモノガ此二ツ
 ガ小サイ時カラ一番好キデシタ……………此頃ハ覺エタリ考ヘタリ
 スルコトガ出來ナクナリマシタソレカラ中學ノ一二年頃カラ聲ガ
 出惡ク、ナリマシタソレデ體ニ之ハ普通デナイト思ヒマス去年デ
 シタカ一昨年デシタカ一昨年デシタ京都市デ喉嚨ヲ見テ貰ヒマシタ
 ラ別ニ何トモナイカラ仕儀ガナイト云ハレマシタ聲ガコウアア
 ーア……………(聲ヲ出シ)トコウ出惡ク、ナリマシタ今氣振ツテ
 分ル様ニ話ソウトシテ居マスカラデスガ唱歌ナンカ速モ歌ヘマセ
 ン
 イツカラ技ニ居マスカ
 此監獄ニ
 廿七日カラデス後月ノ
 内カラ直ニ來マシタカ
 廿七日朝ニ何シマシタ……………(稍赤面シ)
 朝ドウシマシタカ
 朝其事故ヲ起シマシテソレカラ〇〇警察ニ行キマシテ日ノ暮レ方
 技ニ來マシタ
 廿七日ノ朝デスネ
 ハア
 警察ニ自首シタノデスネ
 ハアソウデス
 ドウシタソレハ
 ……………(仰俯シ、暫時無言ノ後)ツイアンナコトヲシテシマフテ
 (赤面シ長息シツ、稍小聲ニテ)
 弟ノ工合ハドウデス
 何モ聞キマセン……………ケレドモソノ朝警察デ聞イタ時ハ傷ハ極
 淺イ
 警察デ
 警察デ巡查ノ方ニ聞イタ時ニ傷ハ極淺イト云ハレマシタ無論腹立
 粉レニナツタノデスケレドモソノナニヒドクナル積リデアアリマ

センデシタソレデ今頃ハ直ツテ居ルダロウト思フテ居マス
 始終仲ガ惡イデスカ第ト
 ズーツト前カラ仲ガ惡カツタンデス(此時ヤ、キマリ惡ゲニ)…………
 ……此間カラ一月程監獄ニ居テ文二トアノ弟ト
 文二トハドウカカ
 文二ト云フ字デ文二ト云ヒマス
 君ハ文助ト云フノカ
 ハア……………ソレデ此方ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テ
 ハア……………ソレデ此方ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テ
 モマラント云フ様ナコトハアリマセン
 ソウストトコ、ニ來テカラハ樂デスカ
 ソウデスカ、ニ來テカラハ極樂ニ來テ居ル様デスカ監房ニ五人モ居
 テウヂヤ、話サレルニハ協ヒマセンカツタガオ陸デ今朝室ヲ代
 ヘテ頂キマシタ
 ソレデ樂ダネ
 ハアホンマニ極樂デスカ色々ノコトヲ考ヘマセンノデ
 本デモ讀ンデ居マスカ
 ハア(書名ヲ逸ス)ト云フ本ヲ借レテ貰ヒマシタ
 此處ノ本カ
 ハアソレカラ中學ノ同窓ノ友ガ(書名ヲ逸ス)ト云フ本ヲ入レテ
 クレマシタノデ……………(泣氣味トナリ)何かコウアンナコトヲシ
 タ様ナ氣ガハツキリ判リマセン聞イテハ怒リ、シテ居ルヨリハ
 ナンボ樂ダカ分リマセン(尙泣ク)
 外ノ兄弟トハ仲ガ宜シイデスカ
 モウ一ツト
 アノ外ノト
 マア別ニ惡イコトモアリマセン
 ヨイコトモナイノカ
 ツマリ九年前カラ心ガコウオカシクナリマシテ私ト文二ノ時ハア
 、デアツタノニ文二ト文三ノ時ハ
 文三トハドウ書クカ
 數字ノ三デス……………ナンセンノコトバカリ考ヘテ腹立ツノデス
 カラ私ノ頭ガ何ダカ分ラナクナツテ居マスソレデ仲ガ善イト
 云フテヨイカ惡イト云フテヨイカ分リマセン……………(泣キ)ダ

近頃ニナツテ來ルト從テ早ク思ヒ出シテ
ニア近頃ニナツテ早ク思ヒ出ス様ニナリマシテ……近所ノ遊
ンデル子ヲ見テモ腹ガ立ツテ困リマス
ナゼソウ云フ風ニナツタノカ
其腹ノ立ツ様ニナツタ原因ハ此間警察ト豫備トテ大體申上ゲマシ
アレデ大體デスカ
ハア其實例ヲ云ヒマスト一、二年前マデハ實例モ澤山知ツテ居マ
シテ思ヒ出シマシタガ近頃ハ腹ガ立ツテノ……ヨク思ヒ出セマセン
イツ頃カラソノ腹ガ立ツ様ニナリマシタカ
前ニ文ニノ時ハコウデアツタガ文ニト文三トノ時ハコウデアルト
思ツテ腹ガ立ツ様ニナツタノハ大正〇〇年夏休デス
其時ニドウシテシタ
又御話シテモ宜シ御座イマスカ御話シスルト思ヒ出シマシテイ
ヤニナリマスカラ豫備デ御話シタノヲ御覽ニナツテ下サイ(泣
キ長息ヲナスモ表情ニハ悲シキト稱スベキヨリ寧ろ殘念ノ色ヲ
呈ス)
宜シイソレデモ分ラン處ガアツタ時ニハ御氣ノ毒ダガ聞カソナラン
ハア
ソレハイツ頃カラデス
二年許リ前カラデス
阿呆ヲ思ヒ出シマシタノハナカ
ソレハ阿呆ヲ思ヒ出シマシタケレドモツマリソレヲ思フテ來ルノ
デス……(迷ノ精苦悶ノ色表ハル)
ソノ日ハ喧嘩デモシタメニ疎ニ腹痛ガ出タデスカ、
其日ハ大シタコトハナカツタデス其一日前カ二日前ニ腹ガ立ツ
コトガ二ツ許リアリマシタ一ツハ何カ今ハハツキリ覺エテ居リマ
センガ一ツハ豫備テ御話シタコトデス
ソレハドウ云フコトデシタ
ソレハ其事ガタツタマラン事デスケレドモ前カラノ事
連絡シテ事デスカソレレ今カラモ話セト云フコトデシタラ
御話シマスガ此間ハ忘レル様ニナツタノデ又思ヒ出スカラドウソ

七二二
豫備テ話シタノヲ御覽ニナツテ戴キタイノデス
其日ハ寝タノカ寝タノカ
自分デハ寝ナカッタ積リデスケレドモ外カラハ寝タトカ……
ソレ前ノ晩カラ考ヘテ居タノカ
ハア思ヒ出シテ腹ガ立ツタノデシタ
ソレ殺シテヤロウト思ツタノカ
ソレハ初メカラ殺シテヤロウト思ツタマセン只腹ガ立ツテ腹ガ立
ツテ
ソレガナゼ腹ガ立ツタノカ
ソレデ三時頃ニ便所ヘ行ツテ出タ時ニ係側ニ机ノ上ニ小刀ガアツ
タモンデスカソレヲ持ツテ這入りマシタ
其時ノコトヲ覺エタルカ
持ツテ行ツタハ知ツテ居マスケレドモドウスルト云フ覺ハアリマ
セン
便所ニ行ク時持ツタノカ歸リニ持ツタノカ
歸リニデスソレハ係側ニシバラク立ツタノデス腹ガ立ツテソ
レカラ持ツタノハ知ツテ居マスカナゼシタカハ覺エマセン
ソレハソノ話ハ止メニシテ今ハ何モ考ヘナイカ
ソレハ何モ考ヘテ居マセン只ドウシテアンナコトヲシタカ自分デ
モ人ヲ殺ス様ナ男デハナイト思ツタマスコトトシタカハシタナイコ
トヲシマシタ(泣ク)
コレヲ宜シイト云ヒタルニ立上リ一禮シテ去ラントスルニ當リ熱
ハナイカ
熱ハ分リマセンガ
入院シタコトアルカ
ハア〇〇ノ府立病院ニ
何ト云フ先生ニ診テ貰フタ
工藤サヤ先生アル時ハ廿八度位ニナルコトハアリマシタ
七度ノ下ニナルコトハナイカ
ワカリマセン……締結スル時ハ行ツテ氣張ツテ見テモ出マセ
出シタイトモ思ヒマセン
體格強大ナラズ一見婦女子ノ如キ觀ヲ呈ス檢査中體節ヨロシク靜
ヲ守リ一般ニハ容観活潑ナラザルモ檢査ノ前中己ノ輕壓ヲ述ブル

第二回検診 十月廿八日

ニ當リ遺想ヲ要スル際ニハ正當ナル表情起リ又後中ニ於テ兇罪及其
動機ニ付物部ノ際ニハ一般元重表ハレ又時々悲苦悶ノ殘念ノ色顯
著ニ表ハル、ヲ見ル又著明ナル感情ノ變動ナキモ考慮ノ際顔面少シ
ク潮紅ス
前同所ニテ檢診ス
ドウデス
此間カラ段々トイ、ヤウニ思ヒマス腹ノ工合ガヨウナイヤウデト
日モ便ガ出ナイノデ藥ヲ戴キマシテモ腹ガ痛カツタリシマス
氣分ハドウデス
此頃ハ大分アノ色々毎日腹ヲ立テンノノ氣ガソビリナツテ
ヨイヤウデス
家ニ居ル時分ハ腹ガ立ツタノカ
ソレハモウ毎日腹ガ立ツマシタ(狼狽ノ笑ヲ洩シツ)、
休學シテカラハ始終家ニ居ルデシヨウ
マアソノモノデス
何日頃カラソノ腹ガ立ツ様ニナツタカ
ソレハ今カラ九年前ニ私ガ十四歳ニガ五ッデ魚津小学校カラ變
ツテ母ト私ト三ガ二ツ位デ其時カラデス
其時カラ續ケテ毎日腹ガ立ツノカネ
ソレハ一通リ豫備テ事サニ話シタア、云フ譯別ニ續ケテ毎日
ト云フ譯デアアリマセン記録ヲ……
私ハ讀メ
ア、云フ譯デ私ガ目ノ黒イ内ハ何モ文ニト物云フコトイラント云
フヤウナ譯デ
ソレデ
私ガ〇〇ニ居ル間デモ母ニ叱ツテケレト云フテモ私ガ大キイサカ
イト云フテ叱ツテケレト云フテモ私ガ日モ續イタノデ……大
キイサカイト云ハレテハ私ハ分ツテ居ルガ私ノ居ル前デ一度文二
ツ叱ツテケレト云フテモ一度モシカツタレノデ文二ハ段々私
ヲ侮ルノデサウコトガ昔日モ續キマシタガ其時ニ母ガ一度私
モ叱ツテケレ、バヨイノニ、ソレガ忘ラレノデソレガ忘ラレ
レタラヨイノダケレドモソレガ忘ラレノデソレニツケテ何モ

カモ腹ガ立ツテ仕方がナイノデ其事ガ何デモ思ヒ出サレテ……
私ガ直接ニ文ニテ指圖シテモヨロシイト云ハレタラヨイノデスケ
レドモソレモナラズ母モ叱ツテケレズソレ私ハソレガ少シモ忘
ララズソレガノカノデ私ガ〇〇ノ二ノノ入學試験ヲ受ケテ
這入ル二三日位ニ母ガ七尾カラ……私ガ〇〇ニ來ル時ハ魚
津ニ居マシタガ……七尾カラ來テ七尾ニ中カラ轉學シタノ
デス歸ツタカラ母モ私モ文ニモ同ジ家ニ居ルモノデスカ同ジコ
トニナツタノデス
サウ云フ昔カラノコトヲ皆覺エテオルカ
ソレハ何千アルカ何萬アルカ分ランケレドモ一々ノ悉シイコトハ
一々ハ覺エマセンガマシ私ガ文ニ直ニ云フタライカソノ母ニ云
フテモ叱ツテケレト云フテハ大キキナララ辛抱シタラ
ヨイノカケレドモトハ思フテハ居タノデスケレドモソレガ文三ガ
文二ノ三ツ下始メ〇〇ノ叔母サノ所ニ居タ時ハ文三ト文二ト
文二ハ喧嘩スルコトハナイガ段々大キキナツタ文三ト文二トガ喧
嘩デモシテモ其時ニハ文二ガ惡イコトシテ、モ文二ガ私ノ目ノ黒
イ内ハ何モ云フタライカソノ云フ譯ナラ私ハ何トモナイデスガ文
二ノ時ハソノコトハ云ハレズニ私ノ時ハ大キキナラ辛抱シタラヨイ
ナイカソノ云フノデス時ハ文二ハ文三ト文二ノ時ハ文三ガ
云ハレコトハナイデハナイガ多クハ文三ト文二ノ時ハ文三ガ
惡イト云ハレノデ前ノ私ト文二トノ關係ト文三ト文二トノ關係
ヲ思ヒ較ベテ腹ガ立ツテ仕方がナイカツタノデ何事デソウ云
フ風ニ思ヘテ一寸シタコトデモサウ云フ譯ナラ思ヒマス……
(暫時中絶ノ後)大變寒イデス
此時十一時支助ハ戦慄ヲ呈スルヲ以テ増衣ノ爲メ一時退場シ十一時
一分再ビ入り來ル
宜シイカ
行ケサウカ
行ケサウカ
寒イカ
コレヲ宜シク御座リマス此間一ヶ月程前カラ何カ出來タノカ鼻ノ
中ニ物ガ出來テソレカラ顔ノ(右頬ヲ指シ)ガ、ヒツクリスルコト

熱ガアル様ニ思ハシカ...

サア熱ガアル様ニ思ハシカ...

時々家デハ氣ニ入ランコトガアルノ...

ツマリ私ガ大キイサカイト云ハレ...

腹ガ立ツソノコトガ仰山アツタケ...

三年前マデハヨク覺エテ居リマシ...

先キニ立ツテ一ツノコトハ忘レテ...

事サンニモオシクシマシタ七尾ニ...

口ヲ云フ様ニナリ文ニト私トノ...

ガ出来ズソレガ一段落デ腹ノ立...

文三ノ時ニハ私ノ目ノ黒イ内ニ...

ノ方ガヨケテ一吐ラレル様デ大...

ガナイ様ニナツタ譯デ文ニト...

ヤウトスルトソノコトヲセイデ...

腹ノタ、ハ、日トテハアリマン...

叱ラレルシ文ニガ文三ヲ叱ツテ...

レン様ニナリマス...

サウ云フ時ニハドウシマス...

文ニガ文三ヲ讀イ言葉デ吐ツテ...

テ下サイト何運云フテモ言ツテ...

是迄ハ觸ガ立ツト外ヘデモ出ル...

タマラナクハナリマスガ外ヘ出...

居マス(稍九番シテ)

ソレナダネオ母サンガ例ノガ起...

二人ノ人間ガ居ツテドツチカラ...

ル時ニ一方ノ人ガ黙ツテ聞イテ...

ニ云ハレルト其時ニ云ハレタモ...

此答ヲ引續キテ更ニ述ブル所...

テ圖ヲ以テ説明セシメタルニ...

ハシ居ル際ニ三者アリテ甲ノ...

ソレヲ見テ文ニガ馬鹿ニスル様...

ソレハ思フノデハナク實際デ...

ソレハ誰デモアルコトデハナイ...

私モコソナニ監房ニ居テ腹ガ...

ヤト云フテ居ルト一處ニ居ル...

オコルトハ

自分等ハコソナニ心配シテ...

慣リマス又外ニ居レバ子供...

道ヲ上ル荷ガ重クテ荷ガ行カ...

餘り考ヘルト違フヤウナ時ハ...

私ノ考ヘルト違フヤウナ時ハ...

今ハドウダ

幾分カ寒イノニモヨツテ...

ズ居ルカト云フニ私ノ好キナ...

二ツヤツタラ粉レマス(喜色アリ)

今云フ様ナラ家ニ居ラズニ...

へ行カ分ラン様ニナルコト...

道デハ別ニ迷フヤウナコト...

ウカコツテへ行カウカト...

ダケデスケレドモ何シテ...

取ラレドモアリアスソナ...

イッデモコツチナラコツ...

五分カ十分前ニコウセ...

コトヲ云ハレル様ニナツ...

憤ラレル譯ガナイノニ怒...

コトガナクナリマス御父...

ウナデス、或人ガアツテ...

密柑ノ皮ガ落チテ...

ヲ蹴ツテ傍ヘノケルニ...

ニヨク似テ飛石デ頭ヲ...

私ガシタトスレバ父ガ...

二ツデナシニズーツト...

密柑ノヤウナコトガ...

小サイ時カラ云ハレ...

云フ工合ニ自分デ...

ツテモ決斷ガ出来...

バ第三者ニ惡意ナシト...

ズヤトノ念ヲ起スモノ...

身ニシテ乙ハ文ニ當ル...

コウ云フコトガ一日...

アルサウスルト御飯...

ウスルトドレ程アル...

サウ云フ時ニハ飯モ...

止メル様ナ元氣ハ...

ソレヤ(稍鎮靜ス)...

センガ二三年前マデ...

聞ユルト此邊ニ(頭...

マス別ニ自分ガ惡...

サウ毎日アルカラ...

ソレデ昔私ガ別ニ...

ト文三ト遊ソデ居...

方ガスコイトラス...

イコトヲスルト云...

様ナ工合デスカラ...

トラシテ親ハ別ニ...

居ツテ文ニト文三...

私ト文ニトノ昔ノ...

コトバカリニナツ...

テ後ハ腹ガ立ツ...

ノ子ガ遊ソデ...

ラヨイト思ツテ...

立ツ様ニナリマス...

バカリガ叱ラ...

ノデスケレドモ...

シトニ交ヅツ...

ス理思ヒシテ...

ガ得ラスルト...

餘り考ヘルト...

私ノ考ヘルト...

今ハドウダ

幾分カ寒イノ...

ズ居ルカト...

二ツヤツタ...

今云フ様...

へ行カ分...

ウカコツテ...

ダケデスケ...

取ラレドモ...

イッデモコ...

五分カ十分...

コトヲ云ハ...

憤ラレル譯...

コトガナク...

密柑ノ皮ガ...

ヲ蹴ツテ傍...

ニヨク似テ...

私ガシタト...

二ツデナシ...

密柑ノヤウ...

小サイ時カ...

云フ工合ニ...

ツテモ決斷...

へい始終ハナイ御父サンニハドツチニシテモ怒ラレルガ自分ニハ始終ト云フコトハナイ様デス……マア技ニ來テ居テ極樂ト云フハ文ニト文三トノコトハ怒ランガ父ト母トガ合ハンノ口デノ云合、ソレヨリ心デノ思合ト云フタ方ガヨソレヲ見テモ何カ知ラン氣ガ嫌ニナル御母サンガ泣イタリ怒ツタリシテハノヲ見テモ私ハ氣持ガワルイ

昔カラカ氣持悪ク思フノハ
今デモソウデス昔ハソソコトヲシテ腹ヲ立テ、ハナラント思フテモ御母サンノ顔ヲ見ルトイツモ泣イタ様ナ顔ヲシテ居ヤハルシ(ト云ヒテ泣ク)……

體ノ工合ガヨクナツタラドウスル積リデシタ
ドウシヨウト云フテ餘リ考ヘル間モアリマセン今度ノ二、三日前ニ退學願届ケルト云フテ來タノデス……別ニドウシヤウト思ツタコトガアリマセン

體ガ苦ニナツタノハ
大正二年中頃ニ大正一年暑中休暇ニ〇〇ニ引越シテ來テ其夏カラ腹ガ立ツコトガアツテソレカラ工合ガ悪クテソレ迄ニハ晝寢スル氣ニナツタコトハナカツタガ其頃カラ晝寢デモシタイト云フカウニ思フ様ニ身體ガタルクツツテソレガ苦シク思フ始メデス其前カラ腹ガ下ルト痛イトカハアツタノデスガ

學校ヲ止メルコトハ覺悟ヤツタノカナ
イーエソソコトハナカツタノデス二年ノ休ムコトハアルト先生ニハ云ハレルシツマリ一年休學シアトノ一年ハ缺席デ行ケルト思フテ居タデス何セ體ガ辛度カツタシ工合ガ悪クツタカラ今カラ登校ヲ容ルスト云ハレテモ學校ヘハ行ケウトハ思ハノンデス

併シ少シハ落膽シタカ
ソレハドウモ少シハ……ドウシテモコツツタケノ元氣ガヨクモナカツタノデソレ程ヒドクハ思ヒマセナソナ……私ガ始メテ御父サンデモア、アソナニ笑ハレルナト思ツタノハ四ツカ五ツノ時デス大津ノ病院デ菓子喰ベテ居ラレマシテ變ナコソナニ(菓子ヲ弄スル手眞似ヲナシ)シテ食ベラレマシヤナアト聞キマシタリ何ゾト云フテ食ベル前ニカウシテ食ベルノヤナト云ハレテ笑ハレタノガ始メテドスト(云ヒテ嬉シ氣ナル笑ヲ流ス)

脈搏百〇四至腫孔ノ對光反應神速、此検査ノ際眼瞼ヲ開カンガ爲メニ指ヲ觸ルレバ直ニ眼瞼ヲ上轉シ輻射ヲ後方ニ引ク斯ク懼ル、ニ足ラザルヲ論スモ此運動依然トシテ反復ス眼瞼ノ運動自在ナリ軟口蓋ノ反射存在スルモ弱シ然レドモ同時ニ全身ノ變縮ヲ伴フ膝蓋屈ひれテ反射射兩側共活潑ニ現ハル足屈反射ヲ檢スルニ反應活潑ニシテ全脚ヲ引クヲ見ル腹皮反射兩側共ニ存ス

胸部ニ在リテハ右側第四助骨部ニ痲痺アリ腹部ニ風腸ナク嘔吐ヲ觸レズ又緊張ナシ
今出タ後カ
此頃ニスレバ一雷ヨイ時デス
イツ出タ
今朝ノ三時頃デス
海水ハ入ル前カラ惡イナ
ソレハ人ヨリ結スルト云フ丈ケデス
腹カラ血ガ出ルト云フノカ
海水カラ出タ二、三日シテカラノ時デス
其外ニモ
以前ニモ出タコトハアリマス一寸
粘液ハ出マスナ
ソレハ一月モ
前ノ方ガ工合ガヨイカ腹ガ
ソレハ別ニ
心臓擴大ナク肺臟ニ在リテハ濁音ナク呼吸器ニ異常ナシ兩示指接觸試驗ニ於テ失節症ヲ認メズ皮膚知覺ニ異常ナシ然レドモソノ刺戟部位ヲ示スニ極端ニ正確ヲ期セントスルノ傾向アリ面シテ曰ク「觸ハレルノハヨク觸ル様ニ思ヒマス氣色ガ惡イ様ニ思ヒマス」

檢診ノ終結ヲ告ゲタルニ辭シ去ルニ當リ禮節頗ル宜シ本日ハ寒氣及亢奮ノ爲メカ殊ニ檢診ノ始ニ於テ音聲ニ震顫ヲ帶ビ談話中時々間ハ前同ニ比シテ明晰ヲ缺ケリ

四、現在狀態
文助ニハ畸形不具ナク身體各部ノ發育ヨク權衡ヲ保ツモ體格纖弱ニシテ體質強壯ナラズ一見婦女子ノ態アリ神經的徵候ニ於テ特ニ舉ゲベキノ障礙ヲ見ズ

時或ニ對スル指兩ヲ保有シ領解佳良ニシテ記憶ニ缺クル所ナク即チ數智作能ニ於テ缺陥ノ認ムベキモノナシ叙述ハ秩序ヲ保ツト雖常ニ極度ノ正確ヲ期セントカマルモノ、如ク簡明ナル能ハズシテ迂遠冗長ノ傾向ヲ呈シ好ニ假設ノ推理ヲ行ヒ循環シテ盡キズ論斷ニ於テ確定ノ終結ヲ得ル能ハズ

感情界ニ於テハ一般ニソノ表徵活潑ト稱スベカラザルモ一旦覺感セラル、アレバ感動甚強ク過去ノ不快ヲ追想シテハ或ハ呻吟シ或ハ激昂シ愉快ノ經驗ニ想到スレバ喜色面ニ滿チ恰モ眼前ニソノ光景ヲ有スルニ異ナラズ其他比較的些細ノコトモ顔面潮紅ヲ呈シ易シ

應對ノ際ニハ禮節頗ル宜シク曾テ異様ノ動作ヲ見ズ運動機ニアリテモ著明ノ亢奮ナク又抑止ナシ

生活歴ノ條下ニ述ベタル身體的病患ノ今日モ之ヲ表示シ頑固ナル傾秘ト下病トノ交替アリテ時々腹痛ヲ感ジ全身倦怠ヲ覺ニ音聲啞嚙シ又記憶及判斷ノ減弱ヲ感ズト云フ然レドモ胸腹臟器ニ意義アル異常ヲ診出セズ又音聲ニモ變化ナク記憶判斷ニ就イテハ已ニ述ベタル處ノ如シ

五、理由及說明
現在狀況ハ記述セル處ヲ綜合スルニ文ニ於テハ限畫セラレタル特殊精神病ノ存在ナク唯印象感受性感傷性強ク穿鑿僻ヲ有スルヲ見ルノミ

抑穿鑿僻トハ事物ノ考察ニ當リ得タル結果ニ對シテ常ニ反對の可能ヲ假設シ爲メニ判定ニ動搖ヲ來タシ不確ノ感交起リ到底確定ノ決斷ニ到達スル能ハザルノ謂ニシテ精神無力症ノ基礎徵候ヲナスモノナリ文助ハ之ニ加フルニ強キ印象感受性ヲ有シ古キ經驗モ一旦深キ感觸ヲ以テ受納セラレタルモノハ今日ニ在リテモ極メテ活潑ナル情調ヲ以テ追想セラレ恰モ當面ノ事象ト異ナルナキ活動性ヲ保有ス又感傷性度ニ過ギテ強ク感情ノ發動アルニ當リテハ身體的表徵モ頗ル活動セリ

此等ハ皆所謂精神病者ニ於テ遭遇スル徵候ナリ
今文助ガ此犯行ノ由來スル所ヲ案ズルニ其最幼時ノ家庭ハ平安ナラズシテ父〇助ハ飲酒ニ耽溺シ粗暴ノ所行多ク文助ハコレニ畏懼シ居タリ文二ノ生後父ハ稍溫和トナリシガ文助ニ對シテハ尙温情ナク文二稍長ジテ文助ト遊戯スル頃ニ至リ偶兩人間ニ論争ノ生ズル場合ニ

ハ其曲何レニアルニモ關セズ父ハ常ニ文助ヲノミ叱責シ又文助ガ文二ニ物品ヲ破壊セラレテ之ヲ訴フルモ父ハ文助ニ對シ其年長ナルノ故ヲ以テ認ベキヲ命ジ進シテハ文助ガ文二ニ事ヲ教ヘ又ハ命ズル際ニハ父ハ文助ニ向ヒ余ノ存命中ハ自身ノ教育スベキニ由リ汝ノ干渉ヲ許サズト嚴命シ文助ハ心中甚ク平カラザルモノアリキ後文助ガ母及弟等ト共ニ父ニ別レテ〇〇ニ住居スルニ當リ文二ニ非行アリシ際際父ヨリ直接ニ叱責スルヲ禁ゼラレ居ルヲ以テ母ニ文二ノ戒佈ヲ請フモ母年長ナレバ忍ベシトテ之ニ應ゼズ斯ノ如キコトヲ反復スルヲ以テ文二ハ漸次増長シテ兄ヲ凌グニ至リ文助ハ益之ヲ快トセザルニ至レリ

次デ末弟文三ノ物心付ク頃ニ至リ文二ト爭フコトアレバ父ハ其曲ノ文二ニアルニ拘ラズ之ヲ叱責セズシテ多クハ文三ニ罪アリトナシ又文二ニ對シテ年長者ハ忍バザルベカラズト論セシヨトナク文助ハ之ヲ見テ自己ト文二トノ間ニ於ケル關係ニ對シ比均等ナラザルヲ怨ミ又年長者ハ忍バザルベカラズトノ言ハ其理由ヲ失フニ至レルヲ感ジ父ハ自己ヲ惡ミ文二ヲ偏愛スルモノトナシ進シテハ文二ノミヲ利益ヲ受クルモノト史料スルニ至レリ

而シテ遂ニハ事ナキニモ思一タビ是等ノコトニ及ベバ常ニ憤怒ノ情露ヒ來リ讀書等ノ際ニモ精神ノ集中ヲ妨グラレ家庭ニ在リテハ苦惱堪ユルコトナク又外出ノ時モ途上同年輩ノモノ喧戯スルヲ見ルモ想ハ忍テニシテ自己等家庭ニ於ケル狀況ニ及ビ憤慨ノ念ヲ起シ之ヲ忘レントナシト云フ(以上一件記録……参照)

コトナシト云フ(以上一件記録……参照)
斯クノ如クシテ文助ハ此往事ノ追憶シテ憤懣苦悶ノ内ニ大正〇八年八月廿七日ノ兇行ヲ敢テスルニ至レリ

父ノ虐待ヨリ引イテ弟文二ニ對スル憤怒ノ情ハ假ニ彼ガ云フガ如ク事實の根據ヲ有スルモノトスルモ其顯現ノ文助ニ於テ斯ノ如キニ至リシハ其生來ノ印象感受性亢進ニ基クモノニシテ遂ニハ家庭ニ於ケル刺戟ノミナラズ何等自己ト關係ナキ踏傍ノ小兒ヲ見テモ之ニ想到スト云フガ如キハ其度已ニ正常ノ範圍ヲ逸脫スルモノト云フベク又文助第二回豫審訊問書ニ見ル如ク「ソソコトハツマラヌカラ氣ヲ轉シヨウト思ヒマシテモ思ヘバ思フ程其事ヲ思ヒ出ス様ナ傾ニナツテ」ト云フハ此情ノ強迫的性狀ヲ窺ハシム可ク而シテ此憤怒發情

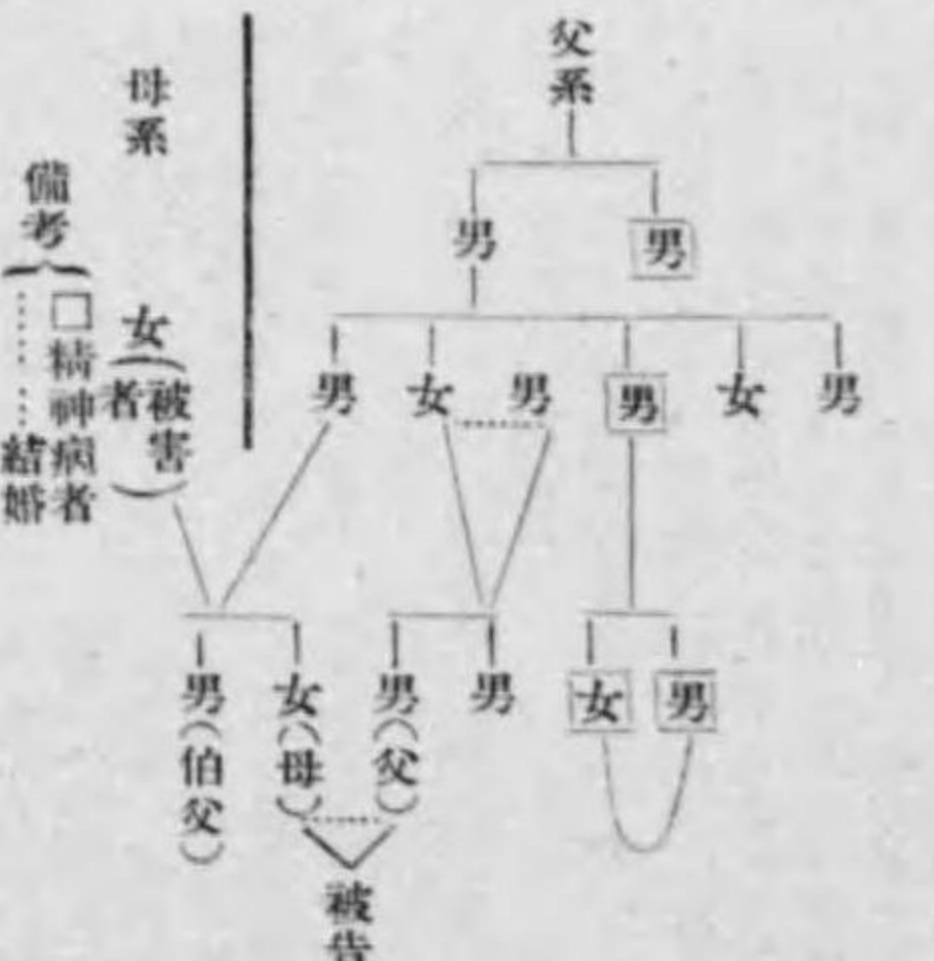
其者ニヨル衷心ノ苦惱ノ如何ニ深基ナルカハ「コツナ」(監獄)ニ居ルト何モ忘レテ居テ立ツテモ居テモマラント云フ様ナコトハアリマセン...

子ノ勢力モ其度ヲ増スベキハ數ノ然ラシムル所ニシテ其シク容易ニ行爲トシテ表現セラル、ノ傾向ヲ有ス此時之レガ制禦ニ與カル反對...

レバ心神喪失者ノ行爲ヲ以テ論ズベキモノナリ
六、鑑定
一、被告文助ハ大正〇年八月廿七日午前四時〇〇自宅ニ於テソノ實弟...

乙 樣式鑑定書

大正〇年〇月〇日、〇〇地方裁判所〇〇〇〇ハ北〇〇一殺人準備及ビ殺人未遂被告事件ニ付
本件犯罪當時ニ於ケル被告ノ精神狀態...



三、被告文助ハ精神病質者ニシテ其刑法上ノ評價ハ行爲ト病の現象トノ間ニ於ケル交渉ノ程度ニヨリ之ヲ定ム
大正〇年十二月廿三日
宿所 今村 新 吉屋

フ、且有各同胞何レモ多少遺尿ノ癖アリ
學業 ○一ハ尋常小學第三(四カ)學年ヲ終リタルノミニテ退學シ其
後ハ家業(蒲鉾ノ受賣)ヲ手傳フ傍ラ、神官某ニ就キ讀書ヲ學ビシ
モ、餘リ六ヶ敷キ故ニ、終ニ中絶セリ

犯罪行為 被告ハ十七歲頃ヨリ、女ニ手ヲ出シ初メ、ソレヨリ漸次
深入リシテ、終ニ父ノ金ヲ持出し、遊里ニ出入シ、時々數日間流連
セルコトアリシト云フ、本年(大正〇年)一月一日、某地遊廓〇〇權
ニ登リ、同四日迄流連シ、遊興費不足セル爲、衣類ノ一部ヲ質入レ
シテ漸ク歸村シ得タルモ、斯ノ如キ有様ニテハ、父方ニ歸宅スルワ
ケニモ參ラズ、止ムヲ得ズ、一時(六、七日迄)〇〇常ニ遊ビニ行
ク家方ニ寢起キテ、ソレヨリ〇〇(叔母)方ニ世話ニナリ居ル内、同
月九日伯父北〇〇耶ニ面接シ、右ノ趣(遊興費不足ニ付、衣類質入
ノコト)ヲ話シタルニ伯父ハ種々戒備ヲナセリサレド被告ハ「前記遊
廓ノ所在地ニ於テハ信用上ニテ、數十圓貸シ呉レルモノアル様」編
言シテ、自省セザルヲ以テ、「ソレナク汚キ遣ヒ標ヲセズ、モ少シ精勵
ニ遣フベシ、若シ同地ニ於テ、オ前ニ信用アリテ貸シテ呉ル、モノ
アラバ、五十圓六十圓位ナラ付ケ馬モ仕テ來レバ、自分ガ拂
ヤル」ト冷笑セシニ、被告ハ淺慮ニモ左様スレバ勿論拂テ呉レト事ト
思込、即夜、再度同權ニ登樓シ、十一日迄流連シ、九圓餘ノ書出
シヲ持テ、歸村ノ上、叔母〇〇方ニ至リシトキ、丁度伯父ニ出會
右ノ書出シヲ伯父ニ示シ、其支拂ヲ乞ヒタルニ伯父ハ頑トシテ、之
ニ應ゼザル爲、其欺瞞言行ニ付キ立腹シ、叔母等ニ對シテモキマリ
惡ク、不得止、友人〇〇〇ガ世話ニナツテ居ル△△方ニ行キ、一
晩泊メテ實ヒシモ、如何ニモ氣ノ毒ニ付キ、越エテ十三日ヨリ自宅
ニ歸リ居ル内考レバ考レハ、伯父ノ仕打ガ憤ヲ思フ折柄、犯行
當日(十七日)午後三時頃、前記友人〇〇ヨリ「曩ニ貸置キタル遊興
費ヲ、早ク送金致シ呉レ、然ラザレバ取りニ出向ク様」〇〇權主ヨ
リ、督促アリシ旨ヲ聞キ、伯父ノ所爲ニ付益々憤怒シ、堪ヘラレ
標ニナリテ、イツソノコト意趣返シ、彼ヲ殺害セント思ヒ、△△
方ニ至リ、無斷ニテ剃刀ヲ借り來リ、之ヲ懷中シ同日午後六時頃自
宅近傍ノ僻處屋ニ於テ、僵屍一楯ヲ食シ、一合入ノ正宗二樣ヲ解ケ、

相當ニ酔ヒ、ソレヨリ駕リテ伯父ヲ呼出し傷ケン爲、同人宅ノ前ニ
至リ、戶外ヨリ「父母ガ今、自分ノツボラノコトヨリ暗嘩シ、母ガ
父ニ棒ヲ以テ打撲セラレ、腰ヲ抜カシ、醫師ノ所ニ連レ行カネバナ
ラマ故ニ、至急來援致シ呉ル、様」申入レシニ祖母ク〇ガ「叔父ハ
今、入湯ニ赴キ居ル故、自分ガ行ツテ遺レト返答シテ出デ來リシ
故、同行シテ被告方ニ赴ク途中、被告ハ熱々思フ様、若シ祖母ヲ連
レ歸レバ直ニ、虛構曝露シテ、益々窮地ニ陥ル可シ、故ニ寧ろ祖母
ヲ殺害セント(其際祖母ハ前行セリ)即チ腰メ、携帶セル剃刀ヲ
懷中ヨリ取出シテ突然祖母ヲ突倒シ、切付ケ祖母ガ、度々「堪忍シ
テ呉レト」疾呼セシニモ拘ラズ、大小約三十個ノ重傷ヲ負ハシメ、
其傷ヲ運走シ(予ニ對スル被告ノ自陳ニヨレバ)同夜ハ全ク覺ヘズ
ニ、程遠カラヌ濱邊ノ松樹下ニ野宿、睡眠シ、翌朝五時頃、醒メテ
吃驚シ濱路ヲ迂回シテ、歸宅セルニ此時、宅ニハ既ニ巡查ガ來居リ
テ終ニ逮捕セラレタリ、但シ兇器ハ歸宅後竊ニ、自宅ノ裏手ナル納
屋内ノ空桶中ニ匿シ置キタルヲ後ニ至リ、巡查〇〇〇〇之ヲ發見セ
リ

(註)、「書出シ」トハ請求書ノ方言ナリ。

第二、現在徴候

甲、精神の徴候

- (一) 指南力 氏名、年齢、生年月日、出生地、原籍地、所在地(未
決監)目下及び犯時ノ月日、何ノ爲ニ、此處(監獄)ニ來リシカ周
圍ニ居ル人(看守)ハ何ノ爲ニ居ルノカ等ハ、皆、正シク答ヘ能フ
ガ故ニ意識明清ニシテ指南力ニ障礙無キコトハ明ナリ
- (二) 領解力 彼ハ種々ノ品物、繪畫等ヲ見、或ハ色々ノ話ヲ聞キ實
問ヲ受ケテ之ヲ正シク解ス(從テ問ニ對スル相當ノ答詞、行動ヲ
ナス)即チ、彼ノ領解力ニモ著シキ缺損無キコトヲ知ルニ足ラン
- (三) 注意力 ハ多少減弱セルガ如シ、例之、一文章中ニ在ル一定ノ
文字ニ傍柱ヲ付セシムルニ、往々脱漏アリ、對話中竊ニ彼ノ足ヲ
踏ミ、衣服ヲ引キ、針ヲ以テ頸部ヲ試刺シ、或ハ机ヲ打チテ聲ヲ
發セシムルモ、問々之ヲ覺知セザルコトアリ
- (四) 記憶力 ハ先ツ尋常ノ程度ニ存スト思ハル、何トナレバ、生年

月日、兩親設ニ同胞ノ名前及ビ年齢、就學ノ年限、其後取リタル
職業(家業ノ手傳、蒲鉾ノ小賣、「ミシシ」縫工)犯行ノ月日並ニ
其前後ニ於ケル行動、又近頃母ヨリ通信アリシコト、父ガ監獄ニ
尋來リシコト、並ニ其通信、物語リノ内容、等皆能ク記憶ス

(五) 妄想 ノ存在ヲ證スルコト能ハズ

(六) 觀念 對話中、彼ノ話振リニヨリテ、之ヲ察スルニ、殊更、觀
念聯合速度ノ促進、若クハ遲滯シテ多辯、若クハ寡言ナリト云フ
程ノコトモ無ク、又冗長症、言語ノ常同症、同一觀念ノ固執症、
支離滅裂症、當意即答症、強迫觀念、新語作製等ヲモ認メズ

(七) 判斷力、計算力

- 問、池ト川トノ差異如何カ
答、池ト川トノ差異如何カ
- 問、池ト溜リ、川ハ流レル
答、牛ト馬トノ差異ハ如何
- 問、角ノ有無、足ノ爪(牛ノ爪ハ二分レ、馬ノ爪ハ一ナリ)、脊
ノ高低、頭ノ形、鬣ノ有無ニヨリテ之ヲ區別ス
- 此他、儉約、吝嗇、勇氣、臆病等ノ意味、山ト谷ノ別、窓ト戸ノ
別、轉ベヌ先ノ杖、急ガバ遅レ等ノ諺ノ意味等モ大體ニ於テ之ヲ
理解ス、故ニ判斷力ニ著シキ減弱アリトモ思惟セラレズ、計算力
ニ關スル問答左ノ如シ
- 問、蒲鉾ノ價ハ幾何カ
答、小板ハ一枚ノ仕入三錢五厘、賣價四錢、大板ハ仕入五錢、賣
價六錢
- 問、一度ニドノ位仕入レルカ
答、〇〇、〇〇等迄賣リニ行ク時ハ(コレハ一年ニ二、三度ナリ)
大小取混ゼ千五百枚位
- 問、一枚四錢ナラバ千五百枚ノ代價ハ何程ニナルカ
答、六十圓
- 問、一枚五錢ナラバ千五百枚ノ代價ハ幾何
答、七十五圓(三十秒ヲ要ス)
- 問、四錢仕入レ、之ヲ四錢五厘ニ賣リ、一千五百枚賣レタナラ
バ、儲ハ幾何
答、七圓五十錢

(八) 感情

- 問、此頃ハドウシタ
答、裁判ガ永遠イテ困リマス
- 問、宅ニ居ルノト、此處(監獄)ニ居ルノト何レガ好キカ
答、勿論宅ニ居ル方ガ好シ、此處デハ生命ガ縮マル許リデス、何
トナレバ食物ハ少ク、運動ハ出來ズ、娛樂ハ無シ
- 問、兩親ハ今同ノ事件ニ付、平氣ナリト思フヤ
答、否、心配シテ居ルト思フ、然ラザレバ差入物ヲシ、又辯護士
ヲ付ケテ呉レル等ノコト無シ
- 問、出獄後、伯父〇耶ニ報仇スル積ナリヤ
答、否、ソレナコトヲスレバ罰ガ當ル
- 右記ノ問答、並ニ彼ノ言語、舉動、顔貌等ニヨリテ、之ヲ察スル
ニ、感情興奮性ノ著シキ減退ヲモ、亦亢進ヲモ、尙感情ノ病的ニ
不快性ナルコトモ、亦快樂性ナルコトモ證明スルコト能ハズ

(九)意志運動 意志發動力ノ増進(運動性興奮)セル徵候(饒舌、濫書、多樂、放歌、物品破損等)竝ニ其反對症(無氣力、茫然無爲ヲ)モ檢出セズ

(十)一般智能

問 米ノ收穫ハドノ位アルカ
答 三石(一段ニ付)有ル
問 田面ハ何程作ルヤ
答 四段
問 米ノ賣買ハ何程カ
答 一石二十四圓位ナリ
問 然ラバ三石賣ラバ何程ニナルカ
答 三十二圓(四十二圓ト訂正ス)
問 地主ニ年貢ハ何程拂フカ
答 普通一段ニ付一石五斗(故ニ、三石ナラバ、半々トナリテ家ニ六石殘ル)
問 此ノ殘米ヲ一石ニ付十四圓ニ賣ラバ幾何
答 五十四圓(八十四圓ニ正誤ス)
問 米ヲ播クノハ何月乎
答 四月、五月
問 刈入レハ何月カ
答 十月頃
問 蒲鉾ヲ製スル材料何々カ
答 蟹、鱧、エビ、烏賊、牛ノ舌(鱧ノ標ナ魚ナリ)ヲ普通トス
問 蒲鉾ハ何時カ
答 八月十三、四五六日
問 其時ノ行事ハ何カ
答 踊リ、蔵入り、新佛ノ祭
問 何故、新佛ノ祭ルノカ
答 先祖ヲ敬スルノ意ナリ
問 何ノ爲ニ稅ヲ納メルカ

答、上ノ雜用ニ遣フ
問、何故、徵兵ニ行カネバナラヌノカ
答、行カネバ戰爭ニ負ケル
問、種々ノ繪本ヲ見テ、之ヲ解スルノ能力アリ、一年ハ十二ヶ月ニシテ、二、四、六、九、十一ハ小、其他ハ大ナルコト、一週ハ七日ナルコトヲ知り、又各曜日ノ名ヲ稱スルコトヲ得

乙、身體的徵候

體格營養共ニ佳良ニシテ、燃エ立ツ様ナ元氣ヨキ顔貌ヲ有ス、頭形ニ肥スベキノ異狀無ク、毛髮ノ發生尋常ニシテ、頭首ヲ輕打スルモ疼痛無ク、外後頭結節ノ上方約三横指程ノ所ニ、約三・〇仙迷長ノ白色癩痕、左上方ヨリ右下方ニ斜走ス(幼時、角力ノ際漆喰ノ上ニ倒レテ負傷セル痕ナリト云フ)、顔面ハ左右均等ニシテ、顔面神經ノ諸枝ニ麻痺無シ、眼動ニ障害無ク、瞳孔左右中等大、圓形ニシテ對光反應尋常ノ如シ、視力稍々弱シ、舌ヲ伸出セシムルニ、直ニシテ少シク苦ヲ被リ、振頭無シ、齒列(殊ニ下列)稍々不整、齶齒無シ、硬口蓋ノ尋常尋常ニシテ懸垂ハ中央ニ位シ、口蓋彎、能ク擧上ス、左右兩耳ノ耳垂ハ稍々上方ニ翻轉シ、且、右耳ニ於テハ、其下緣ニ淺キ癩痕一個アリ、右耳ノ鼓膜上ニハ、汚褐色濃厚ノ液狀物附着シ、懷中時計ノ音ヲ、僅カ一、二仙迷ノ距離ニ於テノミ聽キ取ルコトヲ得、左耳ノ鼓膜面ニハ、右記ノ如キ附着物無ク、聽力モ亦右側ニ比シ其ナリ(即チ時計ノ音ヲ約十仙迷ノ距離ニ於テ、齒ニ聽キ取ルコトヲ得)
胸廓ハ其々尋常シ、左右兩側ノ呼吸運動、相均シク、肺ノ打診及ビ聽診上、亦異常ヲ檢出セズ、心臟ノ心尖搏動ハ、左第五肋間ノ乳線内ニ觸レ、濁音界擴大セズ、心音清朗ナリ、脈搏ハ大ニシテ力アリ一分七十二ヲ算ス
脊柱ハ異常ノ彎曲ヲ呈セズ、輕打スルニ痛點無シ
腹部ハ稍々膨滿シ(脂肪過多)、按壓スルモ硬結無ク、唯、左季肋部ヲ試壓スルニ、少シク疼痛ヲ訴フ
隨意筋ノ運動、筋ノ粗大ハ相當ニ存シ、壓力計ヲ以テ檢スルニ右手一七、左手二三基呂ヲ示ス、諸種ノ共働運動ハ先ヅ人說ナリ知覺、觸覺、痛覺共ニ稍々鈍位置尋常、ロンベルグ氏徵候無シ

反射、鼻結膜、咽頭結膜、骨膜反射尋常、提拿筋反射著明、腹皮反射、膝蓋反射、足現象缺如ス

第三、說明

予ガ上述セル數回ノ檢診ニヨリテ、未知シ得タル所ヲ、總覽スルニ、被告〇一ニハ、中樞神經系ニ粗大ナル器質的異常アリト思ハル、身體的徵候無ク、又變質的徵候群ト認ムベキ著明ナル畸形モ無シ、精神の徵候ニ於テモ、時竝ニ所關スル指力ヲ始メ、領解力、記憶力、觀念聯合ノ方法竝ニ其速度ニモ、記ス可キノ障礙無ク、妄覺妄想存在セズ、判斷力ニモ概シテ間違無ク、計算力モ彼ノ教育程度ヨリ之ヲ批判スレバ、敢テ拙劣ナリト云フ可ラス、唯、注意力ハ稍々散漫ナルガ如シト雖、コレトテ極メテ輕度ニシテ、別段意義ヲ有スルモノニアラズ、尙異樣ノ表情及ビ意思運動ノ發現ヲ檢出セズ、要之、〇一ニハ現時彼ヲ精神病者ト認ム可キ徵候無シ從テ現時ノ狀況ヨリシテ、犯時、彼ノ精神狀態ニ異常アリシト推考ス可キ根據無シ、彼ハ父系ノ聲屬中ニ數名ノ精神病者ヲ有シ、從テ神經系ノ疾患ニ對シテハ、頗ル濃キ遺傳ヲ有ス、又被告ノ父母、竝ニ同胞ニモ其神經系ニ多少變狀アリト思量ス可キ徵候ヲ有スル者尠カラズト雖、コレノミヲ以テ直ニ被告ヲ精神病者ト認ムル能ハザルコトハ論ズル迄モ無シ、斯ノ如クナルガ故ニ、犯時ニ於ケル被告ノ精神狀態ニ異常アリシヤ否ハ、一件記録(警察官、列檢事ノ問ニ對スル被告、證人、參考人等ノ應答)ヲ密按シテ之ヲ決スルノ他無シ、而シテコレニヨルモ、是迄精神官能ニ異常或ハ缺陷アリシト認ム可キ根據無ク、且犯行前後ニ於テ、被告ノ精神狀態ニ異常ヲ來セシト認ム可キ根據無シ
犯行二、三時間前、二合ノ正宗ヲ飲ミタリト云フト雖、時ニハ一升餘モ傾ケルコトアリト云フ彼ノコトナレバ、コレ丈ノ量ニテ其シタ醜態ヲ思ハレズ、又右飲酒後伯父〇郎方ニ至リ彼ヲ呼出サント企テタルコト、竝ニコレニ對シテ祖母ク〇ガ採リタル行動等十分ニ記憶スルコト、犯所ヨリ逃走ノ途中兇器ノ血痕ヲ自ラ踏傍ノ小溝ニテ洗ヒタルコト等ニヨリテモ亦、其醜態ノ程度左程甚シカラザリ

シヲ知ルニ足ラン、即チ犯行ハ飲酒ニ基發セルモノニアラザルベシ、彼ハ第一回豫審訊問中ニ
問、同夜被告ハ祖母ヲ戶外ニ連出シ、右剃刀ヲ以テ同人ヲ殺害セントシタノデハ無イカ
答、左様デアリマス、私ハ如何ニカシテ伯父ヲ呼出シ、同人ヲヤツ付ケル積リデ、同家ニ行タノデアリマスガ、其時既ニ叔父ノ家デハ表戸ヲ締メテ居リマシタカラ、私ハ戸ノ外カラ「今母ト父ト自分ノゾボラニ付テ喧嘩ヲシテ母ハ、父カラ毆ラレテ、息ガ止ツタカラ、直ニ伯父サンニ來テ吳レト申シマス、祖母ガ「〇郎ハ不在デアルト云ヒ、自分ガ行テ見ル」ト云ツテ、外ニ出テ來マシタ、私ハ今更ソレガ嘘デアルトモ云ヘズ、ソレカト云フテ祖母ガ家ニ來レバ、嘘ノコトガバレテ了ヒ、又々私ガ如何様ナ難儀ナ目ニ會フカモ知レト思ヒ、一ツハ伯父ヘノ面當ニテ、一層祖母ヲ毆シテ了ヘト云フ様ナ亂暴ノ氣ニナリ、同家カラ、半町程離レタ、野道ニ差カ、ツタ處デ、コツンリト懐カラ剃刀ヲ取出シ、ソレヲ右手ニ持テ祖母ノ後カラ、不意ニ首ノ邊ヲ目ガケテ斬リカ、ツタ處、同人ハ驚テ、道傍ノ小溝ニ倒レタ様デレタガ、ソレカラ私ガ突タ爲カドウシマシタアツタカ能ク覺エマセタガ同人ハ其傍ノ田ノ中ニ落込マシマシタカラ、私ハ、尙、其田ノ中ニ行キ同人ノ顔ノ邊ヲ無茶苦茶ニ斬付ケテ置テ、其儘墓場ノ裏ヲ通ツテ、松原ト云フ所ノ松林ノ中ニ隠レテ居マシタガ、トセ御上ノ手ニカ、ラネバナラヌコトナラ、一層自首シタ方ガ宜イト思ヒ、兩親ニ暇乞旁々、本日午前七時頃、歸宅シタ處ヲ巡査ニ取押ヘラレタノデアリマス
ト自陳シナガラ、第二回ノ訊問ニ際シ、或ハ公判延ニ於テ、其幾分ヲ否認シ、又ハ夢中デ能ク覺エヌト申立ツルト雖、ソガ記憶ノ缺損ニ基クモノニ非ズシテ虛構ノ陳述タル事ハ申ス迄モ無シ、被告ノ陳アル所ニ依レバ、犯罪ノ動機ハ叔父〇郎ガ、被告ノ遊興費ヲ負擔シヤルベシトノ言ヲ信ジ、其通り致シタルニ伯父ハ口約ニ反シ、ソノ仕拂ヲ拒ミタルニ因リ、圖ラズモ窮地ニ陥リタルヲ憤慨シ、意趣返シノ爲、彼ヲ誘出シテ殺害セント欲シ、飲酒ノ上同人方ニ赴キ、今

以上所述セル所ヲ總括スレバ、一ハ、刑法第三十九條ニ所謂、心神
耗弱者(シヤ心ヲ喪失者)トハ思ハレズ

第四、鑑定

終ニ臨ミ、鑑定ノ要旨ヲ簡言スレバ、左ノ如シ

被告一ハ、刑法第三十九條ノ範圍内ニ屬スルモノニアラズト認

本鑑定ハ大正〇年〇月〇日著手、同年〇月〇日終了セルモノナリ

大正〇年〇月〇日

住 所 關 本 稜 松 園

今精神狀態鑑定書ノ一般模型式ヲ示セバ左ノ如シ。

鑑定一定書

冒頭(受命年月日、命令官、受命ノ場所、事件名及鑑定事項、検査ノ場所同數等ヲ記載ス)

住 所

職 業

(被告、患者) 姓 名

現時年齡

天 地

檢診記錄(甲樣式ナラバ挿入、乙樣式ナラバ之ヲ略ス)

一 既往歴

甲 遺傳歴

次表ニ示ス如キ親族ノ各ニ就キ順次ニ左ノ各項ノ有無狀況等ヲ

問ヒ、既ニ死亡セルモノニ就テハ死因、享年ヲ明カニシ、現ニ

生存スルモノニ就テハ其年齡、體質ヲ訊問シ其性行ノ概要ヲ評

記スルヲ要ス

精神病、癲癇、脊髓病、歇私埜里、依ト是埜里、癲癇、舞踏病

神經衰弱症、偏頭痛、神經痛異常氣質者、自殺者、大酒家、道

義缺乏者、犯罪者、癡死者、癡形、癡毒、結核、癩病

流產、血衰結核等、(發病時、其病因、種類、經過持續、轉歸、

本人歴

既住歴

甲遺傳歴

精神狀態鑑定書

シエーマ

本人歴

現在症 甲身體症狀

- 一 有無等、父母結婚及生殖時ノ年齡
- 二 胎生時、母ノ妊娠經過、妊娠中母體ノ健否、外傷、中毒傳
- 三 胎生時、母ノ胎動、苦慮、過勞等
- 四 產時、出產ノ輕重、持續、早產、平產、難產、鉗子手術
- 五 產後、假死、臍帶脫出症ノ有無、出生時體重等
- 六 哺乳時、哺乳ノ狀況
- 七 小兒期身體發育ノ狀況(巨人、侏儒、れんちん)笑ヒ、發聲、
- 八 步行、言語、其他一般ノ智慧付ノ遲速、癲癇、幻覺ノ傾向、
- 九 夜間恐怖、夜間叫喚、頭部外傷、其他癩疹、腦膜炎各種傳染
- 十 病、氣質、癲癇、癱瘓、不從順、細心、陰氣、壯快、
- 十一 破瓜期、發達狀況、早熟、晚熟、發育異常、色情發育ノ時
- 十二 期、手淫、飲酒、傳染病、花柳病、神經衰弱症、頭部外
- 十三 傷等、婦人ニ在テハ月經初潮時、其狀況、月經後ノ違和等
- 十四 七 成年期、體格、持病、急性及慢性疾患ノ有無、頭部外傷傳
- 十五 染病、花柳病、癩癩發作等
- 十六 八 老人期、一般營養、性行ノ變化、疾病等
- 十七 九 生殖事業(婦人)。月經異常、妊娠、出產、墮胎、產褥、授
- 十八 乳、流產、早產等、無期等ノ狀況等
- 十九 性癖、氣質、神經病ノ又精神病ノ體質、溫良、刺戟性、意地
- 二十 惡、吝嗇、豪奢、小膽、猜疑、不從順、細心、陰氣、壯快、
- 二十一 因循、躁急、執拗、自恣、業務勤勉、怠惰、能ク永續セ
- 二十二 ズ、時々ノ變換、窃盜心、虛言、狡猾、病的感情、感情轉換
- 二十三 不機嫌、虐待、樂天、厭世、奇癖、發熱時等ニ於ケル幻覺ノ
- 二十四 傾向、氣候風土飲食ニ對スル特異性、飲酒不潔、精神刺戟ニ
- 二十五 對スル血管運動性變化(蒼白、潮紅、心悸)空想的企圖ノ傾
- 二十六 向、食慾異常、色慾異常等
- 二十七 十一 習慣、飲酒、酒量、不品行、放埒、喫煙、手淫、荒淫等
- 二十八 十二 學術技藝、就學年齡、學業成績、勤惰、特ニ秀テタル學
- 二十九 科、技藝、特ニ得意ナル學科、技藝、學業ノ不平均、同意
- 三十 教師、校則、校風ニ對スル適應如何、教師處罰ニ對スル狀況

殊ニ精神病ニ就テハ精細ナル注意ヲ以テス。

曾祖父母系	祖父母系	父母系	本人系	子孫系
曾祖父	祖父	父	本人	子女及孫
曾祖母	祖母	母	第何子	曾孫等
曾祖父母	祖父母	父母	本人	子女及孫
曾祖父	祖父	父	第何子	曾孫等
曾祖母	祖母	母	第何子	曾孫等
曾祖父母	祖父母	父母	本人	子女及孫
曾祖父	祖父	父	第何子	曾孫等
曾祖母	祖母	母	第何子	曾孫等

乙 本人歴 一 受胎時。受胎時ニ於ケル父母ノ大酒、衰弱、疾患等ニ關シ

- 十三 熱心、多企業、多轉換、社會上ノ地位、徵兵關係、財產ノ所
- 十四 置(濫費、濫買、濫與、吝嗇)等
- 十五 配偶ニ就キ何歳結婚、夫婦間ノ交情(疎密不和)離婚アラバ其
- 十六 理由年月、其他ノ交情、品行(方正、放快、戀愛、不品行爲、
- 十七 其事態、犯罪(各同ニ付年月、罪名、動機、利後ノ心
- 十八 狀等ヲモ)等
- 十九 十四 境遇。家庭固執ナルヤ、否ヤ幼ニシテ父母ヲ喪ヒタル
- 二十 事、繼父母ニ養育セラレタル事、教育ノ寬嚴、職業ニ對スル
- 二十一 不平、職業ト疾病トノ關係有無(例之ハ酒店、投機商、俳優、
- 二十二 女工、酌婦等ニ就キ)交際ノ狀況、親族、朋友、師弟等ニ對
- 二十三 シ、政治宗教上ノ意見、信仰心(淺深、迷信)等
- 二十四 十五 現病前ノ精神病。其原因、發病年月、症候、經過、持續、
- 二十五 轉歸、治療後ノ精神狀況等
- 二十六 十六 現病發病ノ原因。精神上及身體上ノ原因、現在病ヲ推測
- 二十七 原因、其月日、其原因ノ爲ニ起リタル發病前ノ變常、數多ノ原
- 二十八 因アラバ其相互關係、身體的關係(癲毒、酒精濫用、頭部外
- 二十九 傷、虛脫、急性傳染病、歇私埜里、癲癇、動脈硬化症、妊娠、
- 三十 產褥等)、精神の關係(一時的又ハ持續的ノ刺戟感動、過勞等)
- 三十一 十七 發病以來ノ症狀及經過。前驅症狀、發病ノ顯著トナリシ
- 三十二 狀況月日、主期ノ主徵候(感情ノ鈍麻、亢進、轉換、憂鬱痛
- 三十三 苦、厭世、發揚、爽快、憤怒等、意識狀態、記憶、妄想、覺
- 三十四 強迫觀念等、性行ノ變化、多言、多動、徘徊、遊快拒絕症狀、
- 三十五 錯亂、躁暴、不潔、色事關係等)特ニ自殺企圖自他ニ對スル
- 三十六 危險症狀、拒食、絕食、不眠、頭痛、失神、發作、(癲癇發
- 三十七 作、眩暈發作、卒中發作)等アラバ注意シテ記スベシ。
- 三十八 甲 現在症
- 三十九 一 姿勢舉止。常人ノ如キカ、安靜、不安、譫妄、躁暴、拒絶、
- 四十 不自然、著衣ノ整頓不整頓、直立歩行ノ姿態

- 二 身體發育。身長、體重、體格發育ハ年齡ニ相應スルヤ否
- 三 體格。四肢關節ノ比例、左右不均等
- 四 血液。充血、貧血、ちあのいぜ
- 五 顏貌。茫然、爽快、沈鬱、弛緩、顏貌ノ變化烈シキヤ否
- 六 頭形異常。小頭、水頭、斜顛、鞍顛、高顛、長顛、短顛
- 七 頭蓋測定。頭圍、耳前頭圍、耳後頭圍、耳顛頂圍、前後徑、左右徑、耳下頭圍、鼻根頭圍、耳孔徑、前頭骨額骨突起徑、耳孔鼻棘徑、耳高、縱橫示數、頭部癩癧ノ有無
- 八 耳變質徵候。耳血腫ノ有無
- 九 眼。眼瞼、眼球、視野。眼球運動障礙、不安、震盪症、瞳孔ノ大サ、左右不同、對光反應、調節反應、ひつぷす、虹彩ノ色ト斑紋、眼底檢查、視野測定
- 十 口唇、口腔。口蓋、齒列ノ變質徵候、口蓋及舌ノ癩癧舌ノ檢查、殊ニ萎縮及運動障礙、咀嚼運動、齶齒等
- 十一 言語障礙(吃、不明、蹇跚、失語、錯語等)
- 十二 皮膚異常。皮膚變質徵候、文身、癩癧、疥瘡等
- 十三 內臟其他。肺、咽喉、喉頭、心臟、動脈系、消化器、生殖器變質徵候、生殖機能、月經ノ異常等
- 十四 反射機能。瞳孔、膝蓋反射、アヒルズ氏反射、足蹠、腹壁、提舉筋、二頭筋、三頭筋等ノ各反射、足現象パビンスキー氏現象等
- 十五 運動機能。筋肉運動障礙、痲痺、失調、震顛、纖維性抽搐、步行障礙、筋力減退、筋肉萎縮、筋肉ノ疼痛、筋肉ノ器械的利戟ニ對スル興奮性亢進、筋肉關節ノ緊張狀態、強痙、其他顏面症狀等

- 十六 感覺異常。觸、痛、溫度、位置、筋肉感覺ノ鈍麻、脫失、過敏、其區域及程度、頭痛、那果痛、電擊痛、神經痛脊樑感覺過敏、壓痛點
 - 十七 五官機能。視、聽、味、嗅感覺ノ檢查
 - 十八 大小便檢查
 - 十九 其他必要ニ應ジテ行ヘル脈波、血壓、呼吸、血液、腦脊髓液等ノ檢查、殊ニ血清及腦脊髓液ノワツセルマン氏反應
- 乙 精神症狀
- 一 姿態、動作、談話。應對ノ模倣、居間ノ飾付、表情ノ如何、問ハズ語リヲナスカ、問意ノ理解、話法ノ遲速、滯澀流暢、多辯、冗舌、寡言、迂遠、不明、詞語新作、奇奇怪狀、語論等
 - 二 指力。姓名、職業、年齡、來處、時日、場所、周圍ノ人々等ニ就キ
 - 三 妄覺。錯覺、幻覺、其種類、性質、內容、多少、恒同、又ハ變化、之ニ對スル判斷、人工的ニ起シル得カ等
 - 四 注意力。散亂、持長性、喚起性
 - 五 記憶力。別項檢查法ニ依リ昨今ノ來訪者、外出、飲食品等ヲ問ヒ、又特殊檢查法ヲ行ヒ、其減退ノ度ヲ測定ノ方法ト共ニ併記ス
 - 六 道徳力。大、中、小學卒業ノ年月、奉職、開業、結婚、父母ノ死亡、子供ノ出生等ノ月日事情、又近時ノ事件等ニ就キ問ヒ、其間及答ヲ明起ス
 - 七 健忘症。概括的、全般的、部分的、逆行性
 - 八 抽象力。缺損、隨意性
 - 九 智力ノ程度。いろは或ハ五十音、一二三乃至百、十二支一週ノ名稱、君ガ代、教育勅語、日本ノ高山、大川、大都曾ノ名、日清戰爭、日露戰爭ノ年月及其將軍ノ名稱ヲ問フ(別項智力檢查法ノ條下參照)

乙 精神症狀

狂ト匿狂伴

- 十 觀念聯合。混淆、急進、錯亂(意思弄混、支離滅裂、夢幻性、諸妄性、昏迷性)運動性、迂遠、常同、粘著、冗長、強迫觀念(強迫運動、強迫行為、強迫言語)類音聯合等
- 十一 判斷力。周圍ニ對スル判斷、自家批判力、精神薄弱ノ徵候等
- 十二 妄想。其種類即誇大、追跡、被害、關係、心氣性、虛無、歌化、孤獨等ノ種類ト其性質并ニ系統ノ有無
- 十三 計算能力。其問題ト答并ニ之ニ要セシ時間トヲ記入ス
- 十四 病的情緒。悲觀的、心痛、憤怒性、不機嫌、不満足、苦悶、疑懼、恐怖、臨場苦悶、閉鎖恐怖、病的潔癖、爽快多帶症、好機嫌、消魂大悅等
- 十五 情緒反應。過敏感、自我心、悖德、遲鈍、不關平氣、感情劇烈、感情轉變、感情鈍麻、宗教心道德心
- 十六 意志行為ノ障礙。興奮、不安、多辯、放散、舞踏、脫衣、

十二 伴狂ト匿狂

Feigned diseases and dissimulation
Simulation et dissimulation
Simulation und dissimulation.

視力或ハ聽力障礙ヲ詐病スルモノ、往々之レアルハ既ニ前述スル所ナルガ、一般ニ云ハバ精神健全ナルモノガ伴狂ヲナスコトハ極メテ少ク、精神界ノ何レカニ缺陷アルモノガ、種々ノ目的ノ爲メニ伴狂ヲナスコトアリ、殊ニ精神病ハ一見詐病シ易ク見ユルモノナルヲ以テ罪ヲ免レン爲メ、或ハ民法上ノ能力ヲ制限セラル、ヲ恐レ、伴狂或ハ匿狂ヲナスモノ屢アリ、故ニ訴訟事件ニ關係アル人ノ精神狀態ヲ鑑定スル場合ニハ、常ニ此點ニ留意セザルベカラズ。

伴狂ハ精神健全者ニテモ、精神病者ニテモ見ルコトナルガ、後者ニ於テハ實際既ニ存在スル精神障礙ト伴狂トハ注意シテ鑑別セザルベカラズ、伴狂ハ精神病學ヲ知ラザルモノ、或ハ精神病者ヲ見タルコトナキ

地 玄 黃
說明
此鑑定ハ大正 年 月 日 日著手
大正 年 月 日 日終了
右 宿 所 鑑定人 醫師 氏 名 厘

諸妄、制止、昏迷、茫然、自失、笑發暴舉、強硬症狀反響症狀、應需運動、強迫行為、性慾異常即チ食慾、色慾ノ異常、倒錯等。周圍ニ對シ妨害暴行等ノ傾向、不潔等

十六 筆蹟。大小、形狀、遲速、巧拙、亂雜、震顛、失節、文字新作、字劃脫漏、左文字、全紙ト文字ノ字配リトノ關係、同一文字ノ反復、內容ニ妄想、幻覺ヲ認ムルヤ否ヤ

モノニハ、ソノ目的ヲ達スルコト甚ダ困難ニシテ殆ンド不可能ナリト云フベシ、例ハ躁狂ヲ詐病セント企ツルモ、躁狂ナレバトテ無暗ニ騒ギ廻リ、遂ニソノ度ヲ越エテ伴狂ナルコト發見セラル、ガ如キ之レナリ。伴狂者ハ先ヅ精神病ノ症候ヲ精密ニ模擬セザルベカラズ、而シテ此模擬症候ハ眞ノ精神病症候ノ如ク、徹底的及聯關的ニ非ラズ、發作或ハ再發ニ關シ合理的ナラザルヲ以テ、遂ニ鑑定者ヲシテ疑ヲ抱カシムルモノナリ、更ニ伴狂者ノ既往歴發病ノ狀態、其動機等ヲ探究スレバ益々ソノ疑ヲ深カラシム、次デ檢者ハ彼ガ詐病セルノ疑ヲ抱ケルコトヲ患者ニ悟ラシメズシテ、注意シテ且再三、或ハ不意ニ時トシテハ夜半之ヲ檢診スベシ、此目的ニハ患者ヲ精神病院ニ入院セシムルヲ便利トス。

詐病者ガ常ニ誇大的ニ模擬スル精神病症狀ノ外ニ、他ノ客觀的身體的症狀ヲモ檢者ハ注意シテ檢セザルベカラズ、コハ決シテ伴狂者ノ模擬スルコト能ハザル所ナレバナリ、此ノ如クスル時ハ伴狂ヲ觀破スルコト極メテ容易ナリ、例ハ躁狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク晝夜ヲ通ジテノ運動促進ヲ模スルコト能ハズ、憂鬱狂詐病者ハ實際ノソレノ如ク、抑鬱性氣分ヲ生ズルコトヲ得ザルガ如キ之レナリ。

記憶缺損ヲ詐ルモノアレバ、鑑定人ハ患者ガ實際之ヲ惹起スベキ疾病、即意識渾濁ニ陥リシコトアルヤ否ヤヲ研究スベシ、若シ患者ニ此ノ如キ疾病ノ既往歴ナキニ於テハ、注意シテ記憶缺陷ノ範圍ヲ檢査スベシ。然ル時ハ詐病者ニハ實際記憶缺損ノ存在シタルモノ、如ク、決シテ正確ニ之ヲ返答スルコト能ハザルモノナリ。

匿狂ハ伴狂ヨリモ尙甚ダ屢來ルモノニシテ、精神病院ヲ退院セントスルモノ、或ハ處分能力ヲ制限セラレントスルモノニ特ニ多シ、此際ニハ患者ノ既往歴、匿狂ノ原因疾病ノ經過及狀態病識等ヲ注意シテ檢ス

匿狂者

ベシ、治癒者ハ無造作ニ疾病ノ狀態ヲ告白スルモノナレドモ、匿狂ハ尙身體的障害ヲ訴ヘ、而モ之ヲ再三視察スレバ、ソノ行爲及舉動ニ依リテ、ソガ匿狂ナルコトヲ觀破スルコトヲ得ルモノナリ。從來用キラレタル詐病看破法ニ次ノ四種アリ。

第一、威嚇法、患者ヲ種々ノ方法ニ依リ威嚇シ、詐病ナラバソヲ看破セントスルモノニシテ、コハ多クハ歴史の意味ヲ有スルモノナリ、何トナレバ、吾人醫師ハ患者ヲ診察スルコトヲ得ルモ、之ヲ拷問シ或ハ威嚇スルコトヲ得ザレバナリ。例ハ、出鱈目ヲ云フト食物ヲ與ヘヌトカ、馬鹿ナ真似ヲナセバ暗室ヘ入レルゾ、餘リ騒グト裸體ニシテ放置スルゾ等ノ言ヲ以テ患者ヲ威嚇スルモノニシテ、モシ患者ガ眞ノ精神病者ナラバカ、ル威嚇ニヨリテ病勢ノ増進セルコトアレバ、此ノ如キ方法ハ慎ンデ避ケザルベカラズ。

第二、看破法、詐病ノ疑アルモノハ麻醉劑ヲ與ヘ、ソノ意志ノ統御能力ヲ失ハシメ、以テ尙、以前同様ニ病的行爲ヲナスヤ否ヤヲ檢査シ、詐病ナルヤ否ヤヲ發見スル法ニシテ、此方法ニハえて、くろゝほるむ等應用セラレタリ、然レドモ是等ノ麻醉法ハ患者ノ生命ニ危險ヲ及ボスコトアレバ、尙未ダ實用サルルニ至ラズ。

酒精含有ノ飲料ヲ患者ニ與ヘテ、意志ノ抑制作用ヲ降下セシメ、詐病ヲ發見セント企テラレタルコトアリト雖、其成功セルモノ極メテ少シ。

第三、心理學的方法、此方法ハ精神病者ノ精神界ニモ一定ノ規則存在シ、彼ノ精神動搖ハ此規約ニ從テ起ルモノナリト云フ原理ニ基クモノニシテ、即チ精神病者ニハ一定ノ病型ニ從テ、一定ノ精神界ノ變動ヲ見レドモ、詐病者ニハ必ズシモ之ニ一致セザル行動アルニヨリ看破セントスルモノナリ、即チ患者ノ身

體的症狀、表情、步行狀態、姿勢、身振、手真似、話振、字體、食慾、睡眠狀態、氣分等ニ注意シ思考ノ
方途、精神の作業等ヲ詳細ニ觀察スレバ、ソガ詐病ナルヤ否ヤヲ多クハ發見スルコトヲ得ルモノナリ。

第四、實驗的方法。コハ前者ト截然區別スルコト能ハザル方法ニシテ、患者ノ疾病ノ症候及經過ガ今日
ノ學問ノ程度ニ於テ得タル經驗、即チ精神病學上ノ一病型ト相一致スルヤ否ヤヲ探究シ、吾人ノ經驗ト何
等撞着アラザルニ於テハ、詐病者ニ非ラズトスルノ方法ナリ、昔時ハ詐病者ト鑑定サレタルモノ往々アリ
シト雖、精神病學ノ發達スルニ從ツテ、詐病ナル鑑定例ハ次第ニ減少シ來レリ。即チ前述ノ如ク全然精神
健全ナルモノガ詐病ナスコトハ甚ダ稀ナルモノナレバ、精神病學發達ノ惠澤ハ、實ニ是等似非詐病者ニ及
ビタルモノト云フベシ。

各論

各論 Special part
Partie speciale
Spezieller Teil.

本論ニ於テハ精神病ノ各病型ト法律的關係トノ相互連關スル所ヲ述ベントス、故ニ各病症ノ臨牀的症狀
ニ就テハ敢テ詳説セズ、即チコハ精神病學書記載ノ範圍ニ屬スレバナリ。
一般ニ精神病者ハ犯罪シ易キモノナルコトハ既述ノ如クナルガ、今巢鴨精神病院ニ於ケル患者ニ就テ見
ルモ、入院患者四百五十人中、二百〇九名ハ常ニ一定ノ監督ノ下ニ在リテモ、種々反社會的の行爲ヲナスモ
ノナリト云フヲ見ルモ、ソノ大體ヲ察知スルコトヲ得。

生來性精神發
育不真

一、生來性精神發育抑止
Congenital Insanity
Débités mentales congénitales
Angeborene Schwachsin.

少年法

少年法(按抄)大正十一年四月十七日法律第四十二號

- 第一章 通則
 - 第一條 本法ニ於テ少年ト稱スルハ十八歳ニ滿タサル者ヲ謂フ
 - 第二章 保護處分
 - 第四條 刑罰法令ニ觸ル、行爲ヲ爲シ又ハ刑罰法令ニ觸ル、行爲ヲ爲ス虞アル少年ニ對シテハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 - 一、訓誡ヲ加フルコト
 - 二、學校長ニ訓誡ヲ委スルコト
 - 三、書面ヲ以テ改心ノ誓約ヲ爲サシムルコト
 - 四、條件ヲ附シテ保護者ニ引渡スコト
 - 五、寺院教會保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
 - 六、少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
 - 七、感化院ニ送致スルコト
 - 八、矯正院ニ送致スルコト
 - 九、病院ニ送致又ハ委託スルコト
 - 第五條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ二十三歳ニ至ル迄其ノ執行ヲ繼續シ又ハ其執行ノ繼續中何時ニテモ之ヲ取消シ若ハ變更スルコトヲ得
 - 第六條 少年ニシテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ又ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ猶豫又ハ假出獄ノ期間内少年保護司ノ觀察ニ付ス
 - 第七條 前條第一項第五號乃至第九號ノ處分ハ第四號、第五號第七號乃至第九號ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 - 第八條 前條第一項第七號又ハ第八號ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ執行ノ繼續中少年保護司ノ觀察ヲ停止ス
 - 第三章 刑事處分
 - 第七條 罪ヲ犯ス時十六歳ニ滿タサル者ニハ死刑及無期刑ヲ科セス死刑又ハ無期刑ヲ以テ處斷スヘキハ十年以上十五年以下ニ於テ懲役又ハ禁錮ヲ科ス
 - 刑罰第七十三條、第七十五條又ハ第二百條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ前項ノ規定ヲ適用セス
 - 第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太
- 第三章 法醫學的精神病學 生來性精神發育抑止
 - 第七十五條 皇族ニ對シテハ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス
 - 第七十六條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 - 第七十七條 少年審判所ノ手續
 - 第三十一條 少年審判所審判ニ付スヘキ少年アリト思料シタルトキハ事件ノ關係及本人ノ性行、境遇、經歷、心身ノ狀況、教育ノ程度等ヲ調査スヘシ
 - 第三十二條 少年審判所ハ成ルヘク醫師ヲシテ診察ヲ爲サシムヘシ
 - 第三十三條 少年審判所ハ事情ニ從ヒ本人ニ對シ假ニ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
 - 一、條件ヲ附シ又ハ附セシテ保護者ニ預タルコト
 - 二、寺院、教會、保護團體又ハ適當ナル者ニ委託スルコト
 - 三、病院ニ委託スルコト
 - 四、少年保護司ノ觀察ニ付スルコト
 - 第三十四條 少年審判所審判ニ付スル少年ハ假ニ感化院又ハ矯正院ニ委託スルコトヲ得
 - 第三十五條 少年審判所ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
 - 第三十六條 前條ノ處分ハ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得
 - 第三十七條 前條ノ處分ニ於テハ速ニ其ノ旨ヲ保護者ニ通知スヘシ
 - 第三十八條 感化院、矯正院、又ハ病院ニ送致又ハ委託スヘキモノト認メタルトキハ其ノ長ニ對シ本人ノ處遇ニ付參考ト爲ルヘキ事項ヲ指示シ本人ヲ引渡スヘシ
 - 第三十九條 少年審判所第四十八條乃至第五十二條及第五十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ保護者學校長受託者又ハ感化院、矯正院、若ク病院ノ長ニ對シ成績報告ヲ求ムルコトヲ得
 - 第四十條 少年審判所本人ヲ寺院、教會、保護團體若ハ適當ナル者ニ委託シ又ハ病院ニ送致若ハ委託シタルトキハ委託又ハ送致ヲ受ケタル者ニ對シ之ニ因リ生シタル費用ノ全部又ハ一部ヲ給付スル

コトヲ得
 第六章 裁判所ノ刑事手續
 第六十二條 檢察少年ニ對スル刑事事件ニ付第四條ノ處分ヲ爲スヲ相當ト思料シタルトキハ事件ヲ少年裁判所ニ送致スヘシ
 第六十四條 少年ニ對スル刑事事件ニ付テハ第三十一條ノ調査ヲ爲スヘシ
 少年ノ身上ニ關スル事項ノ調査ハ少年保護司ニ囑託シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
 第六十六條 裁判所又ハ豫審判事ハ職權ヲ以テ又ハ檢事ノ申立ニ因リ第三十七條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲スコトヲ得
 第三十八條 及第三十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第七章 罰則
 第七十四條 少年裁判所ノ審判ニ付セラレタル事項又ハ少年ニ對ス

ル刑事事件ニ付豫審又ハ公判ニ付セラレタル事項ハ之ヲ新聞紙其ノ他ノ出版物ニ掲載スルコトヲ得ス
 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテハ編輯人及發行人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ著作者及發行者ヲ一年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二條 矯正院(按抄)大正十一年四月十七日法律第四十三號
 第四條 矯正院ニ收容シタル者ノ在院ハ廿三歳ヲ超ユル事ヲ得ス
 第五條 矯正院ハ收容スヘキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設ク
 第十六條 矯正院ニ收容シタル者ト十六歳以上ノ者トハ分界ヲ設ケタル場所ニ各別ニ之ヲ收容ス
 第九條 在院者ニハ其性格ヲ矯正スル爲メ嚴格ナル規律ノ下ニ數妻ヲ施シ其生活ニ必要ナル實業ヲ練習セシム

智力検査

生來性精神發育抑止者ハ吾人ノ想像スルヨリモ意外ニ多ク社會ニ散布シ居リ、ソノ道德的概念ノ構成不十分ナル上ニ、判斷力又圓熟セズ、且感動ニ驅ラレ易ク、衝動性動作ニ陥ルコト多ク、假令、他ヨリソガ惡事ナルコトヲ教ヘラル、モ之ヲ抑制スルノ意志少ク、加之、意志ノ被影響性大ニシテ、教唆暗示ニ依リ犯罪ニ傾キ易シ、即些少ノ動機ニ由リ、彼ハ猛然トシテ暴行脅迫等ヲナシ、且一度犯行ニ慣レ常習トナルニ至レバ、ソノ批判力ノ乏シキト、意志薄弱ナル爲メ、遷善改悟スルコト能ハズ、遂ニ社會ノ罪惡者トシテ其安寧ト秩序トヲ蝕毒シテ己マザルモノナリ。
 夫レ生來性精神發育抑止者ノ智力ヲ検査シテ、ソガ凡ソ何歳位ノ兒童ノ智力發育程度ニ達セシカラ知ルハ、法醫學上甚ダ大切ナルコトニシテ、之ニ依リテソノ人ノ責任能力者ナルヤ、將タ輕減責任能力者乃至責任無能力者ナルヤ否ヤヲ決定セラルベキモノニシテ、精神狀態鑑定上極メテ大切ナル事項ナリ、然ルニ智力検査法ニハ甚ダ多種アリト雖、心理學或ハ醫學ノ智識少ナキモノニ、ソノ智力程度ヲ直截簡明ニ表示スルモノ少シ。

びねー、じもん氏ハ精神發育不良者ノ智力ヲ、次表ニ示スガ如クニシテ検査シ、ソノ實際年齢ト、精神發育ノ程度トヲ比較シ、兩者相一致セザレバ、ソノ程度ニヨリ白痴、痴愚及魯鈍者等ニ區別スベシトナセリ。

第卅六表

(甲) ビネー、シモン (Binet-Simon) 兩氏ノ智力検査法標準表。

滿三歳	眼、口、鼻等ノ示指。單純ナル繪畫中ノ物體名ノ指示。自己ノ名ノ言明。一位ノ數字及ビ二個ノ發音ノ眞似。六音ヨリ成立セル語句(例ハ「勝々山」)ノ眞似。
滿四歳	示サレタル物品名ノ示說(例ハ「帽子、茶碗等」)。自己ノ性(男、女)別。二本ノ直線ノ長短區別。一位ノ數字、三個ノ發音ノ眞似。
滿五歳	十音ノ語句ノ眞似。外見同一ニシテ重量ノ異ナル二物ノ輕重區別。示サレタル物品、四個ノ數(四個ナレトコト)ノ計算。四角形ノ繪ノ描寫及ビ△狀ノ二個ノ三角形ノ板ヲ與ヘ△狀ニ正三角形ヲ作ル方法ヲ示サレタル後、其眞似(尙ホ検査ハ此ノ意味ノ理解ノ程度、解答ノ巧拙、運速等ニ注意セヨ)。
滿六歳	眼、手等ノ左右ノ區別。午前及ビ午後ノ認識。自己ノ年齢示說。十六音ノ語句ノ發音ノ眞似。同時ニ命ゼラレタル用事三件ノ處理(例ハ「帽子ヲ戴キ、靴ヲ下ケテ下駄ヲ穿ツ等」)。電車、馬、自動車、母親ノ物菓子等、兒童ノ熟知セル物品ニ關スル概念ノ示說。
滿七歳	同時ニ示サレタル二個ノ繪畫ニ對スル說明。菱形ノ畫ノ描寫。示サレタル手本ノ描寫。示サレタル畫像ノ缺ケタル部分ノ描寫。片手及ビ兩手ノ指ノ數ノ示說。七位ノ數ノ發音ノ眞似。交附セラレタル十三個品ノ數(十三)ノ計算。普通ノ貨幣ノ名稱示說。
滿八歳	示サレタル赤、黃、綠、青ノ各色ノ示說。簡單ナル語句ノ筆記。二個ノ物體ノ異同比較(例ハ「木ト竹、牛ト馬等」)記憶。開カサレタル短キ談話ノ反復示說。二十ヨリ零迄ノ數ノ逆算。示サレタル五個ノ貨幣ノ價格、合算。
滿九歳	當日ノ年月日及ビ曜日ノ示說。七曜日ノ名稱示說。草木、鳥、獸、文房具等ノ概念示說。開カサレタル稍複雑ナル談話ノ反復。外觀同一ニシテ重量異ナル物體五個(即チ三瓦、六瓦、九瓦、十二瓦、及十五瓦)ヲ輕重ニ從ツテ排列。壹圓ノ中貳拾錢ヲ使用スレバ、殘金幾何ナルカノ計算。
滿	普通ナル貨幣ノ種類示說。與ヘラレタル三語ヲ使用レテ一ノ文章作成(例ハ「車、人、犬ニテ」)人ガ犬ニ車ヲ引カシタトスル等。

ビネー、シモン 氏智力検査法

ワイガント氏
智力検査法

十 歳	左ノ如キ意味ナル質問ニ對スル返答。 1) 汽車ニ乗リ運レタ時ニハ、如何ニスルカ 2) 持テ行ク途ニ、自分ヲ打ツ時ニハ、如何ニスルカ 3) 学校ノ分ヲ、物品ヲ運シタ時ニハ、如何ニスルカ 4) 行ク途ニ、事ヲ開カレタル時ニハ、如何ニスルカ 5) 餘リ此ヲ知ラヌ事ヲ開カレタル時ニハ、如何ニスルカ
十一 歳	示サレタル不合理ナル語句ノ批評説明。(例ハ左ノ如キモノニ就キテ) 1) 私ニハ兄弟ガ三人アル、太郎ト次郎ト私トダ。 2) 自彼處ニ在ル死骸ハズル、ニ切ラレテ居ルカラ、世間デハ大方自殺ダラウト噂シテ行ケト云ツダ。 3) 自轉車乘ガ往來デ引ツクリ返ツテ即死シタカラ、通リ掛リノ人ガ成ルベク早ク醫者ノ處ヘツレテ行ケト云ツダ。 4) 汽車ガ衝突シタケレドモ、ヒドイ事ハ無カツタト見エテ、タツタ五十人死ンダキリダ。 5) 私ノ友達ハ失敗ノ爲メ自殺シヨウト云ツテ居タガ、今日ハ日ガ悪イカラ、モット善イ日ニシヨウト云ツテ止メタ。 示サレタル主辭、實辭、及ビ客辭ヲ用ヒテ一ノ文章作成。 成ル可ク速ニ單語ヲ列ビ、三分間ニ六十八ヲ以テ最小限トス。勉強正直等ノ如キ抽象的概念ニ關スル簡單ナル説明及ビ其ノ引例。簡單ナル章ヲ組成セル十個ノ語ヲ不秩序ニ排列シ置キテ、之ヲ正シキ順序ニ改メシム。(但シ一分間以内ニ於テスルコト)
十二 歳	七位ノ數字ノ發音ノ真似。聽カサレタル稍、長キ文章ノ反復。抽象的概念ニ關スル説明及ビ其引例。 左ノ如キ質問ノ解答。聽カサレタル稍、長キ文章ノ反復。抽象的概念ニ關スル説明及ビ其引例。 1) 隣ノ家ニ醫者ガ來、次ニ警官ガ來、又暫クスルト坊サンガ來タガ、一體ドウシタノダラウ。 2) 成人ガ森ヲ散步中吃驚シテ急ニ立止ツタ。ソレカラ選査ノ所ヘ馳ケツケテ、今森ノ中デ○○○ヲ見付ケマシタ。下ニツツウダガ○○○トハ何ダラウ。 3) 示サレタル繪畫ノ意味ノ説明。

(2) ワイガント (Weinik) 氏検査法標準

満 九 歳	山野ノ動植物、郷土ノ山川、自然現象等ノ知識、地圖製作初步。短キ談話筆記。除算、貨幣、度量衡等ノ計算。讀書。
満 八 歳	一ヨリ百迄ノ計數。銀貨銅貨及ビ尺度ノ計算。學校ニ用フル教科書ノ音讀及筆記簡單ナル九九算。
満 七 歳	一ヨリ十迄ノ計數。簡單ナル加算。假名文字ノ理解。
満 六 歳 迄	物品又ハ其ノ繪畫家、家畜、色彩。自己ノ身體ノ部分、通貨等。又抽象的事實ニアリテハ左右、上下、前後等ノ識別及ビ食物、食器等ノ物品ニ關スル理解。笛ノ如キ樂器。動物其他自動的ノ玩具畫本等兒童ノ興味ヲ誘引スベキモノニ對スル主動的態度。
満 十 歳	加減乗除、簡單ナル比例算。讀書及ビ其ノ解釋ノ難易。語ラレタル短キ談話ノ反復記述。簡單ナル熟語及ビ文法。郷土ノ境界、人口、高低等ノ理解。
満 十一 歳	小數算、簡單ナル同母分數。時間ノ計算。世界歴史。書簡。簡易ナル文法。
満 十二 歳	分數ヲ小數ニ換算、坪數ノ計算、百分算、利息ノ計算、聽カサレタル談話ノ反復記述、作文、書簡文、郷土ノ地理、歴史、建築材料、空氣、呼吸、音響、晴雨計、目、採光法或ハ暴風雨、虹等ノ如キ自然現象ニ對スル理解。
満 十三 歳	百分算、元利計算。買賣、貸借、作文。外國地理。地球運動、給水法、蒸氣。衣服、榮養、人體ノ構造、衛生等ニ關スル理解。

次ニ千九百十四年米國ノヤーキス、ぶりつじ氏ハ所謂點數式智力検査法ナルモノヲ案出シ、之ヲ數多ノ

智力検査得點
表

1) 一般平均得點數表

年 齡	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	大人
検査數	5	33	71	73	61	74	76	79	60	60	52	25	76
平均得點	14	22	29	34	39	52	59	64	74	74	78	77	91

2) 男女別平均得點數表

年 齡	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
得點數													
男	15	20	25	32	41	52	62	64	71	73	80	78	
女	9	24	30	33	36	54	58	63	75	76	77	76	

3) 階級別平均得點數表

年 齡	4	5	6	7	8	
得點數						
中上流	15	27	42	49	56	
下流	17	22	29	35	41	

兒童ニ試ミテソノ用ユルニ足ルヲ示シタリ。本法ハびねー、じもん氏智力検査法ニ一定ノ考案ヲ加ヘテ、種々ノ質問乃至検査ヲ爲シ、各應答ヲ點數ニテ示シ、且數多ノ實驗ニヨリテ各年齢ノ兒童ノ大約平均點數ヲ確定シタルモノナリ。

鐵治屋ノ店ヲ御尋ネナサイ
 (ホ) 事故ヲ調ベテ見ルト列車ノ最後ノ車ガ大抵ハ破壊サレテキル故ニ最後ノ車ハ除イテシマツタ方ガヨカラウ
 十八、次ノヤウナ三組ノ言葉ガアリマスコレヲ取カヘテ文ヲ作ルノデスヨロシイカ分ツタデセウ丁度カウ云フヤウニスルノデス
 「朝、起キマシタ、私ハ、早ク」云フ一組ノ言葉ガアリマスコレヲ取カヘテ「私ハ朝早く起キマシタ」ト云フヤウニスルノデス
 (各二點)
 (イ) 私ハ、休暇、旅行ヲ、田舎、中ニ、致シマシタ、ハ、
 (ロ) 私ハ、私ノ、頼ミマシタ、ト、作文、私ノ、ヲ、先生、直シテ下サイ
 (ハ) 守ル、ナ、ソノ犬、主人、ハ、利口、ヲ、勇マシク
 十九、次ニ私ハアル言葉ヲ言ヒマス、アナタハソノ意味ヲ可成、分

尙一般智能ヲ評價センニハ、單ニ此智力検査法ノミニ依ル能ハズ、ソノ個人ノ種々ノ精神能力ヲ考慮ノ内ニ入レテ、然ル後ニ決定スベキハ言ヲ俟タズ。

茲ニ生來性精神發育抑止者、即チ白痴、痴愚及魯鈍者ニ付、ソノ大要ヲ記載セバ左ノ如シ。

一、白痴 Idioty, Idiote—

多クハ已ニ身體的ニモ發育不全ノ特徵著ク、成年ニ達スルモ、其智能ハ僅ニ三、四歳ノ兒童ノ程度ニ止マルモノヲ云ヒ、言語ノ發育モ不全ニシテ、僅ニ飲食ニ關係アル一、二ノ片言ヲ發スルニ過ギズ、構音亦不明ナリ、感覺及痛覺ノ鈍麻著シク、運動モ不完全ニシテ、目的アル運動ヲナスコト能ハズ。口ハ開キタル儘ニシテ舌ヲ出シ、時ニ拍手歪面等ヲナスモノアリ、顔面ノ表情ハ茫乎タリ、了解記憶等ノ作用全クナシ、白痴ハ智力障礙餘リニ甚シキヲ以テ、刑法上ノ犯罪ヲナスコト少ナケレドモ、時トシテ弄火放火等ヲナスコトアリ、多クハ監視ニ附セラレ、或ハ一定ノ場所ニ收容セラル、ヲ以テ、法醫學的ニハ民法上廢嫡、

禁治產等ノ問題トナルコトアリ、白痴ハ勿論責任無能力ニシテ且禁治產者ナルコトハ云フマデモナキコトナリ。

鑑定書

明治二十六年四月二十七日余等ハ東京地方裁判所判事、名越勝治ヨリ放火犯人、清水清丸ノ精神状態ニ關スル鑑定命令書ヲ受領セリ
 一、清水清丸ハ生來知覺精神上ノ疾病ニ罹リ居ルモノニテハナキヤ
 一、若シ生來ニアラズンバ不時ニ發來スルモノニテハナキヤ
 一、殊ニ同人ガ犯罪當時、即チ明治二十五年七月以降ニ於ケル觀察如何要スルニ刑法第七十八條ニ、所謂罪ヲ犯ス時、知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セザリシヤ否ヤヲ問フ
 是ニ由テ余等ハ同裁判所ニ至リ、被告ノ身體及精神ノ状態ヲ診察シ其父母及兄ヲ招致シ、既往ノ事ヲ尋問シ、豫審取調書類、宮地警部ノ被告事件取書、神原巡査ノ探偵復命書、警視廳監獄醫ノ容態書等ヲ參考シ左ノ鑑定書ヲ作レリ。

東京市麻布區茅町百五拾八番地 平民
 清水清丸
 明治六年十一月生

(一) 遺傳

實父〇〇〇〇ハ今年五十六歳、平生胃疾アルノミ他病ナシ、酒客ニアラズ
 實母〇〇〇〇ハ今年四十七歳、臟性ニシテ時々眼疾(?)アリト云フ
 祖父ハ酒客ニシテ死セル時、六十一歳祖母ハ四十歳ノ時難産ノ爲ニ死シ、外祖父ハ胃病ニ死シ外祖母ハ今猶ホ健在ス
 兄弟ハ七人アリ、第一ハ女子ニシテ三歳ノ時拘急症ニテ死シ、第二ハ即チ被告第三ノ女子ハ今年十八歳、第四男ハ實扶の里ニ死シ、第五第六ハ女子、第七ハ今年一月ニ生レシ男子ナリ、七人中今健在セルハ被告ヲ除クノ他、皆身體精神ノ發育ニ異常ナシ
 其他ノ血族中、精神病、神經病、其ノ他遺傳ヲ殘スベキ疾病ナシ、

但シ實父ノ弟即チ被告ノ他叔父ハ窃盜ノ罪ヲ以テ獄ニ入りシ事アリ

(二) 既往症

胎生時出生時ニ於テハ異常ナシ
 小兒時ニ於テ歩行、言語等ノ發生ハ尋常ナリシガ、生齒ハ少ク常見ニ後レタリ、最幼時拘急症アリ、夜中警駭鬼アリ、夜覺迷歩アリ、其ノ後ハ麻疹ヲ經過セシ他舉病スベキ程ノ疾病ニカ、リレコトナシ。年十二ノ時、水車ニ觸レテ外傷性膝臼關節脫臼ヲ致セシガ、月餘ニ治シテセリ
 其精神發育ノ程度如何ヲ問フニ、被告ハ生來ノ癡漢ニシテ、幼ヨリ放恣自壞甚ク、常ニ父母ノ言ニ德ハズシ激厲暴怒シ易ク、少ク意ニ滿タザレバ乃チ忿怒シ、其度毎ニ尋グニ號泣ヲ以テス。父母モ其暴愚ナルヲ憐ミテ、教誨ニ心ヲ盡セ共、寸效ナク、九歳ヨリ十五歳迄小學校ニ居リシモ、初級ニ入ルベキノ知識ヲ得ザリキ、此ノ如クニシテ精神ハ終ニ發生セズ。年破瓜ヲ過グルモ思慮極メテ淺ク、才器甚ダ薄ク舉動モ粗雑ニシテ自ラ己ガ事ヲ處治スル能ハズ。言語ハ意ヲ表スルニ充分ナラズ。行爲ハ常見ノ如ク整然タラズ。錢價ヲ知ラザルヲ以テ二枚ノ二錢銅貨ト、二枚ノ五厘銅貨トヲ同視シ、或ハ物ヲ購フニ常ニ手中ノ錢ヲ盡シ、器具等ニ就テハ彼我ノ別精粗ノ差ヲ辨ヘザルヲ以テ常ニ屢々之ヲ遺失シ又ハ放棄シテ顧慮スル事ナク、或ハ己ノ精算ナルヲ措テ他ノ粗惡ナルヲ取リテ顧リミザル事アリ、糞便ノ汚穢ナルヲ知ラザルニヤ失シテ拭ハズ。或ハ廁ニ上ルニ間アラズシテ衣ヲ汚ス事度々ナリ。要スルニ其重要ノ生活ハ主トシテ食慾ニアリ、他人ノヲ制セザレバ飽食ニ至ル迄ハ止メズト云フ、三、四年前ヨリ農業ニテモ習ヒ得サセントテ之ヲ六、七里隔テタル親族ニ托シテ共、其業ニモ任ヘズ、故ナキニ時々出奔シテ家ニ歸リ、父母モ其化育ニ困ミ憐ニ願使シテ草取掃除ノ用ヲナサシムルノミ、然レ共人傍ニ在ラザレバ則チ遊戯ヲ恣ニスト云フ。
 被告ハ以上ノ状態ノ他ニ別ニ一惡習アリテ、家人隣人ノ煩累ヲナス

コト多シ。ソハ即チ其家人ニ火ヲ放タル事ナリ。被告ノ放火ノ處行ハ前後五回ニシテ、第一次ハ去年五月頃己ガ家ヲ炬ル四五十間許ノ貸長屋ニ於テシ(未遂)、第二次ハ今年一月六日如テ隔テ九丁許リナル岡田某ノ家ニ於テシ(半遂)、二月四日近傍ノ某練兵場ノ芝生ニ於テシ、同八月一丁程隔テリタル某寺ノ物置ニ於テシ(半遂)又月日ハ詳ナラザルモ某林ノ傍ナル推葉ニ於テシタルモノ即是ナリ。而シテ被告ハ遂ニ之ガ爲ニ捕ハレテ警視廳監獄ニ入レリ。其放火ノ方法タルヤ或ハ燭ヲ取ツテ直ニ底ニ點ジ、或ハ竹ニ綿ヲ挿シ、之ニ石油ヲ滴ガタルヲ用ヒ、或ハ一把ノ薪ヲ取リテ土臺下ニ挿入シ、之ニ石油ヲ點ジタルノ類ニシテ、注意ノ綿密ナラズ、思慮ノ周到ナラザルノ微ハ充分ナリ。又放火セシ理由ヲ自ラ説明スルノ語ニ曰ク「火事ガあれば御馳走ヲ食フことカ出来るから」腫グの面白いから付けたのです」と、而シテ喧嘩、騷擾人々相吊スルモ相橋後悔ノ狀ナク、警察官ニ對シテ「近所ノ者ガ大勢集リ龍吐水にて水を消さ止めることが出来ず、誠に面白ク見物致しました」と答アル位ナリ。且ツ其擧ノ當時ニ在リテモ自ラ者ミテ憚ルノ念ナキニヤ。我長屋ニ放火セシ時ノ如キハ其家人ノ不在ニ乘ジテ火ヲ置キタルニ違家人ノ外ヨリ歸ルヲ見ルヤ乃チ呼ビ懸テ「今此の長屋ヨリハ火ガ燃え出す」云(リト云フ。入監以來ノ證候明治二十六年二月十九日放火被告事件ヲ以テ入監セリ。爾來日夜興奮ノ狀アリ。言行怪異シ飲食ヲモ戀シテ悲號已マズ。夜中モ不眠ナリ。同房ノ妨害トナルヲ以テ、二十一日ニ至テ病監別室ニ移サル。不眠不食、叫號シテ家ニ歸ラン事ヲ求ムル事累日或ハ父來レリト誤想シテ「此處に居るよ」と連呼シ、或ハ「氏子總代さん此處に居るよ」と呼ビテ晝夜ヲ分タズ同月末ニハ監内ニ於テ自縊ヲ謀リシ事アリ。其後、次第ニ靜穩トナリタルモ衣服ヲ扯裂シ、陰具ヲ弄ビ、又幻視幻聽アルガ如ク、父親、又ハ氏子ノモノヲ呼ブ事屢々ナリ。近頃ハ連ニ食慾増進シ、絶エズ(夜中スラモ)食ヲ望ミ、食前ニハ大聲之ヲ呼ビ、飯至レバ米ヲ待タズシテ先ツ之ヲ嚥スト云フ。

(三) 現 症

身體尠少ニシテ羸瘦シ頭ハ狀形常ノ如ク所謂長頭ニ屬シ、創痍ノ痕ナシ。瞳孔ハ或時ハ反應ヲ呈シ或時ハ然ラズ。白濁ハ左右共大齒ノ後ニアリ。(重顴)左胸ハ薄ク縮マリ、其肺下界ハ左ヨリ少シク高シ

問、火を放けて面白かつたか
答、ちつた面白かつた

問、何度許り放けた
答、三度許り放けた

問、何故火を放けたんだい
答、御飯を呉れるから

問、家でも呉れるだろ
答、家でも呉れるが腹いっぱいにならないです

問、此處へどうして来たのだい
答、悪い事すると此處へ来るんです

問、火を放つのは何故悪い
答、火を放つと火災りになるからいけないんです

問、他に悪き罪があるだろ
答、悪いことは他には何もないんです

而シテ患者ハ常ニ「神主さんが来た」「上が大勢いるだろ」「氏子のものが大勢居るだろ」ナド云フヲ以テ誰ガ來リ呼ブニヤト問フニ「呼んで居ます」と答(他因ノ來住スルヲ説明シテハ「私が殺されはしまいか」とて皆此處へ來てゐるんです)云フヲ見、且、監獄醫員ノ言ヲ參スルニ被告ハ近來妄聲、殊ニ幻聽幻視症ヲ患ヒ居ルモノ、如シ

被告ノ遺傳史ニ於テハ唯實母ノ腦症アルノミナレド被告ガ幼時ニ於テ拘急夜中驚醒等アリシヲ見ルニ被告ハ遺傳原因ニヨリテ生來ノ腦疾患ノ傾アリシヨリ、最幼時ニ腦質若シクハ其被膜ノ發育中トモ發育ヲ止ムベキ腦髓ノ營養障礙ヲ來シタリ。其後精神ノ發育中止シタルモノハ即チ此腦病ノ證狀ナルベシ。而シテ其ノ身材ノ短小ナル點列ノ不整ナル陰毛ノ發生セザル色慾ノ未ダ萌起セザルガ如キハ此精神障礙ニ伴ヒタル身體ノ發育不全ナリ。此如キノ症ハ之ヲ性來ノ精神薄弱症ト云ヒ白痴ニ屬スベキモノニシテ其輕重ハ種々ナレドモ甚シキモノニ在リテハ精神作用極メテ淺劣ニシテ唯目前具形ノモノニ限リ理解等ノ考ハナク、自家目前ノ利益ニシテ唯目前具形ノモノヲ以テ抵抗ヲナスモ他人、又社會ニ對シテハ付度ノ心相憐ノ情ナシ。從テ美術、道德法律上ノ理解判斷ヲ缺キ法律ニ違犯スル非行ヲナスモノ後悔ナク、警官法律等ハ却テ彼ニ取ツテ無用有害ノモノナ

(助膿炎後遺)背上數多ノ灸灼痕アリ。腋毛及陰毛ナシ。膝蓋反射ハ亢激シ血行不整ニシテ、上衝四肢厥冷手中體血ナドアリ體溫脈搏ハ尋常ナリ。精神證候、顔貌舉措共ニ放恣ノ狀ヲ呈シ、箕踞シテ陰ヲ戯ハズ。常ニ之ヲ弄シ、記憶薄ク、思慮淺ク觀念ハ形而下目前ノ事ニ限リ、言語ハ寡少不明ニシテ、宛トシテ頑兒ノ如ク精神ノ反應一體ニ鈍ク之ニ對スル意ニ滿タザレバ再三ニ至ルモ應ゼズ。答フルモ從ヒ之ヲナスコトヲ解スレドモ、亦整然タルコト能ハズ。其最モ恐ル、所ハ獄中死ヲ免レザル事ニシテ其余等ニ對シテ常ニ望ム所ハ放チテ家ニ歸スニアリ。而シテ卒然之ヲ父母ノ前ニ致スモ喜悅ノ色ナク、應接ハ極單一ナルモノニテモ自家一定ノ主張ナリ、計算ノ能ハ殆ンド今左ニ其問答中ノ一節ヲ抄シ出サン

問、阿父と阿母と孰れがよきや
答、阿父の方がいい

問、何か呉れるから、御膳や何か呉れるからいいんです。
答、阿母だつて御飯位くれるだらふ

問、阿母も何か呉れる
答、それでは阿母の方がよからう

問、ええ
答、二と五で若干

問、二と三とでは
答、四つです

問、五錢で饅餅を一錢買えば残りは若干
答、七錢です

問、一錢の銅貨五つでいくら
答、五十錢です

又指ヲ以テ數フルコトモ確ナラズ。四指ヲ以テ問フニ十ナリト答ヘ、六指ヲ示スニ其ノ幾何ナルヲ知ラザルガ如シ。

リ。而シテ此ノ如キモノ、犯罪ト其智慧思慮ノ缺乏アルニヨリ繁雜ニシテ熱慮ヲ要スルモノハ少ク、放火ハ爲シ易キ非行ノ一トシテ割合ニ白痴者ニ多キモノ、之トモ報應惡意等ノ爲ニスルヨリモ、輕卒ノ兒戲暗火ノ快樂ヨリ出ヅルモノ多シ。今被告ノ精神狀態ヲ察スルニ、其精神作用ハ頗ル淺劣ニシテ、其發育ノ程度ハ恐ラクハ凡ソ七、八歳前後ニ在ルモノナランカ、何トナレバ今日此年齡ノ兒童ハ簡單ナル對自家ノ處治一位數ノ計算位ハナス事ヲ得ベキモノナレバナリ。而シテ被告ガ犯罪ノ所爲タル全ク此精神薄弱ニ基クモノナルハ、其放火ノ用意ノ周到綿密ナラズ、又之ヲ陰藏スルノ心ナキヲ見ルモ明ニシテ、罪ヲ罪タル所以ヲ知ラズ。又之ヲ悔フルナキヲ見バ其道德法律上ノ判斷極メテ不完全ナルヲ知ルニ足レリ。即チ被告ハ犯罪ノ大小輕重ヲ詳ニセザルモノニシテ、其行爲ハ全ク遊戯ト倫樂トニ制セラレテ發シタルモノナリト信ズ。被告ガ入監以來ノ舉動ニ付キ騷擾幻覺等ノ證候アルヲ察スルニ、被告ハ現時精神發揚症ニ罹リ居ルモノニシテ此症ハ屬々白痴ニ發呈スベキモノナリ。

以上ノ證狀及説明ニヨリテ鑑定ヲ下セバ左ノ如シ

- 一、清水清丸ハ現今生來ノ白痴症ヲ患ヒ居ルモノニシテ、精神發育ノ制止ニヨリテ是非ヲ辨別スル能ナキモノナリ。
- 一、白痴患者ハ時々精神發揚シテ暴行ヲナスコトアルガ故ニ、清水清丸モ亦不時ニ此證狀ヲ發シ得ルモノナリト看做サル、ヲ得ズ。
- 一、清水清丸ガ明治二十五年七月以降ノ放火犯罪ハ總テ是非ノ辨別ナクシテ爲シタルモノト推測ス。

明治二十六年四月二十八日

鑑定人 醫學博士 楠 俊
同 醫學士 吳 秀 三

痴愚者

痴愚者ハ感覺、運動、言語ニ於テハ多少ノ缺陷アルノミナルモ、智能ニ於テ稍著明ナル缺陷アリ、凡ソ五六歳乃至十二、三歳ノ尋常兒ノ智識程度ニテソノ發育ヲ停止セルモノナリ、即チ注意缺乏、觀念貧弱、記憶不良、判斷不完全、意志薄弱ニシテ、概念ノ構成不十分、數及因果關係ノ觀念ヲ缺キ、怒リ易ク、復讐ノ念ニ、富ミ利己心盛ニシテ他ノ利害ヲ省ミルコトナシ。

通常痴愚者ヲ興奮性ノモノト、及遲鈍性ノモノトニ分ツ、遲鈍性ノモノハ無爲怠惰ニシテ非社會的ナレドモ、反社會的行爲ヲナスコト少キガ、興奮性ノモノニ至リテハ、舉止不安ニシテ争ヲ好ミ、判斷不良ノ爲メ犯罪ニ陥ルコト少ナカラズ、又衝動性ニ放火、竊盜、殺人等ヲナシ、又他ニ使役セラレテ犯罪ニ陥ルモノ少ナカラズ、痴愚者ハソノ程度ト状態トニヨリ多少差異アランモ多クハ刑法上ノ心神耗弱者ニシテ、民法上ニテモ亦心神耗弱ノ常況ニアルモノトスベキモノナルモ、之トテモ一概ニ論ズベカラズ。

ハ、魯鈍者 Debility, Débilité mentale, Debilité,

魯鈍者ハ常人ヨリ只少シク智力劣レルモノニシテ、判斷及概念構成等ニ於ケル少許ノ缺陷アリ、道徳心不充分、行爲放肆、怠慢輕躁浮薄ニシテ、附和雷同シ易キ、流浪漂泊シテ所謂不良少年等ノ群ニ入ルモノ多シ。

中間者

法醫學的ニハ痴愚者ト略同ジケレドモ、智力稍勝レルヲ以テ、稍系統アル犯罪行爲ヲナスコトヲ得、刑法上ニハ時トシテ輕減責任能力者、即心神耗弱ナルベケレドモ、時トシテハ責任能力者トシテ取扱フコトモナルベシ、精神狀態鑑定ノ際、精神健全者ニモアラズ、サリトテ精神病者ニモアラズ、所謂中間者トシ

魯鈍者

テ取扱ハル、モノニハ、多クノ魯鈍者ヲ含ム、民法上ニ於テハ魯鈍者ハソノ職業ニヨリテ處分能力ノ存スルコトアリ、或ハ處分無能力ノコトモアルベシ。

從來悖德狂ト稱シ、智力ニ何等ノ缺陷ナク、只道徳ノ方面ノミニ缺陷アリト見做サレタルモノアリシガ、今日ノ精神病學ニテハソノ存在ヲ認メズ、コハ多クハ痴愚乃至魯鈍者ナリ、ソノ他嘗テ單一狂ト名ヅケラレタル竊盜狂、放火狂、罵詈狂、殺人狂等ハ、多ク痴愚或ハ魯鈍ヲ基礎トシ顯出スル犯罪ニシテ、決シテカ、ル特殊ノ疾病ノ存スルモノニハアラザルナリ。

悖德狂者

ニ、變質性精神病 = 變質者 Insanity of degeneracy (constitutional psychopathic state) Folie des dégénérés, Degenerationspsychose.

本症ハ退行性精神病又ハ病的的精神狀態トモ云ヒ、身體及智力ノ發育ニ著シキ異常ナキモ、性格ノ或方面ニ於テ幼時ヨリ著明ナル偏倚ヲ來シ、社會或ハ仲間ヨリ變人、畸人トシテ除外セラレ、ヲ常トス。變質者ハ狹義ノ精神病者ト健康者トノ中間ニ位スルモノニシテ、或ハ之ヲ中間者又ハ低格者ト名ヅク、中間者ノ大部分ハ精神低格者遺傳關係ヲ有スルモノニシテ、多クハ所謂變質徵候ヲ有ス、通常變質者ヲ分チテ神經質者、色慾異常者、體質性神經衰弱者、強迫觀念症者、體質性沈鬱者、同興奮者及病的性格者ニ區分ス。而シテ斯ル變質者、刑法上ノ責任能力ニ關シテハ種々ノ說アリ、ひゆふねる氏ハ變質者ニシテ、之ニ固有ナル重篤症狀アル場合ハ、精神作用ノ病的障礙アルモノト解スベシト云ヒ、大場氏ハ偏狂者ニシテ、或特定ナルコトヲ除ク外、通常人ト異ナル所ナキ意識ヲ有スル時ハ、直ニ之ヲ心神喪失者トナス能ハズト雖、心神耗弱者ト爲サルヲ得ズト云ヘリ、然ルニ泉二氏ハ、所謂悖德狂ノ如ク、智能ニ關セザル精神異常ハ、責任能力ヲ阻却スルモノニアラズト論ジ、あしやふんふるく氏モ亦、智能常態ナレモ、道徳感情ノ發達不

變質性精神病

中間者

良ナルノミナルモノハ、無責任者トナス能ハズト云ヘリ。

更ニこつは氏ハ、變質者若シクハ中間者ト稱セラル、者ニシテ、ソノ中間状態ノ輕症ナル者ハ、何等責任能力ニ影響ヲ來タスコトナク、其中間状態ノ最モ重篤ナル狹義ノ變質者ニ於テ、僅カニソノ輕減スベキモノナリト云ヘリ、三宅氏モ略之ト同説ナルガ如ク、予モ亦常ニ此説ニ贊シツ、アリ。

次ニもる氏ハ色情倒錯ノアル場合ハ、常ニ輕減責任能力者トシテ、取扱フベキモノナリトノ見解ヲ有スルモ、おむけ、くらめる、ほつふえ、じよりい、くらふとえーびんぐ、れつけ氏等ハ、此説ニ贊セズ、モシカ、ル場合ニ他ノ精神症状明カナル時、始メテ之ヲ減刑スルモノナリトセリ、予モ亦此後説ヲ維持シツ、アリ。

一般ニ變質者或ハ中間者ニシテ、ソノ障礙著明ナラズ、且ツ他ノ精神病ノ合併ナク、意識清明ナル時ハ、假令多少常識ヲ缺クガ如ク見ユル點アリトモ、其責任能力ニ影響ヲ及ボスモノニアラズトノ説ニ一致スルガ如シ。

(イ) 神經質者 Nervousness, Neuroses, Nervosität.

又ハ偏倚者トモ云ヒ、智力發育ノ不均等ナルモノニシテ、例ヘバ詩歌、文學等ニハ巧ミナルモ毫モ數學的智識ナキモノ、或ハ或技術ニハ非常ニ秀デオルモ、品行素行ノ少シモ修ラザルガ如キモノ等、所謂天才肌ノ人ニ神經質者多ク、想像豊富、虛構ニ巧ニ、感情ハ平靜ナラズシテ烈シキ變換性ヲ示シ、意志強固ナラズシテ倦怠シ易ク、從テ行狀放肆、散漫ニシテ、恒常的生活ヲ營ミ難シ、常ニ感覺過敏、頭痛、食慾不振、睡眠障礙、色慾異常ヲ訴ヘ、變質症狀ヲ有スルモノ多シ。

神經質者

本病者ノ犯罪的行爲ハ輕キモノニテハ責任能力アリト云フベク、甚シキ變質者ニテハ心神耗弱者ト見ルヲ至當トス。

民法上ニハ患者ノ職業ト、疾病ノ程度ニヨリ、處分能力アルトキアリ、或ハ準禁治產トスベキ時アルモノナリ。

(ロ) 色慾異常者

Contrary sexual instinct. Dégenérés, avec perversions sexuelles. Konträre Sexualität.

變質者ノ外ニ、白痴、痴愚、或ハあるこほる中毒者、早發痴狂者ニモ、色慾異常ヲ來スコトアリ。自然ノ交接ヲ嫌ヒテ手淫ニ耽ルモノ、色慾甚シク昂進セルカ或ハ全ク之ナキモノ、猥リニ陰部ヲ異性ノ前ニ暴露シテ喜ブモノ、同性愛ヲ好ミ鷄姦ヲ快トスルモノ、苦痛ヲ加ヘ或ハ加ヘラレテ色慾的快感ヲ感ズルモノ、殺人淫樂症者、異性ノ糞尿ヲ食ヒテ快トスルモノ、獸姦ヲナスモノ、或ハ屍體ヲ姦シテ色慾ヲ滿スモノ等ハ變質者ニ多キ事ハ已ニ前述セルガ如シ。

色慾異常者

法醫學的ニハソノ行爲ノ動機ト、犯者ノ精神状態トヲ探究シテ或ハ責任能力者トシ、或ハ心神耗弱者トシ、又處分能力等ニ就テモソノ有無ヲ一概ニ論ズベカラズ。各個ノ場合ニ就テヨク探究スベシ。

(ハ) 體質性神經衰弱者

Constitutional nervousness, Neurasthenie constitutionnelle, Konstitutionelle Neurasthenie.

本病ハ精神過勞ニ依テ生ズル神經衰弱症ト、殆ド同様ナル症狀ヲ生來性素質トセルモノナリ、而シテソノ精神能力ハ甚ダ高等ニ達スルモノスラアリ、常ニ疲労シ易ク、頭重、眩暈、睡眠障礙、生殖或ハ消化機

體質性神經衰弱者

能ノ障礙ヲ訴ヘ、時トシテ妄覺ヲ來シ、多クハ感情冷酷ニシテ、自我心強シ、即チ本病ハ輕度ノ痴愚、破瓜病、躁鬱病或ハ麻痺狂ノ初期ト相類似セル點アリ、本病患者ノ大部分ハ、法律的ニハ責任能力及處分能力ヲ有スルモノナリトス。

(II) 強迫觀念症者
Compulsive Insanity, Obsession
et Impulsion, Zwangsinnesin.

本病ハ多クハ生來性神經衰弱ト相伴ヒテ來リ、或事ニ遭遇スル時ハ、堪ヘ難キ苦悶ニ襲ハレ、而モ此苦悶ガ不合理ニシテ、笑フベキモノナルコトヲスラ、自身ニ十分承知シ居リテ尙之ヨリ離脱スルコト能ハザルモノナリ。即チ臨場苦悶、閉鎖恐怖、暗黒恐怖、水淫、異性恐怖、疾病恐怖、鐵道恐怖及ビ恐怖苦悶等ノ如キヲ見、又是等ノ恐怖ニ附隨シテ一種ノ強迫行爲アルコトアリ、例ヘバ疑惑症、記名症、計算症、穿鑿症等ノ如キ之レナリ。此強迫行爲ノ著シキモノヲ名ヅケテ衝動性精神病ト云フ、コハ自己ノ犯行ヲ自制スルノ能ナク、強迫性放火、殺人、姦淫乃至罵詈等ヲナスモノニシテ、此強迫性衝動ノ起ルトキハ、如何ニシテモ之ヲ制御スルコト能ハズシテ敢行シ、ソノ目的ヲ達スルヤ多大ノ慰藉安堵ヲ感ズルモノナリ、變質者ニ非ラズシテ強迫觀念或ハ強迫行爲ヲ起スモノハ、早發痴狂、癲癇、ひすてり等ナリ。

今茲ニ強迫性衝動行爲ノ一、二例ヲ舉グレバ左ノ如シ。

放浪衝動、漫遊ノ念勃然トシテ起リ、旅費ヲ所持シテ家ヲ出デ、屢々數ヶ月ニ互リテ所々ヲ放浪シ、旅費盡クルカ若クハ浮浪ノ生活ガ障礙ヲ受クルニ至リテ止ム。

放火、其動機ニ就テハ患者ハ明白ナル陳述ヲナス事能ハズ、衝動的ニ放火スルヲ以テ、連續シテ無意味ナル放火ヲ爲スヲ例トス。殊ニ春機發動期ノ女子ニ於テ觀察セラル、事最モ多シ。

強迫觀念者

衝動性精神病

放浪衝動

放火

窃盜

月經時萬引

殺傷衝動

窃盜、無意義無目的ノ窃盜行爲ヲ爲スモノニシテ、殊ニ月經時妊娠時ノ女子ニ多シトス、窃取スル物品ハ盜者ニ取リテハ何等ノ價值ナキモノ多シ、例ヘバ用途モナキ呉服ヲ數萬引シ、死藏スルガ如キ之レナリ、ソノ他病的濫買症ナルモノアリテ、無價值無意義ナル物品ヲ濫買シ、或ハ迷信ニ驅ラレテ無暗ニ物品ヲ蒐集貯藏スルモノナリ。

殺傷衝動ハ法醫學上甚ダ注意スベキモノニシテ、故ナク目的ナク無意義ニ、而モ突然ニ、殺人行爲ヲナスモノナリ。例ヘバ、子守女ガ自己ニ委託セラレタル小兒ヲ愛撫シツ、モ、不明ノ理由ノ下ニ、突然殺傷スルガ如キ多クハ此例ニ漏レズ。

法醫學的ニハ極メテ慎重ニ各個ノ場合ヲ鑑定スベシ。即チソノ行爲ノ原因、行爲間或ハソノ後ニ於ケル精神狀態ヲ注意シテ診定シ、責任能力ノ有無ヲ決定スベシ、ソノ重症ナルモノニハ勿論責任能力ヲ問フ能ハズ、次ニ民法上ニ於テハ處分能力者ナルカ或ハ準禁治産トナル場合多シ。

(ホ) 體質性沈鬱者
Constitutional despondency, Melancholie
constitutionelle, Konstitutionelle Depressionszustände.

コハ生來性神經衰弱者ノ一變型ニシテ、患者ハ萬事ヲ悲觀的消極的ニ解釋シ、自ら求メテ苦悶憂慮シ、或ハ厭世觀ヲ起シ、或ハ自暴自棄トナリテ暴行ヲ働キ、鬱ヲ遣ラント試ム、一般ニ刺戟性ニシテ睡眠障礙アルコト多シ、憂鬱病、躁鬱病ノ抑鬱期等ト區別スルヲ要ス。法律的ニハ多クハ責任能力者ナレドモ、時トシテ中間者トシテ取扱ハレ心神耗弱者ナルコトアリ。

(ク) 體質性興奮者
Constitutional excitement, Excitation
constitutionelle, Konstitutionelle Erregtheit.

コハ生來性素質ニ基キ、精神發育ノ偏頗ナルモノ多ク、亦能力缺損アリ、感情輕移シ思想奔逸ス、動作

體質性興奮者

體質性沈鬱者

ハ浮薄陋劣ニシテ、節度規律ナク、放逸、遊蕩、怠惰、自恣ナリ、輕躁症等ト區別スベシ、法律的ニハ各個ノ場合ヲ注意シテ診定スベキモ、多クハ中間者トシテ取扱フ。

(ト) 病的性格者

Psychopathic personalities, Caractere pathologique, Psychopatische Persönlichkeit.

病的性格者

之ニ屬スルモノハ亦生來性素質ニ基ク性格異常者ニシテ、一見精神及身體ニ異常ヲ認メザルモ、多少常規ヲ逸スル性格ヲ有シ、思想及行為ハ一方ニ偏倚シ、所謂中間者ニシテ、寧ロ精神的健康者ニ近シト云フベシ。

生來性犯罪者

病的性格者中ニハ、生來性犯罪者、意志薄弱者、病的虛言者、狂醉感溺者、僞好詐病者等アリ。生來性犯罪者ハ私生兒乃至酒客ノ子ニ多ク發見セラレ、腦皮質ニ於ケル慢性疾患ナリト云フ、一般ニ領解佳良ニシテ記憶障礙ナク、理解ハ一見著變ナキガ如シト雖、熱慮ヲ缺キ目前ノ利益ニ眩惑セラル、倫理的の感情ハ著變ヲ呈シ、朋友ヲ苦メ動物ヲ虐待シ、同情ノ念少キヲ特徴トスルヲ以テ、一名悖德狂トモ云フ、即チ自我性ハ次第ニ增長シ名譽心ナク、兩親同胞ヲ愛慕セザルヲ以テ、教育ハ何等ノ效果ヲ奏セズ、殺人強盜及竊盜等ノ反社會的行為ヲ常業トシ、犯罪ヲ好ム、身體的ニハ往々變質徵候ヲ有ス。

意志薄弱者

意志薄弱者ハ又不安定者トモ云ヒ、意志軟弱ヲ以テ主徵トス、往々聰明ニシテ精細ナル觀察力ヲ有スレドモ、持續的の勞作ヲ爲ス能ハズ、其知ル所表面的ニシテ缺陷ニ富ミ、記憶モ亦容易ナル代リニ之ヲ忘却スル事モ亦甚ダ容易ナリ、判斷ハ未熟ニシテ一方ニ偏シ、興味ハ野卑ニシテ感情ハ激動シ易ク、自己ノ利害以外ニ眼中亦他人ノ休戚ナシ、且ツ虛榮心ニ富ミ、外觀ヲ飾リ消費ニ陥リ易シ、習慣性犯罪者ノ多クハ之ニシテ娼妓乞食浮浪者等トナル事多シ。

病的虛言者

病的虛言者ハ想像力ニ富ミ、思想ノ缺陷ヲ主徵トス、領解ハ著シク迅速ニシテ、一見聰明ナルガ如シト雖、精細ニ觀察スル時ハ智識淺表ニシテ誤謬多ク、思考ノ方途ハ拙ニシテ判斷亦精確ナラズ、自己ノ經驗スル事ハ種々潤色セラレテ、其内容著シク變化シ來リ、遂ニ追想ノ實質ヲ失フニ至ル、而モ患者ハ虛構ノ興味ヲ感ズルヲ以テ特徴トス、即チ患者ハ明ニソガ虛構ナル事ヲ知リツ、興味ニ驅ラレテ談話ハ事實ヲ離ル、事遠ク、巧言人ヲ欺キ、遂ニ犯罪行為ニ陥ルモノナリ、氣分ハ樂天的ニシテ、此等ノ苦痛ナク、諧謔娛樂ニ耽リ、病識ナク、却テソノ天賦及教育ヲ人ニ誇リ、舉動ハ巧ニシテ好奇心ニ富ミ、生活ハ贅澤ニシテ、金錢ヲ浪費ス、即チ詐僞取財等ヲ犯スニ適當ナリ。

疑似訴訟病者

疑似訴訟病者 真正訴訟病者ニ類似スレドモ、妄想發來セザルヲ以テ之ト鑑別スル事ヲ得、本病者ノ理解ハ中等ナルヲ常トスレドモ、時トシテ甚ダ良好ナルモノアリ、記憶ハ概シテ正確ナレドモ、感情ノ興奮甚シキ爲メ、時トシテ追想信實ナラザル事アリ、判斷モ亦一方ニ偏シ、誇張ニ流ル、患者ハ情熱ニ富ミ些少ナル權利侵害ニ對シテモ、劇烈ニ興奮シ、復讐ノ念強ク、各種ノ機會ヲ利用シテ、敵手ヲ苦シメントス、性狡猾ニ他人ノ弱點ヲ發見スルニ巧ナリ、又自己感情興奮シ、利己心從ツテ大ニシテ、自己ノ不利ナル事アレバ飽クマデ權利ヲ主張シテ訴訟ヲ提起シ、飽クマデ自己ノ權利ヲ主張セズンバ止マズ、常ニ他人ノ非ヲ鳴ラシ自己ノ正ヲ吹聴ス。

狂醉感溺者

狂醉感溺者ハ非常識ヲ以テ宗教ニ狂醉シ、他人ヨリ見レバ恰モ狂者ノ如ク見エ、ソノ爲メ被影響性高度トナリ、判斷不良トナル爲メ、自己ノ財產ヲ本山ニ提ゲ、妻子ヲ離散セシメテ敢テ悔イズ。

貪慾性變質者

貪慾性變質者ハ貪慾飽ク事ヲ知ラザル變質者ニテ、如何ナル手段ヲ用イテモ、金錢ヲ貯蓄利殖セント欲シ、強慾暴利ヲ營ムモノニシテ些少ノ貸金ヲ取立ツルニモ自己ノ身心ヲ勞シ、或ハ負債者ノ悲惨ナル狀況

ヲ見ルモ冷然トシテ之ヲ省ミズ、只々金タト呼ブ。

病的性格者ハ多クノ場合心神耗弱ヲ以テ論ゼラルレドモ、各個ノ場合ヲ充分ニ探究シテ鑑定ヲ下スコト必要ナリ、ソノ疾病度ノ重キモノニ於テハ責任能力ヲ問フコトヲ得ザルモノアリ。

三、ひすてり Hysterical Insanity, Hysterie, Hysterie.

ひすてりハ全身性及性格的ノ生來性疾疾ニシテ、ソノ發現ハ諸種ノ身體的症狀ノミナラズ、其性格ノ表ハル、所必ズ其病徵ヲ共伴シ、其行動ニ特異性ヲ帶バシムルモノナリトス。病因トシテハ遺傳ニ因ルモノ多ク、且外傷、生殖器病、精神的感動、境遇ノ激變等ニヨリ誘起サル、ヲ常トス、女子ハ一般ニ男子ヨリモ本病ニ犯サレ易ク、東洋人ハ歐米人ニ比シ罹病スルコト多キガ如シ。

重症ひすてり患者ノ身體的障礙トシテハ、不眠、麻痺、歩行或ハ起立不能、卵巢痛、食思缺乏、嘔吐、失語、半身性乃至島狀感覺脫失、視野縮少、ひすてり球、痙攣等アリ、精神的ニハ重ニ感情界異常ヲ視、氣分轉換シ易ク、自己感情充進シ、虚飾ニ耽リ、珍奇ヲ遂ヒ、人ノ注意ヲ引カントシ、心氣性トナリ、疾病ヲ誇張ス、意思薄弱ニシテ、暗示ヲ被リ易ク、他人ノ迷惑等ヲ敢テ意トセズ。

ひすてり性痙攣發作アルヤ、癲癇ノ如ク急激ニ來ラズ、通常癲癇様痙攣發作期、ひすてり性狂亂期、感動的動作期及譫妄期相亞イテ來リ、遂ニひすてり性精神異常狀態ニ移行スルコトアリ、ひすてり發作ノ際ニハ意識錯亂シ、苦悶、不安、叫喚、啼泣、亂暴、幻視、夢視、譫妄等ヲ來シ、時トシテ昏迷狀態ニ陥ル。發作後ニハ發作前、中、後、ノコトヲ追想シ得ザルガ通常ナレドモ、往々ソノ當時半夢中ニ經驗セシコトヲ眞ノ事實ナリト信ジ、之ニ基キテ妄想ヲ發シ、犯罪行爲ヲナシテ自ら不正ナルコトヲ知ラザルモノアリ、又發作中ニ他人ニ強姦セラレタリナド誣告スルモノアリ。

ひすてり性朦朧狀態ハ、痙攣發作ノ前後ニ或ハ全ク獨立のニ來リ、比較的烈シキ意識混濁ヲ伴ヒ、了解不良、指南力喪失、聯想障礙ヲ呈スルコトアリ、予ハひすてり性朦朧狀態中ニ夫ノ妻ヲ傷害シ、覺醒後全ク之ヲ知ラザリシ一例ヲ見タリ、ソノ他ひすてり性性格異常者ニハ、一時性ニ發揚狀態、抑鬱狀態、睡眠發作、夢中遊行、人格變換、二重人格、病的虚言、自殺企圖、伴狂等ヲ見ル。

ひすてりト鑑別スベキハ躁鬱病、早發癡狂及麻痺狂ノ初期トス、然レドモひすてり患者ニハ所謂ひすてり性特徴アルヲ以テ、容易ニ之ヲ鑑別スルコトヲ得ルモノナリ。次ニひすてり患者ト中間者トノ鑑別甚ダ困難ニシテ癲癇性朦朧狀態トひすてり性ノソレトハ稍相類似スレドモ前者ハ怒リ易クシテ行爲ハ斷片的ナルニ、後者ハ暗示性ニシテ行爲ニ多クハ系統アルニ因リ鑑別スルコトヲ得。

法醫學的ニ見ルトキハ、伴狂者ハひすてり性精神異常者ニ多ク、又事實無根ノ誣告ヲナシ、或ハ朦朧狀態ニ乘ジテ竊盜放火或ハ殺人等ヲナスモノアリ、一般ニ云ヘバ、ひすてり患者ノ朦朧狀態、譫妄狀態、大發作時昏迷或ハ睡眠狀態ノ間ニ於ケル犯行ハ責任無能力ト見做スベキモノ多ケレドモ、場合ニヨリテハ輕減責任能力ノミニ過ギザルコトアリ、又民法上ニハ多クハ處分能力ヲ有スルモノナレドモ、鑑定者ハ須ラク各個ノ場合ニヨリテヨリ探究シ、情狀ヲ考ヘ合セテ鑑定ヲ下スベシ。

四、外傷性ひすてり Traumatic neurosis, Hysterie, traumatische Neurose.

本病ハ又恐怖性神經症、或ハ外傷性神經症ト稱ス、コハ強劇ナル外傷性感動、例ヘバ列車或ハ電車ノ衝突、墜落、汽船ノ顛覆、沈没等ニ起因シテ、ひすてり性症狀ヲ惹起スルモノニシテ、勿論其際受ケタル衝

ひすてり性朦朧狀態

外傷性ひすてり

動ニヨリ腦脊髓振盪ヲ起シ、之ニ依テ精神錯亂、興奮、麻痺狂樣或ハ癲癇樣症狀ヲ發シ、或ハ神經衰弱樣若シクハひすてり様トナリ、抑鬱、苦悶、作業力減退、疲勞亢進、強迫觀念、心氣症、睡眠障礙、食慾缺乏、感覺異常、視野縮少、心悸亢進、運動障礙アリ、コレ多クハ變質者ガ偶々外傷等ノ驚怖ニヨリ、本病ヲ精神的ニ作成スルモノニシテ、自己ニハ實際癲癇セリト信ズルモノナレドモ、時トシテ患者ハ外傷後、伴狂ヲナシ、又ハ誇張ノ談話ヲナスニ依リ、注意シテソノ眞偽ヲ鑑別スベキナリ。予ハ一學友ニ毆打セラレテ本病ニ罹レリト稱シ、損害賠償ノ訴訟ヲ提起セル患者ヲ見テ、ソノ症狀ノ誇張セラレ居ルヲ觀破シ、訴訟ヲナスノ不利益ヲ論シ和解セシメタル事アリ。

本病者ガ稀ニ殺人放火等ヲナシ、刑法上ノ問題ニ上リ來ルモノナルガ、多クハ心神耗弱者トシテ取扱ハル。却テ民法或ハ工場法上ノ問題トナリ、損害賠償或ハ慰勞金ヲ出來ル丈多ク取得セントシテ、詐病ヲナスモノ多シ、此詐病ヲ觀破スルニハ一定ノ病院ニ入院セシメテ絶エズ觀察スルヲ宜シトス。

五、癲

癲 Epileptic Insanity, Epileptic

本病モ亦多ク精神病の遺傳關係ヲ有スル家系ニ出現シ、既ニ幼時ニ於テ發現スルモノ大部分ヲ占メ、誘因トシテハ外傷、傳染病、精神的感動、酒精濫用等ヲ數マルコトヲ得ベク、身體的ニモ種々ノ變質徵候ヲ有シ、所謂癲癇性顔貌ヲ呈スルモノ少ナカラズ。

本病ノ特有ナルハ所謂癲癇發作ヲ來スニ在リ、然レドモ本病者ハ此發作ニ關聯シ、又發作ニ何等ノ關係ナクシテ、一種ノ精神異常ヲ呈スルモノ多シ、固有ナル癲癇發作ノ際ニハ先ヅ一定ノ前驅症狀ヲ來シ、之ニ次デ俄然意識ヲ亡失シテ昏倒シ、全身ノ強直性或ハ間代性痙攣ヲ起シ、闘牙、唾液分泌、咬傷等ヲ來ス

癲癇

精神性癲癇

モノ多シ、此際瞳孔ハ開大シ、概ネソノ對光及調節反應ヲ失フ、發作後ハ暫時昏睡ニ陥ルモノナリ、時トシテハ單ニ身體ノ一部ニ於ケル痙攣發作、眩暈及一時性ノ虛心等ヲ來スニ止マリ、上記ノ如キ定型性ノ發作ヲ來サマルコトアリ、或ハ全ク身體的ニ何等痙攣ナク、精神的意識朦朧狀態ヲ來スコトアリ、之ヲ精神性癲癇ト云フ、然レドモ此模型の癲癇發作ト精神性癲癇トノ間ニハ數多ノ移行狀態アルモノナリ。

精神性癲癇發作、或ハ朦朧乃至夢幻昏迷狀態間ニハ、指南力犯サレ、妄想妄覺ヲ生ジ、記憶銘ノ障礙アリ、行爲ハ全ク夢中ナルヲ常トスレドモ、時トシテ系統的ノ運動ヲナシ、一見有意的ニ見ユルコトアレドモ、之レ全ク妄覺ニ起因スルモノナリ、即チ純精神的ノ發作ニ於テハ、平素ノ制止作用ヲ失ヒ、猥褻、放火、竊盜、殺人等ヲ犯スモノアリ、又ハソノ感情發揚シ、叫喚暴行スルコトアリ、尙癲癇病者ハ次ノ如キ奇行ヲ有ス。

夢中遊行

(イ) 夢中遊行、患者ハ夜半突然起キ上リ、無意識的ニ點火、開扉、屋上徘徊等ヲナシ、此間ニ時トシテ秩序アル犯罪ヲ行ヒ、而モ醒覺後ハ夢遊中ノ行爲ヲ毫モ追想スルコト能ハザルモノナリ。

癲癇性昏迷

(ロ) 癲癇性昏迷、意識濁濁數日間持續シ茫然トシテ、拒絶症狀、強硬症狀アリ、無識ノ間ニ衝動性ニ種々ノ行爲ヲナスモノナリ。

苦悶性譫妄狀態

(ハ) 苦悶性譫妄狀態、突然ニ發病シ、指南力ヲ失ヒ、妄覺妄想ヲ來シ、苦悶甚シキ暴行ヲ伴フ、時トシテ妄覺妄想ニ驅ラレテ殺人ヲ敢テスルコトアリ。

悟性譫妄

(ニ) 悟性譫妄、意識濁濁甚シカラズ、一見常人ノ如シト雖、了解記憶等ノ作用ニ障礙アリ、妄覺妄想ヲ有シ爲メニ猥褻、竊盜、放火等ノ犯罪ヲナスコトアリ。

癲癇性精神薄弱

著明ナル意識混濁ヲ伴ハザル發作ニ於テハ、發作性不機嫌、内性苦悶、消魂大悅、宗教性誇大妄想等ヲ來シ、發作間ニハ多少理性侵犯セラル、モノトス。

一般ニ癲癇病者ニ在テハ發作ナキ時ニ於テモ、所謂癲癇性精神薄弱ヲ示シ、談話ハ語路一律、迂遠冗長ニシテ、宗教心ニ富ミ、神佛ヲ尊信スルコト熱烈、感情ハ機嫌ヲ損ジ易ク、平素ヨリ爭論ヲ好ミ、些細ノコトニ憤怒シテ暴行ヲ働クコトアリ、一面ニハ剛情ナレドモ、他面ニハ敬虔ニシテ綿密細心ナルモノアリ、自我心強キヲ常トス。

癲癇性飲酒不
堪
暴飲症

癲癇者ニハ飲酒不堪ナルモノ多ク、少量ノ酒ヲ用ユレバ忽チ重キ意識混濁、憤怒性興奮ニ陥リ、或ハ酒類ノ強迫的濫用ヲナシ、財産ヲ傾倒シテ飽クコトヲ知ラズ、ソノ結果朦朧狀態ニ陥リ、騷擾、暴行、徘徊等ヲナスコトアリ、之ヲ暴飲症ト云フ、予ハ暴飲症ノ爲メ數ヶ月健忘ニ陥レル患者ヲ見タリ。

癲癇患者ニハソノ變質徵候ノ外ニ、頻回ナル痙攣發作ノ遺跡トシテ、癍痕、齒ノ缺損、火傷、舌傷、溢血、瞳孔ノ不平等ヲ見ルコト多シ。本症ト鑑別ヲ要スルハひすてり發作トス、然レドモ意識混濁ノ深度、痙攣ノ特質、瞳孔ノ反射、舌ノ咬傷ノ有無等ニ依リテ、比較的容易ニ鑑別スルコトヲ得ベシ。

本病患者ノ法律的關係ハ頗ル重大ナリ、即チ癲癇性意識薄弱、或ハソノ興奮性憤怒性ナルニ起因シ、竊盜、詐欺、暴行狼襲、放火、傷害、脫走等ヲナシ、殊ニ朦朧狀態ニ在テハ、無意味ノ徘徊、動機ナキ大暴行ヲナシ、慘絶ナル殺人行爲等ヲナスコトアリ、特ニ注意スベキハ輕度ノ發作、即虛心、病的發作、不機嫌等ニ基ケル犯行ナリトス、コハ無意識狀態ニ於テ尙且整然タル算數、書記、音樂等ヲナシ、而モ自ら記憶セザルコト多ク、從テ此間ニナセル犯行モ自覺セザルコト多キガ故ニ、司法官ノ注意ヲ喚起スルコト能

ハズ、専門醫ト雖ドモ一、二回ノ診察ニテハ此ガ判定ニ苦ムコトアリ。

癲癇性朦朧狀
態鑑定實例

癲癇發作、朦朧狀態、精神的發作等ノ間ニ於ケル行爲ハ責任無能力ニシテ、發作時以外ニ於テモソガ爲メノ精神薄弱、癲癇性異常性格ニ基ケル行爲ハ心神耗弱ヲ以テ論ズベキモノトス。民法上ニ於テモ癲癇者ニシテ妄想或ハ健忘症ヲ有スルモノ、發作頻回ナルモノ、及暴飲者等ハ處分能力ナキモノトスルヲ穩當トス。

鑑定書

明治三十三年四月二十五日東京地方裁判所豫審判事坂本三郎ハ糟谷龍雄謀殺被告事件ニ關シ左ノ事項ヲ鑑定スベキ旨余等ニ命ゼラレタリ
一被告ガ明治三十三年四月五日午前二時過ヨリ同五時三十分迄ノ間ニ於テ其父糟谷立作及叔父糟谷三郎ヲ殺シ且糟谷友次郎ニ負傷セシメタル所爲ハ精神上異常ニ基キタル行爲ナルヲ否ヤ
依テ東京府治橋區警署ニ於テ本人龍雄ノ心身狀態ヲ檢診シ且ツ右ニ關スル刑事訴訟記録ヲ參照シ左ノ鑑定書ヲ作ル
東京府下荏原郡玉川村大字野真田
五百七十六番地平民糟谷立作長男
小學校教員 糟谷龍雄
明治十一年八月生

事 歴

遺傳症、父ハ平素養生家ニシテ飲酒スルモ其量少ナク癲癇強クシテ大ニ不正ナル事ヲ嫌忌セリ、母ハ龍雄ノ妹ヲ嫁セル後子宮炎ニテ死セリ、父ニ二人ノ妹アリ今尙健全、母ニ一人ノ弟アリ被害者半三郎是レナリ龍雄ニ一人ノ妹アリ十三歳ノ時勞瘁ニテ斃レタリト云フ其他ノ遺傳症ハ不明ナリ
既往症、龍雄ハ幼ニシテ蟲ヲ患ヘ時々癩癩ヲ起シ稍長ジテ常ニ頭首ヲ震頭セリト然レドモ重患ニ罹リ又損傷セシコトナシト云フ主治醫ノ陳述ニ據レバ明治十五年、六年ノ頃腦膜炎ヲ病ミ醫藥ヲ受ケ百日餘ヲ經テ治療シ翌年秋始メテ癲癇症ヲ發シ爾來十餘年ノ久シキ今日ニ至ル迄一日數回毎日又ハ三十日乃至六十日ニ一回發作シ殊ニ春秋ニ於テ其發作頻數劇烈ナリキトイフ養育ハ本人三歳ノ頃母死亡セシ

ヲ以テ父ノ膝下ニ於テセラレ教育ハ六歳ノ頃就學十七歳ニ至リ醫學ノ小學全科高等小學補習科ヲ修了シ成績良ナリシト性情ハ十四歳ノ頃發動シ盛ニ淫ヲ行ヒ日ニ兩三回ニ至リ十六歳ノ頃ヨリ婦人ト接シ之レヨリ淫ノ惡習全ク止ミタリト氣質ハ溫順ナレドモ所謂癡リ性ニシテ神經過敏ナリシト云フ職業ハ一時小間物商ヲ營ミシモノトシテ學事ハ好ミシモ醫師ノ忠告ニ由リ癲癇症ヲ増悪セシムルモノト嫌忌シ明治三十一年五月ヨリ小學教員トナリ爾後今日ニ至ル迄連續セリ學事ハ好ミシモ醫師ノ忠告ニ由リ癲癇症ヲ増悪セシムルモノトシテ勸導セズ品行ハ小學教員在職以前ハ青樓ニ登リ酒ヲ飲ミ賭博ヲ行ヒシモ教員トナリシ以來ハ父ノ意見ト醫師ノ忠告トニ由リ品行改リタリト、配偶ナク家庭ハ父ト共ニ只二人ニシテ親子間ハ概シテ親密ナリキ親戚等トノ交際モ圓満ニシテ生計モ困難ニハ非ザリシト云フ管テ犯罪セシコトナク兵役ハ眼球震盪症ノ爲メニ不合格トナリ宗教ハ平素深ク御玉様(神道)ト稱スルヲ信ジ併セテ榮隆自在大善神(法華宗)ナルモノヲ守リ本尊トシテ信仰セリトイフ
明治三十二年三月頃龍雄ハ些タル事柄ヨリ父ト爭ヒ自殺セント云ヒ飛出サントセシコトアリ同年十月頃ハ鬱症狀ヲ呈シ、本年二月頃ハ一、二回強シタイケレドモ資本ハナシ身體ニモ惡ルイカラ寧ろ死ンダハガ増シタリト云ヒシコトアリキ、癲癇ハ時々發作シ其頻數ナル時ハ日ニ兩三回發作セシコトアリ間歇日數長キ時ハ其後ニ強キ發作來ルコト多シ、發作ハ標準性ノ發作ニシテ前驅症狀ノ著シキモノナク發作後モ其發作ノ強弱ニヨリ或ハ多少ノ不快感ヲ殘留スルコトアリ或ハ直チニ清明ノ狀態ニ移行スルコトアリキト夜中暴行セシコト等ハナキモ只夜中發病突然飛起テ身邊ヲ搜リ花活ヲ倒シ等セシコト父立作ノ介抱ヲ受ケシコトアリトイフ本年ハ一月以來發病セザリシモ四月五日午前二時過ヨリ同五時三十分迄ノ間ニ於テ無憶ニモ父立

作ニ三十五創ヲ叔父牛三郎ニ六創ヲ負ハセテ之ヲ死ニ致ラシメ隣人友次郎ニモ亦一創ヲ加ヘタリ事急辛ニシテ人ソノ真相ヲ知ルニ苦シ...

身體狀格中等榮養佳皮膚一般ニ蒼白ニシテ皮下脂肪量中等筋肉ヨク發育セリ體温ハ正常脈搏ハ一分時中八十至其性質ニシテ力アリ...

下ノ癲癩ノ果ガナイゾト云ヒタリ故ニ仕込杖ヲ以テ杖ヲ破リ外ニ飛ビ出タリ然ルニ逃ゲダスモノアリソノ者ハ生垣ヲ越ヘ加ノ方ヘ行ケ...

前記ノ事案ト現況トヲ對照書按スルニ龍雄ノ遺傳歴ハ不明ナリ然レドモ幼シテ癲癩炎ヲ患ヘ繼テ癲癩症ヲ發シ其後十餘年ノ久シキ時...

鑑定人 片山 國 嘉 鑑定人 高山 正 雄

六、躁 鬱 病

Manic depressive Insanity, Folie intermittente, Manisch-depressive Irresien.

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

躁鬱病

甲、躁揚状態ニテハ一般ニ感情爽快、聯想促進、多動、興奮ヲ來シ、ソノ程度ニ應ジ之ヲ輕躁病、躁暴病、

及譫妄性躁揚病ノ三種ニ分類ス。

(イ)、輕躁病ニ於テハ意識混濁ナク、理解記憶亦佳良ナリト雖、觀念進行ノ統一亂レ、注意轉移シ、意想奔逸ス、妄想アルコトハ稀ナレドモ、自己誇張甚シク、誇大的言動ヲナシ、多業、多辯、放蕩、淫逸、亂酒、荒亡ニ流レ易ク、色慾亢進ス。

(ロ)、躁暴病ハ多少ノ意識混濁アリ、意想散亂シ、妄覺妄想顯著ニシテ、ソノ内容ハ誇大的或ハ被害的ナリ。

即チ跳舞、絶叫、破衣、拍手、物品破壊乃至狂暴行爲ヲナス。

(ハ)、譫妄性躁揚病ニテハ意識混濁甚シク、指南力喪失シ、妄覺妄想豐富ニシテ、舉止一般ニ錯亂シ、身體的ニモ亦不眠、食思亢進、痙攣發作、心悸亢進等アリ。

乙、抑鬱状態ニ於テハ一般ニ不快感情、聯想意志ノ制止及舉動遲鈍ヲ主徴トス、抑鬱程度ニ應ジ、之ヲ輕度、昏迷性乃至妄覺性抑鬱状態ニ分類ス。

(イ)、輕度抑鬱状態ニテハ、タゞ精神活動ノ制止ヲ示スニ止マリ、妄覺妄想ナク、意識ノ障礙ナシ、氣分ハ不快沈鬱ニシテ、萬事ニ興味ヲ失ヒ、怏々トシテ樂マズ、不快ノ裡ニ消光ス。

(ロ)、昏迷性抑鬱状態ニテハ指南力ヲ失ヒ、感情發動セズ、全ク昏迷狀トナリ、タゞ茫然褥中ニ横臥ス。

(ハ)、妄覺性抑鬱状態ハ最モ重症ナルモノニシテ、上記諸症ノ外ニ追跡、罪業、心氣性ノ妄想ヲ加ヘ、幻視幻聽ヲ有スルコト多ク、感情ハ絶意失望ニ陥リ、痛嘆ノ極自殺ヲ企ツルモノアリ。

時トシテ躁揚状態ト抑鬱状態ト相混合シテ來ルコトアリ、即チ無爲性躁揚病、躁揚病性昏迷等之レナリ。上記ノ相反セル躁揚、抑鬱ノ二状態ハ各自獨立ノ病型ヲ作ルモノニ非ラズシテ、互ニ相連關シ、循環性ニ反復發現スルコトアリ、或ハ躁揚状態ノミ長クシテ抑鬱状態ノ短キコトアリ、或ハ一方ノミ來リテ他方ノ顯レザルコトアリ。

本病ノ輕度ナルモノハ往々變質者、ひすてり患者或ハ神經衰弱者、ト誤ラル、コトアリ、抑鬱ノ甚シキモノハ痴呆者ト思ハレ、又發揚ノ状態ニ在ルモノハ、緊張病、癲癇性興奮或ハ酒客譫妄ト誤ラル、コトアリ、注意スベシ。

本病者ハ興奮ノ初期ニ於テハ輕忽ナル濫買、契約、物品贈與、企業等ヲナシ、躁揚状態ニテハ漂泊流浪シ、喧騒、暴行等ヲ行フ、又色情亢進ノ爲メ、猥褻行爲、強姦、淫賣等ヲ働キ、或ハ無謀ノ舉ニ出デ、大暴行ヲナスモノアリ、抑鬱期ニテハ自殺、殺兒或ハ放火等ヲ行ヒテ苦悶ヲ洩ラサントス、即チ法律的ニハ重症者ハ心神喪失ヲ以テ論ズベキモ、發作以外ノ時ハ平常ナレバ責任能力者ナリ、民法上ニテハ輕度ナルモノハ禁治産ノ必要ナシ、但疾病數年ニ亘リ精神弛廢シ、恢復ノ望ミナキモノニ在リテハ、處分能力ヲ奪フモ良シト雖、發病數年ニシテ後尙通常ノ精神状態ニ復シタルモノモアレバ注意スベシ。

七、ばらのいあー偏執狂

Paranoia, Délire systematisé, Paranoia.

ばらのいあ

本病ガ獨立シタル病型トシテ存在スルモノナルヤ否ヤハ、尙學者間ノ爭點トナリ未ダ決定スルニ至ラズ、寧ロ、妄想性痴呆者ノ智識ガ比較的犯サレザルモノナリトノ說ヲナスモノ多シ、然レドモ從來ノ慣習ニ從

ヒ、茲ニ之ヲ他ノ疾病ヨリ分離シテ述ベント欲ス。

本病者ハ執拗ニシテ系統アル妄想ヲ有スルヲ以テ主徴トナス、患者ハ意識清明ニシテ思慮整頓シ、記憶亦佳良ニシテ、痴呆ニ陥ルコト晩シ、發病後永ク理性明確、學識亦相應ナル發達ヲ遂グレドモ、執拗ナル妄想城府ハ牢固トシテ抜ク能ハズ、爲メニ常軌ヲ逸セル行動、衝動性動作ヲモ敢テシ、一度他人ガ此妄想ヲ破壞セントスレバ、大ニ憤怒シテ之ガ防衛ノ策ヲ取ル、ソノ系統的妄想ノ種類ハ被害的、或ハ誇大的ナリ、時トシテ嫉妬妄想ヲ起シテ自己ノ配偶ヲ虐待シ、些細ノ原因ニ因テ傷害行爲ヲナスコトアリ、病識ナク一見狂者ノ如ク見エザルヲ常トス。

妄想城府

好訴病者

本病者ニシテソノ妄想ハ被害性ニシテ、絶エズ自己ノ權限ヲ侵略セラル、ガ如ク考へ訴訟ヲ起シ、訴訟ニ破ルレバ他人ガ自己ヲ陥レ、或ハ自己ノ辯護士ガ敵ニ好意ヲ表シ、相通ズルモノナリト邪推シ、一意專心ソノ訴訟ノ爲メニ財ヲ投ジ、勞ヲ吝マズ、遂ニ自己ノ財産ヲ消耗シ盡シテ怨ミズ、ソノ疾病ノ永キ間ニ漸次痴呆ニ陥ルモノアリ。之ヲ好訴病者ト云フ。

本病ハ妄想性痴呆トハ同病ナリト見做サル、位ヒナレバ、ソノ鑑別時トシテ殆ンド不可能ナリ、麻痺性痴呆ノ初期トハ身體的症候ニテ區別シ、中酒性或ハ癲癇性妄想トハ、ソノ病狀ニヨリテ自ラ差アリ、僞好訴病者トノ鑑別ハ既ニ記述セルガ如シ。

本病者ノ重キモノハ全ク妄想ニ支配サレテ行動スルガ故ニ、一見狂者ノ如ク見エザルモ、心神喪失ヲ以テ論ズベク、輕キモノハ心神耗弱者ナリ、民法上ニテハ多クハ心神耗弱ノ常況ニアルモノト見做スヲ適當トス、蓋シ本病者ハ妄想以外ノ事ニハ全ク常人ト異ナラザルコト多クレバナリ、本病者ハ往々ソノ妄想ニ

早發痴呆

驅ラレテ反抗、詐欺、放火、殺人等ヲナスモノナリ。

八、早發痴呆

Dementia praecox, Démence Précoce

本病ハ青年期ニ發病シ、比較的急速ノ經過ヲ以テ痴呆ニ移行スルモノニシテ、ソノ原因ハ遺傳ニ關スルコト多ク、本病ニ罹ルモノハソノ初メヨリ強情、變屈或ハ不行跡ナルモノ多シ、本病ハ精神病者中最モ多キモノニシテ、多クノ精神病院ニ於ケル入院患者ノ約三分ノ一ヲ占ムト云フ。

早發痴呆患者ハ外觀上痴呆狀ヲ呈セルモノニテモ、指南力比較的良、幻覺錯覺ニ富ミ、就中幻聽多ク、考慮紊亂シ、支離滅裂症ヲ呈シ妄想ヲ來シ、ソノ内容ハ心氣性、追跡性、被害性乃至罪業性ニシテ、條理甚ダ奇異不合理ナルモ患者ハ之ヲ信ジテ疑ハズ、記憶障礙ハ少シ、本病者ニ於テ最モ注目スベキハ、感情ノ甚シキ鈍麻減退ナリ、患者ハ萬事ニ興味ヲ失ヒ、家族ニ對スル愛情モ冷却シ、花咲クモ鳥啼クモ、亦ソノ心緒ヲ動かカスニ足ラズ、遂ニハ甚シキ不問性ニ陥ルモノナリ、從テソノ行爲モ亦意志ノ表示ヲ失ヒ、茫然、無爲ニソノ日ヲ送ルコト多シ。

時トシテ何等意志發動ニ關係ナク、衝動性ニ種々ノ行爲ヲナシ、暴行ヲ敢テスルコトアリ、ソノ他拒絕症、緘黙症、常同症、街奇症、強硬症狀及反響症狀等ハ本病者ニ屢發來スルモノナリ。本病者ノ精神的作業能力ハ常ニ著シキ病的障礙ヲ破リ、ソノ行爲意匠凡テ散亂奇警ヲ極メ、技巧ノ精緻等ハ再ビ之ヲ望ムベカラザルニ至ル、身體的ニ著明ナル特徵ナシト雖、時トシテ痙攣發作、卒中樣發作、ひすてり樣發作アリ、ソノ他、腿反射亢進、瞳孔散大、皮膚紋畫症、拒食或ハ暴食等ヲ見ルコトアリ。

本病ヲ通常三區分シテ、破瓜狂、緊張狂及妄想性痴呆トスト雖、各病型ノ間ニ明ニ限界アルニアラズ、

相互ニ相移行ス、更ニ類破瓜狂ヲ區別スルモノアレドモ、予ハ成ルベク簡明ナランコトヲ欲シ、前區分ニ從フ。今各病型ニ就テ略述セン。

破瓜狂

(イ) 破瓜狂、最モ慢性ニ發病シ、妄覺妄想稀ニ、興奮、昏迷等ノ著シキ症狀少ク、不知不識ノ間ニ漸次癡呆ニ陥ルモノヲ云フト雖、時トシテ幻覺並ニ心氣性、追跡乃至被害性妄想ヲ惹起シ、幻聽、幻視、幻觸之ニ次ギ發聲考慮、現形考慮亦稀ナラズ、從テ患者ハ苦悶性トナリ、恐怖、不機嫌、憤怒、爽快、色情、興奮相亞イテ至レドモ遂ニ不理性トナル。動作ハ一般ニ因循不整ナレドモ、街奇的行動アリ、荒淫、破壞、亂酒、徘徊、浮浪、自殺、暴行乃至放火等ノ犯罪ヲ行フ。

緊張狂

(ロ) 緊張狂、本病ノ初期ニ於テハ、ソノ症狀全ク破瓜狂ト同一ナレドモ、病初ハ多少沈鬱ニシテソノ前驅期長ク、多數ノ妄覺妄想ノ發現アルヲ常トス、而シテ奇行多ク、無爲茫乎トシテソノ日ヲ送り、突然徘徊、無意味ノ訪問等ヲナシ、時トシテ毆打傷害、自殺企圖、放火等ノ犯罪ヲ敢テス、本病ノ特徴トスベキハ、所謂緊張性昏迷及興奮ニ陥ルニ在リ、此際ニハ緘黙、拒食、常同、街奇等ノ諸症候ト共ニ、表情茫乎トシテ自發運動ヲナスコト少ク、強硬症狀及反響症狀アリ、唾液及兩便ノ始末惡ク不潔汚穢トナリ、而シテ突然衝動的動作ヲ行フ、此動作ハ無思慮、街奇的ニシテ、外界ノ事情ヲ顧慮セズシテ盲動ス、言語モ亦街奇的錯亂性ニシテ、詞語新作、常同、反復等ヲナシ、不潔、不眠、食思不整、色慾亢進アリ、意識ハ少シク溷濁シ感情ハ漸次鈍麻ス、一般ニ本病ハ妄覺妄想ノ多キ刺戟期、興奮昏迷期ヲ經過シ、ソノ大部分ハ癡呆ニ陥ルヲ常トス。予ハ本病者ガ神ノ命令ト信ジテ、吳服店ヨリ幾多ノ反物ヲ取寄セ、之ヲ轉賣セル一事件ヲ鑑定セル事アリ。

妄想性癡狂

(ハ) 妄想性癡狂、本病ハ前二病型ニ比シ、妄想妄覺ノ持續長期ニシテ且顯著ナル癡呆トナル迄ノ經過比較的長キモノナリ、本病ヲ又次ノ三型ニ區分ス。

(一) 幻覺性妄想性癡呆、初メ著シキ幻覺アリテ、之レヨリ妄想ヲ惹起スルモノナリ、即チ電氣光線等ニ依リテ、身體ヲ迫害セラル、ナドノ所謂理學的被害妄想ヲ呈スルモノ多ク、又關係妄想ヲ有スルモノ少ナカラズ、行爲ハ凡テ衝動性ニシテ、何等ノ動機ナクシテ俄然暴行ヲナスコトアリ。

(二) 妄想性癡呆、多クノ連續ナキ追跡妄想、誇大妄想ヲ有シ、幻覺ヲ伴フ、情緒ハ刺戟性トナリ、暴行ニ陥ル、輕度ノ街奇行爲、拒絕症狀及色情亢奮アリ。

(三) 空想性妄想性癡呆、コハ主トシテ秩序アル妄想ヲ有シ、ソノ妄想ハ幻覺ノ影響ヲ受クルコト少シ、而シテソハ想像的架空的ニシテ、全ク根據ナキコト多ク、些細ノ事實ニ重大ナル空想的意味ヲ附會シ、己レト關係アルガ如ク妄想シ或ハ被害ヲ恐レ、或ハ尊大ニ構フルヲ常トス、行爲ハ妄想ニ依テ支配セラレ、時トシテ放火殺人等ヲナスコトアリ。

上述ノ如ク早發癡呆ニハ種々ノ病型アレドモ、之ヲ一々鑑別シテ診斷ヲ附スルハ困難ナルコト多キヲ以テ、非常ニ定型の病徵ヲ呈セザル限リハ、早發癡呆ナル病名ノ下ニ一括シテ診斷スルコト、ナリ居レリ。本病ノ初期ニ於テハ甚ダ屢々ひすてり或ハ神經衰弱ト誤認セラルト雖、感情ノ方面ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナルベク、癲癩或ハ躁鬱狂トノ鑑別モ往々困難ナルコトアリ、麻痺性癡呆トハ身體的症狀ヲ精査スレバソノ鑑別容易ナリ、破瓜狂病者及輕度ノ癡呆者ニ在リテハ、特ニ犯罪ノ傾向多ク、浮浪者ノ中ニ本病者ヲ見出スコト屢々ナリ、本病者ハ比較的理解力、指南力智力等健全ナルニ係ハラズ、俄然街奇的或ハ衝動

性犯行ヲナスヲ以テ、伴狂者ト誤マルコト多シ、刑法上ヨリ見レバ本病者ノ行爲ハ多クハ心神喪失ノ裡ニ在ルモノトシテ處分サル、ヲ常トス。

早發癡呆鑑定實例

鑑定書

被告 ○〇三郎 二十八歳

右放火被告事件ニ付大正十二年二月十七日、神戸地方裁判所豫審判事藤波真藏氏ハ同裁判所豫審廷ニ於テ、余ニ命ズルニ左記ノ事項ヲ鑑定スベキヲ以テセリ。

第一、犯罪事實

檢事横田驥二豫審請求書ニヨレバ、被告ハ大正十一年八月頃郷里栃木縣ヲ出發シテ食生活ヲ營ミナガラ諸所ヲ放浪シ來リタルガ不遇ノ結果葉鹿均シク自己ヲ侮蔑スルモノナリト做シ社會ヲ呪ヒ其ニ放火シテ自ラ慰ムル所アラント決意シ同年十二月二十四日午前四時頃神戸市西須磨西町長谷川種次郎方居宅附近ニ到リ燭寸ヲ以テ有合セタル炭俵ニ點火シテ同家ニ接續セル木造ニ階建裏敷ニ燃テ移ラシメテ放火シタルガ其火勢熾ナラザル見ルヤ更ニ引續キ同所岡田仁吉方居宅入口ニ吊シアル藪藪竝ニ附近ノ空俵ニ燭寸ニ點火シ同家屋ニ燃エ移ラシメ放火シタルモノナリ。

第二、検査記録

栃木縣那須郡西那須野村大字 野野村字赤田三七 被告 ○〇三郎 二十八歳 明治二十九年十月一日生

甲、精神の觀察

明治二十九年十月一日生

ヲ廢物ノ如ク思フ農業ニ酷使シテ後レテ休息スレバ近所ノ人ト共ニ自分ヲ打チ又ハ蹴リ、精神的ニ肉體的ニモ大ニ苦痛ヲ受ケタリ。斯ノ如キハ畢竟自分ヲ村ヨリ排斥スルモノナリト思料シ十五日六日ノ後復タ東京ヘ行ク氣ニナリ旅費金四圓ヲ貰ヒ出發シタルシガ途中早稲田警察署ニ二十五日間拘留セラレ七月中旬放免後直ニ神田職業紹介所ヨリ京橋ノ米屋ニ一週間次ニ其主家ナリ日本橋畔大金屋米商ニ三日間奉公セシメ向フヨリ斷ハレテ下谷御徒町辰屋自轉車附屬品商ニ五日間奉公申田舎ヘデモ歸レト云ハレ小石川大塚ノ牛乳屋強國會ニ五日間勤メシモ衰弱ノ爲メ勞ニ堪ヘズ暇ヲ乞ヒ更ニ小石川ノ某米商ニ奉公セシガ僅カ一日ニシテ出テ賈ヒタルト暇ヲ出サレタリ、茲ニ於テコレハ郷里ニ於テノミナラズ東京ニ於テモ人皆結束シテ余ヲ相手ニセズ自分ヲ排斥スルモノト思ヒ保證人田島ニ相談シ其勸告ニ從ヒ大正十一年八月中旬歸郷シ農業ヲ手傳ヒ居リタルニ未ダ十日ニ及バザルニ家族及隣人ハ皆自分ヲ排斥シ虐待スル故世間カ恐シク暫ク身ヲ隠スニ如カズト考ヘタリ仍テ幼時行キテ見タルコトアル日光中禪寺ノ乞食ノ群ニ變裝シテ身ヲ投ゼント思ヒ同處ニ至リタルニ乞食ヲ見ズ熱ヲ考フルニ同ジ乞食ヲナスナラバ東國ハ寒キ故暖カキ臺灣方面又ハ更ニ進ミテ南洋ニ逃レント思ヒ道ヲ東海道ニ取リ乞食生活ヲナシツ、西行シタリ、乞食ニナリテ道中安全ナリシカ

第三編 法醫學的精神病學 八 早發癡狂

被告ハ姓名、住所、年齢生年月日ヲ明確ニ答ヘ父母ノ名年齢ヲ問フニ父兼吉六十三歳實母タケハ自分七歳ノ時死シ繼母ツルハ五十二歳ニシテ生存スト答フ被告ニ其ノ經歷ヲ訊問スルニ逐一答フル所左ノ如シ

「自分ハ明治四十四年三月二十五日十六歳ニシテ郷里ノ小學校ヲ卒業シ一年程農業農商ヲ手傳ヒ明治四拾五年即チ大正元年八月頃ヨリ半年許リ足利町藤原商ニ奉公シ大正二年一月中旬足尾町田島町實業材木商ニ勤ムル事三ヶ月位ノ後上京大正二年三月東京麻布谷町島田貞夫方ノ紹介ニヨリ東京電燈會社ノ人夫トナリ又東京日新聞ノ配達夫トナリ苦學シタルシガ其間初メハ人々自分ニ對シ親切ナリシガ今ヨリ考フレバ五ヶ年モ前ヨリ私ヲ特殊ニ取扱フ様ニ考ヘ又私ヲ排斥スル様ニ思ヒタル故苦學ヲ止メ大正十一年二月郷里ニ歸リタリ

問、五年前カラ人ガ君ヲ排斥セリト考ヘタル事實ヲ云ヘヨ

答、方々轉々シテ居マシタ故ヨク分ラヌガ萬朝報ノ配達ヲシテ居ツタ時同僚ガ話ノ仲間ニ入レテ又余ノ寢テ居ル際故意ニ足ヲ踏ミ安眠ヲ妨害スルコトアリタリ

問、東京ヨリ歸郷後如何致セシヤ

答、歸郷後百姓ヲナシタリ初メ一ヶ月ハ勤勉ナリシガ親兄ノ虐待ニ堪ヘズ故ニ同年四月再ビ上京某周旋業ノ手ヲ經テ山形縣ノ鐵道土方ニ雇ハレタルモ機酷ニ使役セラル、故五十日ニシテ國ヘ歸リタリ此時初メテ社會ノ人ガ自分ヲ排斥スルニ氣付キタリ

問、氣付キタル理由如何

答、自分ニ特殊ノ取扱ヲナシ排斥スル度ガ急ニ露骨ニナリマシタ、取扱ハ機酷ヲ帶ビ自由ヲ束縛シ強制的壓制的ニナリ冷酷ニナリマシタ

問、ソレハ畢竟君ノ空想ニ過ギナイダロウ

答、然ラズ山形縣ヨリ歸國後モ家人ハ家人ラシク自分ヲ取扱ハズ人

中ハ惡夢ヲ見テ醒覺シタル後、電氣ヲ感ジ苦痛ニ堪ヘズ逃ゲ出スヲ常トシタリ

問、何處迄四下セシヤ

答、自分ハ幾多ノ困難妨害ニ打勝チテ遂ニ昨年十二月中旬岡山縣三石驛附近ノガド近クニ至リ物置小屋ニ棲タルニ當時自分ニ對スル世人ノ態度ハ益々險惡トナリ恐ロシキ空氣ガ濛イテ呼吸ヲ壓迫スルコト甚シク身體疲勞其極ニ達セルガ如ク強イテ前進スレバ斃死スルノ恐レアリ是レ政府ガ電氣力何カラ應用シテ自分ノ自由ヲ束縛シ行動ヲ妨害スルモノニシテ斯クテハ前途ノ不安計ル可ラザルモノアリ殘念ナガラ引還シ歸國セント欲シ逆シテシガ苦痛依然トシテ去ラズ愈々道中ニ倒レ死スルモノト思料シタリ又道ニ落チアル新聞紙ヲ拾ヒテ之ヲ讀ムニ心臓病ナドニテ急死セシ人ノ記事アリ人ノ死スルモノ多クナリタル機酷感ゾレニ對シ新藥ノ廣告ガ新聞紙上ノミナラズ途中方々ニ貼リ付ケアリ世ノ中ノ形勢ガ物々シクナリ自分モ今同ハ到底助カレコト能ハズ終ニ殺サル、モノト覺悟シタリ

斯クテ道ヲ東ニ取リ大正十一年十二月二十三日播州曾根ニ至リタルニ世間ハ自分ヲ馬鹿ニシヤガルト思ヒコレ政府ト國民ト擧ツテ自分ヲ排斥スルモノニシテ之レニ對シ復讐セザレハ男子トシテ意氣地ナシト考ヘツ、曾根迄歩行シ十二月廿四日午前二時頃同驛停車場中ノ貨物列車間ノ鎖ノ上ニ腰掛ケ同驛ヲ出發シ驛屋驛ニ至リ徐行中地上ニ飛降り海岸ヲ東ニ歩ミ須磨ニ來リ復讐ノ目的ヲ達セントシタリ而シテ如何ナル方法ヲ取ラント考ヘタルニ身體弱リテ噴唾モ出來ザル故放火スルニ如カズト決心シタリ

問、何故須磨ニ放火シタルヤ

答、社會ト政府ハ擧リテ自分ヲ排斥スル故何處ヘ放火スルモ同ジコトナリ、東京ナラバ適當シキモ養ヘタル身體ニテハトテモ上京出來ズ、故ニ須磨ニ於テ手當リ次第放火セント考ヘタリ

問、放火ノ事實ヲ申立テヨ

答、大正十一年十二月二十四日午前四時頃ト覺ユ須磨停車場西方人家ノ間ニ於テ鐵道線路ヲ北ヘ横切リ路次ニ入り街道ヘ出テ更ニ横町ニ入りタルニ右側ニ二階建板張り左側ニ物置小屋ノ如キモノアリ此處ハ燃ヘ易キ様ニ見エ附近ニハ空ノ炭俵アリタリ之レヲ持チ

來リ逆ニ立テ掛ケ携行セルマツチニテ點火シタルニ一本目ハ消ヘ
 二本目ニテ點火シ燃上リタル時海岸ノ方ニ立ノキ様子ヲ見居リタ
 ルニ音ヲ立テ、燃ヘ居リタリ五分間位スルモ人ノ來ル氣配モナキ
 ニ火勢次第ニ衰フルニヨリ引返シタルニ板ガ二三尺位燃ヘタルノ
 ミニテ下ハ土壁故延燒セザルヲ知リタリ因テ初メノ路次ニ後戻リ
 シ途中奥マリタル處ヘ入リタルニ右側ノ家ノ軒下ニ藪藪ヲ吊リア
 リ其下ニ藪藪ヤ藪藪アリ故ニ先ツ藪ニ次ニ下ニアル藪藪ヲ放火
 海岸ニ引返シ様子ヲ見居タルニ多分其家ノ女ノ聲ニテ悲鳴ヲ聞キ
 タリ次テ近所ノ人々集マリ火事ヲ消セル機嫌ナリシ故ニ船中ニ
 置キタル衣服ノ包ヲ取り山手ノ方ニ逃ゲタリ其途中二三人ニ出遭
 ヒタタルガ其部度ニ離レタリ斯クテ山ヲ北ニ上リタルニ人家見
 ヘ人聲聞ヘタリ其田ノ傍ニ積ミアリシ藪ヲ取り筆ニ上リ門所
 ニ入リ下シ休憩中藪藪ヲ作リタリ時ニ向ヒノ小山ノ上ニ男女ノ小
 兒五六人ノ話聲聞ヘタリ其内容明カニ聞ヘザルモ自分ガ此處ニ居
 ルコトヲ知リテ隠レテ居ツテモ知ツテ居ルゾト云ハヌ計リテ話シ
 テ居ルト思ヒ且ツ時已ニ午ル近ク空腹ナル故下ノ沼迄下リ所持セ
 ル米四合許リヲ煮テ食シタル後裏道ヲ神戶ニ出ント思ヒタルモ土
 地不案内ノ爲メ却ツテ反對ニ藪屋ノ方ニ進ミ居ルニ氣付キ更ニ東
 方ニ歩ミ須臾近クニ至リタルモ時間猶早キ故引返シ藪屋ニ赴ク
 途中刑事ニ捕縛セラレタルナリ

問、利務所ニ入所後ノ感想如何
 答、此頃ノ考ハ一定シテ居リマセン、或時ハ私ヲ懲役ニ處セズシテ
 未決監デ私ノ缺點ヲ補ヒテ善人ニシテ遣ロウトシテ居ルノカト思
 ヒ、又或時ハ刑ニ落スヨリ猶一層惡クシヨウトスルノデハナイカ
 トモ思フ即チ自分ノ處刑セズシテ苦シメ獄死セシメントスルニカ
 ハ監房内ニテ私ヲシテ他人ヲ傷ケシメ刑ヲ重クセントスルニアラ
 ザルヤト思フ要スルニ刑ニ落スヨリハ善導スルカ又ハ致命ニ至ル
 迄惡クスルカノ二ツニアラント思フ

問、此頃ニテモ迫害、排斥等ノ機嫌アリヤ如何
 答、迫害ハ絶ヘズ加ヘリアリ例ヘバ私ノ身體自由ガ出來ヌ様ニ思
 フ、頭ガ痛ム、人ト話ス時何トナク苦シク思フ、始終電氣ガ身體
 ニ掛ル、其時ニハ何ントナク厭ナク氣ガ滯ヒ身體ガ壓セラレ、機ナ
 リ頭ガ錯亂スル、電氣ハ何處カラ掛ケカ分ラヌガ多分裁判所カ

ラ掛ケルノダロウ、電氣ガ掛カル時ハ同房者ノ凡テノ言語、行動
 ガ私ニ強ク當ル、私ヲ視マヘ、私ニ注意シ氣ヲ弛メズ、爲メニ私
 ハ寸分ノ隙モアリマセン若シ平氣ニ居レバ自分ハ病人ニナルダロ
 ウト思ヒマス、

問、汝ニ對シ惡口シ又批評スルガ如キ聲ハ聞コヘヌカ、
 答、聲ハ聞コヘヌガ夜一人ノ人ガ蚤ヲ取ル時其人ノ聲ガ私ノ體ニ移
 ル様ニ思ヒ胸ガ痛ム、又夜反對ノ側ニ向ヒ眠テ居ルト呼吸ガ塞ル
 様ニ感ジ皆ニ何カ惡戯ヲサレル様デ痛イ、向キ直レバ眼ガ痛ク、
 呼吸ハ塞ル、私ガ何カ考ヘル度毎ニ他ノ人ガ腕ヲ動かカストカスル
 私ノ考ガ皆ノモノニ分ツテ居ル様ニ思フ、又他ノ人ガ壁ヲツツ、ク
 時私ハ苦シミテ感ジ胸ヲ刺サレル様ニ思フ、

問、聲ガ耳ニ聞コヘルコトハナキヤ
 答、聲トシテ聞コヘルコトハナキヤ
 問、其他何カ不思議ニ感ズルコトハナキヤ
 答、食事ノ時常ニ食セヌ前ヨリ不味ノ様ニ思ヘルモ食スレバ實際
 ハ美味ナリコレ電氣力、忍術力能感術ニヨリ不味ノ感ヲ興フル
 ニアラズヤト思フ畢竟精神的ニ私ヲ苦境ニ陥ルルモノト思フ又食
 器ヲ洗フ時ナド變ニ苦シクナルコトアリ以前夜便所ヘ行ク時ヨロ
 今コトアリタリ何シカサレ居リタルモノナルベシ

問、今日ハ何月何日カ
 答、常ニ正答ス

問、東西南北ヲ指示セシム
 答、正答ス

問、一年ハ何日カ
 答、三百六十五日

問、閏年ハ
 答、三百六十六日

問、大ノ月ハ
 答、一、三、五、七、八、十、十二

問、一圓ヨリ遞次十三錢ヲ減セヨ、
 答、八十七錢七十四錢、六十一錢四十八錢、三十五錢、二十二錢、
 九錢(正答ニ且ツ連カニ答フ)、
 三十七ニ七七ヲ乘セヨ

問、二百五十九(連カニ正答ス)、
 答、五十七錢ト三十六錢ヲ加ヘヨ

問、九十三錢(連カニ正答ス)
 答、一貫目ト一貫目ト何レガ重キヤ

問、鐵ノ方ガ重イ、鐵ノ方ガ物質ガ緻密ダカラ、然シ一貫目ナラバ
 目方ニハ變リハナイ

問、汽車ト電車トノ差違如何
 答、汽車ハ蒸氣力ニテ電車ハ電力ニテ運轉セラル

問、牛馬ノ差如何
 答、牛ニハ二本ノ角アリ馬ニハ角ナシ、牛ハ人ニ乳ヲ供給ス牛ハ身
 體ガ大キク活動ガ緩イ、馬ハスラリトシテ運動ガ活潑ナリ、牛ハ
 胃袋ガ二ツアリ馬ハ一ツ、蹄ハ牛ハ二ツニ割レ馬ハ一ツナリ、牛
 ノ尾ハ細キ馬ノ尾ハ毛ガ多イ、牛ハ鼻ニ孔ガアリ棒ヲ通シタリ
 馬ニハコレナシ

問、人形ト小供トノ差別如何
 答、人形ハ生物ニアラズ小供ハ人間デアリマス

問、一反ハ幾許アリヤ
 答、一反ハ三十三畝、六十畝カ、ヨク知リマセン、

問、一畝ハ、
 答、三十歩

問、一里ハ何町カ、
 答、三十六町

問、一町ハ何間カ、
 答、一町ハ六十間

問、一間ハ何尺、
 答、六尺

問、曲尺ノ一尺ハ、鯨尺ノ何寸カ、
 答、八寸デス

問、魚ノ名ヲ知レル丈ケ學ゲヨ、
 答、鯨、シヤチ、フカ、イルカ、鰐、鱈、鮭、鱒、ニシン、鯛
 スルメ、比良目、草魚、カジカ、雜魚、鮎、

問、鯨ハ魚カ、
 答、イヤ哺乳動物デス、

問、龜ハ魚カ、
 答、魚デアリマス、

問、スルメ、草魚ハ、
 答、魚デアリマス

問、魚トハ如何
 答、水ノ中ニ生活ヲ營ンデ居ルモノ哺乳動物ニアラザルモノヲ云フ

問、然ラバ鮎科ハ魚ナリヤ
 答、魚ノ一種……龜デスカ、

問、ボウフラハ、
 答、魚ノ一種デスカ……アレハ蟲デス、

問、魚ノ一種デスカ……アレハ蟲デス、
 答、日本ノ大都會ハ、
 答、東京次ハ大阪、京都、
 日本ノ最高山ハ、
 答、日本アルプス、
 問、栃木縣屬ハ何處ニアルカ、
 答、宇都宮市ニ、
 問、日本ノ大川ハ、
 答、信濃川、次ハ天龍川、
 問、天龍川ハ何處ヲ流ル、ヤ、
 答、栃木縣足利ニアリ、
 問、倫敦ト香港トノ差別如何、
 答、倫敦トハ實ヲ濫費セズ、貯蓄スルヲ云ヒ香港トハ其度ヲ過ギ使
 フベキニモ使ハズシテ蓄メルノミナルヲ云フ、

乙、身體的證據
 被告ハ體格榮養共ニ中等ニシテ瞳孔ハ光線ニ對シ能ク反應シ言語障
 害ナリ胸部理學的診査上異常ヲ認メズ凡テノ反射ハ活潑ニ存在
 ス、肛門ニ挿孔アリ排膿シ痔瘻ヲ有セリ、

第三、記錄ニ表ハシタル要點
 一、被告ノ豫審調書中ニ於テ彼レガ經歷及犯罪ニ關スル事實ニ付陳
 述セル所ハ前記余カ訊問ニ對シ答ヘタル所ト全ク同一ナルヲ認ム
 二、父兼吉ノ陳述ニヨレバ被告ハ生來温順沈鬱ナルモ何時モ強情ニ
 シテ學校成績優異々優等ナリシ、昨大正十一年一月頃様子ガ變
 デ笑ツタリ大聲獨語ヲナシ居リタリ八月歸宅セル時突然外出烏ケ

森附近ニ至リ棒ヲ以テ桐ノ木ヲ叩キシコトアリ、

三、被告ノ兄吉郎ノ聽取書ニヨレバ被告ハ大正十年暮頃農ヲ兼ヒ農轉ガリ其頃雨下駄ヲ穿テタル儘ニ足ヲ入ル如キ少シク腦ニ異狀アル事ヲ認メタリ、又大正十一年八月申歸郷ノ際讀書中獨リテ笑ツタリ仕事ハ命ズレバナスモ然ラザレバ何事モセズ、八ヶ間敷云ヘバ直チニ怒リ多クハ食シテ寢テ居タリ、

四、證人住○松○聽取書ニヨレバ被告ハ(大正十年十一月頃)日常ノ行動常人ト異リテ居リタルモノノ如ク氣ガ向ケバ一日掃除シテ居レドモ氣ガ向カザレハ少シモ掃除セズ又寒イノニ湯屋ニ行カズ湯ヲ沸カシテ水許リ使ヒ主人ニ叱ラレタリ、又同人ハ非常ニ朝寢ニテ去年大正十一年ノ正月三日間食事以外ハ常ニ寢テ居ツテ起キ來ラズ人ト應對スルニ嫌ニ笑フテ許リ居リ、話シテモ言葉ハ行キ詰リ勝ナリキ、

第四被告ガ自カラ感想ヲ記シ提出シタル

余ハ診査當時被告ニ對シ自己ノ感想ヲ記シ置クベキ意ナキヤラ告ゲタルニ被告ハ之レヲ承諾シ次デ裁判所ニ提出シタル書面中注意スベキ左ノ記事アルヲ認ム

大正十二年八月二十九日
昨日日記ヲ書キ終ツテカラ苦シキメ横臥スルト身體ガビリビリト自分デ動かカストモナク動イタ、初メハ電氣力雷ノ如クビリビリトシタガ二度目ニハ身體カラ足ガブルブルト動イタ、夜中一人ノ者ガ異様ナ大キナ聲ヲ出シタノデ(中略)其人ガ疊ガ音スル程動クニハ僕ハ胸ヲ突カレタ様ナ苦痛ヲ感ジタ、(中略)最早ハ八月餘リ度ニルガ一體何日ニナツタラ苦痛ヲ感ジタ、(中略)永ク日數ヲ要スルノガ不審ニ堪ヘナイ、斯苦シム理由ハ利ニ下ラズニ此處デ處分スルカラデアロウカ一體未決監ト云フモノハ苦シイ所デナイ筈デアラガ

大正十二年八月卅一日
此日記載セルモノニハ被告ガ山形縣ヨリ歸郷セル後家族及社會ノ感

氣ヲ掛ケラレ又市民衆ヲテ自己ヲ排斥スルトノ考ヲ精細ニ記載シタリ。

大正十二年九月三日

左ノ記事アリ
今日ハ朝カラ四邊騒擾トシテ且感電シ心身ノ受ケル打撃甚ダシク苦痛ナリ恰モ狂瀾怒濤ノ中ニアルガ如シ、

大正十二年九月一日

人間ニ觀マレル程恐ロシイモノハナイ、多クノ人ニ絶ヘズ觀マレズカル迫害ノ中ニ生活ヲシタナレバ其人ハ精神的ニモ肉體的ニモ自由ヲ東縛セラレ遂ニハ病死スルニ至ラン、
大正十二年九月十三日
惡政策ヲ企圖シタル政府ハ此際其經旨ニ基イテ成ル丈ケ一人デモ多ク廢除シタル方ガ都合ナルベシ故ニ私ヲ斯ク電氣ヲ以テ腦ヲ鈍感ニ至ラシメ手ヲ換ヘ品ヲ換ヘ非常識ナ慘酷ナ事ヲ敢テシテ排斥ノ出來得ル様其缺點ヲ體ルベク努力シテ居ルコトハ明々白々ナ事デア

大正十二年九月十五日

(前略)僕ノ犯罪シタル動機ハ自分本心カラシタノデハナクアレハ政府ガセシメタルデアル政府ガ電氣機械ヲ使用シテ私ヲ苦シメ國民ト一致協力シテ次第ニ困難ナラシメ私ヲシテ自然ト社會カラ遠カラシメタルノデアル謂ハハ排斥シタルノデアル而シテ其上批難攻撃ヲ加ヘ東國カラ西國ヘ追ヒ拂ツテ來タノデアル其ニハ世ニハ斯クノ如キ惡カモノガアルト廣ク國民ニ見セシメニスル爲メ且ツ一方ニハ國民ヲシテ勤勉ナラシメル機奨勵スル爲メシタノデ取リ直サズ私ハヨイ標本ニサレテ罪ヲアル而シテ最後ニハ冷酷ヲ以テ迎ヘ電氣ヲ以テ私ノ知覺ヲ錯亂セシメ遂ニ斯ル犯罪ヲセシメタルデアアル云々、

說明

被告ハ現時身體的ニハ只持癡ヲ患フテ外何等特異ノ病變ヲ有セズ精神病ニハ記憶力、計算力、指力及智力ニ著大ノ缺陷ヲ認メズト雖モ何等刺戟ナキニ胸痛呼吸閉塞感、背痛、眼ノ痛等ヲ感ズト云ヒ所謂幻癡ヲ有セリ被告ハ之レヲ以テ電氣ガ身體ニ掛リ他人ノ靈ガ自己ノ靈ニ移リ又人ガ何カ惡戯ヲナスモノト解シ居レリ、

彼レハ利路所ニ在リテ考アラク、或時ハ私ヲ所判セズシテ試死セシメントスルカ又ハ監房内ニテ他人ヲ傷ケシメ刑ヲ重クセントスルト、又余ノ今猶迫害排斥等ノ機嫌アリヤトノ間ニ對シ、迫害ハ絶ヘズ加ハリアリテ身體ノ自由出來ズ頭痛何トナク苦シク恐ラクハ裁判所ヨリ電氣ヲ掛ケラレタメニ同房者ノ言語行動ガ自分ニ強ク當リ觀マレ注意セラレ寸分ノ隙モアラズ食事ニ當リテハ電氣力、忍耐力僅微ニモ不味ナリトノ豫感ヲ與ヘル等凡テ精神的ニモ自分ヲ苦境ニ陥ルモノト思フト答フ

被告ハ其後濳遁又ハ南洋ニ逃レント志シ四下ノ途中モ迫害常ニ加ハルト思惟セシモ幾多ノ困難防害ニ打勝チ昨大正十二年十二月中旬岡山縣三石驛附近ニ至リタル時世人自己ニ對スル態度益々險惡トナリ不安ノ空氣濃クイテ呼吸壓迫ノ感アリ身體疲勞其極ニ達シ政府ガ電氣又ハ其他ノ方法ヲ應用シテ自己ノ自由ヲ束縛シ行動ヲ妨害スルカ故ニ前途危險ナリト認メ殘念ナガラ歸國セント欲シ遂ニ東上ノ途ニ就キシガ途中益々不安ニシテ終ニ殺サルモノト覺悟スルニ至リ是ニ政府ト國民ト舉リテ自分ヲ排斥スルモノニシテ之レニ對シ復讐セザレバ男子トシテノ意氣地ナシト復讐ノ方法ニ付テ考慮シタル上手當リ次第放火スルノ決心ヲナシ大正十一年十二月二十四日午前四時頃須磨ニ於テ人家ニ放火シタルモノニシテ此犯罪ノ動機ハ被告ガ有スル精神病ノ症狀タル被害妄想ニ對シ復讐心ニ出ヅル事疑ナク從ヒテ該犯罪ハ精神病の行爲ニ屬スルモノナリ、

鑑定

一、被告關三郎ハ犯行當時(大正十一年十二月二十四日)及現時妄想性癡病ト稱スル精神病ニ罹リ居レリ、
二、被告ハ右精神病ノ爲メ判斷力障礙セラレ心神喪失セルモノナリ右之通鑑定候也
大正十二年十一月 日
大阪市北區南森町百七十五番屋敷
鑑定人 和田豐種

コハ從來早發痴呆或ばらのいあノ一部ニ編入サレシモノニシテ、早發性痴呆ニテ顯著ナラザリシ理解作用ノ固有ナル變化ヲ特徴トシ、意志障礙及感情鈍麻ノ全然缺如スルカ、若クハ痕跡的ナルモノヲ云フ。即チ妄想性痴呆トシテ知ラレタル病型中、智的障礙ヲ主トシ、行爲感情ノ固有ナル障礙ヲ有セザルモノヲばらふれにト見做シテ可ナリ、而シテ極メテ慢性的ニ來リ、漸次疑惑的刺戟的の性格ヲ發露シ、遂ニ幻覺ヲ伴フ被害妄想等現出スルモノヲ系統性ばらふれにト云ヒ、誇大乃至被害妄想ヲ主張トシ、中等度ノ興奮來リ幻視ヲ伴ヒ、從來慢性躁狂ト稱シタルモノヲ誇大性ばらふれにト云フ、ソノ他潤色性乃至想像性ばらふれにト區別スルモノアリ。

法醫學的ニハソノ輕症ナルモノハ心神耗弱者トスベク、中等症以上ノモノハ心神喪失者ト見做スベサモノナリ。

十、微毒性精神障礙
Syphilitic insane, maladie mentale syphilitique, Syphilitisches Irresin.

(一)微毒性神經衰弱、本病ハ腦性微毒ノ最モ初期ニ現ハレ、初メ輕度ノ神經衰弱ノ症狀ヲ呈シ、次デ昏濛出話困難、一時性麻痺、感覺障礙、嘔吐、體溫ノ上昇等ヲ來シ、精神的ニハ輕度ノ精神作爲力減退、思考困難、注意散漫、記憶減弱等ヲ見、氣分ハ刺戟性不滿ニシテ怯懦或ハ興奮シテ不從順トナリ特ニ注意スベキ夜間ニ於テ増悪スル頭痛ナリ。

(二)ゴム腫、腦内ニゴム腫發生スル時ハ頭腔内壓ノ増加ニヨリ意識ハ屢々犯サレ、昏濛無頓着乃至痴鈍ト

微毒性精神障礙
微毒性精神衰弱

ゴム腫

痺性痴呆
微毒性疑似麻

ナリ、身體的ニハ多種多樣ナル電症狀、麻痺、搐搦、痙攣、感覺障礙等ヲ見ル。

(三)微毒性疑似麻痺性痴呆、其症狀ハ後述スル眞性麻痺狂ト全ク同様ナレドモ、本症ハ後者ノ如ク死ノ轉歸ヲ取ル事少ク、眞性ノモノハソノ精神的症候深甚ニシテ一般的ナルニ反シ、本病ハ精神ノ部分的障礙ガ不平均ニ發露スルヲ見ル、而シテ身體的ニハ假性ノモノハ電症狀ヲ呈スルヲ常トスレドモ、眞性ノモノハ言語書字及瞳孔ニ於ケル障礙ヲ來スヲ見ル。尙假性ノモノハ腦脊髓液ノわつさーまん反應陰性ナルモ、眞性ノモノニハ陽性ナリ。

(四)卒中性腦微毒、先ヅ頭痛、記憶減弱、刺戟性感情、精神作爲力ノ減弱ヲ來シ、次イデ卒中發作ヲ起シ、ソノ結果半身麻痺、足現象は、んすきー現象ヲ見、多少ノ時日ノ後第二ノ發作ヲ來シ、斯ル間ニ痴鈍次第二加ハリ、領解困難判斷不能トナリ、一時性ノ興奮ヲ見ル事アリ、わつさーまん反應ハ血液内ニハ陽性ナルモ、腦脊髓液ニテハ多クハ陰性ナリ、豫後ハ概シテ不良ナルヲ常トス。

ソノ他微毒性癩癩乃至妄想性痴呆型微毒等アリト雖、眞性ノソレトノ鑑別ハ血清學的診斷ニ依ルノ外ナケレバ、茲ニ之ヲ省略ス。尙遺傳微毒トシテ白痴乃至痴愚ノ型式ヲ取レルモノ多キコトハ、敢テ贅言ヲ費サザルベシ。

法醫學的ニハ微毒性精神障礙ノ初期、即チ輕度ノ神經衰弱ノ症候ヲ呈スル頃ハ、勿論責任能力者乃至處分能力者ナルモ、疾病次第ニ進ミ來ルニ從ヒ、漸次心神耗弱者乃至喪失者トナルベシ。予ハ典型性微毒性疑似麻痺狂ニシテ、一種ノ蒐集慾ニ驅ラレ、男子ナルニモ拘ハラズ、京阪ノ有名ナル吳服店ニ於テ、諸種ノ吳服類ヲ幾多ヲ萬引シ、而モ何等之ヲ使用スルニ非ラズ、竊取スルニ從ヒ家族ニモ之ヲ隱蔽シツ、

卒中性腦微毒